

平成18年度「調査・研究事業」

農業経営診断実務マニュアル(第3集)作成
報 告 書(花き・果樹・きのこ)

平成19年2月

社団法人 中小企業診断協会

はじめに

1. 経営構造対策

平成11年7月に制定された「食料・農業・農村対策法」の基本理念の実現を量る具体的な施策として経営構造対策が平成16年からスタートしている。対策の目的は、地域農業の農業構造を確立するため経営の効率的・安定的・持続的な経営体づくりである。

日本農業の現状は担い手の高齢化・放棄地の増加・高い兼業農家数と低い専業農家数・外国と比べてあまりにも狭い耕作面積で労働時間が1,800時間をはるかに超え、企業的経営体は少ない。しかも農家の年収平均は、サラリーマン年収の約30%程度(作目・作型で異なる)と低い状況にある。

米作を除く、食料時給率は低く、カロリーベースで40%と先進国のアメリカ、イギリス、ドイツ等が100%レベルに対して低く国内産よりも安い輸入に依存している。特に自給率の低い麦・大豆の生産拡大が大きな課題となっている。

このような実態から、めざす方向として、①規模の拡大 ②栽培技術の高度化 ③経営管理の合理化(コストダウン)を図り ④他産業並みの年収(700万円以上)と労働時間の短縮(年間1,800時間)を実現するため農業経営革新の施策が促進されている。

2. 担い手としての認定農業者制度と診断

その担い手として A. 認定農業者の経営体と B. 集落営農組織による経営体づくりが推進されている。経営体の現状(H17年度)と目標(H21年度末)は認定農業者19.5万→30万、集落営農1万→2万の経営組織体という数値目標が都道府県毎に配分設定されている。

認定農業者制度は、5年間の農業経営改善目標計画を作成し、市町村担当課に提出する。その計画内容が適性と判断されれば認定される制度である。

農業経営改善計画は、生産から販売に至る経営管理の最適化計画であるので、①経営理念・ビジョン ②経営基本方針(戦略)に基づく、生産計画・販売計画・財務計画・労務計画等の部門別計画目標の設定 ③各部門計画の実施 ④実施結果のチェック ⑤チェック結果に基づく計画改善を図る。この一連がPDCAサイクルである。農業経営の年度末決算書・確定申告書は、各部門のPDCAマネジメントを総合的に集約したものであり年初目標計画の達成率からみた次年度の改善目標が設定される。その際、経営診断が実施されていれば、現状の「強み弱み」「問題点と課題」「改善事項」等が整理されているので、現目標に対する5ヶ年の改善目標が設定できる。

3. 診断実務マニュアル第3集の作目

本 農業経営診断マニュアル第3集の作目は「花き・果樹・きのこ」である。

各作目の予備診断調査表の作成要領については、第1集・第2集と同様に形式・内容を統一せず担当診断士の自由発想に基づいて作成した。また農林水産省統計の経営値や分析指標の様式を用いた診断調査表も作成した。診断調査表分析の様式は、診断先の状況を勘案して利用すればよいのであって、これだけではないと言うものではない。要は、診断先の経営状況を的確に把握出来て、改善点が発見しやすい調査表づくりが肝要である。

農業経営診断実務マニュアルを改善提案をするための診断手法として積極的に活用し診断業務の簡便性を会得されたい。その上で担い手経営者への改善支援に的確に寄与されることが期待される。

平成19年2月

全国中小企業診断士組織
農業経営支援センター
会長 橋本文夫

農業経営診断実務マニュアル(第3集) 目次

はじめに

第1章 農業経営診断手法の基本	P 1
I. 農業経営の現状と診断基本	
1. 農業の現状の問題点と課題の認識	
2. 農業の企業的経営条件の考察	
3. 農業経営診断の手段	P 2
4. 経営診断体系	P 3
5. 経営診断の手順とポイント	P 4
6. 予約診断調査表の設計	P 6
7. 分析比較の原則	P 7
8. 定量分析と定性分析	P 8
9. 経営診断と戦略診断	P 9
II. 農業経営診断の展開	P 10
1. 経営方針の診断	
2. 販売方針確立前の検討事項	P 11
3. 経営目標・経営方針の診断フロー	P 13
4. 農業経営の計画	P 14
5. 生産計画	P 17
6. 稲作の作業工程	P 22
第2章 花き作の診断実施マニュアル	P 25
1. 花き作農業経営診断予備調査表	
(1) 経営概要調査表	P 26
(2) 労働時間帯調査表	①カーネーション (スタンダード) (スプレー) P 27
	③キク ④トルコキキョウ ⑤ガーベラ
(3) 収益・費用調査表	①カーネーション (スタンダード) (スプレー) P 32
	③キク ④トルコキキョウ ⑤ガーベラ
(4) 栽培体系モデル・調査表	①カーネーション (スタンダード) (スプレー) P 37
	③キク ④トルコキキョウ ⑤ガーベラ
(5) 販売戦略調査表	P 42
(6) 農業経営者認定目標調査表	P 43
(7) 経営分析表 ①露地花き作経営 ②花き作経営全体 ③施設花き経営	P 46
(8) 経営分析比較表(法人経営)	P 49
財務諸表による組合生産法人の評価表	P 51
(9) SWOT分析調査表	P 52
(10) SWOT分析表	P 53
(11) キクの撮益分析点売上高・販売量	P 54
2. バラ土耕栽培 経営予備調査書	P 55
3. バラロックウール栽培 経営診断予備調査書	P 67
4. 花壇苗経営診断調査書	P 83
第3章 果樹作の診断実務マニュアル	
1. 果樹作経営予備調査表	
(1) 経営診断予備調査書	P 98
(2) 診断調査表	P 100
(3) 販売戦略調査表	P 101
(4) 作業別労働時間表 ①もも ②なし ③いちじく ④ うめ	P 102
(5) 収益・費用調査表 ①もも ②なし ③いちじく ④ うめ	P 106
(6) 農業経営者認定目標調査表	P 110
(7) 栽培体系調査表 ①もも ②なし ③いちじく ④ うめ	P 113
(8) 経営分析表 ①果樹作経営全体 ②なし作経営	P 117
(9) 経営の成長目標	P 119
(10) 問題点と改善課題	P 120
(11) SWOT分析表	P 121
(12) 損益分岐点分析(なし)農業所得を除いた ①売上高 ②販売量	P 122

2. みかん（青島温州動噴）栽培 経営診断予備調査票	P 123
3. みかん（早生温州 S S）栽培 経営診断予備調査票	P 135
4. みかん施設栽培 経営診断予備調査書	P 146
5. キウイフルーツ栽培 経営診断予備調査書	P 154
6. ブドウ栽培 経営診断予備調査書	P 161
7. くり栽培 経営診断予備調査書	P 169
8. 黒大豆栽培 経営診断予備調査書	P 175
9. かき栽培 経営診断予備調査書	P 182

第4章 林業きのこ栽培の経営診断予備調査表

1. きのこ栽培 経営診断予備調査表	P 190
2. 診断調査表（きのこ栽培）	P 192
3. 経営状況調査票 ①乾燥しいたけ・原木栽培	P 194
②生しいたけ・原木栽培 ③生しいたけ・菌床栽培	P 195
④えのきたけ・菌床栽培 ⑤ぶなしめじ・菌床栽培	P 197
⑥ まいたけ・菌床栽培 ⑦なめこ菌床栽培	P 199
4. 経営費と収益調査表 ①乾燥しいたけ・原木栽培	P 201
②生しいたけ・原木栽培	P 203
③生しいたけ・菌床栽培（培養発生一貫生産タイプ）4万袋規模	P 205
④生しいたけ・菌床栽培（発生分業生産タイプ）5000袋当り	P 208
⑤えのきたけ・菌床（一貫栽培）1万本当り	P 210
⑥えのきたけ・菌床栽培（培養センター利用）1万本当り	P 213
⑦ぶなしめじ・菌床栽培 1万本当り	P 216
⑧なめこ・高速栽培 1万本当り	P 219
⑨ まいたけ・菌床栽培 1万本当り	P 222
5. きのこ栽培作業別・月別労働時間調査表（乾燥しいたけ・原木）	P 225
きのこ栽培作業別・月別労働時間調査表（生しいたけ・原木）	P 226
きのこ栽培作業別・月別労働時間調査表（生しいたけ・菌床一貫生産）	P 227
きのこ栽培作業別・月別労働時間調査表（生しいたけ・発生分業生産）	P 228
6. 栽培工程診断チェックリスト（生しいたけ・原木栽培）	P 229
栽培工程診断チェックリスト（生しいたけ・菌床栽培）	P 231
7. 生産情報公表事例 ①（しいたけ・原木栽培）	P 233
生産情報公表事例 ②（きのこ・菌床栽培）	P 234
8. 栽培日誌 ①（原木栽培）	P 235
栽培日誌 ②（菌床栽培）	P 236
9. 栽培工程記録 ① きのこ原木栽培	P 237
栽培工程記録 ② きのこ菌床栽培	P 239
10. 経営力チェックリスト（きのこ栽培経営）	P 241

第5章 花き作・果樹作簡易診断調査表

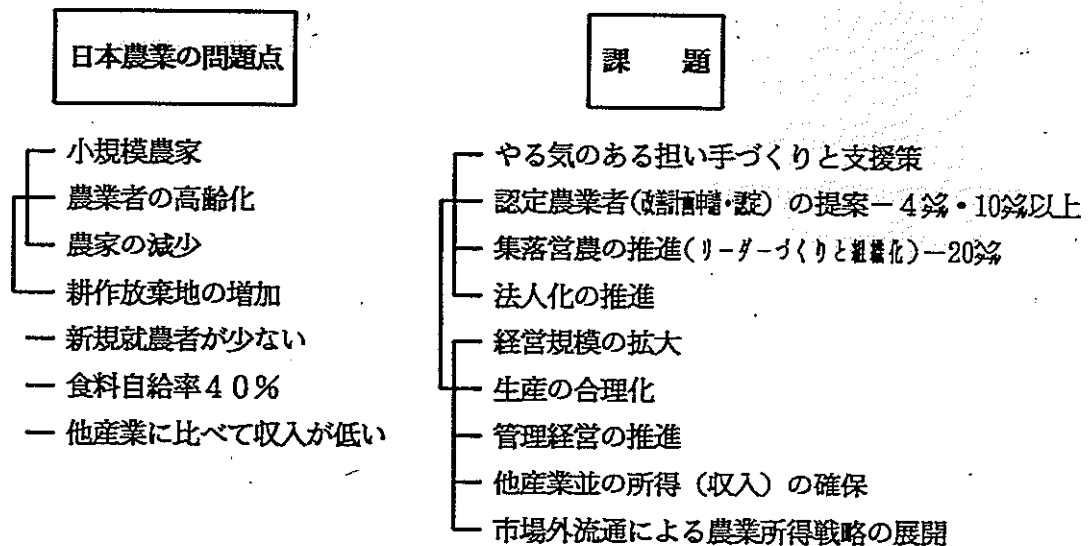
1. 野菜作・果樹作・花き作経営の概説（農林水産省統計解説資料）	P 244
2. 果樹作経営・花き作経営の部門収支（農林水産省統計解説資料）	
3. 果樹作経営統計診断調査表	
(1) りんご作経営	P 251
(2) みかん作経営	P 253
(3) ぶどう作経営	P 255
(4) なし作経営	P 257
(5) もも作経営	P 259
4. 花き作経営統計診断調査表（平成16年度統計）	
(1) 露地花き作経営	P 261
(2) 施設花き作経営	P 263
5. 関連するデータ・情報	P 265

あとがき

第1章 農業経営診断手法の基本

I. 農業経営の現状と診断基本

1. 農業の現状の問題点と課題の認識



2. 農業の企業的经营条件の考察

(1) 経営的条件

- 生産・技術・コストダウンによる収益確保
- 自己資本と借入金のバランス・資金計画
- 規模拡大に伴う雇用労働力と人材育成
- 経営の安全性・成長性・計画性による持続的経営力
- 作目の品種の開発導入・選択による差別化・複合化
- マーケティング思考と競争力の発揮
- 経営管理(正確な記録・農業簿記・組織化とPDCAの実践)
- 既存事業のリストラ(見直し・改革・強化)…(戦略的経営)

(2) 環境的条件

- 環境への配慮・農産物の安全を確保する適切な農場管理(GAPの管理点と適合基準)
- 無減農薬・有機栽培(特別栽培農産物環境保全型農業)
- 省エネ・省力化技術の導入(施設栽培によるIT活用)
- 廃棄物利用型農業
- 生産履歴の記録と公表

(3) 社会的条件

- 地産地消による地域貢献
- 安全・安心農産物加工品による食文化の提案
- 農村地域の環境保全ボランティア
- 労力の軽作業システム導入による身障者・女性・高齢者雇用

(4) 雇用的条件

- ―他産業並の雇用条件の確立（賃金・労働時間・福利厚生費）し、収益確保
- ―雇用者の満足度を高めるための作業環境・作業能率システムの導入
- ―事業のコンセプト・使命・経営方針の明示と従業者行動の一致（作業マニュアル等の整備）
- ―成果主義給与基準の導入

3. 農業経営診断の手順

- (1) 受診者の診断申込書・診断契約（総合診断か簡易診断か、その内容表示）
- (2) 予備診断調査（予備診断調査表及び経営力チェックリストの作成）
- (3) 診断計画の策定（診断チームの編成・日程計画）

① 日程打合わせ・予備診断調査表・チェックリストの記入依頼



② 対象作目の作型・基準データの事前調査

ア) 3年分の確定申告書・決算書コピー…改善計画書受領
イ) 予備診断調査表の回収
ウ) 記入者ヒアリング（調査表未記入情報聴取）
エ) 経営者とのミーティング（経営理念・目標・方針・組織・計画性）
オ) 農場（畜舎）踏査（生産環境・機械設備状況）
カ) 確定申告書・決算書の分析（収益性・生産性・チェックリスト）



③ 経営基本診断（ア～カ）による問題点と課題の整理



④ 経営部門診断（生産・加工・技術・販売・マーケティング戦略・労務・情報）



⑤ 部門診断による問題点と課題の整理



⑥ 総合分析（③～⑤）調整とSWOT分析



⑦ 診断報告書作成（実施可能な具体的改善提案・助言）



⑧ 報告書説明会（短期的改善事項・長期的取組み事項）

（注1）このフロー図は、総合診断を示している。

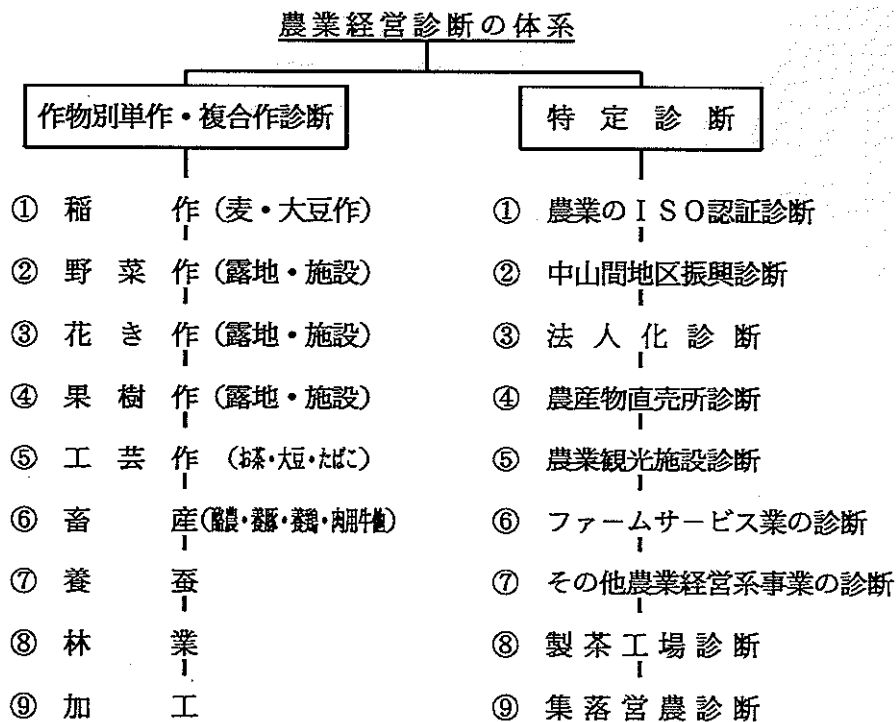
（注2）簡易診断の場合は簡略的な予備調査表と経営力チェックリスト及び決算書の分析により行なう。カ）

（注3）この診断提案に基づいて、例えば農産直売店舗新設の事業計画依頼がある場合は、計画書の内容を示す見積書を作成して、契約し、行う事になる。

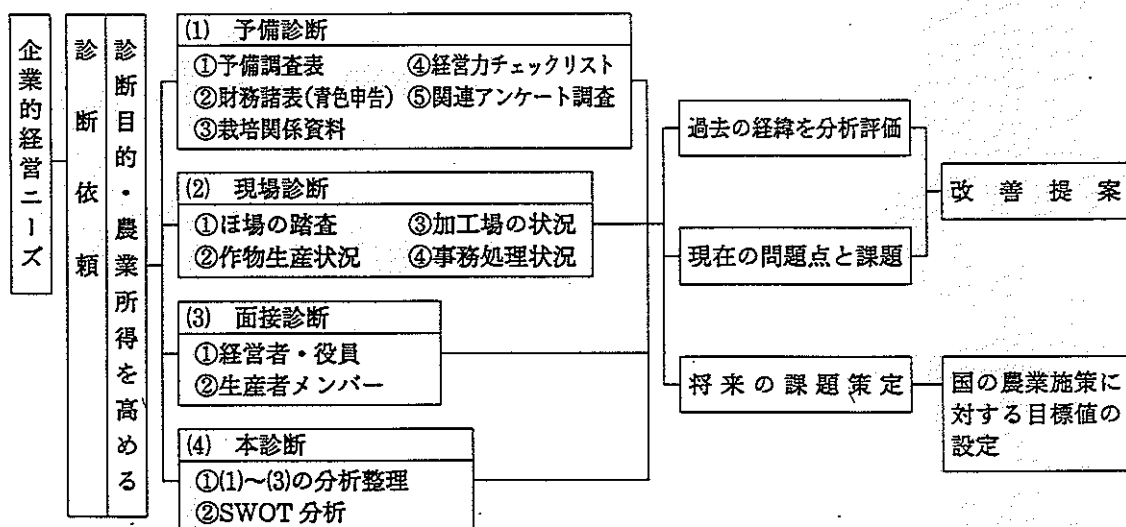
4. 経営診断体系

(1) 農業経営診断の体系

農業経営診断は、作物別単作・複合作診断と特定診断の2系統に分けられる。農業経営の作物別品種は主として、どの作物（畜産）を生産しているかを基準とする分類が適切である。それは9部門に分類され、更に品種別に細分類される。尚、栽培方式は土地利用型露地栽培と施設（ハウス）栽培で行われている。



(2) 農業経営診断のフレーム



5. 経営診断の手順とポイント

農業経営診断の手順は、診断申込みから始まり、4つのステップによって実施するのが一般的な手順である。（図表2-3）

これは、画一的に漠然と進めるのではなく、常に各業態別の特異性と経営全般に関する課題や問題点とされる事項を意識して、診断相手の経営実態を確認しながら進めていくことがポイントである。また、診断先の経営者・スタッフ・法人部門担当役員との協力体制によって有効な調査・分析が実現できることに留意したい。

診断の4つのステップとポイント

ステップ	ステップ毎のポイント
第1ステップ 診断調査	<p>(1) 農業の実態別「診断予備調査表」の作成（稲作の事例参照） ※ 予備調査表の作成内容は、経営の現状をと問題点を把握するものであるが、できる限りその実態のかかえる問題点と改善の方向性を意識したチェック項目を設定しておくことがポイントとなる。記入式でない方が簡便である。</p> <p>(2) 栽培・加工現場踏査（ほ場の整備・作物の成育・作業・諸施設等の状況確認）</p> <p>(3) 部門診断に関する調査事項の設定（別項参照） 生産部門診断、財務部門診断などに於いて、それぞれの経営計画や戦略を実施して行くには、基準作業時間や項目別費用等の基準を設けた数値目標をはじめ、生産（栽培）体系マニュアル、防除基準（農薬の種類・散布回数）などが必要不可欠である。 これらが完備し適切に実施されているかを調査項目とすべきである。有無や、内容の適否が掴めれば、改善事項を明解にした提案報告書が作成できることになる。</p>
第2ステップ 分析研究	<p>(1) 分析研究の過程はステップの調査結果の分析と現場診断・ヒヤリングの結果を前提に行う。</p> <p>(2) 第1ステップによって把握された重要な問題点が浮き彫りになるので、その実態の要因を分析研究し、優れている点と改善点を見い出す。</p> <p>(3) 診断予備調査表・財務諸表・販売実績・労務資料の分析と共に現場診断や経営者等のヒヤリングを体系的に整理してから総合的に分析研究する。</p>
第3ステップ 総合調整	<p>(1) 分析研究の結果、経営各部門毎に整理された問題点と改善点をそのまま単的に報告書に盛り込むのではなく、各部門間の調整を行うことによって適切な改善提案ができる。 例えば、財務分析で「収益性が低い」場合は、目標計画（経営基本部門）の不備なのか栽培コスト（生産部門）が高いからなのか、販売戦略が確立していないからなのか、等々の要因を結びつけて、これらを総合判断した上で、改善提案を行うことになる。 そのためには、各部門との総合調整が重要な作業となる。</p>
第4ステップ 改善提案報告	<p>(1) 診断報告（提案）書は、総合的見地で体系的で事実・事例等に基づくものであること。</p> <p>(2) 内容は、診断相手に判り易い表現、理解しやすい文章であること。</p> <p>(3) 提案事項は、短・中・長期的に実施する課題と、最も実現しやすく、改善の必要の高いものに重点を置くこと。将来ビジョンや目標数値等の明示。各種マニュアル例が望まれる。</p>

農業経営診断に必要な資料一覧表

NO	項 目	必 要 資 料
1	沿革と経営者	① 創業、設立の経緯と沿革 ② 経営理念、経営コンセプト ③ 経営者の氏名・年齢・経歴 ④ 経営の特色と方針 ⑤ 経営組織図
2	事業概観	① 農地面積（所有地・借地・賃地） ② 基盤改良・区画整理の有無 ③ 作目の種類 ④ 専業・兼業の区分 ⑤ 従業者数（法人・個人別） ⑥ 後継者の有無 ⑦ 農業施設（ハウス・養液栽培システム・高設式システム等）の現状 ⑧ 農産物直売所等の面積・レイアウト・従業者数・納品量
3	業界の動向と見通し	① 農業界の推移と現状（側面調査） ② 当業界における役割・所属組合等 ③ 行政施策の変化と対応状況（減反・転作等）
4	生産販売状態	① 生産量の推移と生産実績 ② 生産計画目標 ③ 過去1～2カ年間の月別・農業資材購入 ④ 過去1～2カ年間の月別・作目別生産実績（JA共販・直売店・宅配等） ⑤ 安全・安心栽培履歴日誌・公開法 ⑥ 有機JASマーク認定状況 ⑦ 遺伝子組換え（生産～流通）分別流通管理状況 ⑧ 過去1～2カ年間の月別・取引先別販売実績 ⑨ 製品の特徴と製造工程図・製造期間ならびに生産方式（製茶工場） ⑩ 過去3～5年間の主要作目売上高推移 ⑪ 不良品・値引き・返品等の処理状況 ⑫ 作業委託・受託の実績 ⑬ 栽培方針の内容 ⑭ 栽培技術の導入計画
5	収支実績	① 過去3期間の損益計算書 ② 過去3期間の減価報告書 ③ 確定申告書（控）別表を添付のものを借用 ④ 収益改善の今後の方針
6	財政状態	① 過去2～3期間（年）の貸借対照表・主要勘定科目明細添付 ② 最近時点の各金融機関の預貸明細（長期借入金については返済条件、金額、保全額の明細） ③ 資金繰り、資金運用表 ④ 借入金返済計画の概要
7	中・長期計画の概要	① 中期計画の概要 ② 現有設備等と今後の導入計画 ③ 現有農業機械の状況と今後の省力化計画 ④ 作目別面積と生産量の中・長期計画 ⑤ 中・長期計画の収支予測 ⑥ 法人化計画予定 ⑦ 将来の生産革新計画 ⑧ 生産就業者（直接・間接）の増減計画
8	作業情報と管理情報	① 年間栽培作業一覧表 ② 作目別栽培体系 ③ 作目別作業工程と作業時間 ④ 作目別作業工程別経費 ⑤ 作目別作業日誌・防除日誌・実施記録 ⑥ 作業工程別基準表（時間・営業費） ⑦ 会計帳票書類と記帳法 ⑧ パソコンの活用状況（作業計画・作業日誌・会計処理等のソフトの有無）
9	農産物直売所診断	① 開設状況 ② 直売所建物面積・利用状況・売場レイアウト ③ 売上高・客数の推移 ④ 損益計算書等
10	農産物加工場	① 加工場の種類と加工品名 ② 生産・販売先別実績の推移 ③ 加工工程時間と従業者数 ④ 製造経費の内訳 ⑤ 損益計算書等

6. 予備診断調査表の設計

(1) 設計条件 - 診断先の経営全般の概要が一通り掴めること (共通事項と作目別に
異なる事項あり)

(2) 区分 - 個人・法人別

- 認定資格の有無 (認定農業者・エコファーマー・ISO・GAP)

- 作目種類別

┌	耕種別 (栽培)	12種類	→ 作物品種類別 (野菜・トマト・イチゴ)
	畜産 (飼育)	5種類	→ 飼育品種類別 (牛・豚・鶏・羊・魚)
	林業 (きのこ類)	2種類	→ 自然栽培・施設栽培

- 特定診断…中山間地区振興・集落営農組織化・法人化・農産物直売店他

(3) 診断調査表内容の共通事項

1) 経営者概要

- 認定資格の有無 (認定農業者・エコファーマー・ISO・GAP)

- 後継者の有無 - 就業年数 - 単一経営・複合経営別

2) 生産部門別 (耕種・畜産・養蚕・加工)

3) 農業経営の現状 (作目・作型・作物別面積・所有地借地・作業別受委託)

4) 生産方式 (機械・施設の形式・性能・台数等) と特色の記述

5) 経営の現況と特徴 6) 栽培 (飼) 法 (種) 7) 安心安全への取組課題

8) 作業記録・日誌の有無 9) 販売関係の現状と方針

10) 財務関係 - 複式簿記の有無・パソコン活用有無

- 借入金の内訳 - 資金の運用と調達 - 設備投資計画の有無

11) 人事・労務関係 - 担い手の過不足 - 雇用関係書式の有無

- 各種保険の加入状況 - 労働力人数

- 家族協定書の有無 - 労働時間

12) 経営管理 - 経営改善計画の取組み状況 - 経営上の問題点 (12項目選択)

13) 経営の成長目標 (5年計画数値表・目標達成の方途)

(4) 診断調査表の個別事項 (個人経営)

1) 作物 (種目) の作型と栽培体系

2) 該当作物の作業 (工程) 別労働時間調査表 (基準数値と診断先実績対比表)

3) 該当作物の収益・費用調査表 (基準数値と診断先実績対比表)

4) 損益分岐点 (売上高・販売量)

5) 作物・作型別経営分析表 (農業収支・分析指標・収益性・生産性・経営概況)

(5) 法人の個別事項

1) 貸借対照表 (調査表)

2) 損益計算書調査表 (診断調査表)

3) 農業原価報告書 (診断調査表)

4) 経営分析計算表 (診断調査表)

5) 経営分析計算 (収益性・安全性・生産性・成長性・損益分岐点)

6) 経営力チェック・リスト (経営者・経営基本・販売・生産・労務・財務・情報
の7部門・70項目)

7. 分析比較の原則

診断による経営実態の評価は、当該実績と対比できる第三者的データと比較分析することによって可能である。第三者的データには、次のものがある。

診断に当ってはこれらの比較データの収集と有効活用が基本となる。比較データは、業態（作目別）、全国・地域（都道府県・市町村）別、経営体組織（法人・個人）別、年度別を選別活用することになる。これらの資料をどれだけ収集していくかによって比較分析の精度が異なることになる。

A. 農林水産省統計情報部が毎年発行しているもの

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| ① ポケット農林水産・食品・園芸・畜産統計 | ⑮ 作物統計 |
| ② 野菜・果樹品目別統計（各種あり） | ⑯ 野菜生産出荷統計 |
| ③ 都道府県別統計書 | ⑰ 花き生産出荷統計 |
| ④ 農家調査報告書 | ⑱ 青果物卸市場調査報告 |
| ⑤ 農業事業体調査報告書 | ⑲ 花き流通統計調査報告書 |
| ⑥ 農業サービス事業体調査報告書 | ㉑ 畜産物流通統計 |
| ⑦ 経営部門（業態）別統計報告書 | ㉒ 家畜衛生統計 |
| ⑧ 農業集落調査報告書 | ㉓ 農林水産業生産指数 |
| ⑨ 農業経営動向統計 | ㉔ 総合農協統計表（JA調査統計） |
| ⑩ 農林経営動向調査報告 | ㉕ 漁業・養殖業生産統計年報 |
| ⑪ 米及び麦類の生産費 | ㉖ 漁業動態統計年報 |
| ⑫ 工芸作物等の生産費 | ㉗ 水産物流通統計年報 |
| ⑬ 畜産物生産費 | ㉘ その他多様あり |
| ⑭ 畜産統計 | |

※出版は（財）農林統計協会

B. 都道府県発行のもの

- ① 各都道府県の農林水産部発行の統計及び指針書
- ② 各都道府県の農業試験所発行の作目別技術体系と原単位（収益・費用・粗収益等の基礎数値）

C. 民間発行の資料・統計

- ① 各地JA調査・収集統計類
- ② 農業技術研究機構 中央農業研究センター
- ③ （株）流通システム研究センター（農産物のコスト分析・農産物流通技術年報など発行）
- ④ その他

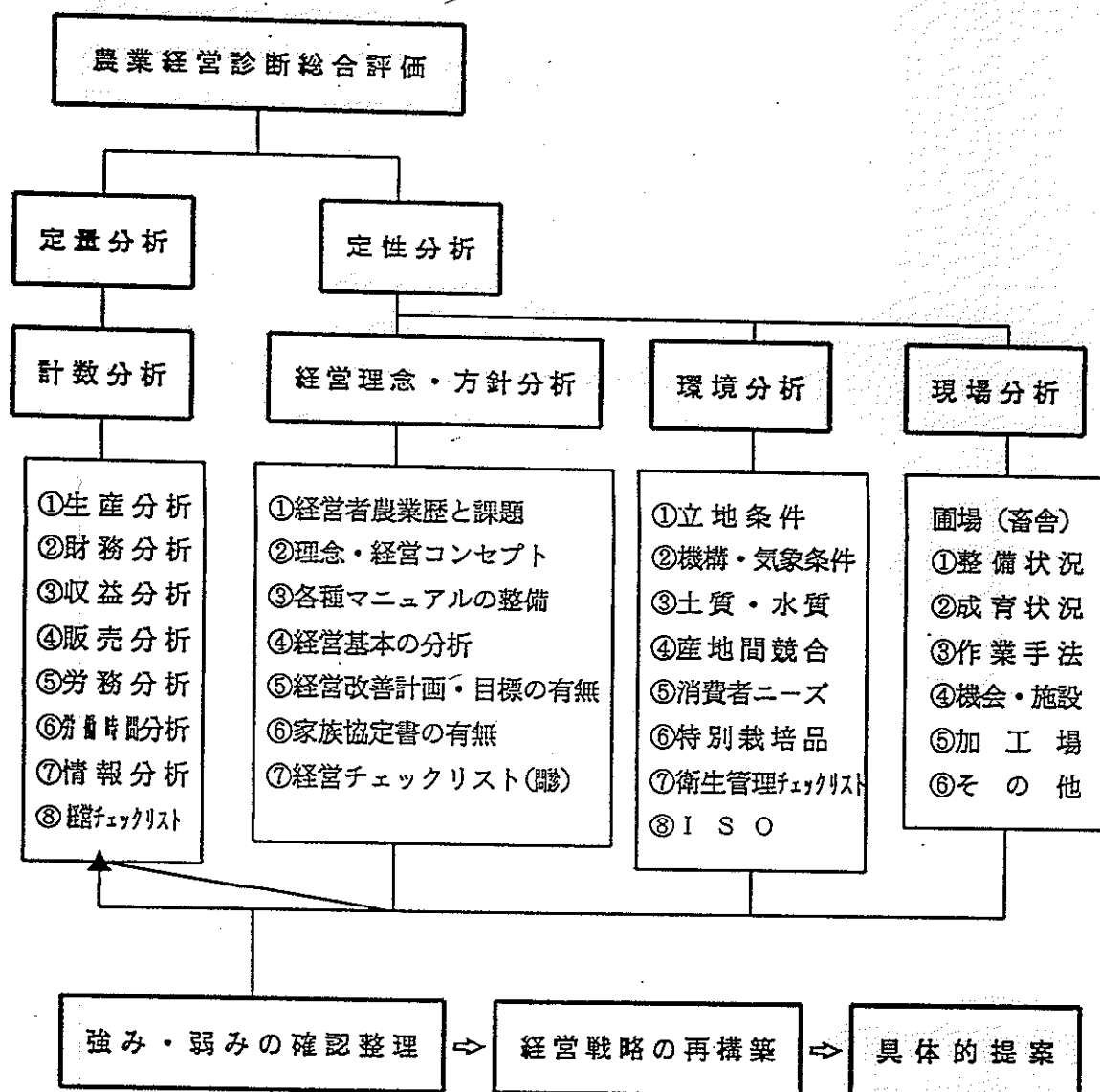
D. 農林水産に関する専門書籍は

主に下記協会で取り扱っているので農業書リストや目録書を入手して診断業務を充実させたい

- ① （社）農山漁村文化協会直営の農業書センター
- ② （財）農林統計協会
- ③ その他の出版社発行のもの

8. 定量分析と定性分析

(1) 診断総合評価の体系



(2) 定量分析と定性分析

診断調査表による実態調査は、数字で把握し定量分析の分野と数字で表せない定性分析とがある。定量分析の分野とがある。定量分析は収益・費用診断調査表や工程別労働時間調査などを用いて項目毎の実数と、基準指標を比較検討して経営の問題点を把握する。この場合の基準指標は、農水省統計情報局の地域別・都道府県別数値や地域のモデル経営データによる数値である。

統計数値は、農業者の提出データを集計・平均値化されたものである。絶対的指標としてでなく、相対的な目安数値として分析活用することが望ましい。

9. 経営診断と戦略診断

(1) 経営管理と戦略の相違点

経営は、「管理と戦略が統合されたものでなくてはならない」と言うのが定石となっている。戦略は、3年先・10年先の未来目標を達成させるための部門的戦略である。それは、農業のマーケティング戦略・販売戦略・財務戦略・労務戦略・総合戦略などの具体的展開である。即ち戦略的思考による戦略的計画であり長期的目標の実行で方針を明示するプログラムである。

管理とは、過去から現在の状態をチェックし、分析することであるが戦略は未来思考のあるべき方向と目標の設定である。

従って、管理と戦略は、明確に区分して診断しなければならない。管理診断は、現状の実績と問題点を分析して改善提案を行うのに対して、戦略診断は、描いている将来計画の分析と提案である。両者の違いを下表に示してみた。

(図表3-4) 経営診断と戦略診断の相違点

部 門 別	*経営管理診断* (現在の実績と改善提案)	*経営戦略診断* (将来計画の分析・提案)
マーケティング	①現在の品種・品質での市場 市場の弱みを確認 ②現在の市場流通中心の成果 を分析。	①将来の品種の導入、高品質による市場 市場評価の強みを狙っているか ②将来は市場外流通(直)に重点化した販 売先の開拓をめざしているか。 ③安全安心・おいしい野菜物の履歴公開 による差別化の有無。実現性の分析
生産(栽培)	①現状の生産技術力の評価・ 分析。 ②現在の栽培品種での収量と 生産費の分析。 ③現在の生産工程の良否の評 価。	①将来の新生産技術の開発導入とそれ による生産性の向上をどの位考えてい るかの分析。 ②将来の新品質導入計画と生産費節減計 画目標による収量計画の策定は妥当で あるかの分析 ③将来的構想の機械化導入による工程作 業の短縮化の評価。
財 務	①最近3年間の財務諸表によ る分析で流動性・収益性の 検討評価。	①5年計画で耕地面積1.2倍にするた め、ハウス設備投資や養液肥供給設備 計画を立て、借入金・自己資金による採 算計画がある。この計画の評価と採算 の実現性を分析評価を行う。また実現 するための計画の進め方を提案する。
労 務	①現在の作業手法による労働 時間と人員数の費用分析と 改善提案。	①将来借地による耕地面積を拡大する、 機械化作業方式の導入計画による作業 時間・人員の削減計画の分析と実現化 の方向を示す。

II. 農業経営診断の展開

1. 経営方針の診断

(1) 基本目標・経営方針の明確化

経営方針は、経営者の経営に対する基本理念、基本目標を実現するための全体的な活動指針と言われている。経営者は基本目標及び経営方針を明文化し、農業所得（収益）目標をかかげ家族・従業員の福祉・農業経営の社会的責任を内部に示すことが望ましい。

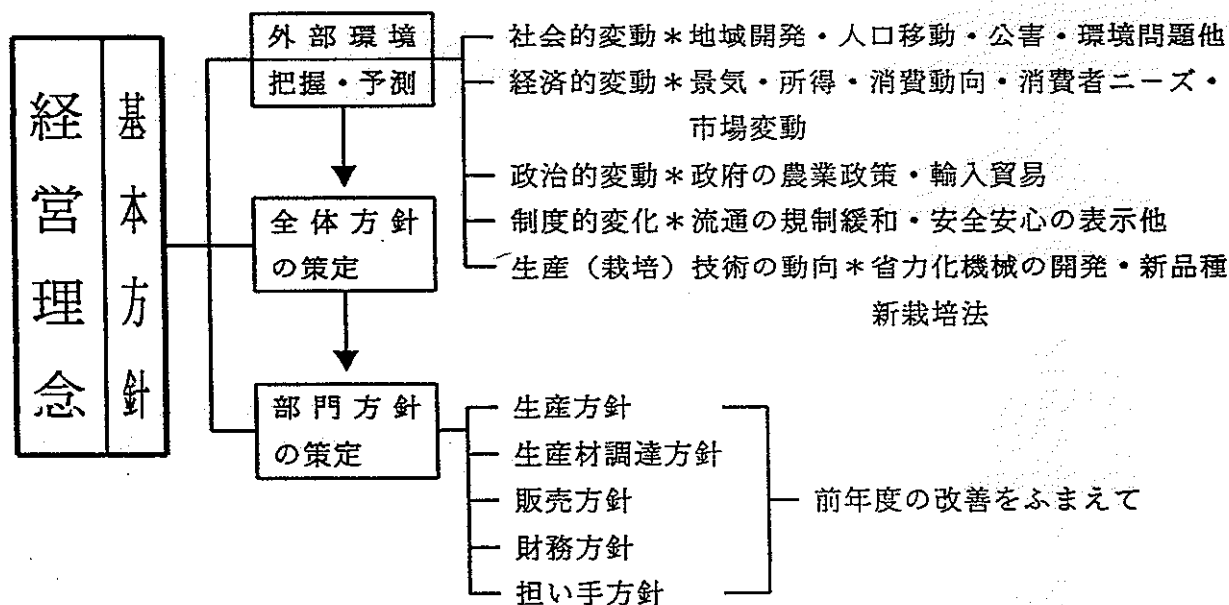
この経営方針に基づいて相互に強調して、目標達成に向かって行動することになる。また、目標達成するための方法・役割分担・基準を設けることによって計画を立て易くし、統一的行動ができるようになる。大型店・スーパーでは、その前提となる毎年・毎月の達成目標額や実施するスローガンを極力具体的に作成し、事務所や休憩室に掲示される例が多いが、農業経営体においては少ないと思われる。従って受診経営者がどれだけ、どのような経営理念を持ち、どんな方針であるかについての把握がむづかしい。

(2) 全体方針と部門方針

方針は農業経営における外部環境の変化の把握予測を行って全体方針、及び部門方針を決めることになる。

全体方針は、経営を取り巻く外部環境に対応して、総括的に打ち出され、それに準じた部門方針が策定される。その関係を示すと下図の通りになる。

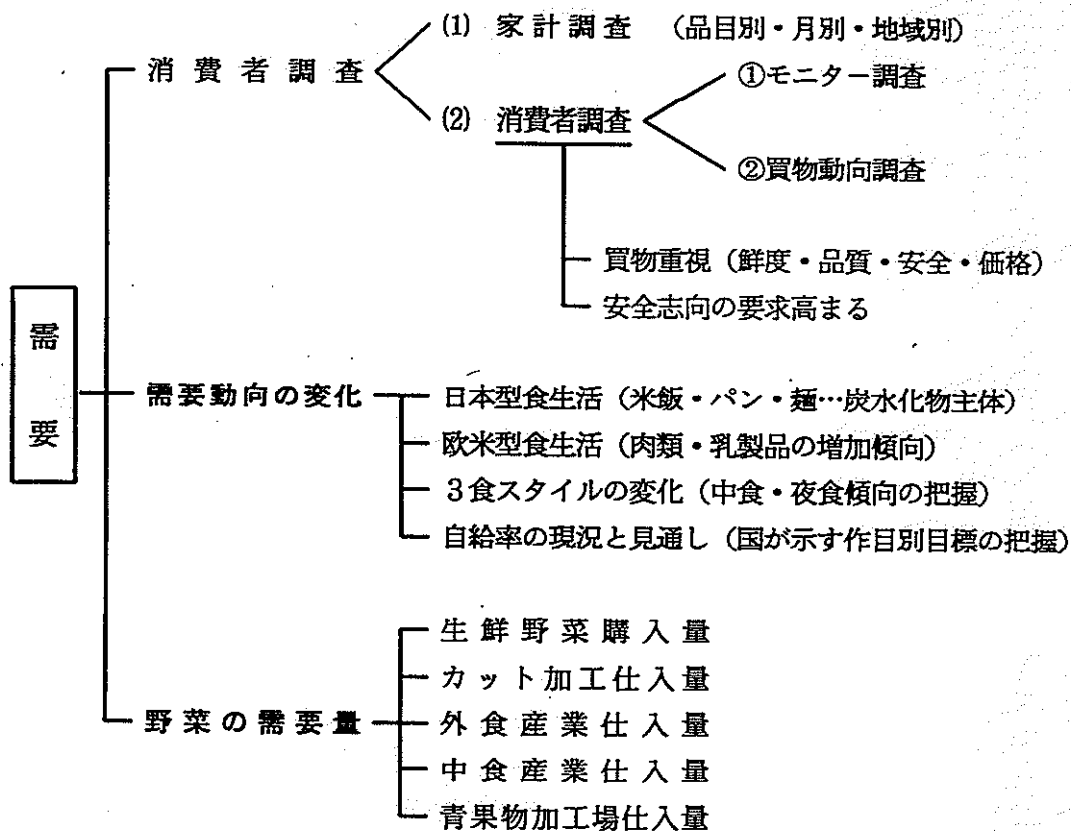
(図表3-2) 経営方針の策定関係図



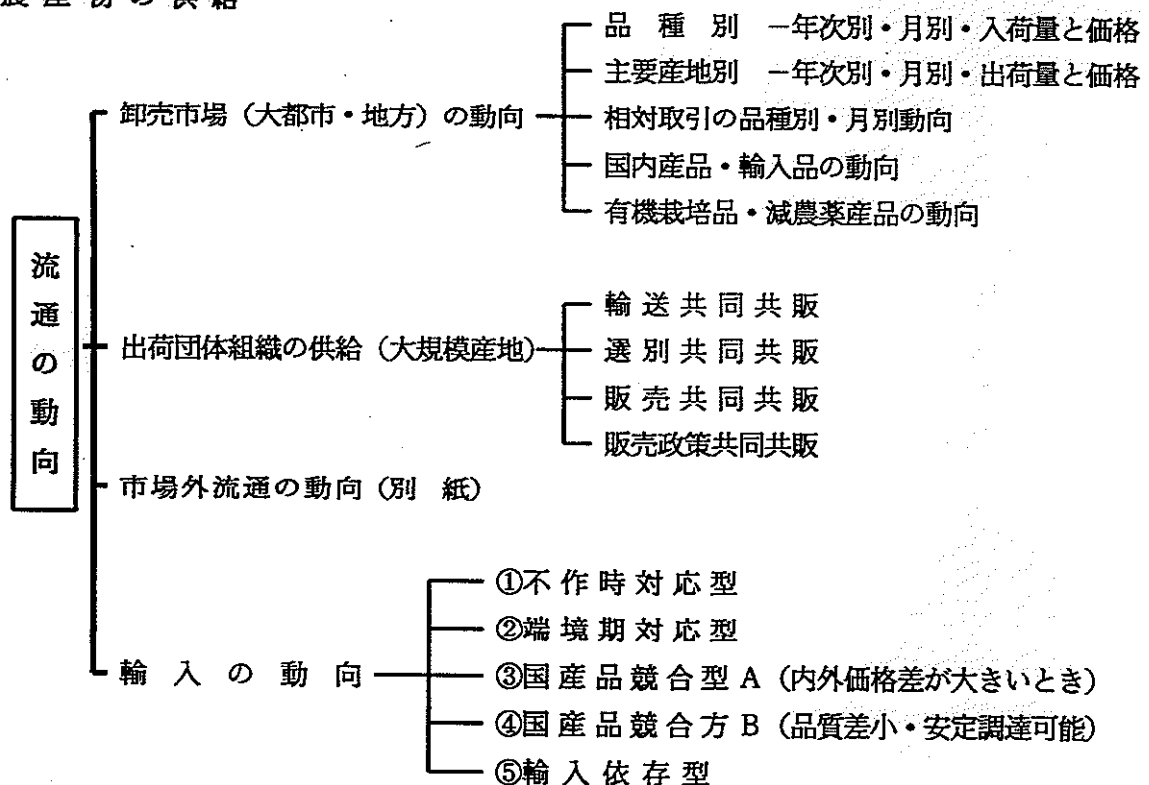
2. 販売方針確立前の検討事項

(1) 販売管理の現状把握

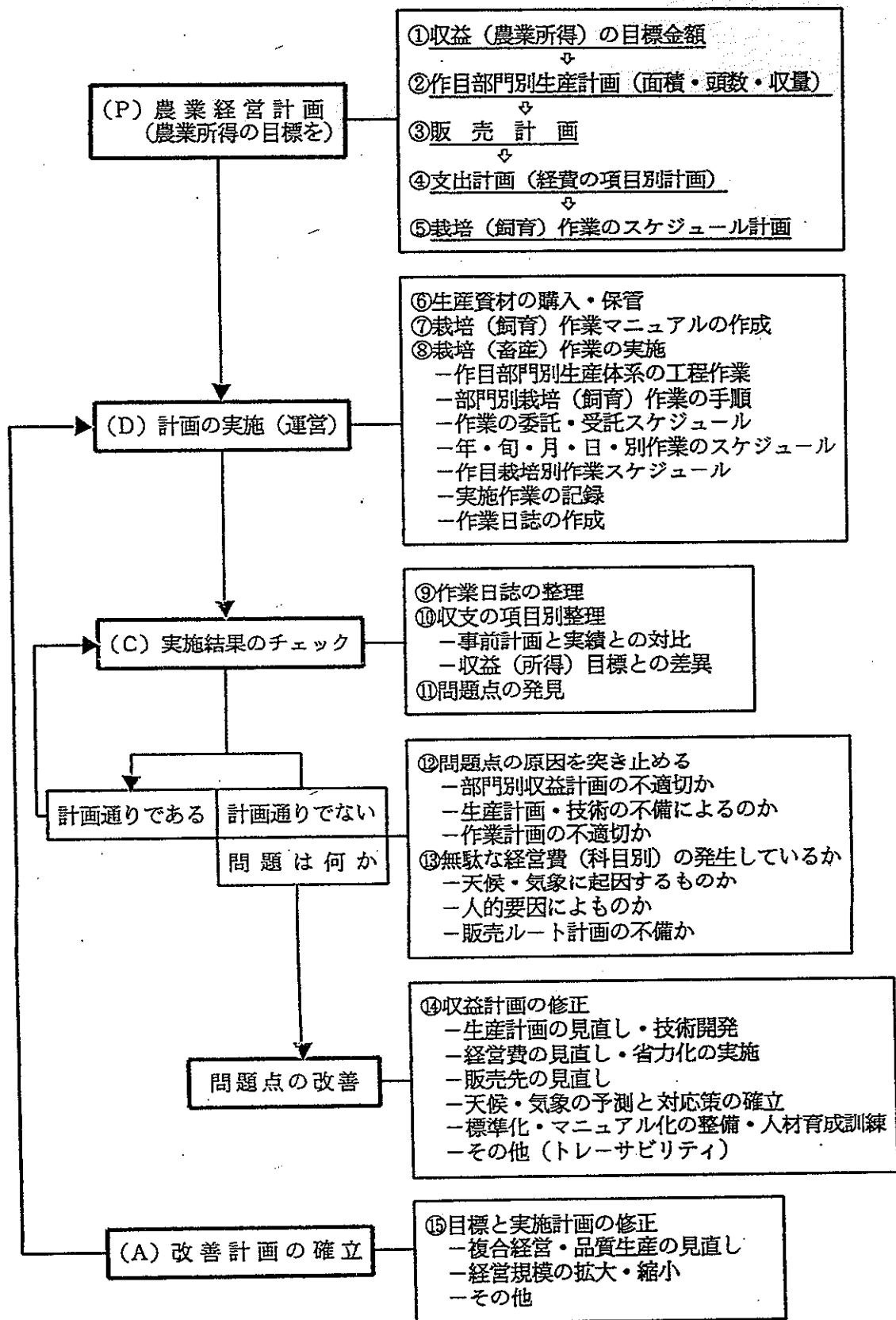
(2) 農産物の需給動向と推移の把握



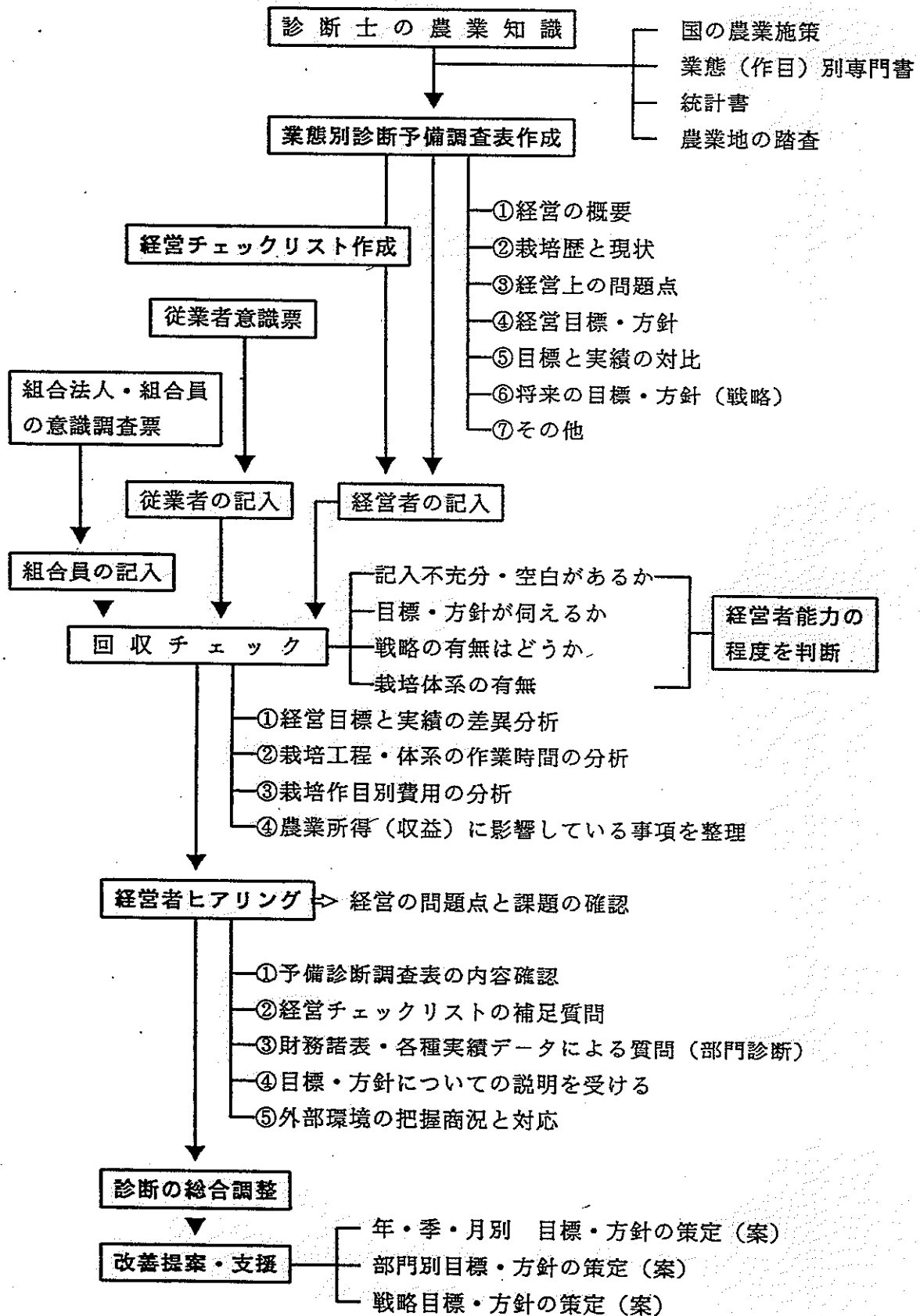
(3) 農産物の供給



(2) 農業経営計画のフレーム



3. 経営目標・経営方針の診断フロー

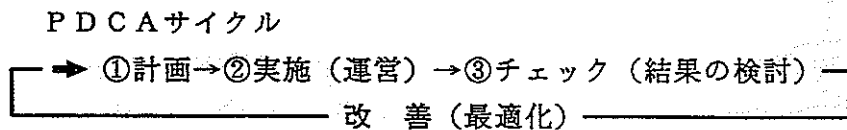


4. 農業経営の計画

(1) 経営計画

農業経営の管理手法は、他産業と同様に「PDCA」の手法で行われる。その概要は次の通りである。

- －経営の目標計画値（農業所得）を立てる。
- －作目（飼育）毎の田・畑・牧草地面積（頭数）・収量と単価の計画を立てる。それに必要な支出（農業経営費の科目別）計画を立てて実施する。
- －実施計画に基づく作目栽培（飼育）作業の過程記録と結果をチェックして、問題点の把握と改善を行う。



結果のチェックとは「農業所得＝農業粗利益（売上高）－農業経営費によって得られる農業所得が目標（全国平均・地域平均・事例値で決める）と比べて多いか少ないかを考慮して、その要因となる粗収益と農業経営費の使い方が適切であったかを点検することである。これは栽培作業工程の途中においても栽培（飼育）現場の現状の状況チェックと最適化が行われる。

農業経営は、地目（田・畑・牧草地）を利用して作目の栽培（飼育）をどのような方式で行うかの経営組織を、どのように組み立てて地目（物）・労働力（人）・資金（金）をどの位投入するかを充分検討することが必要である。それを「PDCAサイクル」の手法で具体的に表現し、実行して目標に到着させる技能は、経験によって磨かれることになる。

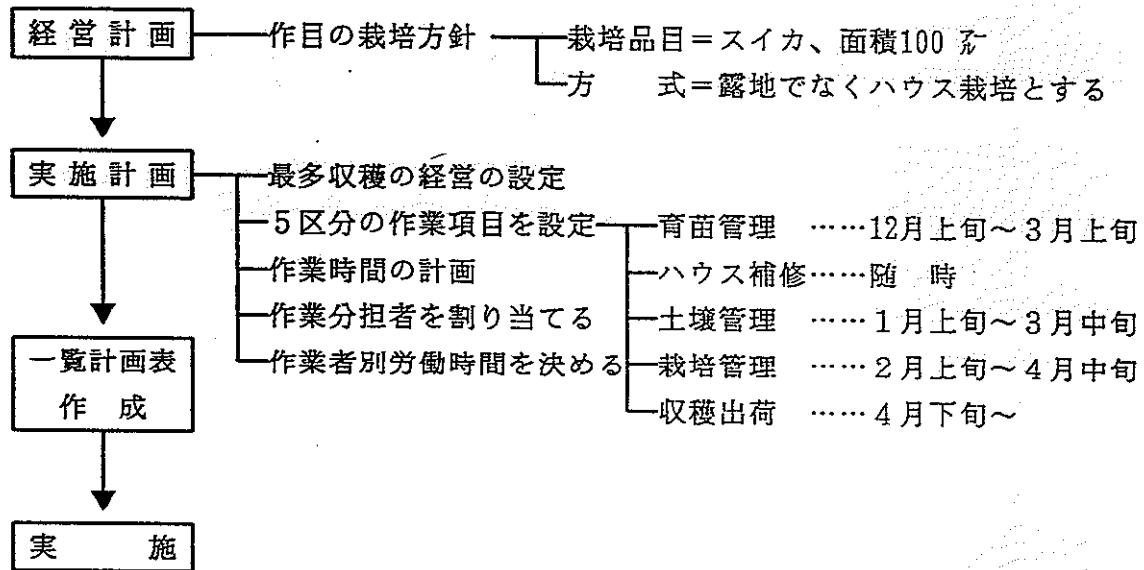
農業経営診断は 第1に、実績を分析し目標が達成されなかった要因が頭初計画が不十分であったのか。第2に、支払い計画のどこが不適切であったのか、その農業実態を調査研究する。 第3は、問題点や将来課題を含めた改善提案をする。これは第三者が客観的立場で行う診断作業であるが、経営者自身が行うことも望まれる。そのその場合は、主観的判断に陥らないことが求められる。

農業経営計画のフレームを示すと（図表1）の通りである。

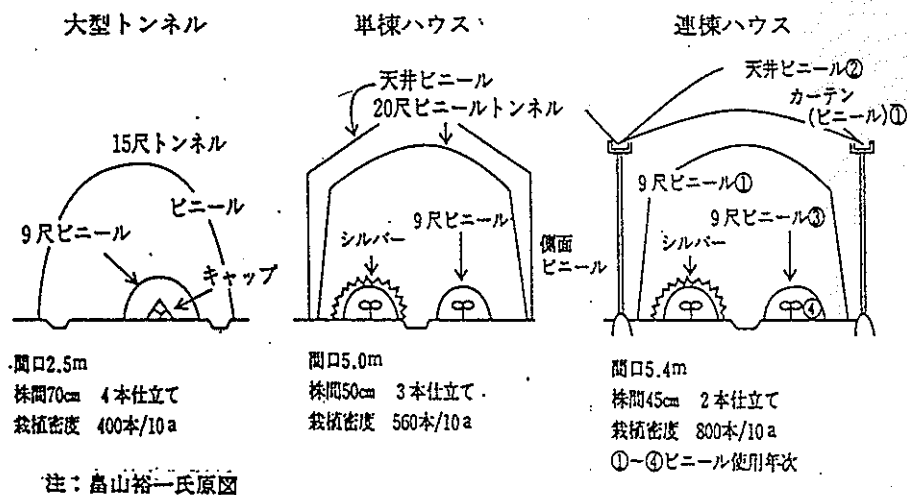
ここで経営計画でスイカの栽培方針から、その実施までの流れを見てみよう。流れの中のポイントは実施計画において、最多収穫経営の設定と作業2種毎の分担者別労働時間の割り当ての適正化である。これに工程毎の作業マニュアルの整備が重要である。その概要を図示すると（図表2）の通りである。

実例としては、永江弘康氏（千葉県原種農場長）の文献（現代の農業経営と技術）から図表を引用した。

(図表1) (2) スイカの栽培計画の概要



(図表2) (3) スイカの栽培施設の種類 (多重被覆の構造)



最多収経営の若果株の本数(植木町HY経営、1番果、1988年)

若果株 設置口	若果株 の配色	数 量 (本)	割 合 (%)	果 計 (%)	備 考
月日					面積100aのうち34a 株数2,040株 (10a当たり600株) 子づる2.5本
3.11	白	50	2.1	2.1	
3.14	黒	190	7.9	10.0	
3.17	赤	730	30.3	40.3	
3.20	青	1,030	42.7	83.0	
3.23	黄	280	11.6	94.6	1果平均6kg2,410 1/3.4
3.26	白	130	5.4	100.0	≒4,250kg(10a当たり)
合計	—	2,410	100.0	(100.0)	

最多収経営のスイカ等級別収量(植木町HY経営、1番果、1988年)

(単位：箱、%)

等級	階級	秀	優	良	良	良	外	合 計	割 合
3 L		7	8	6	3	—	—	24	3.4
2 L		38	39	33	15	—	—	125	17.8
L		81	104	51	22	4	—	262	37.4
M		63	103	45	9	—	—	220	31.4
S		17	32	13	4	—	—	66	9.4
2 S		—	—	3	—	—	—	3	0.9
合計		206	286	151	53	4	—	700	100.0
割合		29.4	40.8	21.6	7.6	0.6	—	100.0	—

注：1) 1番果収穫出荷期間 4月22日～5月6日 面積34a

1番果700箱×20.4kg=14,280kg 10a当たり4,200kg

2) 2番果収穫 5月25日～6月10日 10a当たり2,100kg

3) 3番果収穫 7月2,100kg/10a 5番果収穫 9月1,500kg/10a

4番果収穫 8月1,500kg/10a 6番果収穫 10月1,500kg/10a

(資料出所) 現代の農業経営と技術・農林統計協会

(図表3) (4) スイカ・ハウス促成栽培の担当別・項目別作業・時間実施計画表(例)

作業項目	時 期	延べ 回数	合計 時間	作業者別労働時間				労働分担係数			
				経営主	妻	後継者	雇	経営主	妻	後継者	雇
育苗 管理	(育苗床準備)										
	播種 台 木	12/6~	5	52.0	35.0	17.0	—	—	1.72	0.99	—
	播種 スイカ	12/13~									
	移植 鉢床土入れ	12/5 10	10	45.0	23.5	21.5	—	—	1.33	1.38	—
	台 木 移 植	12/21 1/15	4	19.5	13.0	1.5	2.0	3.0	1.72	0.24	0.83
	接 木		10	56.3	29.8	26.5	—	—	1.36	1.38	—
	苗 灌 水		8	14.5	11.0	3.5	—	—	1.95	0.71	—
	ずらし、摘心	1/25~	5	21.5	14.0	7.5	—	—	1.67	1.03	—
ハウス 補修	育苗管理		7	15.5	13.5	2.0	—	—	2.23	0.38	—
	(小計)			(172.3)	(104.8)	(62.5)	(2.0)	(3.0)	—	—	—
	ハウスさび止め		3	18.0	10.0	8.0	—	—	1.44	1.29	—
	ハウス建てビニール張		21	209.1	73.5	80.6	16.0	39.0	0.90	1.15	0.67
	(うちテープ切り)		14	123.5	43.5	44.0	6.5	29.5	—	—	—
	被覆フィルム張り		4	39.0	21.0	19.0	—	—	1.31	1.44	—
	(小計)			(266.1)	(104.5)	(107.6)	(16.0)	(39.0)			
土壌 管理	土壌消毒ガス吹き		4	22.0	13.0	9.0	—	—	1.51	1.21	—
	堆肥散布	1/10~24	20	256.0	114.0	94.5	16.0	31.5	1.15	1.15	0.50
	化学肥料散布		4	15.8	3.3	11.0	1.5	—	0.54	2.06	0.75
	耕耘、整地	1/24~	8	69.8	35.5	24.5	3.5	6.0	1.31	1.03	0.42
	灌水、マルチ		4	57.5	28.0	22.0	—	7.5	1.29	1.12	—
	わら取り込み		4	22.5	8.0	8.5	3.0	3.0	0.92	1.12	1.08
	マルチから敷き	2/13~3/14	6	68.9	25.0	27.8	4.3	11.8	0.92	1.18	—
	(小計)			(512.9)	(226.8)	(197.3)	(28.3)	(59.8)			
栽培 管理	苗取り定植	2/7~20	11	207.5	57.0	60.5	31.5	58.0	0.59	0.74	1.08
	定植準備		5	39.5	20.0	16.5	0	3.0	1.31	1.24	—
	整枝管理	2/14~	45	332.6	88.3	106.5	76.3	61.5	0.62	0.85	1.75
	つる一整理	2/28~	16	165.5	77.0	73.5	12.0	3.0	1.21	1.29	0.58
	防除		5	25.0	18.5	—	3.0	3.5	1.90	—	1.00
	灌水	3/18~	6	23.0	3.0	20.0	—	—	0.33	2.56	—
	管理一般	4/6~	42	305.4	52.3	50.9	86.4	115.8	0.44	0.50	2.33
	交配	4/10~	17	115.0	45.5	57.0	5.0	7.5	1.03	1.47	0.33
	摘果、着果棒たて		20	110.0	99.5	10.5	—	—	2.31	0.29	—
	玉なおし		12	74.2	46.3	28.0	—	—	1.59	1.12	—
	ハウス換気		5	27.0	14.0	10.0	3.0	—	1.33	1.09	0.92
	被覆フィルム整理		9	86.0	9.5	30.5	31.5	14.5	0.28	1.03	3.08
	(小計)			(1510.3)	(630.9)	(463.9)	(248.7)	(266.8)	—	—	—
収穫出荷		4/27~	40	396.0	178.0	139.0	51.0	28.0	1.18	1.06	1.08
合 計			360	2,857.6	1,180.0	987.3	346.0	396.6	1.00	1.00	1.00

注：労働分担係数 = (作物・作業の担当者労働時間 ÷ 作物・作業時間)

÷ (担当者の総労働時間 ÷ 家族・雇用の総労働時間)

(資料出所) 現代の農業経営と技術・農林統計協会

5. 生産計画

(1) 生産計画の意義

農業経営における生産機能は、総合経営構想の1部の機能であるので経営計画に基づいて立案されるものである。また経営計画は、経営方針を具体的にした計画であるため生産計画は、経営計画を実現するための計画と言える。従って生産計画は、経営計画の大きな柱である。販売計画と表裏一体の関係にある。農産物の受注生産・契約栽培などは、販売先のニーズに沿った生産計画でなければならない。契約先のニーズは、常に安心・安全なトレーサビリティの要求とサイズ・形状・品質の標準化条件がある。それに適合する農産品の必要（契約）数量を計画的に確保する生産計画の立案がきびしく求められる。

(2) 生産基本計画

農業の生産基本計画に対応して立案することによって農産物の販売が約束されることになるので生産基本計画の内容としては、次の点を勘案して実施することが生産性の確保の上から重要である。

① 何を栽培するか

…生産品種の選択

② どんな形態で配分生産するか

…受注契約型〇%・独立販売(露・鉢)〇%

③ どこの圃場で、どんな生産方式で作るか

…露地栽培かハウス栽培か

…季節栽培か、通年栽培か

④ 何を導入して、いかにつくるか

…土耕型か、養液栽培法か

…機械設備方式か

⑤ 担い手付則をどのようにカバーして、つくるか

…機械で、できることは機械導入方式とする

…ファームサービス組織の委託作業を活用するか

(3) 生産計画と生産実施計画

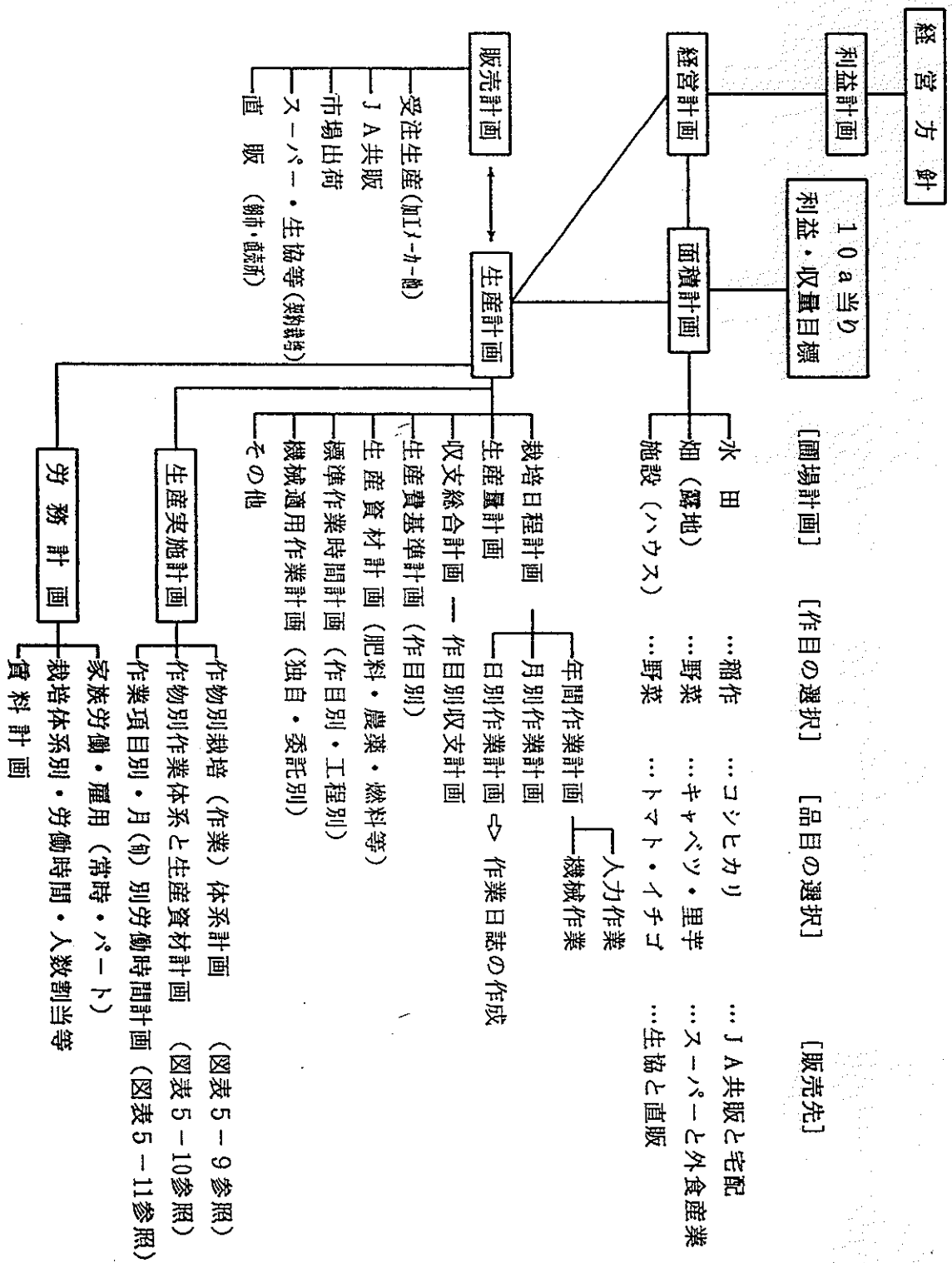
生産計画は、作目・品種(目)の選択と割当面積を決定して圃場計画が決まればその栽培日程計画で適切な作業計画を立案する。それに関連して栽培工程別の標準作業時間計画と生産費基準計画や一連の計画策定が必要である。

生産実施計画においては、作物栽培体系や、作物別作業体系に関連する生産資材計画、及び作業項目別、労働時間計画の立案と適切な実施が不可欠である。

更に、労働計画においては家族労働・雇用・パートの戦力を有効に活用するため栽培体系別の労働時間と分担者と人数割当の適切な立案が生産計画達成の鍵となる。それには、賃料計画の妥当性がなければならない。家族経営の場合は家族協定書による労働条件作業分担型の裏付けに実行性が伴う事が不可欠である。

ここでは、生産計画の関連内容のつながりを示した概要図を提示する。

(4) 生産計画の概要図



(5) 生産計画の実施マニュアル

生産計画目標を実現するためには、栽培工程内容と、その作業マニュアルの整備が必要である。

マニュアルの中心をなすのは工程別実施作業・工程別作業時間の割当などで、稲作のマニュアルには、次のものがある。

- ① 稲作（水稻）の月別栽培マニュアル
- ② コシヒカリ栽培の管理法マニュアル
- ③ 防除歴マニュアル
- ④ 施肥マニュアル
- ⑤ 水稻作業別・作業時間と生産費基準表
- ⑥ 小麦作業別・作業時間と生産費基準表
- ⑦ 大豆作業別・作業時間と生産費基準表

月別栽培マニュアル

月 別	稲 作 作 業 内 容
3 月	種 粉 準 備
4 月	健 苗 の 作 り 方
5 月	田植えと効果的な防除
6 月	溝きり・中干しの効果
7 月	穂肥の時期を把握しよう
8 月	病害虫対策に備えよう
9 月	穂が十分実ってからの収穫
10 月	良食味米の安定生産へ

コシヒカリ栽培の管理法マニュアル

① 種 粉 の 準 備	⑪ 落 水
② 健 苗 の 育 成	⑫ 刈 取 り
③ ほ 場 の 施 肥 ・ 耕 起 攪 拌	⑬ 乾 燥
④ 田 植 え ・ 除 草	⑭ 調 整
⑤ 溝 切 り ・ 中 干 し	⑮ 品 質 と 食 味
⑥ 間 断 か ん 水	⑯ 土 づ く り
⑦ 葉 い も ち の 防 除	⑰ 転作あとの作付け
⑧ 穂 肥	⑱ 基盤整備田での作付
⑨ 病 害 虫 防 除	⑲ 雑草地の草刈り（カメ虫発生防止）
⑩ 出 穂 期 の 水 管 理	

(3) (乾田直播) ◆作業体系と生産資材 (ha当り)

作業名	時期	作業内容	資材名	単位	回数	単回消費量	単回単価	単回総消費量	単回総単価	資材名
畦間促進	3/中	畦間材散布	スノモト・ト 7"0-ト・キヤク		2	0.4	0.8	6.0	10.0	畦間材
ほ場整備	4/中～4/下	畦畔、用排水路、水口等の 補修、表面水排除 畦畔の湛水防止	スコップ、鍬		1		20.0			
種子予備	4/中～5/上	消毒、浸種、催芽	催芽器		1	2.0	2.0			種子 種子消毒剤 電力
コーティング	4/下～5/上	除草発生剤の播種機散布 (1:1)	コーティングマシン		2	2.0	4.0			除草発生剤 殺菌剤 電力
堆肥散布	4/下～5/上	堆肥散布 (10t/ha)	700ト0-ダ マシ727"レック	2t	1	0.8	0.8	3.0	5.0	
耕起	4/下～5/上	耕起15cm	3t"17"ダク	7本爪	1	1.2	1.2	2.0	5.0	
均平	4/下～5/上	田面の均平化(±25mm)	レーザ・レベル	牽引式	1	5.0	5.0	3.0	3.5	
施肥	4/下～5/上	施肥標準、全層施肥1/2	7"0-ト・キヤク トラクタ	400% 2t	2	0.8	1.6	4.5	5.0	化成肥料
砕土、整地、鎮圧、施肥、播種	4/下～5/上	砕土率70～80%、播種量 100kg/ha、条間20～30cm 作業施肥1/2、復土深 15mm、播種間隔狭鎮圧	専用施肥播種機 (7"0-ト・ダ、3t"17" yカ付き)		1	7.1	7.1	2.0	1.4	化成肥料
鎮圧	4/下～5/上	播種後狭鎮圧	7"0-ト・キヤク	2.5m	1	1.0	1.0	2.5	6.0	
湛水	5/中	土中内発芽期(水深3-4)			1		0.5			
除草剤散布	5/上～5/中	播種後湛水期	専用管理機	400% 2t	1	0.7	0.7	10.0	2.4	除草剤(土壌処理剤)
	5/下～6/上	湛水後一発処理剤	専用管理機	400% 2t	1	0.7	0.7	10.0	2.4	除草剤(一発処理剤)
畦畔、用排水路草刈	6/中～6/下	1回目草刈り運び出し	刈払機 トラクタ	2t	1	2.5	2.5			
	7/中～7/下	2回目草刈り運び出し	刈払機 トラクタ	2t	1	2.5	2.5			
	8/下～9/上	3回目草刈り運び出し	刈払機 トラクタ	2t	1	2.5	2.5			
水管理	5/中～7/上	生育初期水管理			1		10.0			
	7/中～7/下	生育盛期水管理			1		4.0			
	8/上～8/下	生育後水管理			1		6.0			
病害虫防除	8/上	いもち病、かび病	無人ヘリコプター トラクタ	7.5m 2t	3	0.2	0.6	7.5	15.0	殺虫殺菌剤
	8/中	いもち病、かび病	無人ヘリコプター トラクタ	7.5m 2t	3	0.2	0.6	7.5	15.0	殺虫殺菌剤
収穫・運搬	9/中～10/上	①普通型コンバイン ②自脱型コンバイン	普通型コンバイン トラクタ(2台組) 自脱型コンバイン トラクタ(2台組)	3.6m 2t 4条 2t	1 2 (1) (1)	2.1 4.2 (4.5) (4.5)	2.1 4.2 (4.5) (4.5)	3.6 (1.3) (2.8)	2.2	
乾燥・製穀	9/中～10/中	共同乾燥施設								
稲わら集積、運搬	9/下～10/中	稲わら集積 運搬	レーキ 0-14"ラ 700ト0-ダ トラクタ	4リ-1 2t	1 1 1 1	0.9 1.4 1.4 1.4	0.9 1.4 1.4 1.4	2.2 2.2	7.0 6.0	
秋耕	9/下～10/下	耕深15～18cm 反転耕 面積の1/3	7"ダク	14" × 2	1	3.4	3.4	0.7	6.0	
表面排水	10/上～11/上	湛切り	湛切り機		1	1.4	1.4	2.0	5.0	
心土破砕	3/下～4/下	湛さ30～40cm、雪上施工可	7"0-ト・キヤク	2t	1	1.7	1.7	3.0	2.5	

(資料) 北海道農業生産技術体系 (第2版) 創北海道農業改良普及協会発行

(4) 販売流通分野の課題

- ① 消費者ニーズへの的確な対応（定時・定量・定価格・品質・包装形態）
- ② 農家・農協の結束による系統販売
- ③ 農産物直売店と出品農業者との連携
- ④ 流通コストの削減（集出荷場の整備・選別・荷造り作業の機械化）
- ⑤ 食品スーパーの生鮮品と差別化した商品の品揃え
- ⑥ 販売チャネル・販促方策など販売戦略の確立
- ⑦ 地産地消との方針確立とネット販売の推進
- ⑧ 生協・スーパー・外食チェーン等との契約栽培
- ⑨ 輸入品と国産品の価格差・品質の分析と対策
- ⑩ 中国などの輸入先国の作付・生育状況・商社の輸出入等、海外情報の収集

(5) 国、都道府県、市町村の農業施策への対応

- ① 国の基本的な諸農業施策－自給率アップへの対応
 - －持続的農業の実現
 - －地域農業の実現
 - －その他
- ② 都道府県のビジョン → 実施計画 → 年度別事業推進方針への対応
- ③ 市町村の農業基本方針等への対応
- ④ 都道府県の各種農業試験場・研究所で開発された栽培技術の導入
- ⑤ 公共機関の農産経営情報を活用して数値導入の計画的経営

(6) 野菜の流通段階別価格構成比

(単位：%)

	産 地 段 階		市 場 段 階				小 売 段 階		流通マージン総計 ⑨=①+③+⑤+⑦
			卸売段階		仲卸段階				
	集出荷経費 ①	生産者受取価格 ②	卸売手数料ほか ③	卸売価格 ④=①+②+③	仲 卸 マージン ⑤	仲卸価格 ⑥=④+⑤	小 売 マージン ⑦	小売価格 ⑧=⑥+⑦	
ダイコン	24.8	13.6	3.6	42.0	14.1	56.1	43.9	100.0	86.4
ハクサイ	20.3	20.2	3.7	44.2	10.7	54.9	45.1	100.0	79.8
キャベツ	37.8	-5.7	2.9	35.1	16.5	51.6	48.4	100.0	105.7
トマト	14.8	48.1	5.8	68.7	10.5	79.2	20.8	100.0	51.9
キュウリ	14.9	46.5	5.7	67.0	7.8	74.8	25.2	100.0	53.5
レタス	40.4	-2.3	3.5	41.6	13.4	55.0	45.0	100.0	102.3
タマネギ	19.9	31.7	4.8	56.4	3.6	60.0	40.0	100.0	68.3

【注】 1. 平成元年11月に実施した東京市場を中心とする調査結果の平均値である。

2. 各品目のすべての時期を代表する平均値ではないことに注意。

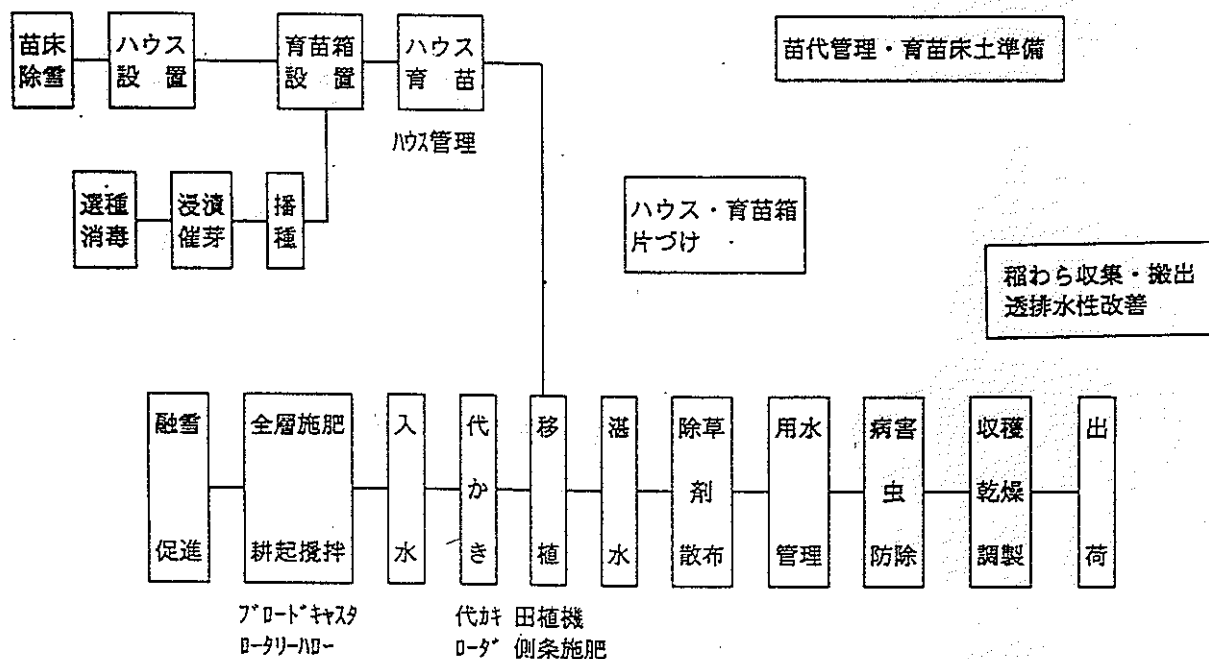
(農林水産省統計情報部「青果物流通段階別価格形成追跡調査報告」平成3年による)

6. 稲作の作業工程

当稲作の作業体系は、北海道農政部編（註）北海道農業改良普及協会（平成12年12月）発行の北海道農業技術体系の中から抜粋して転載し、稲作の作業工程及び工程毎の生産資材、作業技術についての理解を試みた。

(1) 水稻移植栽培の作業体系

稲移植栽培の作業体系図（成苗・中苗）



（資料）北海道農業生産技術体系（第2版）
北海道農業改良普及協会 発行

(2) 水稻の省力栽培技術

水稻の省力栽培技術として、2つの直蒔栽培が開発されている。

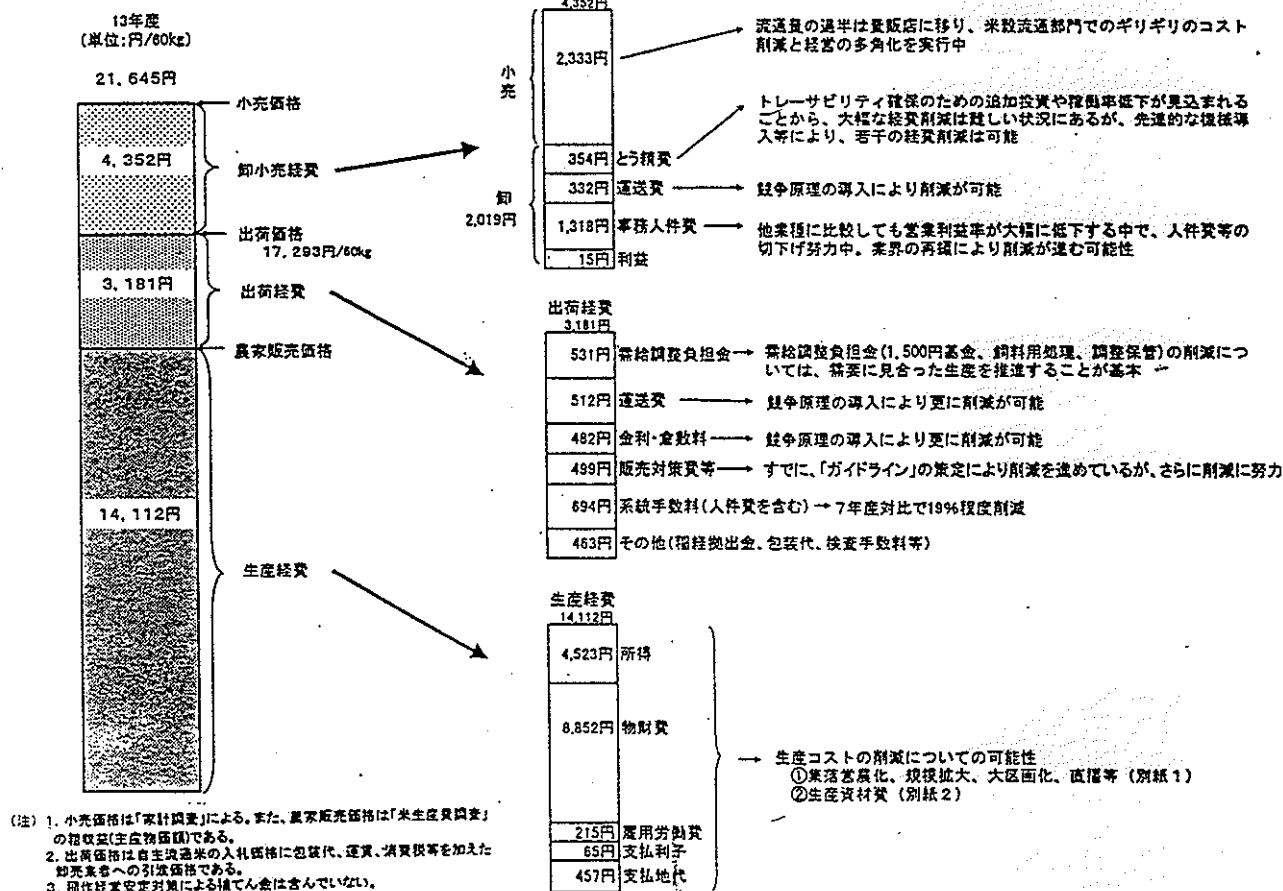
直蒔栽培は、現状の移植栽培体系における春作業（苗づくり）の労働を解消し、水稻経営を改善する取組みで開発され、全国各地で取り入れられている。

直蒔栽培は、作業の省力化の反面、生産量の減収があるので、生産調整推進対策では、湛水直蒔は10%・乾田直蒔は15%くらいの減収率をカウント対象として、普及を促進している。

次の2つの様式には異なった特徴があり、それを理解して選定する必要がある。また、各々の栽培マニュアルの活用が有効である。

- ① 湛水直蒔とは、播種前に湛水した圃場で播種する様式
- ② 乾田直蒔とは、播種前には湛水を伴わない播種様式

(7) 米の生産・流通コスト



(8) 生産流通コストの削減

(資料: J A 全中・全農)

- J Aグループは、以下の事項に重点的に取り組み、流通コストの削減をすすめる。
 - ① 運賃の削減
 - ② 一貫パレット輸送の拡大、J Rコンテナによる定時定型輸送の拡大、フレコン回収率の向上
 - ③ 包装容器のコスト低減
 - ④ 13年7月に設定した「ガイドライン」にもとづく販売対策費の削減
- 流通コスト削減は、J Aグループの取り組みだけでは完結しない部分もあり、バラ流通の拡大等について、卸・小売り段階とも連携した取り組みが必要。
- 生産資材コスト低減に向けた取り組みは、次のとおり。
 - ① 低コスト資材を重点品目とし、これにJ Aグループ全体を通じた業務・物流改革によるコスト削減および大口ロット対策等を積み上げ、最大20%のコスト削減を目標として取り組む。
 - ・業務・流通コストの削減 2~5%
 - ・低コスト資材の拡大 6~10%
 - ・ロットや配送形態も加味した大口対策等 1~5%
 - ② J A別・作物別に、農家組合員の目に見える「実行プログラム」を明示し取り組む。

(資料) 減農薬米栽培計画表 (栽培歴) 事例 ①

月	旬	生育状況	基本農作業	病虫害防除歴		施肥の例 (10a 当り施肥量)
				使用薬剤	対象病虫害	
1月	上 中 下					
2月	上 中 下					
3月	上 中 下	種子準備	土づくり肥料散布			JAいわて花巻 オリジナル土づくり 肥料散布 (100kg)
4月	上 中 下	○ 播種 育苗	種子消毒 耕起 施肥	ヘルシード水和剤 モミゲンキ水和剤 タチガレン液、ダコニール1000	ばか苗病・イモチ病 もみ枯細菌病 苗立枯病	現地銘柄肥料 花巻発1号 (50~60kg)
5月	上 中 下	× 移植	代かき 田植え 除草剤散布	Dr. オリゼ・スタークル (移植時箱使用) ミスターホームラン剤	イモチ病、初期害虫 雑草防除	
6月	上 中 下		畦畔草刈り			
7月	上 中 下		中干し・落切 追肥 穂イモチ防除	コラトップ粒剤	穂イモチ病	追肥肥料 NKC-17号 (6~12kg)
8月	上 中 下	* 出穂開花	畦畔の草刈り	スミチオン粉剤 (必要に応じて)	カメムシ類	
9月	上 中 下	□ 収穫	収穫・乾燥 調整作業			網目は 1.90mm (LL) 使用
10月	上 中 下	□ 集荷	カントリー荷受 倉庫保管			
11月	上 中 下		土づくり肥料 「賢治の教え」散布			JAいわて花巻オリジ ナル土づくり肥料散布 (秋散布中心、残りを 春散布)
12月	上 中 下					

栽培方法の特徴：土づくり資材を施用することにより「たくましい稲」づくりにより使用農薬を
少なくします。

(資料出所) JA花巻減農薬栽培

第2章 花き作の診断実施マニュアル

1. 花き作農業経営診断予備調査表

農業経営診断診断予備調査表 (個人経営1-1)

〈花き作〉

(平成 年 月現在)

診断希望事項																																			
1. 認定農業者 エコファーマー 所在地 代表者名 就業年数 集落組織参加 集団栽培 経営の業態	第1日認定日 平成 年 月・第 日 年 月	5. 栽培作目の主な種目と生産量・比率																																	
	認定日 平成 年 月	<table border="1"> <tr> <td>切り花類</td> <td>バラ</td> <td>鉢</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>鉢もの類</td> <td></td> <td>鉢</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>花壇用苗もの類</td> <td></td> <td>鉢</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>球根類</td> <td></td> <td>鉢</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>ハーブ類</td> <td></td> <td>鉢</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>洋蘭類</td> <td></td> <td>鉢</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>花木類</td> <td></td> <td>鉢</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>芝類・地被類等</td> <td></td> <td>鉢</td> <td>%</td> </tr> </table>		切り花類	バラ	鉢	%	鉢もの類		鉢	%	花壇用苗もの類		鉢	%	球根類		鉢	%	ハーブ類		鉢	%	洋蘭類		鉢	%	花木類		鉢	%	芝類・地被類等		鉢	%
	切り花類	バラ	鉢	%																															
	鉢もの類		鉢	%																															
	花壇用苗もの類		鉢	%																															
	球根類		鉢	%																															
ハーブ類		鉢	%																																
洋蘭類		鉢	%																																
花木類		鉢	%																																
芝類・地被類等		鉢	%																																
〒 町																																			
(年齢)																																			
S・H 年 月・就業後 年																																			
①S・H 年参加②参加考慮中③参加未定																																			
①有り・②無し																																			
①単一経営・②複合経営()																																			
2. 生産部門該当に○印	(1) 耕種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤芋類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧施設野菜作 ⑨露地野菜作 ⑩果樹作 ⑪施設花き作 ⑫露地花き作 ⑬その他()																																	
	(2) 畜産	①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他																																	
	(3) 養蚕	①養蚕																																	
	(4) 加工	①農産物加工 (品名)																																	
		②畜産物加工 (品名)																																	
		③林産加工 (品名)																																	
	3. 農業経営の現状と計画	◆作目・作型	作物面積	生産量																															
		①露地畑	畝	トン																															
		②温室ハウス	畝 棟																																
		③雨どいハウス	畝 棟																																
④																																			
面積 5畝合計		畝	トン																																
◆経営耕地		地目	面積																																
①所有地	畑・水田・他	畝																																	
②借入地	畑・水田・他	畝																																	
◆作業受委託	作業内容	面積等																																	
4. 生産方式	◆機械・施設	形式・性能	台数・面積等																																
	①																																		
	②																																		
	③																																		
	④																																		
	農用地の現状	①30%区画主体	②耕地がブロック																																
6. 栽培法 (あなたの栽培作型に○印をつける)	(1)露地栽培 (2)マルチ栽培 (3)トンネル栽培 (4)パイプ栽培 (5)ハウス内・トンネル栽培 (6)雨よけハウス (7)防除ネットのトンネル栽培 (8)施設栽培																																		
	①ハウス土耕流水式 (加温・無加温) ②ハウス養液土耕式 ③ハウス養液栽培式																																		
	養液水耕栽培 固形培地耕栽培																																		
	湛液型水耕 NFT 型水耕 ロックウール式 ポリウレタン パーライト耕 くん炭耕																																		
	7. 安心安全への取組み課題																																		
	(1) 化学合成農薬を慣行の50%以上減らす (2) 化学肥料を慣行の50%以上減らす (3) 農薬の名称・用途及び使用回数を表示する (4) 性フェロモン材等誘引剤を使用した旨を表示する (5) 天敵を使用した旨(名称)を表示する (6) 特定防除資材を使用した旨(名称)を表示する (7) 化学肥料(50%RF)の用途及び窒素性分量(10aあたり)を表示																																		
	8. 作業記録・日誌の有無																																		
	(1) 栽培工程毎の記録(時間・内容・方法等)の有無 (2) 防除・施肥記録(名称・使用量・回数)の有無																																		
	◆生産面の課題																																		
	(1) 有機質の土づくり (2) 老朽化ハウスのリニューアル (3) 高品質化とオリジナル品種の導入 (4) 地域ブランド化の推進 (5) 省力化・機械化・システム化の導入 (6) 卸・小売店との連携生産																																		

農業経営診断予備調査表 (個人経営1-2)

〈花き作〉

(平成 年 月現在)

5. 販売関係の現状と方針	(1) 消費客のニーズ把握 ①している ②していない (2) 対象とする客層を ①決めている ②決めていない (3) 直販の顧客名簿 ①有 ②無 (4) 販売計画 ①有 ②無 (5) 計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い (6) 達成しない理由 (7) 販売の現状 ①JA共販 _____% (品目) _____ ②花き市場等 _____% (品目) _____ ③直売店・朝市 _____% (品目) _____ ④大型店等 _____% (品目) _____		(9) 農産物の部門別・生産量と販売額 <table border="1"> <thead> <tr> <th>生産品種</th> <th>生産量(%)</th> <th>販売額(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計</td> <td>本鉢 100%</td> <td>箱 100%</td> </tr> </tbody> </table>		生産品種	生産量(%)	販売額(%)	①			②			③			④			⑤			計	本鉢 100%	箱 100%
	生産品種	生産量(%)	販売額(%)																						
①																									
②																									
③																									
④																									
⑤																									
計	本鉢 100%	箱 100%																							
(8) 今後の販売戦略の課題 (○印) ①消費者ニーズを収集し計画的な生産と出荷に取り組む ②小売店の要望に対応して1箱(100鉢)に5～6品種のミックス出荷 ③高度な生産技術で高品質品を出荷する ④JA花束加工工場から量販店等へ周年取引		(10) 今後の販売方針 (○印) ①切花の日持ち保証販売 ②日持ち性に優れた品種 ③魅力的な色彩や草姿品種 ④切花のパケット流通販売 ⑤ホームユース用短茎もの出荷 ⑥契約販売の推進																							
6. 財務会計	(1) 複式簿記 (パソコン活用 有・無) (2) 借入金の内訳 ①農業経営基盤強化資金(ス-P-L) _____ 千円 ②農業経営改善資金 (ス-P-S) _____ 千円 ③農業近代化資金 _____ 千円 ④経営体育成強化資金 _____ 千円 ⑤その他 _____ 千円 (3) 利益計画 有・無		(4) 資金の運用と調達 ①借入金残高 _____ 千円 ②元金償還額 _____ 千円 ③税引後利益 _____ 千円 ④減価償却費 _____ 千円 ⑤キャッシュフロー-③+④ _____ 千円 ⑥運用余剰金⑤-② _____ 千円 (5) 設備投資計画 有・無 ①借入金予定(返済年) _____ 千円 ②年間元金償還額 _____ 千円																						
	7. 人事関係 (1) 人手 ①十分 ②普通 ③不足 (2) 労働条件通知書(雇用時) 有・無 (3) 国民健康保険(加入) 有・無 (4) 農業者年金(加入) 有・無 (5) 労災保険(5人以上) 有・無 (6) 雇用保険(5人以上) 有・無 (7) 小規模共済保険 有・無 (8) 家族経営協定書 有・無		(9) 労働力(人数) ①家族(うち女性) _____人() ②常時雇用(6カ月以上の契約) _____人() ③臨時雇用(6カ月以内の契約) _____人() (10) 労働時間(年間常時雇用以上) (現在) (目標) ①家族 _____時間 _____時間 ②常時雇用 _____時間 _____時間																						
8. 労務施策	◆①は検討中②は実施中に○印をつける (1) 責任分担チーム組織を ① ② (2) ハウス毎の担当者制を ① ② (3) 品種毎の責任分担制を ① ② (4) 栽培作業の無人化システム ① ② (5) 省力化・能率化の機械の導入 ① ② (6) 各種作業マニュアルの導入 ① ②		◆経営上の問題点(該当に○印) ・従業者の高齢化 ・担い手の確保難 ・生産方式の改善難 ・後継者難 ・販売力が弱い ・生産コストが高い ・作業工程別計画の不備 ・品質管理が弱い ・利益率の低下 ・無減農薬の対応不十分 ・有機栽培の対応不十分 ・各種マニュアルの不備																						

作業別労働時間調査表 (2-1)

作目名 カーネーション (スタンダード)

〈作業別・時期別労働時間10㎡当り〉

区 分	基準値	H 年	H 年	概%	摘 要
	A. 10㎡当り	B. 全 体	C. 10㎡当り	C÷A×100	
(1) 作付け面積	逆式 5,000 ㎡	㎡	㎡		栽培面積全体
(2) 延作業人数	8 人				人 (人)
() 内雇人数	6 人				作業者全体
(3) 労働時間合計	1,917.0 時間				時間
() 1人当り労働時間					10㎡当り
① 育苗労働時間	0.0 時間	時間	時間		10㎡当り
② 本舗労働時間計	719.0				10㎡当り
土壌消毒	50.0				
定植床準備	12.0				
定植	75.0				
施肥	64.0				
灌水	38.0				
摘心・整枝	85.0				
摘芽	108.0				
ネット張り	65.0				
防除	50.0				
ビニール張・除去	40.0				
除草・換気	45.0				
額割れ防止テープ 巻き	37.0				
ほ場片付け	50.0				
③ 間接労働時間計	1,198.0				10㎡当り
切花収穫	478.0				
出荷・調整	720.0				
④ その他	0.0				10㎡当り
研修等					
(4) 労働時間区分					
① 家族労働 (男女2人)					
② 雇 用 (女 人)					

社団法人 中小企業診断協会

作業別労働時間調査表 (2-2)

作目名 カーネーション (スプレー)

〈作業別・時期別労働時間10%当り〉

区 分	基準値	H 年	H 年	規%	備 考
	A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	C÷A×100	
(1) 作付け面積	延べ 5,000 ㎡	㎡	㎡		栽培面積全体
(2) 延作業人数	8人				人 (人)
() 内雇人数	6人				作業者全体
(3) 労働時間合計	1,957.0 時間				時間
() 1人当り労働時間					10%当り
① 育苗労働時間	0.0 時間	時間	時間		10%当り
② 本舗労働時間計	989.0				10%当り
土壌消毒	12.0				
定植床準備	24.0				
定植	45.0				
施肥	66.0				
灌水	72.0				
摘心・整枝	55.0				
摘芽	420.0				
ネット張り	72.0				
防除	40.0				
ビニール張・除去	33.0				
除草・換気	90.0				
額割れ防止テープ 巻き					
ほ場片付け	60.0				
③ 間接労働時間計	968.0				10%当り
切花収穫	440.0				
出荷・調整	528.0				
④ その他	0.0				10%当り
研修等					
(4) 労働時間区分					
① 家族労働 (男女2人)					
② 雇 用 (女 人)					

社団法人 中小企業診断協会

作業別労働時間調査表 (2-3)

作目名 キ ク (土耕栽培)

〈作業別・時期別労働時間10%当り〉

区 分	基準値	H 年	H 年	批%	摘 要
	A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	C÷A×100	
(1) 作付け面積	1,000㎡ 1 棟	㎡	㎡		
(2) 延作業人数 () 内雇人数	人 人				人 (人)
(3) 労働時間合計 () 1人当り労働時間	1,881.9 時間				時間
① 育苗労働時間	0.0 時間	時間	時間		
② 本舗労働時間計	1,033.0				
前作片付け	13.5				
土壌消毒	24.0				
堆肥投入	24.0				
定植準備	30.0				
整枝	9.0				
支柱・ネット張り	24.0				
施肥	18.0				
防除	199.5				
灌水	49.0				
電照	0.0				
摘らい	432.0				
ハウス管理	90.0				
③ 間接労働時間計	848.9				
収穫	378.0				
調整	450.0				
出荷	20.9				
④ その他計	0.0				
(4) 労働時間区分					
① 家族労働 (男女2人)					
② 雇 用 (女 人)					

社団法人 中小企業診断協会

作業別労働時間調査表 (2-4)

作目名 トルコキキョウ (ハウス超促成・促成・半促成)

〈作業別・時期別労働時間10%当り〉

区 分	基準値	H 年	H 年	批%	摘 要
	A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	C=A×100	
(1) 作付け面積	4,000 ㎡	㎡	㎡		作付け全体
(2) 延作業人数 ○内雇人数	7人 5人				人 (人)
(3) 労働時間合計 ○1人当り労働時間	1,511.7 時間				時間 10%当り
① 育苗労働時間	72.5 時間	時間	時間		10%当り
播種の準備	30.0				
播種	6.0				
灌水	22.0				
防除	3.5				
冷房育苗管理	11.0				
② 本舗労働時間計	495.7				10%当り
耕耘	7.5				
土壌消毒	16.0				
堆肥・元肥投入	12.0				
畦立て	18.0				
マルチング	13.5				
定植	135.0				
灌水	4.9				
防除	24.0				
追肥	4.2				
ネット張り	54.0				
換気	49.5				
温度管理	60.0				
一般管理	53.0				
③ 間接労働時間計	889.5				10%当り
採花	290.0				
調整	580.0				
出荷	19.5				
④ その他計	54.0				10%当り
片付け	54.0				
(4) 労働時間区分					
① 家族労働 (男女2人)					
② 雇 用 (女 5人)					

社団法人 中小企業診断協会

作業別労働時間調査表 (2-5)

作目名 ガーベラ

〈作業別・時期別労働時間10㎡当り〉

区 分	基準値	H 年	H 年	比%	備 考
	A. 10㎡当り	B. 全 体	C. 10㎡当り	C÷A×100	
(1) 作付け面積	㎡	㎡	㎡		栽培面積全体
(2) 延作業人数 () 内雇人数	人 人				人 (人) 作業者全体
(3) 労働時間合計 () 1人当り労働時間	2,191.4 時間				時間 10㎡当り
① 育苗労働時間	22.0 時間	時間	時間		10㎡当り
苗管理備	22.0				
② 本舗労働時間計	496.6				10㎡当り
定植準備	92.0				
定植	22.0				
施肥・灌水	49.8				
葉かき	212.4				
薬剤散布	62.4				
施肥管理	32.8				
除草・片付け	25.2				
③ 間接労働時間計	1,648.0				10㎡当り
収穫	344.0				
選別・調整	1,309.0				
④ その他 時間計	24.8				10㎡当り
研修等	24.8				
(4) 労働時間区分					
①家族労働 (男女2人)					
②雇 用 (女 人)					

社団法人 中小企業診断協会

収益・費用調査表 (3-1)

作目名 カーネーション (スタンダード)

(単位: 本、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対比 %	% 摘 要
		A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	$C \div A \times 100$	
粗 収 益	生産量	130,000				(単位: 本)
	販売単価	48				出荷市場3年間の平均単価
	生産額	6,240,000				
	副産物収入	0				
	合 計	6,240,000				①
経 営 費	変 動 費	種苗費	1,000,000			発根苗、ロイヤリティーを含む
		肥料費	89,550			
		農薬費	162,558			
		光熱動力費	729,750			重油、電気代、ガソリン
		諸材料費	102,800			フラワーネット、がく剥離テープ等
		小農具費	2,000			
		賃料料金	0			
		雇用労費	867,000			850円/時間
		水利費	0			
		その他	0			
		計	2,953,658			
	出 荷 経 費	資材費	253,500			ダンボール箱、スリーブ
		運賃	273,000			
		手数料	754,923			市場10%、共販手数料3%
		その他	0			
		計	1,281,423			
	小 計	4,235,081				
	固 定 費	減価償却費	496,994			
		成園費・成畜費	0			
		借地料	0			
		修繕費	110,922			
		その他	0			
	小 計	607,916				
	合 計	4,842,997				②
成 果	農 業 所 得	1,397,004				③ = ① - ②
	所 得 率	22.4%				③ ÷ ①
	労働1時間当り所得	1,771				③ ÷ T (円/時間)
家族労働見積額		1,420,200				
自己資本利子見積額		138,024				
自己地代見積額		13,000				
生産費 (全額参入生産費)		6,414,221				④
利潤		-174,221				⑤ = ① - ④
利潤率		-2.8%				⑤ ÷ ①
総労働時間 (時間)		1,917				
家族労働時間		789				T
雇用労働時間		1,128				
損益分岐点売上高						
損益分岐点販売量						

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

社団法人 中小企業診断協会

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畝の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

収益・費用調査表 (3-2)

作目名 カーネーション (スプレー)

(単位: 本、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対 比 %	摘 要
		A. 10畝当り	B. 全 体	C. 10畝当り	$C \div A \times 100$	
粗 収 益	生産量	150,000				(単位: 本)
	販売単価	53.6				出荷市場の平均単価
	生産額	8,040,000				
	副産物収入	0				
	合 計	8,040,000				①
経 営 費	変 動 費	種苗費	1,100,000			パテント料を含む
		肥料費	109,500			
		農薬費	150,800			
		光熱動力費	870,750			重油、電気代、ガソリン
		諸材料費	144,800			フラワーネット、ビニール等/使用年数
		小農具費	4,000			
		賃料料金	0			
		雇用労費	1,020,170			850円/時間
		水利費	0			
		その他	0			
		計	3,430,020			
	出 荷 経 費	資材費	286,100			
		運賃	315,000			
		手数料	1,045,200			市場10%, 共販3%
		その他	0			
		計	1,646,300			
	小 計		5,046,320			
	固 定 費	減価償却費	496,994			
		成園費・成畜費	0			
		借地料	0			
		修繕費	110,922			
		その他	0			
	小 計		607,916			
	合 計		5,654,236			②
成 果	農 業 所 得		2,385,765			③ = ① - ②
	所 得 率		29.7%			③ ÷ ①
	労働1時間当り所得		3.152			③ ÷ T (円/時間)
家族労働見積額		1,362,240				
自己資本利子見積額		144,605				
自己地代見積額		10,000				
生産費 (全額参入生産費)		7,171,080				④
利潤		868,920				⑤ = ① - ④
利潤率		10.8%				⑤ ÷ ①
総労働時間 (時間)		1,957				
家族労働時間		757				T
雇用労働時間		1,200				
損益分岐点売上高						
損益分岐点販売量						

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

社団法人 中小企業診断協会

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畝の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

収益・費用調査表 (3-3)

作目名 キ ク

(単位: 本、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対比 %	摘 要
		A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	$C \div A \times 100$	
粗 収 益	生産量	108,000				出荷(本数)
	販売単価	77				1本当り単価
	生産額	8,316,000				
	副産物収入	0				
	合 計	8,316,000				①
経 営 費	変 動 費	直 種苗費	131,530			全量発根苗購入
		肥 肥料費	311,280			堆肥を含む
		農 農薬費	642,910			平均250 1/10a 散布
		接 光熱動力費	35,760			重油、電気代、ガソリン
		諸 諸材料費	0			ワラネット、支柱/使用年数
		生 小農具費	5,000			
		賃 賃料料金	0			
		雇 雇用労費	756,925			850円/時間
		水 水利費	3,000			
		費 その他	0			
		計	3,344,405			
	出 荷 経 費	資材費	276,400			ダンボール箱、敷き紙
		運賃	614,250			
		手数料	1,397,760			共通手数料50円/・CS部会10円/CS
		その他	0			
		計	2,287,410			
	小 計	5,631,815				
	固 定 費	減価償却費	584,670			
		成園費・成畜費	0			
		借地料	0			
		修繕費	199,130			
		その他	0			
	小 計	783,800				
	合 計	6,415,615				②
成 果	農 業 所 得	1,900,385				③=①-②
	所 得 率	22.9%				③÷①
	労働1時間当り所得	1,917				③÷T (円/時間)
	家族労働見積額	1,784,475				
	自己資本利子見積額	157,370				
	自己地代見積額	10,000				
	生産費(全額参入生産費)	8,367,460				④
	利潤	-51,460				⑤=①-④
	利潤率	-0.6%				⑤÷①
	総労働時間(時間)	1,882				
	家族労働時間	991				T
	雇用労働時間	891				
	損益分岐点売上高	2,428,881				
	損益分岐点販売量	31,541				

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

社団法人 中小企業診断協会

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畓の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

収益・費用調査表 (3-4)

作目名 トルコキキョウ

(単位: 本、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対比 %	摘 要
		A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	C ÷ A × 100	
粗 収 益	生産量	37,500				3 作の平均収穫
	販売単価	130				3 作の 1 本当り平均単価
	生産額	4,875,000				
	副産物収入	0				
	合 計	4,875,000				①
経 営 費	変 動 費	種苗費	180,000			種子代
		肥料費	32,280			
		農薬費	32,295			
		光熱動力費	836,910			重油、電気代、ガソリン
		諸材料費	148,463			内、外動 ビニール、マルチ
		小農具費	0			
		賃料料金	0			
		雇用労費	541,450			850円/時間
		水利費	0			
		その他	0			
		計	1,771,398			
	出 荷 経 費	資材費	204,640			ダンボール箱、輪ゴム等
		運賃	304,054			
		手数料	609,375			市場10%, 農産・経路運2.5%
		その他	0			
		計	1,118,069			
	固 定 費	小 計	2,889,467			
		減価償却費	282,049			
		成園費・成畜費	0			
		借地料	0			
		修繕費	63,018			
		その他	0			
		小 計	345,067			
	合 計	3,234,534				②
成 果	農 業 所 得	1,647,466				③ = ① - ②
	所 得 率	33.7%				③ ÷ ①
	労働1時間当り所得	1,875				③ ÷ T (円/時間)
家族労働見積額		1,574,460				
自己資本利子見積額		71,483				
自己地代見積額		10,000				
生産費 (全額参入生産費)		4,890,477				④
利潤		-15,477				⑤ = ① - ④
利潤率		-0.3%				⑤ ÷ ①
総労働時間 (時間)		1,512				
家族労働時間		875				T
雇用労働時間		637				
損益分岐点売上高						
損益分岐点販売量						

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

社団法人 中小企業診断協会

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畝の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

収益・費用調査表 (3-5)

作目名 ガーベラ

(単位: 本、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対比 %	摘 要	
		A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	C ÷ A × 100		
粗 収 益	生産量		2,472			ケース(1ケース100 本)	
	販売単価		3,153			ケース当り単価	
	生産額		7,794,216				
	副産物収入		0				
	合 計		7,794,216			①	
経 営 費	変 動 費	直 接	種苗費	696,000	-		半数を植え替え
			肥料費	165,240			堆肥を含む
			農薬費	234,310			
			光熱動力費	746,760			重油、電気代、ガソリン代
			諸材料費	0			
			小農具費	4,000			
			賃料料金	0			
			雇用労費	1,177,250			850円/時間
			水利費	5,000			用水負担金
			その他	0			
			計	3,028,560			
	出 荷 経 費		資材費	486,984			ダンボール箱、ビニール
			運賃	346,080			
			手数料	1,025,048			市場10%、産地・流通35%
			その他	0			
		計	1,858,112				
	小 計		4,886,672			租税公課、農業共済費合計	
	固 定 費		減価償却費	740,621	-		
			成園費・成畜費	0			
			借地料	0			
			修繕費	230,498			
			その他	0			
		小 計		971,119			
成 果	合 計		5,857,791			②	
	農 業 所 得		1,936,425			③ = ① - ②	
	所 得 率		24.8%			③ ÷ ①	
果 労働1時間当り所得		2,401				③ ÷ T (円/時間)	
家族労働見積額		1,451,520					
自己資本利子見積額		212,565					
自己地代見積額		10,000					
生産費(全額参入生産費)		7,531,876				④	
利潤		262,340				⑤ = ① - ④	
利潤率		3.4%				⑤ ÷ ①	
総労働時間(時間)		2,191					
家族労働時間		806				T	
雇用労働時間		1,385					
損益分岐点売上高							
損益分岐点販売量							

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

社団法人 中小企業診断協会

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畝の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

栽培体系モデル・調査表 (4-1)

○モデル例の主要な技術・資本整備

*カーネーション・スタンダード

(1) 主要な技術及び留意点	(2) 資 本 装 備
① 2回摘心栽培 ② ビニールハウス雨当て栽培 ③ 黄色蛍光使用	① 大 農 具 軽トラック・管理機・動力噴霧機・暖房機 ② 建 物 ビニールハウス連棟式5000㎡、作業小屋(棟) ③ 構 築 物 灌 水 施 設 自動 5000㎡ 二重被覆装置 自動 5000㎡ 黄 色 蛍 光 灯 5000㎡

◆モデル例の栽培体系 (品種フランススコ、50a、家族2人、臨時女6人)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
大 輪 施設9～ 5月取り					✕	井	▲			△	□		フランススコ ピンクフラン セスコ
スプレー 施設栽培					✕	井	▲			△	□		ライトピンク バーバラ
主 要 作 業 名 (大 輪)	● 追肥	● 追肥	● 追肥・換気(随時)	● 追肥	● 株片付け 土壌消毒	● 定植・ネット張り	● 摘心 ビニール除去	● 摘心	● 追肥・摘蓄(随時)	● 追肥	● ビニール張り	● 暖房開始(最低12℃)	● 追肥

◆診断先の栽培体系

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
主 要 作 業 名 「大 輪」													

資料出所：静岡県農水部原単位

社団法人 中小企業診断協会

栽培体系モデル・調査表 (4-2)

(1) モデル例の主な生産技術と留意点

- ① 連棟式ビニールハウス (5000㎡) 雨当て栽培
- ② 暖房機 1000㎡用 5台 ・黄色蛍光灯 5000㎡利用
- ③ 秋春切り、2回摘心栽培

*カーネーション・スプレー

(2) 資本整備

①大農具	軽トラック 660cc 1台 管理機 5台 動力噴霧器中 1台 暖房機 1000㎡月 5台 計 1,922千円	③構築物	自動灌水施設 5000㎡ 自動二重被覆装置 5000㎡ 黄色蛍光灯 5000㎡ 計 8,695千円 合計 51,617千円
②建物	ビニールハウス 連棟式 5000㎡ 1棟 作業小屋 木造 1棟 計 41,000千円	※固定資産の現在価 25,808千円(50%減算)	

◆モデル例の栽培体系 (50%・ビニールハウス5000㎡1棟、労働力:家族2人雇6人)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
スプレー施設栽培 (ピーク作)													ライトピンク パーバラ
主要作業名 (スプレー)	追肥	追肥	換気(随時)			土壌消毒	土壌消毒、定植	追肥、定植、摘心(随時)	ネット張り・摘心	追肥	摘心・ネット張り	摘心・ネット張り	摘心・ネット張り

◆診断先の栽培体系

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
主要作業名													

資料出所：静岡県農水部原単位

社団法人 中小企業診断協会

栽培体系モデル・調査表 (4-3)

(1) モデル例の主な生産技術及び利用上の留意点

*トルコキキョウ

- 「秋出し」「1～3月出し」の留意事項
- ① パイプハウス5000㎡、温風暖房機1000㎡×3台、栽培面積40㎡
 - ② 定植後が高温で短期間に花芽を持ちたがることから、草丈が十分に取れる中生～晩生の品種を利用する必要がある。
 - ③ 定植時期が年間で最も気温が高い時期となるため、育苗中にロゼット化～打破を確実にしておく必要がある。
 - ④ 定植適期は本場2対の時期で、抽苔してからでは活着不良あるいは早期出蕾になり易い。苗の揃いが本圃での揃いに直接つながるため、育苗技術がかぎになる。
 - ⑤ 収穫舞えに本圃で蕾の数を揃えておけば、充実した蕾をつけて出荷できる。
 - ⑥ この作形では無理にボリュームをつける必要はない。

(2) 資本整備

①大農具		②建 物	
温風暖房機	1,000㎡×4	パイプハウス	5000㎡×1
管理機(耕)4.5P	1台	作業ハウス一式	100㎡×1
動力噴霧器(耕)中型	1台	計	15,500円
軽トラック(耕)660cc	1台		
計	3,129円	③構築物	
		防油堤	×1
		燃料タンク 5Kリットル	×1
		計	320円
※固定資産の現在価 9,475 円(50%で計算)……		合計	18,949円

◆モデル例の栽培体系 (40㎡、労働力:家族2人雇女5人)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
超促成 11～12月 出荷							○	●	□	■	◇	▲	(20%)
促 成 1～3月		▲	■				○	●	□	■	◇	▲	(20%)
半促成加温 植え替え 4～5月 出荷			▲	■					○	●	□	■	(20%)
主要作業記号 ○ 播種 ● 定植 □ 暖房入 ■ 暖房切 ◇ 電照入 ▲ 電照切 ◆ 苗冷蔵 〇 収穫													

◆診断先の栽培体系

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
主要作業													

資料出所：静岡県農水部原単位

栽培体系モデル・調査表 (4-4)

(1) モデル例の主な生産技術と留意点

- ① 50a…屋根型硬質フィルムハウス(1000㎡) 5棟
- ② 重油による温風暖房機利用
- ③ 自動灌水装置

*ガーベラ・土耕栽培

(2) 資本整備

① 大農具 温風暖房機 1000㎡×5 トラクター 15ps ×1 キャップ掛機 ×1 冷蔵庫 2坪×1 自動灌水装置 一式 軽トラック 1台 ワゴン車 1台 計 14,333円	② 建物 屋根型硬質フィルム 1000㎡×5棟 内装被覆 1000㎡×5棟 作業場 60㎡×1棟 計 72,000円 ③ 構築物 重油タンク・防油堤 2Kリットル×5 計 250円 合計 86,583円
※固定資産の現在価 43,291円(50%で計算)	

◆モデル例の栽培体系…加温周年栽培(50a・1000㎡×5棟、労働力:兼2人時8人)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
周年栽培													ビルエット ドール イリュージョン ローラ アルデラン ミノウ
	サルサ マリブ パープルレイン サータキ シャム												
主要作業名	葉欠き	葉欠き	追肥(2年目)	葉欠き	仮植・葉欠き 土壌消毒・酸度矯正 耕うん・深耕	定植・葉欠き	追肥・葉欠き	葉欠き	葉欠き	葉欠き	葉欠き	追肥	葉欠き

◆診断先の栽培体系

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
主要作業名													

資料出所: 静岡県農水部原単位

栽培体系モデル・調査表 (4-5)

(1) モデル例の主な生産技術と留意点

*キク…十耕栽培

- ① 経営としては40aを想定
原単位は、10aの温室を4室保有し、それぞれで3作するという設定
② 1作当りの在ほ期間は定植苗の期間で調節し、100日未満とする。
③ 作付品種：10～6月 神馬 7～9月 岩の白扇
④ 基本的に家族労働で経営

(2) 資本整備

①大農具		
温風暖房機	300坪用	× 4
無人防除施設	300坪用	× 4
トラクター	16PS	× 1
動力噴霧器	中型	× 1
トラック	1ト	× 1
選花機	1台	× 1
冷蔵庫	2坪	× 1
パソコン		× 1
液肥混入機		× 1
取得価格	計	9,950千円

②建物		
丸形ハウス	1000㎡	× 4
灌水設備		× 4
内部被覆設備		× 4
作業舎・倉庫	50㎡	× 1
取得価格	計	8,213千円
	否計	18,162千円

※固定資産の現在価 50% で試算

◆モデル例の栽培体系 (40畝・1000㎡×4棟、労働力: 家族2人臨時3人)

過 栽培型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
施設ギク 周年栽培 ノーピンチ 1本仕立て	<div> <div>☼ 夜間4～5時間の光中断による長日処理</div> <div>☼ シェードによる12時間日長の短日処理</div> <div>☼ 最低温度15℃の加温</div> <div>☼ 最低温度18℃の加温</div> <div>☼ ----- ☼</div> <div>☼ ----- ☼</div> </div>																	
主要作業名	土壌消毒・堆肥投入	定植・(電照・加温開始)		施肥				施肥	側芽除去			側芽除去	ピーナイン処理(一回目)	施肥	側芽除去	摘蕾・ピーナイン処理(二回目)	収穫始め	後片付け
<div> <div>☼ 定植</div> <div>☼ 電照入</div> <div>☼ 電照切</div> <div>☼ シェード開始</div> <div>☼ シェード終了</div> <div>☼ 加温</div> <div>☼ 摘蕾</div> <div>☼ 摘芽</div> <div>☼ 収穫</div> </div>																		

定植月日→収穫はじめ→終了月日

ハウス1

8/30→12/3→15 無摘心 神馬
12/30→4/9→19 無摘心 神馬
4/30→8/5→15 無摘心 岩の白馬

ハウス 2

9/30→ 1/3→15 無摘心 神馬
1/30→ 5/9→19 無摘心 神馬
5/30→ 9/5→15 無摘心 岩の白馬

ハウス 3

10/30→ 2/3→15	無摘心	神馬
2/28→ 6/9→19	無摘心	神馬
6/30→10/5→15	無摘心	神馬

ハウス4

11/30→3/3→15	無摘心	神馬
3/30→7/9→19	無摘心	岩の白扇
7/30→11/5→15	無摘心	神馬

資料出所：静岡県農水部原単位

社団法人 中小企業診断協会

農業経営診断予備調査表 (5)

〈花き作〉

栽培品目 ()

販売戦略の課題		(該当に○印)
(1) 外部環境変化に対応する販売戦略・方針	有 () 無	
(2) 新品種の開発育種・消費者へ情報発信で販売戦略	有 () 無	
(3) 商品の差別化推進の取り組み	有 () 無	
(4) 消費者へのPR (飾り方・家庭栽培法・利用法等)	有 () 無	
(5) 消費者・小売店に対する商品情報の積極的提案	有 () 無	
(6) 市場外流通の促進強化	有 () 無	
(7) 卸売業・小売業者との情報交流を行っている	有 () 無	
(8) 消費者ニーズや苦情を収集し、積極的に改善対応	有 () 無	
(9) 生産・流通体制 (規格トレイ・空調コンテナ・バケット利用等)	有 () 無	
(10) 品質管理マニュアル・出荷規定に基づく日持ち確保の出荷	有 () 無	
(11) 生産のコストダウンを推進し、同品質の価格競争に対応	有 () 無	
(12) その他の対策 ()	有 () 無	

経営の外部対策	(該当に○印)
(1) 資材購買対策	(ア) 積極的に実施 (イ) 普通 (ウ) 無い
(2) 消費者・需要者対策	(ア) 積極的に実施 (イ) 普通 (ウ) 無い
(3) 小売店・卸売業・市場対策	(ア) 積極的に実施 (イ) 普通 (ウ) 無い
(4) 競争相手対策	(ア) 積極的に実施 (イ) 普通 (ウ) 無い

経営の内部対策	(該当に○印)
(1) 経営規模の拡大	(ア) 現状維持 (イ) 拡大化
(2) 生産品目・品種の再検討	(ア) する (イ) しない
(3) 栽培管理技術の見直し (安心・安全・導入新技術)	(ア) する (イ) しない
(4) 作業改善・省力化機械の導入 (労働 1,800時間の対応)	(ア) する (イ) しない
(5) 観光農園・直売所の開設による花・ハーブに対する関心の醸成	(ア) 開設する (イ) しない
(6) 加工品の開発・販売による花・ハーブの文化・健康の促進	(ア) 開発・販売 (イ) しない
(7) 労務管理の改善	(ア) する (イ) しない

農業経営者認定目標調査表 (6-1)

栽培作物目 ()

1. 経営理念							
2. 経営の特色							
3. 経営改善計画の達成状況							
項 目	A. 第一回認定時 (H 年 月)	B. 第 回現在 (H 年 月)	B/A 達成時				
(1) 営農類型	花き (露地・施設)						
(2) 経営改善の内容							
4. 農業経営規模拡大と達成率							
作目 ・ 部門	①作付面積(a)	生産量(b)	②作付面積(a)	生産量(b)	③/① 作付面積	③/② 生産量	
5. 収益性の目標と達成率							
収入・所得・利益 収 入 所 得 (専給含む) 所 得 (専給除く)	H 年認定時 冊	5年後の目標 冊	認定 認定時(H 年) 冊	5年後の目標 %	H 年現状 冊	目標達成率 %	
売上高 営業利益 経常利益							

社団法人 中小企業診断協会

農業経営者認定目標調査表 (6-2)

栽培作目 ()

6. その他付帯事業等			
付帯事業の内容	認定時の状況	取り組事業 内容・状況	達成状況の課題
第1回 (H 年)			
第2回 (H 年)			
第3回 (H 年)			
7. 生産施設の合理化状況 (施設・機械等)			
項 目	第1回認定時 (H 年)	現在の状況 (H 年)	実施後の課題
面積 ・ 棟数 機 械 設 備			
8. 作目別生産方式の合理化			
作 目 名	第1回認定時 (H 年)	計画の現状 (H 年)	現状の改善課題
(1)			
(2)			
(3)			
(4)			
花き以外の作目			

社団法人 中小企業診断協会

農業経営者認定目標調査表 (6-3)

栽培作物()

9. 農業従事者の労務等目標と現状

項 目	第1回認定時(H 年)	現 状 (H 年)	● 将来目標コメント
年間実務日数	本人 日 家族 人 日 常時雇用者 人 日 臨時雇用者 人 日 実習生 人 日	日 人 日 人 日 人 日 人 日	
年間労働時間	本人 時間 家族 時間 常時雇用者 時間 臨時雇用者 時間 実習生 時間	時間 時間 時間 時間 時間	
①各種作業の有無 ②労働条件通知書 ③雇用契約書 ④国民健康保険 ⑤農業者年金 ⑥労災保険 ⑦雇用保険 ⑧小規模共済保険 ⑨家族協定書 ⑩福利厚生施策の状況	有 無 有 無 加 入 ・ 未加入 加 入 ・ 未加入 (5人以上)加入 ・ 未加入 (5人以上)加入 ・ 未加入 有 無 有 無	有 無 有 無 加 入 ・ 未加入 加 入 ・ 未加入	

10. 経営管理の合理化目標と現状

項 目	第1回認定時(H 年)	現 状 (H 年)	● 将来目標コメント
①青色申告書 ②単式簿記の記帳 ③複式簿記の記帳 ④パソコン簿記記帳 ⑤パソコン活用分野 ⑥サイクル管理の実施 (PDCAサイクル) ⑦その他の取組み課題	有 無 有 無 有 無 有 無 作業記録・各種データ管理 作業記録・各種データ管理	有 無 有 無 有 無 有 無 作業記録・各種データ管理 作業記録・各種データ管理	
今後の取組み課題			

社団法人 中小企業診断協会

経営分析表(7-1)

〔露地花き作経営〕

部門	No	項 目	判定	單位	全国平均 (H16) A	県平均 B	H 年 C	H 年 D	D/A・B	備考
農業 収 支	1	農 業 租 収 益	大	千円	6,404					
	2	農 業 経 営 費	小	千円	3,333					
	3	農 業 所 得	大	千円	3,077					
分 析 指 標	4	農 業 所 得 率	大	%	48.1					
	5	付 加 価 値 額	大	千円	3,571					
	6	付 加 価 値 率	大	%	55.3					
	7	農 業 固 定 資 産 装 備 率	大	円	891					
収 益 性	8	農 業 経 営 関 与 者 1 人 当 り 農 業 所 得	大	千円	1,295					
	9	農 業 経 営 関 与 者 1 人 当 り 総 所 得	大	千円	2,395					
	10	農 業 専 従 者 1 人 当 り 農 業 所 得	大	千円	2,005					
	11	家 族 農 業 労 働 1 時 間 当 た り 所 得	大	円	837					
	12	農 業 固 定 資 産 千 円 当 た り 所 得	大	円	831					
	13	花き作 作付延べ面積 10a 当 た り 所 得	大	千円	374					
生 産 性	14	自 営 農 業 労 働 1 時 間 当 た り	大	円	850					
	15	農 業 固 定 資 産 千 円 当 た り	大	円	955					
	16	花き作 作付延べ面積 10a 当 た り	大	円	430					
経 営 概 況	17	月 平 均 農 業 経 営 関 与 者 数	—	人	2.40					
	18	経 営 耕 地 面 積	—	a	166					
	19	自 営 農 業 労 働 時 間	小	時 間	4,201					
	20	家 族 労 働 時 間 (ゆい含む)								

※ 全国平均値は農水省H16年度統計による。

社団法人 中 小 企 業 診 断 協 会

経営分析表 (7-2)

〈花き作経営全体〉

部門	No	項目	判定	単位	全国平均 (H16) A	県平均 B	H 年 C	H 年 D	D/A・B	備考
農業収支	1	農業粗収益	大	千円	10,074					
	2	農業経営費	小	千円	6,236					
	3	農業所得	大	千円	3,838					
分析指標	4	農業所得率	大	%	38.4					
	5	付加価値額	大	千円	4,693					
	6	付加価値率	大	%	46.1					
	7	農業固定資産 装備率	大	円	1,501					
収益性	8	農業経営・関与者 1人当り農業所得	大	千円	1,524					
	9	農業経営関与者 1人当り総所得	大	千円	2,443					
	10	農業専従者 1人当り農業所得	大	千円	2,129					
	11	家族農業労働 1時間当り所得	大	円	883					
	12	農業固定資産 千円当り所得	大	円	498					
	13	花き作 作付延べ面積 10a当り所得	大	千円	653					
生産性	14	自営農業労働 1時間当り	大	円	896					
	15	農業固定資産 千円当り	大	円	597					
	16	花き作 作付延べ面積 10a当り	大	円	782					
経営概況	17	月平均農業経営 関与者数	-	人	2.57					
	18	経営耕地面積	-	a	152					
	19	自営農業労働時間	小	時間	5,239					
	20	家族労働時間(ゆい含む)								

※ 全国平均値は農水省H16年度統計による。

社団法人 中小企業診断協会

経営分析表 (7-3)

〈施設花き作経営〉

部門	No	項 目	判定	単位	全国平均 (H16) A	県平均 B	H 年 C	H 年 D	D/A・B	備考
農業収支	1	農業租収益	大	千円	12,249					
	2	農業経営費	小	千円	7,951					
	3	農業所得	大	千円	4,298					
分析指標	4	農業所得率	大	%	35.5					
	5	付加価値額	大	千円	5,362					
	6	付加価値率	大	%	43.2					
	7	農業固定資産 装 備 率	大	円	1,761					
収益性	8	農業経営関与者 1人当り農業所得	大	千円	1,643					
	9	農業経営関与者 1人当り総所得	大	千円	2,462					
	10	農業専従者 1人当り農業所得	大	千円	2,202					
	11	家族農業労働 1時間当たり所得	大	円	906					
	12	農業固定資産 千円当たり所得	大	円	428					
	13	花き作 作付延べ面積 10a当たり所得	大	千円	937					
生産性	14	自営農業労働 1時間当たり	大	円	917					
	15	農業固定資産 千円当たり	大	円	521					
	16	花き作 作付延べ面積 10a当たり	大	円	1,141					
経営概況	17	月平均農業経営 関与者数	—	人	2.68					
	18	経営耕地面積	—	a	143					
	19	自営農業労働時間	小	時間	5,848					
	20	家族労働時間(ゆい含む)								

※ 全国平均値は農水省H16年度統計による。

社団法人 中小企業診断協会

經營分析比較表(8-1)

(法人)

部門	No.	項目	算出方法	平成	年度	平成	年度	経営指標		備考
				自	至	自	至	年版	年版	
収益性	1	経営資本対営業利益	営業利益÷経営資本×100		%		%			
	2	総資本回転率	純売上高÷総資本×100		%		%			
	3	売上高対売上総利益	売上総利益÷売上高×100		%		%			
	4	売上高対経常利益率	経常利益÷売上高×100		%		%			
	5	総資本対経常利益率	経常利益÷総資本×100		%		%			
財務安全性	6	自己資本比率	自己資本÷総資本×100		%		%			
	7	負債比率	他人資本÷自己資本×100		%		%			
	8	売上高対支払利息率	支払利息÷売上高×100		%		%			
	9	販売管理費率	販売管理費÷売上高×100		%		%			
	10	固定長期適合率	固定資産÷(総資本×100)		%		%			
	11	流動比率	流動資産÷流動負債×100		%		%			
	12	固定比率	固定資産÷自己資本×100		%		%			
生産性	13	総資本投資効率	付加価値÷総資本×100		%		%			
	14	設備投資効率	付加価値÷有形固定資産×100		%		%			
	15	労働分配率	人件費÷付加価値×100		%		%			
	16	労働設備率	有形固定資産÷従業員数		円		円			
	17	付加価値率	付加価値÷売上高×100		%		%			
	18	従業員1人当り売上高	売上高÷従業員数		円		円			

社団法人 中小企業診断協会

経営分析比較表(8-2)

(法人)

部門	No	項目	算出方法	平成	年度	平成	年度	経営指標		備考
				自	至	自	至	年版	年版	
成長性	19	売上高前年対比増加率	今期売上高÷前期売上高×100		%		%			
	20	経常利益前年対比増加率	今期経常利益÷前期経常利益×100		%		%			
	21	総資産前年対比増加率	今期総資産÷前期総資産×100		%		%			
労働生産性	22	従業員1人当り年間租収入	租収入÷従業員		円		円			
	23	8時間当り租収入	租収入÷労働時間		円		円			
	24	1日当り労務費	労務費÷労働日数		円		円			
	25	機械投資効率	売上高÷設備資産		%		%			
	26	10a当り従業員労務費	労務費÷作付面積(10a)		円		円			
土地生産性	27	10a当り租収入	租収入÷作付面積(10a)		円		円			
	28	10a当たり収量(水稲)	生産量÷作付面積(10a)		kg		kg			
	29	10a当り収量(大豆)	生産量÷作付面積(10a)		kg		kg			
損益分岐点分析	30	変動比率	変動費÷売上高×100		%		%			
	31	固定比率	固定費÷売上高×100		%		%			
	32	限界利益率	(1-変動費率)×100		%		%			
	33	損益分岐点売上高	固定費÷限界利益率		円		円			
	34	損益分岐点比率	損益分岐点÷実際の売上高		%		%			
	35	専従者給与(500)万円目標	(500)万円の固定費÷限界利益率		円		円			

社団法人 中小企業診断協会

財務諸表による組合生産法人の評価表 (8-3)

区分	評価項目	実施地	ウェイト	評価尺度					評価点
				10	8	6	4	2	
(1)	①売上高経常利益率 〔年間経常利益/年間売上高×100〕		1.0	8%以上	6%以上	4%以上	2%以上	2%未満	
	②経営資本回転率 〔年間売上高/経営資本〕		1.0	2.2回以上	1.8回以上	1.4回以上	1.0回以上	1.0回未満	
	③売上高総利益率 〔年間総利益/年間売上高×100〕		0.5	40%以上	30%以上	20%以上	10%以上	10%未満	
	④実質金利負担率 〔(支払利息割引料-受取利息)/売上高×100〕		0.5	1.5%未満	1.5%以上	2.0%以上	2.5%以上	3.0%未満	
	⑤在庫回転率(回/年) 〔年間売上高/平均在庫〕		0.5	16回以上	13回以上	8回以上	5回以上	5回未満	
	計		3.5	A=28点以上 B=18点以上 C=18点未満					()
(2)	①自己資本比率 〔自己資本/経営資本×100〕		1.0	40%以上	30%以上	25%以上	15%以上	15%未満	
	②流動比率 〔流動資産/流動負債×100〕		1.0	190%以上	160%以上	130%以上	100%以上	100%未満	
	③当座比率 〔当座資産/流動負債×100〕		0.4	140%以上	120%以上	100%以上	80%以上	80%未満	
	④固定長期適合率 〔固定資産/(自己資本+長期負債)×100〕		0.8	60%未満	60%以上	80%以上	100%以上	120%未満	
	⑤自己資本固定資産比率 〔固定資産/自己資本×100〕		0.3	100%未満	100%以上	130%以上	160%以上	190%未満	
	計		3.5	A=28点以上 B=18点以上 C=18点未満					()
(3)	①1人当り生産高(年) 〔年間生産高/平均総人員数〕		0.4	2800万円以上	2200万円以上	1800万円以上	1200万円以上	1200万円未満	
	②1人当り加工高(年) 〔年間加工高/平均総人員数〕		0.4	1100万円以上	800万円以上	700万円以上	600万円以上	600万円未満	
	③加工高比率 〔加工高/年間生産高×100〕		0.5	80%以上	60%以上	40%以上	20%以上	20%未満	
	④労働の生産性 〔加工高/総人件費×100〕		0.4	300%以上	250%以上	200%以上	150%以上	150%未満	
	⑤機械設備効率 〔年間加工高/機械設備資産〕		0.3	5.0回以上	3.0回以上	2.5回以上	2.0回以上	2.0回未満	
	計		2.0	A=16点以上 B=10点以上 C=10点未満					()
(4)	①売上高増長率 〔当期売上高/前期売上高×100〕		0.1	110%以上	105%以上	100%以上	95%以上	95%未満	
	②加工高増長率 〔当期経常利益/前期経常利益×100〕		0.1	115%以上	110%以上	105%以上	100%以上	100%未満	
	③経常利益増長率 〔当期経常利益/前期経常利益×100〕		0.3	120%以上	115%以上	110%以上	105%以上	105%未満	
	④労働の生産性増長率 〔当期労働生産性/前期労働生産性×100〕		0.2	120%以上	115%以上	110%以上	105%以上	105%未満	
	⑤自己資本増長率 〔当期自己資本/前期自己資本×100〕		0.3	115%以上	110%以上	105%以上	100%以上	100%未満	
	計		1.0	A=8点以上 B=5点以上 C=5点未満					()
財務分析合計			10.0	A=80点以上 B=51点以上 C=51点未満					()

社団法人 中小企業診断協会

SWOT分析調査表 (9-1)

認定農業者名 _____

〈経営の理念・コンセプト・特徴〉

①理 念 ②経営コンセプト ③独自性・特徴 ④GAP導入計画	
---	--

〈S W O T 分 析〉

現状の強み ①経営基本 ②生 産 ③販 売 ④労 務 ⑤財 務	
現状の弱み ①経営基本 ②生 産 ③販 売 ④労 務 ⑤財 務	
脅 威 ①花き需要の変化 ②競合による低価格化	
機 会 ①花き消費の多様化 ②育てる園芸需要 ③健康志向化	

社団法人 中小企業診断協会

農業経営SWOT分析表 (9-2)

診断企業名

診断報告日

SWOT分析と課題

作成者名

①外部環境(外部環境の機会と脅威)分析

	機会 Opportunity	脅威 Threat
立地		
競合性		
消費者志向		

②内部(内部の強みと弱み)分析

		強み Strength		弱み Weakness	
		量	質	量	質
力 ネ	キャッシュ フロー				
	自己資本 比率				
	不動産				
モ ノ	栽培地 (生産・品 揃え)				
		強み Strength		弱み Weakness	
		量	質	量	質
ヒ ト	生産				
	労務				
	店舗				
情 報	什器 活用力				
	生産				
	販売				

社団法人 中小企業診断協会

損益分岐点分析－花き

収益・費用調査表の損益分岐点売上高・販売量の試算（10a 当り）

ここでは農業所得を除いた場合の試算である。従って農業所得（10a 当り）を含めた損益分岐点売上高と販売量は、収益・費用調査表に記載の生産額（販売額）及び生産量（販売量）の通りである。キク調査表（P）と栽培体系調査表（P）を参照

花き「キク」の損益分岐点を試算（10a 当り）

農業所得は 1,900,385円（40a栽培、家族2人・パート6人経営の10a当りの所得である）
同調査票は、40a栽培のモデル指標であるので農業所得は 760万円である。

$$1. \text{ 農業所得を除いた損益分岐点売上高} = \frac{\text{固定費}}{1 - \frac{\text{変動費}}{\text{売上高}}}$$

$$= 783,800 \div \left(1 - \frac{5,631,815}{8,316,000} \right)$$

$$= 783,800 \div (1 - 0.6773)$$

$$= 783,800 \div 0.3227$$

$$= \underline{2,428,881 \text{ 円}}$$

$$2. \text{ 農業所得を損益分岐点売上高販売量} = \frac{\text{固定費}}{\text{販売単価} - \frac{\text{変動費}}{\text{販売量}}}$$

$$= 783,800 \div \left(7 - \frac{5,631,815}{108,000} \right)$$

$$= 783,800 \div (77 - 52.15)$$

$$= 783,800 \div 24.85$$

$$= \underline{31.541 \text{ 本}}$$

3. 対 策

損益分岐点に影響するプラス効果の対策には次のことがある。

①単位当りの生産量を増やす→生産技術の合理化

②販売単価を高める

- └ 高品質の生産
- └ 新品種の開発
- └ 品質管理と出荷輸送
- └ 市場外流通の展開

③コストダウンに徹する

- └ 直接生産費の項目別見直し
- └ 出荷経費・ルートの見直し

1. 農業経営診断予備調査書(1-1)

土耕栽培(ハウ) (平成 年 月 日現在)
個人経営の場合

診断希望事項									
1. 経営の形態個人経営 ①認定農業者 ②エコファーマー	資本金 千円								
	名称				従業員数	男	人	女	人
	e-mail				常雇	男	人	女	人
	HP				パート(8時間)	男	人	女	人
	所在地	〒 TEL			計	男	人	女	人
	代表者名	(年齢)			作業時間	①1日あたり平均 時間			
	営業年数	年(営農年数) 年			②年間	時間			
	決算日	月 日			休日数	①月間 日 ②年間 日			
	集団栽培	① 有り ② 無し			後継者	①有り ②未定 ③無し			
	経営の業態①単一経営 ②複合経営()				(5)施設栽培の課題(○印、コメントを記入)				
①認定②エコファーマーの時期 ① 年 月② 年 月				①施設の老朽化					
2. 生産部門	(1)耕種				②規模拡大に障害()				
	①稲作 ②麦作 ③雑穀作				③品種の選択				
	④豆類作 ⑤イモ類作 ⑥飼料作				④施設管理技術(温度・光線)				
	⑦工芸作物作()⑧果樹作()				⑤土壌管理				
	⑨露地野菜作()⑩露地花き作()				⑥かん水管理				
	⑪施設野菜作()⑫施設花き作()				⑦施肥管理				
	⑬施設果物作()⑭その他()				⑧改植技術				
	(2)畜産				⑨品質レベルの統一(ハウス毎の品質管理)				
	①酪農 ②養豚 ③肉用牛				⑩病害虫対策				
	④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他				⑪労働時間・作業様式				
3. 農業経営の現状と計画	(3)養蚕 ①養蚕				⑫市場対応(販売確保)				
	(4)加工				⑬その他				
	①農産物加工(品名)								
	②畜産物加工(品名)								
	③林産加工(品名)								
	(1)作目・部門名				(5)農業経営の特徴				
	作物面積・飼養頭数生産量 売上構成								
	① ha, トン %								
	① ha, トン %								
	① ha, トン %								
① ha, トン %									
経営面積合計 ha トン									
(2)経営耕地									
①所有地 畑・水田・施設栽培地・他 ha									
②借入地 畑・水田・施設栽培地・他 ha									
(3)作業受委託 作業内容 面積等									
委託・受託 ha									
委託・受託 ha									
委託・受託 ha									
(4)栽培施設の現状				(6)作業記録・日誌の有無(有りに○印)					
(種類) ガラス ビニール プラスティック 他									
フェンロー型 棟 棟 棟 棟				①防除日誌(農薬名、散布量、倍数、散布日等)					
両屋根型 棟 棟 棟 棟				②施肥日誌(肥料名、使用量、使用日等)					
鉄骨補強 棟 棟 棟 棟				③作業日誌					
パイプハウ 棟 棟 棟 棟				(7)家族協定書の(有 無)					
地中押込 棟 棟 棟 棟				(8)常雇・パート就業規則の(有 無)					
式パイプハウ 棟 棟 棟 棟				①労働条件通知書(有 無)					
他 棟 棟 棟 棟				②雇用契約書(有 無)					
				③労災保険(従業者5人以上、5人以下)(有 無)					
				④雇用保険(従業者5人以上、5人以下)(有 無)					
4. 生産方式	◆方式				◆生産方式の課題点				
	①土耕式(ハウス) (・ベッド栽培・その他)				①投資コストと経済性 採算性(・高・中・低)				
	②溶液栽培(土耕・ロックウール・その他)				②労力負担 (・低・中・高)				
	③アーチング法・ベンチ方式・隔離培地方式・その他				③方式変更予定 (・有・無)				
	④養液土耕式				何から何へ()				
⑤全農式ベンチ(くみあいスーパードレンベッド)				理由()					

		土耕栽培(バラ)		平成 年 月 日現在)																					
5. 販売関係の現状と方針	(1)消費者ニーズ把握 ①している ②していない																								
	(2)対象とする客層を ①決めている ②決めていない																								
	(3)直販の場合の顧客名簿 ①有り ②無し																								
	(4)販売計画 ①有り ②無し																								
	(5)計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い																								
6. 財務会計	(6)達成度低い時の理由																								
	(7)代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 %																								
	(8)販売上の問題点																								
	(9)今後の販売方針・戦略の課題																								
	(10)品種別生産量・販売量	<table border="1"> <thead> <tr> <th>生産品種</th> <th>生産量(本、%)</th> <th>販売額(千円、%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>本 %</td> <td>千円 %</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>本 100%</td> <td>千円 100%</td> </tr> </tbody> </table>				生産品種	生産量(本、%)	販売額(千円、%)	①	本 %	千円 %	②			③			④			⑤			計	本 100%
生産品種	生産量(本、%)	販売額(千円、%)																							
①	本 %	千円 %																							
②																									
③																									
④																									
⑤																									
計	本 100%	千円 100%																							
7. 人事・労務関係	(11)流通(販売)先の割合	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>①農協・市場</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>②契約栽培</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>③スーパー・外食</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>④直販・朝市等</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>⑤インターネット・宅配等</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>				①農協・市場	%	②契約栽培	%	③スーパー・外食	%	④直販・朝市等	%	⑤インターネット・宅配等	%	⑥	%	計	100%						
	①農協・市場	%																							
	②契約栽培	%																							
	③スーパー・外食	%																							
	④直販・朝市等	%																							
⑤インターネット・宅配等	%																								
⑥	%																								
計	100%																								
8. 各種マニュアル整備	(1)複式簿記 ①使用 ②使用しない パソコン活用 ①有り ②無し																								
	(2)借入金の内訳	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>①農林中金・農林漁業公庫</td> <td>スーパーL資金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>スーパーS資金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>経営体育成強化資金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>②JAバンク・銀行・金庫</td> <td>農業近代化資金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>千円</td> </tr> </tbody> </table>				①農林中金・農林漁業公庫	スーパーL資金	千円		スーパーS資金	千円		経営体育成強化資金	千円	②JAバンク・銀行・金庫	農業近代化資金	千円		合計	千円					
	①農林中金・農林漁業公庫	スーパーL資金	千円																						
		スーパーS資金	千円																						
		経営体育成強化資金	千円																						
②JAバンク・銀行・金庫	農業近代化資金	千円																							
	合計	千円																							
(3)利益計画 ①有り ②無し																									
(4)計画達成 ①した ②しない																									
(5)資金繰り表 ①有り ②無し																									
9. 経営上の課題点	(6)資金管理	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>①支払い利息</td> <td>円/㎡</td> </tr> <tr> <td>②農業所得(法人は経常利益)</td> <td>円/㎡</td> </tr> <tr> <td>③借入金残高</td> <td>円/㎡</td> </tr> <tr> <td>④年間償還額</td> <td>円/㎡</td> </tr> <tr> <td>⑤年間家計費(法人は無し)</td> <td>円/㎡</td> </tr> </tbody> </table>				①支払い利息	円/㎡	②農業所得(法人は経常利益)	円/㎡	③借入金残高	円/㎡	④年間償還額	円/㎡	⑤年間家計費(法人は無し)	円/㎡										
	①支払い利息	円/㎡																							
	②農業所得(法人は経常利益)	円/㎡																							
	③借入金残高	円/㎡																							
	④年間償還額	円/㎡																							
⑤年間家計費(法人は無し)	円/㎡																								
10. 経営組織図	(7)収入・所得・利益	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>①回目認定時</td> <td>収入</td> <td>専従者所得</td> <td>専従者除く所得</td> </tr> <tr> <td>(万円) (万円) (万円)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>②現在</td> <td>収入</td> <td>専従者所得</td> <td>専従者除く所得</td> </tr> <tr> <td>(万円) (万円) (万円)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				①回目認定時	収入	専従者所得	専従者除く所得	(万円) (万円) (万円)			②現在	収入	専従者所得	専従者除く所得	(万円) (万円) (万円)								
	①回目認定時	収入	専従者所得	専従者除く所得																					
	(万円) (万円) (万円)																								
	②現在	収入	専従者所得	専従者除く所得																					
	(万円) (万円) (万円)																								
11. 経営組織図	(1)人手 ①十分 ②普通 ③不足																								
	(2)家族協定書 ①有り ②無し																								
	(3)就業規則 ①有り ②無し																								
	(4)給与規定 ①有り ②無し																								
	(5)退職規定 ①有り ②無し																								
12. 外国人の雇用	(6)健康保険 ①有り ②無し																								
	(7)厚生年金保険 ①有り ②無し																								
	(8)慰安旅行 ①有り ②無し																								
	(9)労災保険 ①有り ②無し																								
	(10)労働保険 ①有り ②無し																								
13. 外国人の雇用	(1)施設内環境整備マニュアル ①有り ②無し 光、温度など																								
	(2)栽培管理用機器操作マニュアル ①有り ②無し 防除、灌水、収穫など																								
	(3)方式別栽培マニュアル ①有り ②無し																								
	(4)IT操作活用マニュアル ①有り ②無し																								
	(5)作業マニュアル ①有り ②無し																								
14. 養水管理	(6)養水管理目安 ①有り ②無し (生育ステージ別水・窒素・リン酸・加量等)																								
	(11)後継者難																								
	(12)施設コストの増加																								
	(13)軽労化困難																								
	(14)IT化の進展困難																								
15. 経営規模拡大困難	(15)経営規模拡大困難																								
	(16)作業システムの不備																								
	(17)販売高の低下																								
	(18)利益率の低下																								
	(19)無減農薬の対応																								
16. 施肥技術	(20)施肥技術																								

2. 診断調査表(2-1)

土耕栽培(バラ)

1. 農業経営の沿革											
(1)経営規模の推移と内容											
(2)栽培方式の転換などの経過											
(3)現在の経営規模と生産方式											
(4)現在の経営の特色											
2. 農業コンセプト(○印をつける)											
(1)消費者の満足を基本にして栽培している。 ①いる ②いない											
(2)販売先・消費対象客を定めて栽培している。 ①いる ②いない ③一部は契約栽培している											
(3)無・減農薬・有機栽培している。 ①いる ②いない ③一部はしている											
(4)省力化・機械化を導入して効率化を図っている。 ①いる ②いない ③まだ不十分											
(5)ISO 14001・9001・22000の導入 ①している ②していない											
3. 作目・品種部門の内容											
記入欄	作目	種目	品種	作型	施設種類	面積(㎡)	栽培方式	無農薬	減農薬	有機栽培	
4. 施設・栽培方式の経緯											
作目	年度				(5. 栽培変更計画中の作目・品種は					
平成	年	～	～	～	～	その特徴は					
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
	平成	年	～	～	～	～	その栽培時期は				
	平成	年	～	～	～	～					
品種名											
作目	年度					その美しさは					
平成	年	～	～	～	～	その成長の度合い、収穫数は					
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
	平成	年	～	～	～	～					
	平成	年	～	～	～	～					
品種名											
作目	年度					備考欄					
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
平成	年	～	～	～	～						
	平成	年	～	～	～	～					
	平成	年	～	～	～	～					
品種名											
6. 収穫方法											
7. 作目・品種・立地条件などの問題点											

2. 診断調査表(2-2)

土耕栽培(バラ)

8. 販売・受注状況・販売活動の特色(消費者交流など)				
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培など)
	品質 優 品質 良 品質 並 品質 悪	インターネット宅配 10% コンビニ50%、ホテル50% JA100%、葬祭式場50% フラワーショップ100%		
	品質 優 品質 良 品質 並 品質 悪	インターネット宅配 10% コンビニ50%、ホテル50% JA100%、葬祭式場50% フラワーショップ100%		
	品質 優 品質 良 品質 並 品質 悪	インターネット宅配 10% コンビニ50%、ホテル50% JA100%、葬祭式場50% フラワーショップ100%		

9. 機械・設備の状況と作業受委託の状況				
(1)①トラクター (台)PS	②トラック	台	③パイプハウス	m(m× m)
④ヒートポンプ kw× 台	⑤換気扇	台	⑥ポンプ kw× 台	
⑦				
⑧				
(2)作業受託				
(3)作業委託				
(4)その他設備(貯蔵庫など)				

10. 生産・技術・設備状況(特色は、)					
	創業時点	2年前	1年前	現在	備考
(1)作付面積の変化	()	()	()	()	※()は借地面積
(2)作業受託	()	()	()	()	※()は件数
(3)作業委託	()	()	()	()	※()は件数
(4)雇用人数	人()	人()	人()	人()	※()は女性数
(5)機械の導入	()	()	()	()	
(6)	()	()	()	()	

11. 花き施設栽培・作業技術について			
(1)バラ施設栽培・作業技術の先進事例の観察・研究の有無	①有	②無	③検討中()
(2)バラ施設栽培・作業技術の体系の有無	①有	②無	③検討中()
(3)バラ施設栽培(様式別)の収量と労働時間の基準	①有	②無	③検討中()
(4)バラ施設栽培の栽培費用・労働時間・収量基準	①有	②無	③検討中()
(5)農業試験場などによる奨励品種の検討	①有	②無	③検討中()
(6)その他栽培方式・作業技術の再検討	①有	②無	③検討中()

12. 労働環境の改善等実施状況				
下記の実施程度に○印をつけてください				
①労働時間の短縮・合理化	◎	○	△	×
②担い手確保や後継者育成	◎	○	△	×
③従業者への技術指導・研修	◎	○	△	×
④従業者の作業位置の適正化	◎	○	△	×
⑤雇用者の労働報酬の決め方	◎	○	△	×
⑥雇用確保の方法	◎	○	△	×
⑦報酬・退職金等の条件整備	◎	○	△	×
⑧福利厚生制度の整備	◎	○	△	×
⑨作業管理と安全性管理	◎	○	△	×

その他労務上の問題点

2. 診断調査表(2-3)

土耕栽培(バラ)

13. 立地条件について			
①周囲に高い建物、木立がなく日当たり、通風が良い	◎	○	△ ×
②排水が良い。(水田埋立地や地下水位の高い所)	◎	○	△ ×
③良質の水が得られる。	◎	○	△ ×
④通路の広さが充分ある。	◎	○	△ ×
14. 温度管理について			
①目標夜温(加温により維持する最低夜温)			
品種	()	()	()
目標夜温	()	()	()
②温度要求の似かよった品種をまとめて植えているかはいい(理由:)			
15. 土作りにについて			
①暗きょ排水施設の有無 有(簡易ドレンタイルベッド、ベンチ方式、その他: 無			
②深耕度合い 深さ() m)			
③土壌改良資材の種類と量			
A. ピートと熟成牛ふんたい肥の混合	1:1		
B. ピートと熟成木質廃材たい肥と熟成牛ふんたい肥の混合	1:1:1		
C. その他			
16. かん水管理について			
①かん水の基準は			
A. テンシオメーターによる測定結果でかん水点を設定			
B. 経験的目安でかん水			
真夏()	日に1回)	春先・秋口()	日に1回) 真冬()
日に1回)	年間()	回)	
②かん水方法は			
A. ホースによる手かん水	投資額()	万円)	
B. チューブかん水、孔あきパイプかん水	投資額()	万円)	
C. パイプ・ノズルかん水	投資額()	万円)	
D. 自走式かん水(防除・かん水等多目的装置)	投資額()	万円)	
E. 点滴かん水(ドリッピングイリゲーション)	投資額()	万円)	
F. 地中点滴(地中給水)法	投資額()	万円)	
17. 施肥管理について			
①土壌検定のための抽出法			
A. 乾土重量抽出法			
B. 生土重量抽出法			
C. その他()			
②施肥肥料の種類			
A. 有機質肥料()	+速効性化成肥料型()		
B. 緩効性化成肥料()	+速効性化成肥料型()		
C. 緩効性肥料()	+液肥型()		
D. その他			
③施肥量			
A. 年間施肥量 N()	kg)、P ₂ O ₅ ()	kg)、K ₂ O()	kg)/330m ²
C. 上記年間施肥回数			
18. 改植技術について			
①改植の理由			
a. 生産力低下	b. 新品種導入、品種更新	c. 価格向上	d. 手がかかる
e. 根頭がんしゅ病	f. うどんこ病、ブライント対策	g. その他()	
②改植の時期 月～ 月			
③改植時の土壌消毒法			
A. 化学薬品による消毒 使用薬品()			
B. 蒸気消毒	a. 高温蒸気	b. 空気混合蒸気	c. 専用蒸気消毒機
C. 太陽熱利用消毒			
D. 温湯散水消毒			
E. 温湯管地中埋設消毒			
F. その他()			
④改植の問題点			
19. 病害虫対策について			
①主要病害とその対策			
病害名()	対策()		
病害名()	対策()		
②主要害虫とその対策			
害虫名()	対策()		
害虫名()	対策()		

3. 診断調査表

1. バラ栽培体系(モデル例)(栽培面積0.5ha、労働力5人/家族2人・雇用3人)

1. ハウス栽培体系(モザイク例) (栽培面積0.5ha、労働力5人/家族2人・雇用3人)													
月旬		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型		上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
第1年次													
主要作業名				育苗管理	定植準備 元肥・支柱立て	切接苗定植	摘蕾／随時	除草 追肥・摘心	除草 追肥・摘心／随時	誘引 追肥	追肥 最終摘心	収穫始め・暖房準備	追肥・加温開始 二重被覆
第2年次以降													
主要作業名		追肥		追肥	加温停止・二重被覆除去			夏季せん定 追肥	摘心／随時	摘心	追肥	収穫始め	暖房準備 二重被覆 追肥・加温開始
		△移植 ◎定植 ♠せん定				収穫始め～終り		★暖房		★暖房終り		Ω 二重被覆始め Ψ 二重被覆終り	
作型		土耕切り上げ			品種名		ローテローゼ(一輪)						

主要な技術及び留意点

4月定植。6月中旬～7月上旬剪定。冬切り作型(9月中旬～翌6月上旬出荷)

5年に1度、改植。機械は4人供用。

農協、経済連扱い100%出荷。タンホール乾式輸送。

2. バラ栽培体系(受診農園の場合)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
第1年次												
主要作業名												
第2年次以降												
主要作業名												
作型	△移植 ◎定植 ♡せん定			収穫始め～終り ☆暖房 ★暖房終り Ω 二重被覆始め Ψ 二重被覆終り								
品種名												

主要な技術及び留意点

土耕栽培(バラ)

(注1)基準値は、静岡県農業試験場モデル。
(注2)B、C欄は、診断先の実績を記入する。
(注3)栽培面積1㌥の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

5. 収益と費用 土耕栽培(バラ)

(単位:kg、円、%)

項 目	基準値	診 断 対 象			対 比	備 考
	H 年 A 10%当り	H B 全 体	H C 全 体	H D 10%当り	D÷A×100	
粗収益	生産量	105,000				<単位:本>
	販売単価	75				出荷市場平均単価
	生産額	7,875,000				
	副産物収入	0				
	合 計	7,875,000				①
経営費	直接生産費	種苗費	211,200			種苗価格/更新年数(5年)
		肥料費	193,990			堆肥、ピートは価格/更新年数(5年)
		農薬費	280,540			
		光熱動力費	960,940			重油、電力、ガソリン代
		諸材料費	22,760			フラワーネット、支柱/使用年数
		小農具費	4,820			
		賃料料金	4,000			深耕コスト代
		雇用労賃	595,850			850円/時間
		水利費	0			
		その他	18,000			
		計	2,292,100			
	出荷経費	資材費	325,500			ダンボール箱150円/CS、荷造り料5円/CS
		運賃	315,000			
		手数料	1,063,125			市場10%、農協2%、経済連1.5%
		その他	0			
		計	1,703,625			
	固定費	減価償却費	823,980			
		成園費・成蓄費	0			
		借地料	0			
		修繕費	200,298			
		その他	0			
		小 計	1,024,278			
	合 計	5,020,003				②
成果	農 業 所 得	2,854,997				③=①-②
	所 得 率 %	36.3				③÷①
	家族労働1時間当り所得	3,544				③÷T(円/時間)
家族労働見積額 円		1,450,080				
自己資本利子見積額 円		172,036				
自己地代見積額 円		12,000				
生産費(全額参入生産費)		6,654,119				④
利 潤 円		1,220,881				⑤=①-④
利潤率 %		15.5				⑤÷①
総労働時間(時間)		1,507				
家族労働時間		806				T
雇用労働時間		701				

(注1)基準値は、静岡県農業試験場モデル。

(注2)B、C、D欄は、診断先の実績を記入する。

(注3)栽培面積1%の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

6.将来の目標計画(6-1野菜・花き全体)

			項目	平成 年 A	平成 年	平成 年	平成 年	平成 年 B	B/A
経営規模	野菜		作付面積 (㎡)						
			生産量 (kg)						
			作付面積 (㎡)						
			生産量 (kg)						
			作付面積 (㎡)						
			生産量 (kg)						
	花き	バラ	作付面積 (㎡)						
			生産量 (本)						
			作付面積 (㎡)						
			生産量 (本)						
	土地建物		所有地 (ha)						
			借地 (ha)						
		ハウス (㎡)							
		堆肥舎 (㎡)							
労働力	自家		労働員数 (人)						
			労働時間 (年)						
	雇用	常時	労働員数 (人)						
			労働時間 (年)						
		臨時	労働員数 (人)						
			労働時間 (年)						
	総労働時間<年間>								
常時従業者一人当たり年平均時間									
経営戦略									

6.将来の目標計画(6-2バラ経営の発展段階)

下記の項目について診断先の該当部分を○で囲み、総合的に判断して現在の発展段階を判断する。

項目		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階	第6段階	
内容	経営の発展段階	経営品目としてバラを導入し経営を行う	バラと他の品目との複合経営を行い、バラに力を入れていく段階	バラと他の品目との経営が調和し、安定経営が続く段階	他品目との複合経営からバラ専作経営となり、家族労働いっぱいまで行う段階	若干の雇用をいれ家族労働の範囲を超えてバラの規模拡大を行う段階	多くの雇用をいれバラの規模拡大をしていく段階	
		部門開始			専作拡大	自立～企業	企業経営	
規模	施設 (㎡)	1,000未満	1,000～2,000	2,000～3,000	3,000～5,000	5,000～10,000	10,000以上	
	労働力 (人)	2.3	2.7	3.0	4.3	5.8	13.3	
	家族(人)	2.2	2.6	2.5	3.0	3.4	4.3	
	雇用(人)	0.1	0.1	0.5	1.3	2.4	9.0	
	労働時間(1人・H)	2,200	2,100	2,000	1,900	1,800	1,800以下	
	主たる従業者の所得(万円)	600	680	700	800	1,000	1,000以上	
	所得 (万円)	200未満	200～400	400～600	600～1,000	1,000～2,000	2,000以上	
技術管理	品種選択	品種数	2～3	4～6	5～10	10前後	10～15	15以上
		選択基準	単価の高い品種	単価の高い品種	単価の高いもの、業務用品種	業務用品種、栽培容易な品種	市場業者と一体となった品種選択	市場業者と一体となった品種選択
	生産対策	苗の確保	購入	自給	自給	購入	購入	購入
		土作対策		関心高い	関心高い	関心高い		
		生産目標	収量	収量・品質	収量・品質	収量・品質	収量・コスト	収量・コスト
		環境制御	手動	半自動	半自動	自動	自動	自動
	省力対策	環境					システム化	システム化
		防除	動噴	動噴	動噴	自走式散布	自走式など	自走式など
		技術導入				ロックワール栽培	ロックワール栽培	ロックワール栽培
		選花方式	時家手選花	時家手選花	パート選花	時家手選花	選花機導入	選花機導入
販売対策	販売方式	個選共販	個選共販	個選共販	共選共販	個選共販	個選共販	
経営管理	経営形態	補完的	部門開始	部門拡大				
		複合			複合経営	複合成熟		
		専作				専作経営	雇用導入	
		企業的					企業的経営	
		企業						企業経営へ
	経営管理	財務	収量・金額	収益・費用	青色申告	複式簿記	複式簿記	外部委託
		作業	栽培歴による	栽培歴による	作業記録	作業記録	作業記録	作業管理
		労務	なし	パート	パート	年間雇用	年間雇用	管理徹底
		投資	なし	拡大	拡大	拡大・計画	長期計画	長期計画
		販売	ノート記録	品種別整理	品種・等級	市場別管理	販売戦略	販売戦略
経営者能力	経営理念	受動的日和見	自立模索型	自立積極型	拡大積極型	経営創造型	経営創造型	
	経営戦略	なし	拡大意欲発生	家族労働限界まで拡大	雇用依存経営開始	企業的経営へ移行	企業経営への展開	
	経営管理	技術習得	経営に着眼	全体的管理	コスト管理	リスク管理	実務の外部化	
当社の現在の位置づけ(◎)								
今後の達成目標年		平成 年	平成 年	平成 年	平成 年	平成 年	平成 年	

注)・本表作成に当っては、「切り花栽培の新技術・バラ(誠文堂新光舎)」中の「切り花バラ生産の経営並びに流通・消費 (静岡県の実態調査から作成)」(中澤久志氏)を引用させていただいた。

7.経営力チェックリスト

(5. 3. 1のいずれかに○印をつけてください。)

チェック者() 年 月 日

1. 経営者		得点		
①	経営目標や経営方針は毎年見直してレベルアップを図っていますか	5	3	1
②	外部環境の変化に積極的に取組み、現状改革に努めていますか	5	3	1
③	経営理念や将来像などを文書にして内部構成員に明示していますか	5	3	1
④	経営規模拡大や収益向上を目指し、販売先、流通方法などマーケティングに積極的に取り組んでいますか	5	3	1
⑤	生産情報公表JAS規格(認定農業者)への適合に努めていますか(種まきから農薬の種類、化学肥料、土壌改質材などの使用頻度・生産履歴を公表できる)	5	3	1
⑥	家族経営型から雇用経営型へと転換し、作物管理は従業員に任せ、経営者は労務管理や販売などに重点を置いて取り組んでいますか	5	3	1
⑦	経営問題について専門家やJA指導員と相談して解決を図っていますか	5	3	1
⑧	排水処理、土壌汚染対策等環境保全に積極的に取組み肥料の節約や省資源に努めていますか	5	3	1
⑨	後継者対策・雇用対策に取り組んでいますか	5	3	1
⑩	地域社会や集落営農組織との連携に努め共存共栄を図っていますか	5	3	1
得点計()				

2. 経営基本		得点		
①	経営目標・経営計画(長期・短期)を樹立していますか	5	3	1
②	全ての業務にPDCA(計画・実施・チェック・改善行動)サイクルを実施していますか	5	3	1
③	地域の特性や立地に合わせた栽培構成になっていますか	5	3	1
④	ハウスは年間を通じて有効に活用していますか	5	3	1
⑤	新技術や経営情報の習得に努め経営改善に生かしていますか	5	3	1
⑥	気象条件に対して省力化やノウハウの導入で生産性向上に努めていますか	5	3	1
⑦	常に経営資源(土地・労働力・農業投資)の有効活用を考慮していますか	5	3	1
⑧	パソコンによる事務記帳・作業日記による経営分析を行っていますか	5	3	1
⑨	生産高・損益・生産性を品目別に把握して業績向上に活用していますか	5	3	1
⑩	資金調達・省力化投資などの資金運用計画は立てられていますか	5	3	1
得点計()				

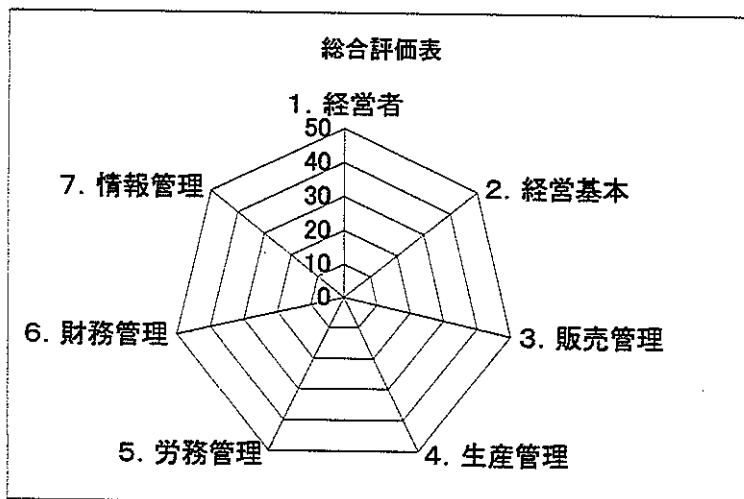
3. 販売管理		得点		
①	経営目標に沿って生産・販売計画を立てていますか	5	3	1
②	市場情報を的確につかみ、販売・生産に反映させていますか	5	3	1
③	過去の各々の販売実績を分析して、新しい販売計画を立てていますか	5	3	1
④	販売高の動向について、その原因分析を行っていますか	5	3	1
⑤	販売経路・販売促進・販売方法を考慮していますか	5	3	1
⑥	販売先との情報交換を分析して改善策を行っていますか	5	3	1
⑦	消費者のニーズや意見を農園の経営に生かしていますか	5	3	1
⑧	販売価格と生産費を常に意識して改善していますか	5	3	1
⑨	競争相手と比較して品質・価格をつかみ対抗戦略を考えていますか	5	3	1
⑩	JA共販・市場外販売など出荷形態は適切ですか	5	3	1
得点計()				

4. 生産管理		得点		
①	生産計画は、長期計画・短期計画別に立てられていますか	5	3	1
②	生産計画は、生産・販売・労務の関係担当者(部門)が合議して作成されていますか	5	3	1
③	マーケット動向や消費者ニーズを考慮した生産計画になっていますか	5	3	1
④	作目別の年間作業標準は作られ、それを守っていますか	5	3	1
⑤	ポジティブリスト制(登録以外の農薬の使用禁止の法律)の施行に対応して、農薬の管理体制の強化に努めていますか	5	3	1
⑥	地力に対して肥料の投入量を検討し、実施していますか	5	3	1
⑦	作目は自然や経済条件(環境)の特性を生かしていますか	5	3	1
⑧	適期作業・適期管理が行われていますか	5	3	1
⑨	農業機械の導入活用(自家用・委託)は、適切ですか	5	3	1
⑩	新しい栽培方式などの成功例を参考にしていますか	5	3	1
得点計()				

5. 労務管理		得 点		
①	希望通りの採用ができるよう対策を講じていますか	5	3	1
②	新入者や未熟練者に対して教育は充分実施していますか	5	3	1
③	目標・労働時間があり1日8時間・年間1800時間に近づいていますか	5	3	1
④	就業規則や服務規程があり、よく守られていますか	5	3	1
⑤	労災・社会保障・雇用保険に加入していますか(雇用4ヶ月以上ある場合)	5	3	1
⑥	家族・雇用の年1回健康診断は実施していますか	5	3	1
⑦	従業員の福利厚生にも充分力を入れていますか	5	3	1
⑧	作業者の安全衛生基準があり、これが適切に実行されていますか	5	3	1
⑨	給与は社会的水準に比較して高いほうですか	5	3	1
⑩	意思の疎通・苦情処理にも努めて風通しのよい職場の雰囲気できていますか	5	3	1
得点計()				

6. 財務管理		得 点		
①	経営と家計の区別が適切に行われていますか。	5	3	1
②	複式簿記による記帳を行っていますか。	5	3	1
③	現金と預金の残高チェックが適切に行われていますか。	5	3	1
④	資金繰り表作成の上借入金の返済計画は適正ですか。	5	3	1
⑤	青色申告を行っていますか。	5	3	1
⑥	短期借入金に対する支払い能力は十分ありますか。	5	3	1
⑦	固定資産を購入するために短期借入金をつぎ込んでいませんか。	5	3	1
⑧	受取手形や売掛金が売上高に対して過大ではありませんか。	5	3	1
⑨	借入資本と自己資金のバランスは適当ですか。	5	3	1
⑩	利益目標達成のための財務分析を十分行っていますか。	5	3	1
得点計()				

7. 情報管理		得 点		
①	合理的な販売活動のため、市場調査・分析を行っていますか。	5	3	1
②	常に消費者の声を聞くことに心掛けていますか。	5	3	1
③	商品とともに生産者の声を消費者に届けていますか。	5	3	1
④	商品に対するクレームを整理し、生産・販売にいかしていますか。	5	3	1
⑤	顧客名簿を作成していますか。	5	3	1
⑥	顧客名簿は定期的に整理していますか。	5	3	1
⑦	顧客と意思疎通を、定期的に行っていますか。	5	3	1
⑧	広告活動(チラシ・DM等)を行っていますか。	5	3	1
⑨	消費者に本当に必要な情報を発信していますか。	5	3	1
⑩	顧客名簿の保全是万全ですか。	5	3	1
得点計()				



企業名()

採点基準

- ・充分な状態 5
- ・実施しているが、充分とはいえない 3
- ・実施していない、当てはまらない 1

1. 農業経営診断予備調査書 (1-1)

＜バラ＞ロックウール栽培
(平成 年 月 日現在)

診断希望事項												
1 経営体の概要	法人の形態	①個人経営 ②法人経営					資本金	千円(増資予定 千円)				
	法人名	e-mail HP					従業員数	役員	男	人	女	人
	所在地	〒 Tel					従業員	男	人	女	人	
	代表者名	(年齢)					家族	男	人	女	人	
	営業年数	年 (うち法人化 年)					パート(8時間換算)	男	人	女	人	
	決算日	月 日					計	男	人	女	人	
	集団生産	①有り ②無し					作業時間	①1日当り平均 ②年間 日				
	認定農業者	①である (第1回 H 年認定) ②でない ③予定 (H 年)					休日数	①月当 日 ②年間 日				
	エコ・ファーマー	①である (第2回 H 年認定) ②でない ③予定 (H 年)					後継者	①有り ②未定 ③無し				
	経営の業態	①単一経営 ②複合経営() <栽培法>①アーチング方式②ハイルック方式③その他										
環境型農業の取り組み	①廃材・廃液の再生活用 ②GAP(適正農業規範) ③MPS(花き産業環境プログ											
2 複合経営	耕種	穀物	①	②	③	花き	①	②				
		野菜	①	②	③	果物	①	②				
		その他	①	②	③	備考						
	畜産	①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他										
加工	①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③その他の加工(品名)											
3 農業経営の現状と計画	作目	作付け面積					施設面積					
	①						<農業経営の課題> ①施設の維持管理 (ランニングコストの削減・省力化の検討) ②作物の選定 ③市場対応 (低価格輸入品との差別化) ④環境リスクと環境配慮コスト ⑤従業員と労働時間 ⑥その他					
	②											
	③											
	④											
	合計											
	<経営耕作地>	地目(○印)					面積(a)	<今後の主な計画>				
		畑	田	山林	住宅	その他						
	所有地											
	借入地											
<作業受委託>	作業内容					面積(a)						
4 栽培施設の現状と課題	施設・設備名	形式・性能等					設置年度	<栽培施設・設備の課題> ①施設の老朽化 ②施設のメンテナンス ③施設の管理技術 ④環境リスク ⑤その他				
	①ハウス施設	ガラス	硬質板	硬・軟質フィルム								
	フェロン型	棟 m ²	棟 m ²	棟 m ²								
	両屋根型	棟 m ²	棟 m ²	棟 m ²								
	パイプハウス	棟 m ²	棟 m ²	棟 m ²								
	②暖房設備	①温湯式 ②温風式						<生産方式の課題> ①品種の開発 ②病虫害防除技術 ③廃液対応技術 ④省エネ技術 ⑤情報管理・活用				
	③内装カーテン装置	①一層 ②二層 ③材質()										
	④かん水設備	①パイプ・ノズル方式②多目的装置③その他										
	⑤薬剤散布装置	①動力噴霧器②蒸散器③くん煙器④その他										
	⑥温室の制御	①マイコン制御②パソコン利用										
⑦作業室・冷蔵室	①レイアウト ②冷蔵室 m ²											
⑧その他												

1. 農業経営診断予備調査書 (1-2)

＜バラ＞ロックウール栽培

(平成 年 月 日現在)

5 販売関係の現状と方針	(1) 消費者のニーズ把握	①している ②していない		(7) 販売計画達成上の課題																																																					
	(2) 対象とする客層	①決めている ②決めていない		(8) 今後の販売戦略上の課題																																																					
	(3) 直販顧客名簿	①あり ②なし ③作成予定																																																							
	(4) 販売計画	①あり ②なし ③作成予定																																																							
	(5) 計画の達成度	①高い ②普通 ③低い																																																							
	達成度が低い理由 ()																																																								
	(6) 代金回収	①農協経由 ②現金 ③その他																																																							
	(9) 農産物の品目別、生産量と販売額		(10) 流通(販売)先の割合																																																						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>生産品目</th> <th>生産量</th> <th>販売額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計</td> <td>トン</td> <td>千円</td> </tr> </tbody> </table>		生産品目	生産量	販売額	①			②			③			④			⑤			計	トン	千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>取引先</th> <th>取引量</th> <th>取引額</th> <th>数料率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①農協・市場</td> <td>%</td> <td></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>②契約栽培 国内市場</td> <td>%</td> <td></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>(商社含む) 国外市場</td> <td>%</td> <td></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>③スーパー・外食</td> <td>%</td> <td></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>④直販・朝市等</td> <td>%</td> <td></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>⑤インターネット・宅配</td> <td>%</td> <td></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>(100%)</td> <td>千円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		取引先	取引量	取引額	数料率	①農協・市場	%		%	②契約栽培 国内市場	%		%	(商社含む) 国外市場	%		%	③スーパー・外食	%		%	④直販・朝市等	%		%	⑤インターネット・宅配	%		%	計	(100%)	千円	
	生産品目	生産量	販売額																																																						
①																																																									
②																																																									
③																																																									
④																																																									
⑤																																																									
計	トン	千円																																																							
取引先	取引量	取引額	数料率																																																						
①農協・市場	%		%																																																						
②契約栽培 国内市場	%		%																																																						
(商社含む) 国外市場	%		%																																																						
③スーパー・外食	%		%																																																						
④直販・朝市等	%		%																																																						
⑤インターネット・宅配	%		%																																																						
計	(100%)	千円																																																							
6 財務会計	(1) 複式簿記等財務諸表を作成		①している②していない③作成予定	(7) 施設・設備等への投資内訳																																																					
	(2) 財務諸表作成にパソコン使用		①している②していない③作成予定	投資施設・設備名 金額 千円																																																					
	(3) 資金繰表(キャッシュフロー管理)		①あり ②なし ③作成予定	①																																																					
	(4) 事業計画・利益計画		①あり ②なし ③作成予定	②																																																					
	(5) 借入金の内訳		③																																																						
	金融機関	金融機関名	金融資金(商品)名	借入金額(千円)	利率(%)																																																				
	政府系																																																								
	民間系																																																								
				合 計																																																					
(6) 借入金の主な使途																																																									
(8) 利益計画の達成状況と借入金返済状況																																																									
7 人事・労務関係	個人経営		法人経営	経営組織図(作業分担図)																																																					
	①家族協定書	有 無	有 無																																																						
	②労働条件通知書	有 無	有 無																																																						
	③就業規則	有 無	有 無																																																						
	④給与規定	有 無	有 無																																																						
	⑤退職規定	有 無	有 無																																																						
	⑥健康保険	有 無	有 無																																																						
	⑦福利厚生	有 無	有 無																																																						
	⑧労災保険	有 無	有 無																																																						
	⑨雇用保険	有 無	有 無																																																						
⑩安全衛生規則	有 無	有 無																																																							
8 農業経営上の課題	(1) バラ栽培の経営上の問題点		(該当番号に○印)	(1) マニュアルの整備 (yesに○印)																																																					
	①従業員の確保難		⑨生産方式の改善難	①設備機器オペレーションマニュアル																																																					
	②担い手の高齢化		⑩販売単価の下落	②温湿度管理マニュアル																																																					
	③作業システムの不備		⑪環境配慮型への移行	③設備保守マニュアル																																																					
	④技術革新への対応の遅れ		⑫その他	④ロックウール栽培マニュアル																																																					
	⑤設備の高ランニングコスト			⑤防除マニュアル																																																					
	⑥生産コストの上昇			⑥農作業マニュアル																																																					
	⑦設備投資の資金回収の遅れ			⑦パソコン等IT操作マニュアル																																																					
	⑧販売先の確保			⑧その他()																																																					

2. 農業経営診断予備調査書 (2-1)

<バラ>ロックウール栽培

(平成 年 月 日現在)

1. 農業経営の沿革						
(1) 経営規模の推移と内容						
(2) 現在の経営規模						
(3) 現在の経営の特色						
(4) 業界動向						
2. 農業経営コンセプト (程度)						
①安全・安心を基本コンセプトにした栽培をしている	①いる ②いない	◎ ○ △				
②販売先を明確にした計画的生産への取り組みをしている	①いる ②いない ③一部実施	◎ ○ △				
③顧客ニーズを把握した品種選定を行っている	①いる ②いない ③一部実施	◎ ○ △				
④環境に配慮した持続可能な農業への取り組みをしている	①いる ②いない	◎ ○ △				
⑤省力化・機械化の導入による効率化を図っている	①いる ②いない	◎ ○ △				
⑥ISO14001、9000等の導入を図っている	①いる ②いない	◎ ○ △				
⑦その他	①いる ②いない	◎ ○ △				
3. バラ栽培の生産内容						
方 式	作付面積	定植時期	出荷本数(千本)	品質把握取組	減農薬取組	廃液処理取組
アーチング栽培						
ハイラック方式						
レベリング仕立て法						
ベンディング法						
4. バラ栽培投入費用・収益(年間)						
	平成 年	平成 年	平成 年	平成 年	平成 年	備 考
栽培面積						
等級別収穫量(千本)						
秀品						
B品						
C品						
売上高(万円)						
投入費用(万円)						
投入労働力(時間)						
収益(万円)						
5. 現在の栽培方法の工夫						
6. 作目・品種・立地条件等の問題点						
7. 品種開発など計画中の品目について(検討状況・内容)						

2. 農業経営診断予備調査書 (2-2)

<バラ>ロックウール栽培

(平成 年 月 日現在)

8. 販売・受注状況、販売活動の特色

品目名	品質区分	販売先	販売単価 (円)	売上金額 (千円)	手数料率(%)	販売手数料 (千円)

9. ロックウール栽培設備・機器の状況

区分	種類	規格 能力	数量 相	取得価格 (千円)	耐用年数	減価償却費 (千円)	取得年度	備考
建物	複合環境制御							
	二重被覆装置							
	ロックウール システム							
	ビニールハウス							
	作業舎							
	その他()							
大農具	暖房機							
	無人防除装置							
	動力噴霧器							
	冷蔵庫							
	選花機							
	梱包機							
	軽トラック							
	その他()							
構築物	貯水槽							
	その他()							

10. 生産・技術・設備状況の推移

	創業時(年前)	3年前	2年前	1年前	現在	備考
作付け面積						
従業員数(内パート)	()	()	()	()	()	
使用面積 (内借地)	()	()	()	()	()	
システム台数	台	台	台	台	台	
システム稼働技術	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	◎ ○ △	
その他()						

11. バラ栽培の技術・研究について

①バラ栽培の体系(作業マニュアル)整理	①あり	②なし	③検討中
②バラ栽培の先進事例の視察・研究	①あり	②なし	③検討中
③バラ栽培の収量とプラント稼働時間の標準	①あり	②なし	③検討中
④バラ栽培の経営計画	①あり	②なし	③検討中
⑤ロックウール栽培の新たな作目への取組研究	①あり	②なし	③検討中
⑥ロックウール栽培方式の新技術の研究	①あり	②なし	③検討中

12. 労務管理の実施状況

①労働時間の短縮・合理化	◎ ○ △ ×	⑥報酬・退職金等の条件整備	◎ ○ △ ×
②担い手確保や後継者育成	◎ ○ △ ×	⑦福利厚生制度の整備	◎ ○ △ ×
③従業員の技術・研修	◎ ○ △ ×	⑧作業管理と安全管理	◎ ○ △ ×
④雇用者の労働報酬の決め方	◎ ○ △ ×	⑨腰痛対策等作業性の研究	◎ ○ △ ×
⑤雇用者確保の方法	◎ ○ △ ×	⑩その他()	◎ ○ △ ×

13. 販売・生産方式の問題点

＜バラ＞ロックウール栽培

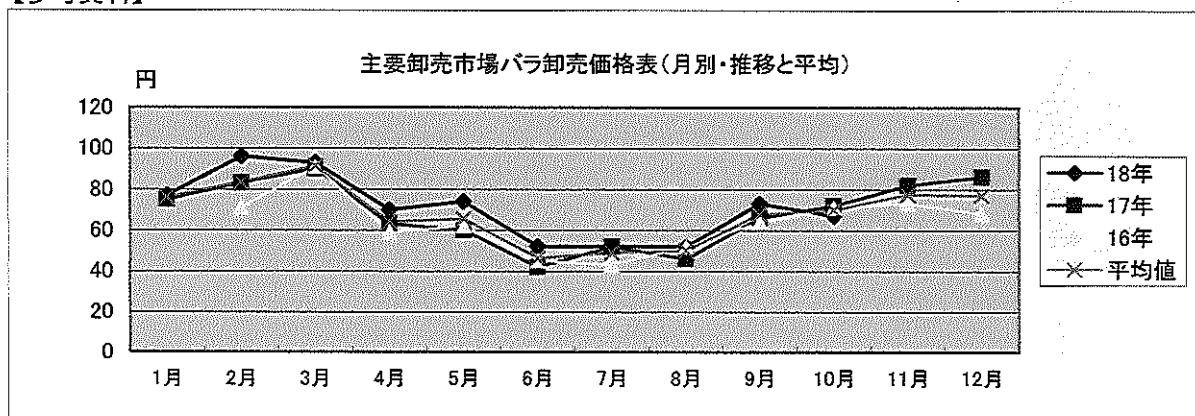
(平成 年 月 日現在)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主な農作業	剪定	挿し木	定植	暖房終わり	折り曲げ	収穫 折り曲げ				暖房始め		

[illegible]

出展 「切花栽培の新技術 改定バラ上巻」 林勇著 誠文堂新光

Table 1



農林水産省 農林水産統計データ 品目別分類一覧表(花きH16.2～H18.8参照)

4. 生産作業別労働時間調査表・月別(1月～6月)

(4-1)

<バラ>ロツクウール栽培 (個人 10アール当り)

作 業	1 月			2 月			3 月			4 月			5 月			6 月			1月～6月 小計
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
育苗管理																			0.0
																			0.0
																			0.0
改植準備													2.0	3.0					5.0
																			0.0
																			0.0
定植													4.0	4.0	3.0				17.0
床シート張り																			0.0
ロツクウール																			0.0
ワット張り付け																			0.0
液肥作り			1.0		1.0			1.0											3.0
農薬散布										1.0		1.0				1.0	1.0	1.0	5.0
芽欠き、摘蕾	12.0	24.0	24.0	21.0	18.0	13.0	15.0	18.0	18.0	15.0	15.0	17.0	9.0	12.0	18.0	6.0	6.0	2.0	263.0
剪定																		12.0	12.0
折り曲げ・誘引																			0.0
ピンチ・整枝																			0.0
除草																15.0	9.0	21.0	45.0
通路清掃・後片付け													2.0	2.0					4.0
カーテン張り																		1.0	1.0
温室管理・修理					2.0						1.0								3.0
整備機器管理				1.0					1.0										2.0
収穫	15.0	17.0	18.0	17.0	15.0	12.0	15.0	15.0	18.0	21.0	24.0	18.0	20.0	21.0	24.0	15.0	15.0	12.0	312.0
調整・荷造り	15.0	17.0	18.0	12.0	15.0	12.0	18.0	15.0	21.0	15.0	21.0	12.0	15.0	18.0	15.0	14.0	14.0	12.0	279.0
出荷	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	3.0	2.0	3.0	2.0	2.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	40.0
合計	44.0	60.0	63.0	53.0	53.0	39.0	50.0	51.0	61.0	54.0	64.0	50.0	54.0	63.0	64.0	53.0	52.0	63.0	991.0

出展:データは湘南地域農業改良普及センター平成13年度版 単年度試験研究成績書を加工

4. 生産作業別労働時間調査表・月別 (7月～12月)

(4-1)

＜ハビ＞ロッケール栽培 (個人 10アール当り)

作 業	7 月			8 月			9 月			10 月			11 月			12 月			7月～12月 月小計	モデルケース	労働 時間 割合%
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	10a当り 時間	10a当り 1月～12月 合計	
育苗管理																			0.0	0.0	
																			0.0	0.0	
																			0.0	0.0	
改植準備																			0.0	5.0	0.3%
																			0.0	0.0	
																			0.0	0.0	
定植																			0.0	17.0	0.9%
床シート張り				6.0															6.0	6.0	0.3%
ロッケール				1.0		2.0													3.0	3.0	0.2%
マツト張り付け																			3.0	6.0	0.3%
液肥作り					1.0								1.0			1.0			3.0	6.0	0.3%
農薬散布				1.0		1.0	3.0	6.0	6.0	3.0	3.0	3.0	1.0			21.0	21.0	15.0	18.0	23.0	1.2%
芽欠き・摘蕾						3.0	6.0	6.0	6.0	13.0	14.0	24.0	15.0	15.0	15.0				174.0	436.0	23.6%
剪定	21.0	24.0	4.0																49.0	61.0	3.3%
折り曲げ・誘引			1.0	6.0	7.0	11.0	12.0	12.0	8.0	8.0	1.0								66.0	66.0	3.6%
ピンチ・整枝			3.0	7.0	15.0	12.0	14.0	8.0	5.0	5.0	2.0								71.0	71.0	3.8%
除草	21.0	15.0	24.0	6.0	1.0														67.0	112.0	6.1%
通路清掃・後片付け	6.0	11.0	18.0	8.0	2.0											1.0	1.0		45.0	50.0	2.7%
カーテン張り																			2.0	2.0	0.1%
温室管理・修理										1.0		1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		7.0	10.0	0.2%
整備機器管理							1.0												1.0	3.0	0.2%
収穫	6.0	2.0					1.0	9.0	12.0	14.0	15.0	18.0	15.0	15.0	15.0	15.0	17.0		169.0	481.0	26.1%
調整・荷造り	5.0	2.0					1.0	6.0	9.0	9.0	11.0	15.0	18.0	15.0	15.0	15.0	15.0		151.0	431.0	23.4%
出荷	1.0	1.0					1.0	1.0	1.0	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		22.0	62.0	3.4%
合計	60.0	55.0	50.0	35.0	26.0	29.0	38.0	43.0	41.0	54.0	48.0	63.0	54.0	50.0	48.0	56.0	55.0	49.0	854.0	1,845.0	100.0%

出展データは湘南地域農業改良普及センター平成13年度版 単年度試験研究成績書を加工

4. 生産作業別労働時間調査表・月別(1月～6月) (4-1)
 <バラ>ロッケール栽培 (法人)

4. 生産作業別労働時間
 <バラ>ロッケール栽培

作 業	1 月			2 月			3 月			4 月			5 月			6 月			1月～6月 小計	作 業	7 月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			上旬	中旬	下旬
育苗管理	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	育苗管理	0.0	0.0	0.0
																			0.0				
																			0.0				
定植準備	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	32.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	128.0	定植準備	0.0	0.0	0.0
																			0.0				
																			0.0				
定植	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.0	96.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	128.0	定植	0.0	0.0	0.0
養液管理	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	36.0	養液管理	2.0	2.0	2.0
薬剤散布	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	15.0	薬剤散布	1.0	1.0	1.0
折り曲げ	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	32.0	32.0	16.0	8.0	24.0	32.0	0.0	336.0	折り曲げ	48.0	48.0	48.0
ネット	0.0	0.0	16.0	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	32.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	64.0	ネット	0.0	24.0	8.0
芽かき・誘引	40.0	40.0	40.0	40.0	48.0	72.0	8.0	56.0	120.0	16.0	16.0	16.0	96.0	56.0	32.0	40.0	24.0	48.0	808.0	芽かき・誘引	72.0	48.0	48.0
ハウス管理	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	16.0	64.0	0.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	0.0	200.0	ハウス管理	8.0	8.0	24.0
																			0.0				
																			0.0				
収穫	80.0	80.0	80.0	80.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	140.0	160.0	160.0	140.0	2.160.0	収穫	80.0	80.0	80.0	
調整	80.0	80.0	80.0	80.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	140.0	160.0	160.0	140.0	2.160.0	調整	80.0	80.0	80.0	
出荷	20.0	20.0	20.0	20.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	35.0	35.0	35.0	35.0	525.0	出荷	20.0	20.0	20.0	
																			0.0				
																			0.0				
合計	246.0	246.0	262.0	263.0	345.0	369.0	409.0	409.0	409.0	409.0	409.0	409.0	409.0	414.0	414.0	414.0	406.0	6.656.0	合計	311.0	311.0	311.0	

出展データは静岡県2004年度版作物別技術原単位 静岡県農業水産部

4. 生産作業別労働時間調査表 (4-2)

＜バラ＞ロックウール栽培（法人）

	静岡県モデル	H 年当社(A)	H 年当社	H 年当社(B)	B/A
作付け面積(a)	80a				
作業人数(内雇人数)	10人(8人)				
備考	溶液栽培、ノプレス				

(単位:時間,%)

作 業	静岡県モデル			H 年当社		H 年当社		H 年当社		10a当り時間B/A
	全体時間	10a当り時間	労働時間割合%	10a当り時間A	労働時間割合%	10a当り時間	労働時間割合%	10a当り時間B	労働時間割合%	
育苗管理	96.0	12	0.8%							
定植準備	128.0	16	1.0%							
定植	128.0	16	1.0%							
養液管理	72.0	9	0.6%							
薬剤散布	33.0	4.125	0.3%							
折り曲げ	800.0	100	6.3%							
ネット	160.0	20	1.3%							
芽かき・誘引	1,680.0	210	13.1%							
ハウス管理	784.0	98	6.1%							
収穫	3,960.0	495	31.0%							
調整	3,960.0	495	31.0%							
出荷	975.0	121.875	7.6%							
合計	12,776.0	1597	100.0%							

(単位:時間)

	静岡県モデル		H 年当社	H 年当社	H 年当社	B/A
	全体時間	10a当り時間	10a当り時間A	10a当り時間A	10a当り時間B	
家族労働時間	3960	495				
常時雇用労働時間	0	0				
臨時雇用(通年)	0	0				
臨時雇用(パートタイム)	8816	1102				
合 計	12776	1597				

出展:データは静岡県2004年度版作物別技術原単位 静岡県農業水産部

4. 生産作業別労働時間調査表 (4-2)

＜バラ＞ロックウール栽培（個人）

	モデルケース	H 年(A)	H 年	H 年(B)	B/A
作付け面積(a)	33a				
家族労働力 (内10a当り雇用 時間)	2～3人(327時間)				
備考	鉄筋ガラス温室				

(単位:時間, %)

作 業	モデルケース			H 年 (A)		H 年		H 年 (B)		10a当り時間 B/A
	全体時間	10a 当り時間	労働時間割合%	10a 当り時間 A	労働時間割合%	10a 当り時間	労働時間割合%	10a 当り時間 B	労働時間割合%	
育苗管理	0.0	0.0	0.0%							
改植準備	16.5	5.0	0.3%							
定植	56.1	17.0	0.9%							
床シート張り	19.8	6.0	0.3%							
ロックウールマット張り付け	9.9	3.0	0.2%							
液肥作り	19.8	6.0	0.3%							
農薬散布	75.9	23.0	1.2%							
芽欠き、摘蕾	1,438.8	436.0	23.6%							
剪定	201.3	61.0	3.3%							
折り曲げ・誘引	217.8	66.0	3.6%							
ピンチ・整枝	234.3	71.0	3.8%							
除草	369.6	112.0	6.1%							
通路清掃・後片付け	165.0	50.0	2.7%							
カーテン張り	6.6	2.0	0.1%							
温室管理・修理	33.0	10.0	0.2%							
整備機器管理	9.9	3.0	0.2%							
収穫	1,587.3	481.0	26.1%							
調整・荷造り	1,422.3	431.0	23.4%							
出荷	204.6	62.0	3.4%							
合計	6,088.5	1,845.0	100%							

(単位:時間)

	モデルケース		H 年	H 年	H 年	B/A
	全体時間	10a 当り時間	10a 当り時間 A	10a 当り時間 A	10a 当り時間 B	
家族労働時間	5009.4	1518				
常時雇用労働時間		0				
臨時雇用(通年)		0				
臨時雇用(パートタイム)	1079.1	327				
合 計	6088.5	1845				

出展:データは湘南地域農業改良普及センター平成13年度版 単年度試験研究成績書

5. 作目別収穫量・粗収入・費用・農業所得調査表

＜バラ＞ロックウール栽培（法人）

区 分		静岡県モデル		H 年当社 (A)		H 年当社		H 年当社 (B)		B/A	
		全体	10a 当たり	全体	10a 当たり	全体	10a 当たり	全体	10a 当たり	全体	10a 当たり
生産	作付け面積 (a)	80	-		-		-		-		-
	生産量 (本)	840,000	105,000								
	販売単価 (円)	70	70								
	生産額 (千円)	58,800	7,350								

(単位:千円、時間)

区 分				静岡県モデル			H 年当社		H 年当社		H 年当社		倍率比較 B/A	
				全 体	10 a 当 たり	費用割 合 %表示	10 a 当 たり A	費用割 合 %表示	10 a 当 たり	費用割 合 %表示	10 a 当 たり B	費用割 合 %表示		
農業経営費	変動費	直	種苗費	3,744	468	7.6%								
			肥料費	2,951	369	6.0%								
		接	農薬費	414	52	0.8%								
			光熱動力費	7,088	886	14.4%								
		生	諸材料費	1,279	160	2.6%								
			小農具費	40	5	0.1%								
		産	賃料料金	0	0									
			雇用労賃	7,494	937	15.2%								
		費	水利費	0	0									
			その他	100	13	0.2%								
			計	23,111	2,889	46.8%								
		出 荷 経 費	資材費	4,200	525	8.5%								
	運賃		2,016	252	4.1%									
	手数料		7,938	992	16.1%									
	その他		0	0										
	計		14,154	1,769	28.7%									
	小 計			37,265	4,658	28.7%								
	固定費	減価償却費	9,809	1,226	19.9%									
		成園費・成畜費	0	0										
		借地料	0	0										
		修繕費	2,279	285	4.6%									
		その他	0	0										
		小 計	12,088	1,511	24.5%									
合 計			49,352	6,169	100.0%		100%		100%		100%			
事業利益			9,448	1,181										

出展:データは静岡県2004年度版作物別技術原単位 静岡県農業水産部

5. 作目別収穫量・粗収入・費用・農業所得調査表

＜バラ＞ロックウール栽培（個人）

区 分		モデルケース		H 年 (A)		H 年		H 年 (B)		B/A	
		全体	10a当 たり	全体	10a当 たり	全体	10a当 たり	全体	10a当 たり	全体	10a当 たり
生	作付け面積 (a)	33	-		-		-		-		-
産	生産量 (本)	399,300	121,000								
	販売単価 (円)	65.1	65.1								
	生産額 (千円)	25,994.4	7,877.1								

(単位:千円、時間)

区 分				モデルケース			H 年		H 年		H 年		倍率比較 B/A	
				全 体	10a当 たり	費用割 合 %表示	10a当 たり A	費用割 合 %表示	10a当 たり	費用割 合 %表示	10a当 たり B	費用割 合 %表示		
農業経営費	変 動 費	直	種苗費	941	285	4.7%								
			肥料費	1,109	336	5.6%								
		接	農薬費	449	136	2.3%								
			光熱動力費	3,990	1,209	20.0%								
		生	諸材料費	1,313	398	6.6%								
			小農具費	1,343	407	6.7%								
		産	賃料料金	0	0									
			雇用労賃	861	261	4.3%								
		費	水利費	0	0									
			その他	0	0	0.0%								
		計	10,006	3,032	50.2%									
	出 荷 経 費	資材費	551	167	2.8%									
		運賃	551	167	2.8%									
		手数料	2,600	788	13.1%									
		その他	0	0										
		計	3,703	1,122	18.6%									
	小 計			13,708	4,154	18.6%								
	固 定 費	減価償却費	6,214	1,883	31.2%									
		成園費・成畜費	0	0										
		借地料	0	0										
		修繕費	0	0	0.0%									
		その他	0	0										
		小 計	6,214	1,883	31.2%									
	合 計			19,922	6,037	100.0%		100%		100%		100%		
事 業 利 益			6,072	1,840										

出展:データは湘南地域農業改良普及センター平成12年度版 単年度試験研究成績書を加工

【モデルケース関連参考データ】

経営規模と労働力

経営規模	鉄骨ガラス温室、ロックウール栽培 3,300 m ²
経営類型	バラ切り花＋水稲 (0.6 ha)
労働力	家族労働力2～3名、雇用 327 時間

(2) バラ (ロックウール栽培) の経済性

定植	6月下旬～7月上旬
収穫	10月中旬～6月下旬
収量	107-ル当たり
収量	121,000 本
単価	65.1 円/本
粗収入	7,877,100 円
経営費	6,036,732 円
物財費	4,653,720 円
種苗費	285,000
肥料費	336,160
農薬費	136,130
諸材料費	398,100
施設費(注1)	1,882,625
農機具費	406,737
光熱水費	1,208,968
雇用労費	261,600
出荷費	1,121,412 円
出荷資材費	167,150
出荷運賃	166,552
出荷手数料	787,710
産業所得	1,840,368 円
時間当たり所得	1,212 円/時間
所得率	23.4 %
稼下労働時間	1,845 時間

(備考)
 栽植密度:60本/3.3m²
 品種構成:スタンダード 20%、スプレー 80%
 単価:FAJ(1997～2001年平均)

(注1)プラスチックハウスで経営成果を算定すると
 産業所得 2,813,368円、所得率 35.7%
 1時間当たり所得 1,853円となる

【経費内訳】

区 分	10a当たり 使用量	経 費	備考
雨(注2)	6,000 株	285,000 円	190円/1株
硝酸石灰	830 kg	162,680 円	
硝酸カリウム	510 kg	98,940 円	
硫酸マグネシウム	250 kg	21,200 円	
第一硫酸アンモニウム	150 kg	39,600 円	
ほうちゅう	1,410 g	3,690 円	
硫酸亜鉛	860 g	2,060 円	
塩化マグネシウム	1,810 g	6,730 円	
硫酸銅	200 g	620 円	
モリブデン酸アンモニウム	100 g	640 円	
サンヨール乳剤	2,420 ml	6,000 円	
ミラネン水溶液	2,240 g	33,380 円	
トリファン乳剤	940 ml	8,080 円	
硫酸くん煙剤	6 kg	600 円	
DDVP	1,520 ml	320 円	
オルラン水和剤	840 g	6,300 円	
アタロン乳剤	830 ml	9,230 円	
バダン乳剤	760 ml	1,980 円	
エプセト水和剤	1,520 ml	5,350 円	
ダニオンフロアブル	1,520 ml	13,440 円	
コロマイト水和剤	760 g	15,050 円	
ゴッファフロアブル	760 ml	16,840 円	
ハロクフロアブル	760 ml	15,110 円	
ペンタック水和剤	280 g	4,450 円	
種付けキューブ	6,000 個	33,000 円	耐用4年
ロックウールマット	1,212 枚	80,000 円	耐用5年
板切りシート	545 m	65,400 円	耐用5年
カーシート	40 m	7,200 円	耐用5年
通風ダクト	1 式	25,000 円	耐用2年
通風カーテン	1 式	187,500 円	耐用5年
ガラス温室	1,000 m ²	1,254,000 円	耐用15年
通風式暖房機	1 基	393,750 円	耐用5年
一軸一層カーテン	1 式	69,000 円	耐用15年
簡易作業場(軽量鉄骨)	90 m ²	53,375 円	耐用22年
冷蔵庫	3.2 m ²	112,500 円	耐用8年
ロックウールシステム	1 式	354,500 円	耐用10年
動力噴霧器	1 基	4,125 円	耐用5年
背負い動噴	0.3 台	561 円	耐用5年
硫酸くん煙用ホットプレート	12 台	25,920 円	耐用5年
段ボール結束機	1,400 箱	18,340 円	耐用5年
軽トラックス(550cc)	80 km	3,291 円	耐用4年
電気料	4,800 kwh	115,200 円	
水道料	175 m ³	35,525 円	
A重油	33,000 リットル	1,056,000 円	
ガソリン	17.6 リットル	1,584 円	
軽油	2.16 リットル	141 円	
潤滑油		518 円	(ガソリン代＋軽油代)×0.3
雇用労働費	327 時間	261,600 円	800円/1時間
(出荷費内訳)			
出荷用段ボール	1,210 箱	151,250 円	
輪ゴム	3 箱	3,900 円	3,000本/1箱
梱包テープ	30 巻	6,000 円	
フルコンテブ	10 巻	3,000 円	
送付状コピー代		3,000 円	300枚
(集出荷所までの輸送経費)			
トラック		7,552 円	0.5km×2×110(回)
出荷運賃		159,000 円	450円/1梱包
市場出荷手数料		787,710 円	販売金額(7,877,100円)×10%

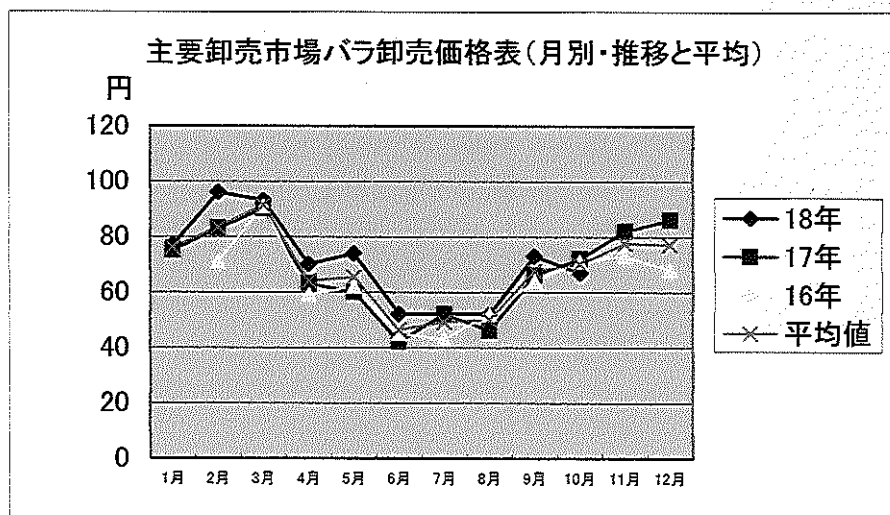
(注2)6,000本/5年×190円

平成13年度(平成13年～17年度)
 バラ(ロックウール栽培)の経済標準指標 湘南地域農業改良普及センター

5. 現在考えている成長目標

＜バラ＞ロックウール栽培

目 標	現在	2年後	5年後	備考
(1)規模				
施設 棟				
面積 ha				
10a当り本数 本				
労働力				
(家族 人				
(雇用 人				
販売額 千円				
(2)品種選択 品種名				
選択基準(単価)				
(業務用品種)				
(栽培の容易性)				
(契約栽培への対応)				
(3)生産対策 苗の確保 (購入)				
(自給)				
生産目標 (収量を重視)				
(品質を重視)				
(コストを重視)				
環境制御 (手動)				
(半自動)				
(自動)				
(4)省力対策 防除 (動噴)				
(自走式)				
選花方式 (自家手選花)				
(選花機導入)				
(5)経営 経営形態 (部門ごと)				
(専作拡大)				
(企業経営)				
経営管理(財務の方法)				
青色申告				
複式簿記				
外部委託				
(雇用の方法)				
パート雇用				
通年雇用				
(販売)				
市場別管理				
販売戦略				



農林水産省 卸売価格

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
18年	77	96	93	70	74	52	52	52	73	67		
17年	75	83	90	63	60	42	52	46	66	72	82	86
16年		71	91	59	62	45	43	52	64	71	73	68
平均値	76	83.3	91.3	64.0	65.3	46.3	49.0	50.0	67.7	70.0	77.5	77.0

花壇苗経営診断調査書 (花壇苗)

1. 栽培体系と消費の特徴 (概要)

花壇苗は、鉢花に比べて1ポット当たりの単価が安価であるため、低コスト生産による販売数量の確保が基本になる。そのため、施設の利用効率を高めるための栽培体系の組み立てと合理化がポイントになる。消費の山はあるものの周年化の方向にあり、花壇形式の多様化とともに需要形態も多様化してきている。

花壇苗の作型 (例)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
初夏花壇苗	マリーゴールド	●—┐—■											
	ニチニチソウ	●—┐—■											
秋用花壇苗	ハボタン	●—┐—○—■											
	パンジー	●—┐—■											
番用花壇苗	クリサンセマム	○—┐—											
	ムソースボール	○—┐—											
	パンジー、ビオラ	○—┐—											

● たねまき ┐ 鉢上げ ○ 定植 ■ 収穫・出荷 (出典：草花栽培の基礎—新版 農文協)

◆栽培体系例示

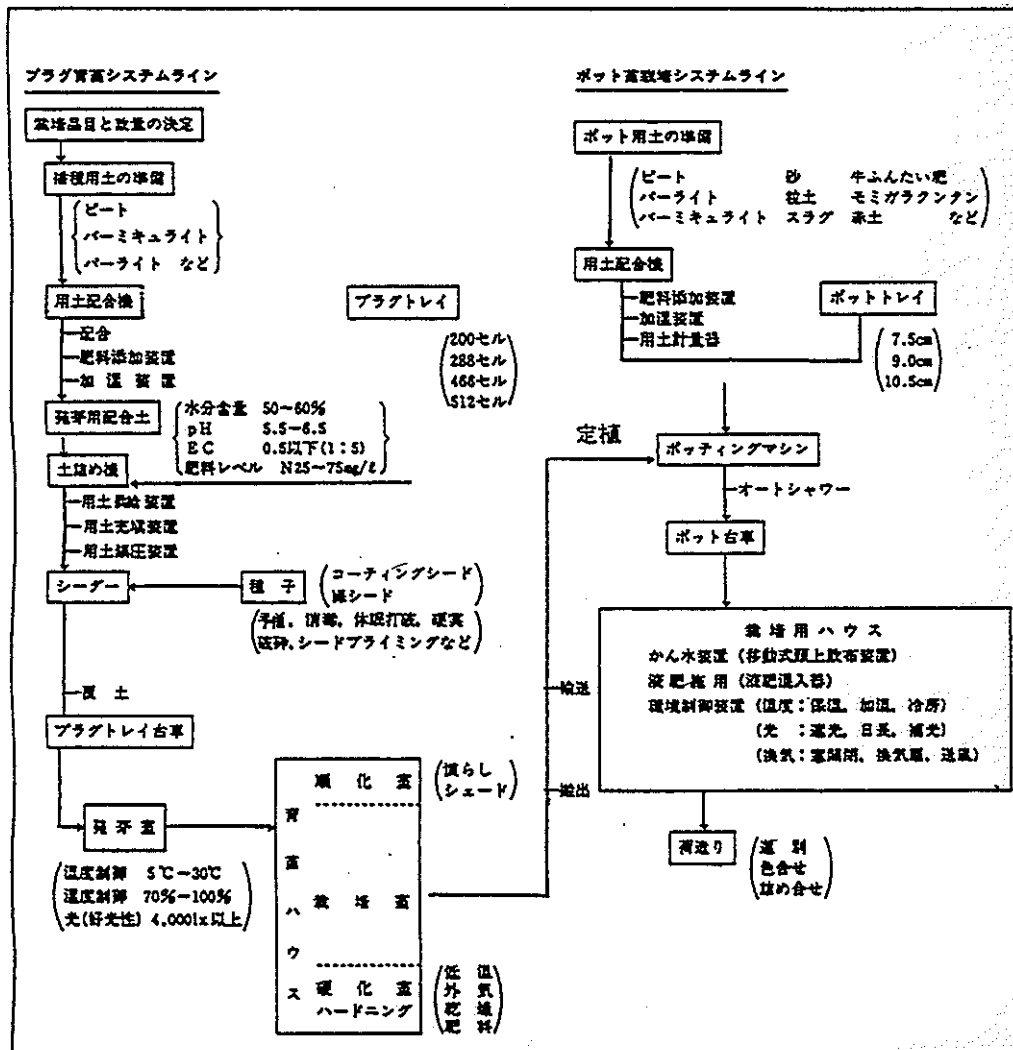
月旬	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
パンジー					○	○	○					
主要作業					播種 (3号)	鉢上げ	追肥	出荷				
サルビア										○	○	○
主要作業		出荷								播種 (3号)	鉢上げ	追肥
ベチュニア	○	○									○	○
主要作業	追肥	出荷									播種 (3号)	鉢上げ

(出典：静岡県農水部原単位)

◆診断先の栽培体系

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
主要作業													

(図) 花壇苗生産システム (例)



(出典：花き生産指針 徳島県農林水産部 平成6年3月)

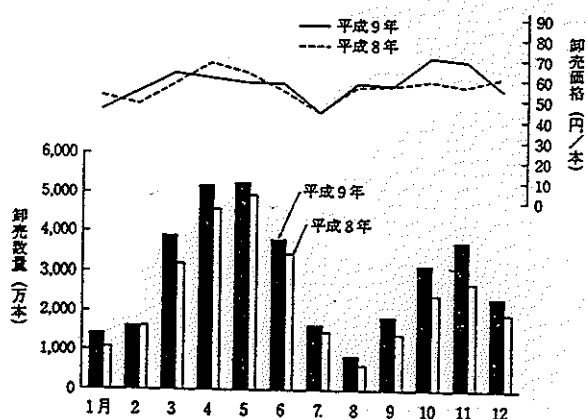
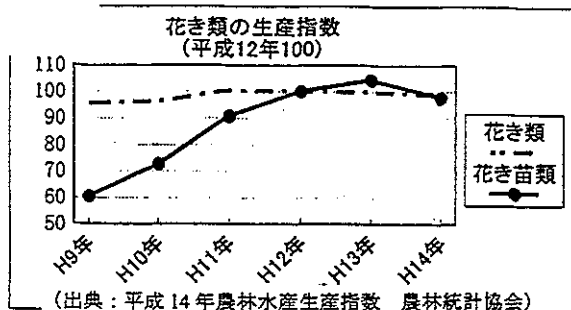


図 花壇用苗物類の月別卸売数量、販売価格の推移
平成9年花き流通統計調査報告、農林水産省統計情報部 (平成11年2月)
月別卸売数量の変動は大きく、春出荷期の3～4月、初夏出荷の5～6月に最大のピークがあり、花壇用苗物類の需要がこの時期に集中していることがうかがえる。次に秋出荷期の10月から12月はパンジーとハボタンを中心とした需要の増加によるもので、今後新商品の開発が待たれる。夏休みの7月から8月が最低で、厳寒期の1月から2月よりも少ない。夏休み明けの9月、季節感のある初秋物の需要の増加が期待されている

(出典：花壇苗生産の技術と経営 農文協)

2. 農業経営診断予備調査表

診断希望事項						
1 生産者の概要	経営形態	①個人経営②法人経営			資本金（元入金）	千円
	経営体名				役員	人
	所在地	〒	Tel		従業員	人
	代表者名				パート	人
	認定農業者	年	月	(初回認定)	後継者の有無	
	エコファーマー	年	月	認定	休日数	
	経営年数	年	その他			
	決算日	年	月			
	経営の業態	①単一経営②複合経営				
2 経営の特徴	兼業・専業別					(経営課題)
	農業粗収益 千円／年					
	農業経営費 千円／年					
	農業所得 千円／年					
	その他					
3 生産方式	設備名	性能	台数	その他		(生産課題)
4 販売方式	販売先	単価	数量	販売額	販売方式	(販売課題)
5 財務関係	短期借入金の内訳					(財務課題)
	長期借入金の内訳					
6 労務関係	作業マニュアルの有無					(労務課題)
	就業規則の有無					
7 その他	(追加事項があれば、別紙で記載して下さい) 家族協定書の有無					(その他課題)

3. 農業経営診断調査表

1. 農業経営の概況			
①経営規模	露地 a	ハウス a	棟
	花きの出荷額	千円	ポット トレイ
②資産状況	流動資産	千円	負債 千円
	固定資産経営資産	千円	自己資本（元入金） 千円
③収益状況	農業粗収益	千円	農業所得 千円
	農業経営費	千円	農業所得率 %
2. 経営方針及び経営の特徴		(問題点)	
3. 販売の状況		(問題点)	
①販売先			
卸売市場	千円 (%)		
契約先	千円 (%)		
自家販売	千円 (%)		
通信販売	千円 (%)		
その他	千円 (%)		
②営業活動の有無			
4. 生産の状況		(問題点)	
①花き名			
②設備名			
③栽培技術の向上策			
技術指導の有無			
モデル栽培の視察			
5. 財務の状況		(問題点)	
①短期借入金	②長期借入金		
借入先及び金利			
返済計画			
③自己資本比率			
6. 労務の状況		(問題点)	
①労働時間	時間／日 時間／年		
②労働協定等の有無			
③従業員の採用状況			
④福利厚生状況			
7. その他		(問題点)	

4. 収益と費用

単位：千円/年

項 目	10a 当たり A (基準)	診断対象			対比 D ÷ A × 100	摘要
		H 年 B (全体)	H 年 C (全体)	H 年 D10a 当 たり		
粗 生産量 (ポット)	100,000					
収 販売単価 (円/ポット)	37.5					
益 生産額	3,750					
その他						
合計	3,750					①
経 営 費	変 種苗費	571				
	接 肥料費	14				
	生 農薬費	30				
	動 光熱動力水費	56				
	産 生産資材費	787				
	費 (用土費)	(513)				
	(ポット費)	(125)				
	(プラグトレ費)	(79)				
	雇用労賃	280				
	その他					
	計	1,738				
	出 荷造費	163				
	荷 市場手数料	375				
	経 其他					
	費 計	538				
小計	2,276					
固 定 費	減価償却費	455				
	修繕費	90				
	保険・共済	11				
	小計	556				
合計	2,832					②
成 農業所得	918					③=①-②
果 所得率 (%)	24.5					③÷①
1 時間当たり労働所得	0.727					③÷T
家族労働見積額	1,662					
自己資本利子見積額	113					
自己地代見積額	10					
生産費 (全額参入生産費)	4,617					④
利潤	△ 867					⑤=①-④
利潤率 (%)	△ 23.1					⑤÷①
総労働時間 (時間)	1,662					
家族労働時間 (時間)	1,262					T
雇用労働時間 (時間)	400					

(注) 基準値は、「パンジー花壇苗」の徳島県に於ける平成 16 年度版経営指標

5. 作業別労働時間調査表

(単位：時間)

項目	基準値	診断対象			対比	備考
	10a 当	H 年	H 年	H 年	D ÷ A	
	たり	(全体)	(全体)	10a 当たり	× 100	
	A	B	C	D	(%)	
(1) 作付面積(a)	10					
(2) 労働時間合計	1,662					
家族労働時間	1,262					
雇用労働時間	400					
(3) 作業別労働時間						
用土混合	6					
用土詰め	7					
播種	16					
移植(鉢上)	840					
病虫害防除	32					
灌水	295					
施肥(置き肥)	45					
出荷調整	306					
出荷	115					
(4) 年間1人当たり労働時間	421					

(注) 基準値は、「パンジー花壇苗」の徳島県に於ける平成16年度版経営指標

6. 経営分析

部 門	比率名	計算式	単 位	H 年 月期	H 年 月期	H 年 月期	全国指標
収 益 性	農業収益指数	当期農業収益					
		3ヵ年当初期農業収益	%				—
	経営資本対農業所得率	農業所得					
		経営資本	%				—
		農業所得(農業収益-農業経営費)					
	農業収益対農業所得率	農業収益	%				35.0%
	販売費・管理費比率	販売費・管理費					
		農業収益	%				—
安 定 性	固定比率	固定資産					
		自己資本	%				—
	固定長期適合率	固定資産					
		自己資本+長期借入金	%				—
	流動比率	流動資産					
		流動負債	%				—
	当座比率	当座資産					
		流動負債	%				—
	総資本對自己資本比率	自己資本					
		総資本	%				—
生 産 性	農業収益対支払利息比率	支払利息-受取利息					
		農業収益	%				—
	農業労働1時間当たり	農業所得					円
		農業労働時間	円				980
	作付面積10a当たり	農業所得	千円				千円
		作付面積(a)÷10	円				937
資 金 繰 り							
	農業固定資本回転率	農業収益 固定資産	回				1.0
	借入金月商倍率	短期借入金+長期借入金 農業収益÷12					—
評 価							

※全国指標は、「平成17年版 農林水産統計：施設花き作部門」平均値

○収益性

○安定性

○生産性

○資金繰り

○総合

7. 経営力チェックリスト

(5,3,1 のいずれかに○印をつけてください)

1. 経営者		得点		
①	経営目標や経営方針は毎年見直してレベルアップを図っていますか	5	3	1
②	外部環境の変化に積極的に取り組み、現状改革に努めていますか	5	3	1
③	経営理念や将来像などを文書にして内部構成員に明示していますか	5	3	1
④	経営規模拡大や収益向上を目指し、販売先、流通方法などマーケティングに積極的に取り組んでいますか	5	3	1
⑤	生産履歴公表に努めていますか	5	3	1
⑥	家族経営型から雇用経営型へと転換し、作業管理は従業員に任せ、経営者は労務管理や販売などに重点をおいて取り組んでいますか	5	3	1
⑦	経営問題について専門家やJA指導員と相談して解決を図っていますか	5	3	1
⑧	養液栽培では廃水管理・土壌汚染対策など環境保全に積極的に取り組み、肥料の節約や省資源に努めていますか	5	3	1
⑨	後継者対策・雇用対策に取り組んでいますか	5	3	1
⑩	地域社会や集落営農組織との連携に努め共存共栄を図っていますか	5	3	1
得点計 ()				

2. 経営基本		得点		
①	経営目標・経営計画（長期・短期）を樹立していますか	5	3	1
②	全ての業務に PDCA（計画・実施・チェック・改善行動）サイクルを実施していますか	5	3	1
③	地域の特性や立地に合わせた栽培構成になっていますか	5	3	1
④	ハウスは年間を通じて有効に活用していますか	5	3	1
⑤	新技術や経営情報の習得に努め経営改善に活かしていますか	5	3	1
⑥	気象条件に対して省力化やノウハウの導入で生産性向上に努めていますか	5	3	1
⑦	常に経営資源（土地・労働力・農業投資）の有効活用を考慮していますか	5	3	1
⑧	パソコンによる事務記帳・作業日誌による経営分析を行っていますか	5	3	1
⑨	生産高・損益・生産性を品目別に把握して業績向上に活用していますか	5	3	1
⑩	資金調達・省力化投資などの資金運用計画は立てられていますか	5	3	1
得点計 ()				

3. 販売管理		得点		
①	経営目標に沿って生産・販売計画を立てていますか	5	3	1
②	市場情報を的確につかみ、販売・生産に反映させていますか	5	3	1
③	過去の各々の販売実績を分析して、新しい販売計画を立てていますか	5	3	1
④	販売高の動向について、その原因分析を行っていますか	5	3	1
⑤	販売経路・販売促進・販売方法を考慮していますか	5	3	1
⑥	販売先との情報交換を分析して改善策を行っていますか	5	3	1
⑦	来園者のニーズや意見を農園の経営に活かしていますか	5	3	1
⑧	販売価格と生産費を常に意識して改善していますか	5	3	1
⑨	競争相手と比較して品質・価格をつかみ対抗戦略を考えていますか	5	3	1
⑩	JA 共販・市場外販売など出荷形態は適切ですか	5	3	1
得点計 ()				

4. 生産管理		得点		
①	生産計画は、長期計画・短期計画別に立てられていますか	5	3	1
②	生産計画は、生産・販売・労務の関係担当者（部門）が合議して作成されていますか	5	3	1
③	マーケット動向や消費者ニーズを考慮した生産計画になっていますか	5	3	1
④	作目別の年間作業標準は作られ、それを守っていますか	5	3	1
⑤	ポジティブリスト制度の施行に対応して、農薬の管理体制の強化に努めていますか	5	3	1
⑥	地力に対して肥料の投入量を検討し、実施していますか	5	3	1
⑦	作目は自然や経済条件（環境）の特性を活かしていますか	5	3	1
⑧	適期作業・適期管理が行われていますか	5	3	1
⑨	農業機械の導入活用（自家用・委託）は、適切ですか	5	3	1
⑩	ベット式・養液栽培などの成功例を参考にしていますか	5	3	1
得点計 ()				

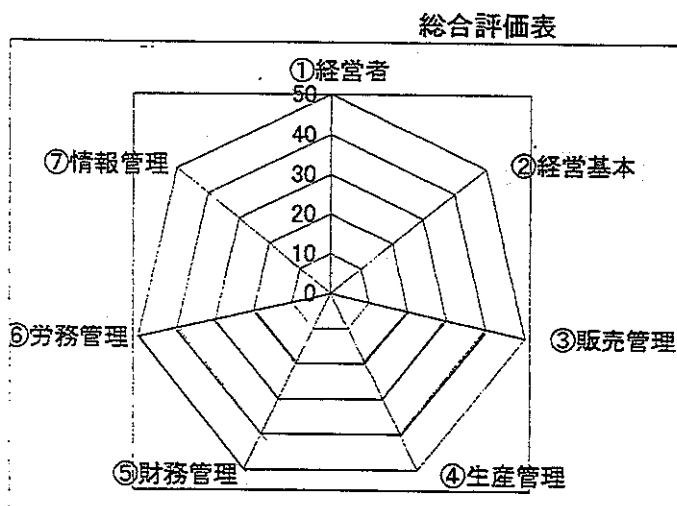
5. 労務管理		得点		
①	希望通りの採用ができるよう対策を講じていますか	5	3	1
②	新入者や未熟練者に対して教育は充分実施していますか	5	3	1
③	目標労働時間があり1日8時間・年間1800時間に近づいていますか	5	3	1
④	就業規則や家族協定があり、よく守られていますか	5	3	1
⑤	労災・社会保障・雇用保険に加入していますか	5	3	1
⑥	家族・雇用者の年1回健康診断は実施していますか	5	3	1
⑦	従業員の福利厚生にも充分力を入れていますか	5	3	1
⑧	作業者の安全衛生基準があり、これが適切に実行されていますか	5	3	1
⑨	給与は社会的水準に比較して高い方ですか	5	3	1
⑩	意思の疎通・苦情処理にも努めて風通しのよい職場の雰囲気ができていますか	5	3	1
得点計 ()				

6. 財務管理		得点		
①	経営と家計の区分が適切に行われていますか	5	3	1
②	複式簿記による記帳を行っていますか	5	3	1
③	現金と預金の残高チェックが適切に行われていますか	5	3	1
④	資金繰り表作成の上借入金返済計画は適正ですか	5	3	1
⑤	青色申告を行っていますか	5	3	1
⑥	短期借入金に対する支払い能力は十分ありますか	5	3	1
⑦	固定資産を購入するために短期借入金をつぎ込んでいませんか	5	3	1
⑧	受取手形や売掛金が売上高に対して過大ではありませんか	5	3	1
⑨	借入資金と自己資本のバランスは適当ですか	5	3	1
⑩	利益目標達成のための財務分析を十分行っていますか	5	3	1
得点計 ()				

7. 情報管理		得点		
①	合理的な販売活動のために、市場調査・分析を行っていますか	5	3	1
②	常に消費者の声を聞くことに心掛けていますか	5	3	1
③	商品と共に生産者の声を消費者に届けていますか	5	3	1
④	商品に対するクレームを整理し、生産・販売に活かしていますか	5	3	1
⑤	顧客名簿を作成していますか	5	3	1
⑥	顧客名簿は定期的に整理していますか	5	3	1
⑦	顧客と意思疎通を定期的に行っていますか	5	3	1
⑧	広告活動(チラシ・DM等)を行っていますか	5	3	1
⑨	消費者に本当に必要な情報を発信していますか	5	3	1
⑩	顧客名簿の保全は万全ですか	5	3	1
得点計 ()				

- ・チェック日(平成 年 月 日) チェック者()
- ・企業名 ()
- ・採点基準
- | | | |
|---|-----|------------------|
| 5 | --- | 充分な状態 |
| 3 | --- | 実施しているが充分といえない状態 |
| 1 | --- | 実施していない、当てはまらない |

8. 総合評価(レーダーチャート)



8. SWOT 分析

◎経営の強み (S)

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

◎経営の弱み (W)

→

対応策

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

◎経営に対する順風 (O)

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

◎経営に対する逆風 (T)

→

対応策

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

9. 問題点の抽出と改善事項の提案

管理部門	問題点	改善事項	定期的 フォロー
経営全体	① ② ③		
経営者	① ② ③		
経営戦略	① ② ③		
生産	① ② ③		
販売	① ② ③		
財務	① ② ③		
労務	① ② ③		
情報	① ② ③		
その他			

10. 経営目標

A. 数値目標

(単位：千円,%)

	実績直近期 年 月期	目標 1 年後 年 月期	目標 2 年後 年 月期	目標 3 年後 年 月期	目標 4 年後 年 月期	目標 5 年後 年 月期
農業粗収益① (前年比)						
農業経営費② (前年比)						
農業所得 ③=①-② (農業所得率)						
生産性 (時間当たり) (面積当たり)						
借入金返済額 返済剰余金 (農業所得③ +減価償却費 -生活費)						
従業者数 (雇用者数)	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)	人 (人)
その他 年間労働時間 家族労働時間 雇用労働時間						

B. 項目別目標

	実績直近期 年 月期	目標 1 年後 年 月期	目標 2 年後 年 月期	目標 3 年後 年 月期	目標 4 年後 年 月期	目標 5 年後 年 月期
土地の確保						
施設の拡張						
資金計画						
販路拡大						
その他 目標達成のため の経営戦略						

第3章 果樹作の診断実務マニュアル

1. 果樹作経営予備調査表

農業経営診断予備調査書 (1-1)

(果樹作)

栽培品目 ()

診断希望事項					
1. 経営者の概要	認定農業者	第1回認定日 平成 年 月 日 年 月		元入金 千円	
	エコファーマー	認定日 平成 年 月		従業者数	
	所在地	〒 市 区 町 丁目 番 号		事業主 男 人 女 人	
	代表者名	(年齢)		従業員 男 人 女 人	
	就業年数	S・H 年 月 ・ 就業後 年		家族 男 人 女 人	
	集落組織参加	①S・H 年参加②参加考慮中③参加未定		パート(8時間計算) 男 人 女 人	
	集団栽培	①有り ・ ②無し		計 男 人 女 人	
	経営の業態	①単一経営 ・ ②複合経営 ()		作業時間 ①1日当り平均 ②年間	
2. 生産部門該当に○印	(1) 耕種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作			
		④豆類作 ⑤芋類作 ⑥飼料作			
		⑦工芸作物作 () ⑧施設野菜作			
		⑨露地野菜作 ⑩果樹作			
		⑪施設花き作 ⑫露地花き作			
		⑬その他 ()			
		(2) 畜産	①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他		
	(3) 養蚕	①養蚕			
(4) 加工	①農産物加工 (品名)				
	②畜産物加工 (品名)				
	③林産加工 (品名)				
3. 農業経営の現状と計画	◆作目・作型	作物面積	生産量		
	①露地園	畝	トン		
	②温室ハウス	畝 棟			
	③雨どいハウス	畝 棟			
	④				
	面積 ไร่ 合計	畝	トン		
	◆経営耕地	地目	面積		
	①所有地	畑・水田・果樹園	畝		
4. 生産方式	◆機械・施設	形式・性能	台数・面積等		
	①				
	②				
	③				
	④				
	果樹園の現状	①平坦地 %	②傾斜地 %・ 畝	③ハウス棟数 棟・ 畝	
	6. 栽培法 (あなたの栽培作型に○印をつける)				
	(1)露地栽培 (2)マルチ栽培 (3)トンネル栽培 (4)パイプ栽培 (5)ハウス内・トンネル栽培 (6)雨よけハウス (7)防除ネットのトンネル栽培 (8)施設栽培 ①ハウス土耕灌水式 (加温・無加温) ②ハウス養液土耕式 ③ハウス養液栽培式 養液水耕栽培 灌漑型水耕 NFT 型水耕 固形培地耕栽培 ロックウール式 ポリウレタン パーライト耕 くん炭耕				
7. 安心安全への取組み課題					
(1) 化学合成農薬を慣行の50%以上減らす (2) 化学肥料を慣行の50%以上減らす (3) 農薬の名称・用途及び使用回数を表示する (4) 性フェロモン材等誘引剤を使用した旨を表示する (5) 天敵を使用した旨 (名称) を表示する (6) 特定防除資材を使用した旨 (名称) を表示する (7) 化学肥料(50%以下) の用途及び窒素性分量(10aあたり)を表示					
8. 作業記録・日誌の有無					
(1) 栽培工程毎の記録 (時間・内容・方法等) 有無 (2) 防除・施肥記録 (名称・使用料・回数)					
◆生産方式の特色					

農業経営診断予備調査書 (1-2)

〈果樹作〉

栽培品目 ()

10. 販売関係の現状と方針	<p>(1) 消費客のニーズ把握 ①している ②していない</p> <p>(2) 対象とする客層を ①決めている ②決めていない</p> <p>(3) 直販の場合の顧客名簿 ①有 ②無</p> <p>(4) 販売計画 ①有 ②無</p> <p>(5) 計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い</p> <p>(6) 達成しない理由</p> <p>(7) 代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 %</p> <p>(8) 販売上の問題点</p> <p>(9) 今後の販売方針戦略の課題</p>	<p>(10) 農産物の部門別・生産量と販売額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生産品目</th> <th>生産量(%)</th> <th>販売額(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計</td> <td>トッ (100%)</td> <td>千円 (100%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(11) 流通(販売)先の割合 %</p> <p>①農協・市場 %</p> <p>②契約栽培 %</p> <p>③スーパー・外食 %</p> <p>④直販・朝市等 %</p> <p>⑤観光果樹園 %</p> <p>計 (100%)</p>	生産品目	生産量(%)	販売額(%)	①			②			③			④			⑤			計	トッ (100%)	千円 (100%)
生産品目	生産量(%)	販売額(%)																					
①																							
②																							
③																							
④																							
⑤																							
計	トッ (100%)	千円 (100%)																					
11. 財務会計	<p>(1) 複式簿記 (パソコン活用 有・無)</p> <p>(2) 借入金の内訳</p> <p>①政府系金融機関 (公庫) 千円</p> <p>②民間金融機関 () 千円</p> <p>計 千円</p> <p>(3) 利益計画 有・無</p> <p>(4) 計画達成 した・しない</p> <p>(5) 資金繰表 有・無</p>	<p>(6) 借入金の投資内容</p> <p>(7) 利益計画達成の課題</p>																					
12. 人事・労務関係	<p>(1) 人手 ①十分 ②普通 ③不足</p> <p>(2) 家族協定書 有・無</p> <p>(3) 就業規則(法人) 有・無</p> <p>(4) 給与規定(法人) 有・無</p> <p>(5) 退職規定(法人) 有・無</p> <p>(6) 健康保険 有・無</p> <p>(7) 福利厚生 有・無</p> <p>(8) 安全衛生規則 有・無</p>	<p>(9) 経営組織図 (作業分担図)</p>																					
13. 各種マニュアルの整備	<p>(1) 品質基準マニュアル 有・無</p> <p>(2) 果樹作業マニュアル 有・無</p> <p>(3) 土壌・施肥マニュアル 有・無</p> <p>(4) 選果・調整マニュアル 有・無</p> <p>(5) 加工衛生管理マニュアル 有・無</p> <p>(6) 機械作業安全マニュアル 有・無</p> <p>(7) その他</p>	<p>★ 経営上の問題点 (該当に○印)</p> <p>① 従業者の高齢化 ⑥ 園地の古樹齢化</p> <p>② 担い手の雇用困難 ⑦ 生産効率の低下</p> <p>③ 樹園基盤整備の遅れ ⑧ 生産コストの増加</p> <p>④ 機械化の遅れ ⑨ 単位生産量の減少</p> <p>⑤ 防除費の増加 ⑩ 商品価格の低下</p>																					

診断調査表(2)

〈果樹作〉

栽培品目()

10. 農業経営の沿革 (面積・受. 委託面積の拡大・機械化の導入レベル・販売先の部門等) (1) 経営規模の推移と内容… (2) 栽培方式の転換等の経過… (3) 現在の経営規模と生産方式… (4) 現在の経営の特色…						
11. 経営コンセプト (該当に○印) (1) 食の安心・安全を基本コンセプトにして栽培している ①いる ②いない (2) 販売先(納入)を決めて栽培している ①いる ②いない ③一部は契約栽培してる (3) 無・減農薬。有機栽培している ①いる ②いない ③一部はしている (4) 省力化・機械化を導入して効率を図っている ①いる ②いない ③まだ不十分 (5) ISO14001. 9001. 2200・GAP ①導入済み() ②検討中()						
12. 果樹園の樹齢		① ~5年-a ② 6~10年-a ③ 11~15年-a ④ 16~20年-a ⑤ 21~30年-a ⑥ 31~ -a 計 -a				
13. 果樹別収穫量 ★①露地栽培・②~⑤に作物名を記入・⑤はハウス栽培						
項目	①みかん	②	③	④	⑤	年間計
栽培面積	畝	畝	畝	畝	畝	畝
うち借地	畝	畝	畝	畝	畝	畝
収穫量	トン	トン	トン	トン	トン	トン
割合%	%	%	%	%	%	100%
目標10%収穫量	畧	畧	畧	畧	畧	畧
単価目標	円	円	円	円	円	円
14. 果樹園新植・改植・廃園の状況				16. 栽培果樹の品種		
年度	新植	改植	廃園	① 現在の品種と特徴		
H 1年	畧	畧	畧			
H 10年	畧	畧	畧			
H 15年	畧	畧	畧			
H 年	畧	畧	畧			
H 年構成比	%	%	%			
品種名				② 新植・改植を計画中の品種と特徴		
15. 現在の栽培方法の特色と改善計画				③ 新品目の栽培計画		
① 特色						
② 改善計画						

農業経営診断予備調査表 (3)

〈果樹作〉

栽培品目 ()

販売戦略の課題		(該当に○印)
(1) 外部環境変化に対応する販売戦略・方針	有 () 無	
(2) 新品種の開発導入・消費者へ情報発信で販売戦略に活用	有 () 無	
(3) 商品(優良品種)の差別化推進の取り組み	有 () 無	
(4) 消費者へ果実の栄養情報の発信	有 () 無	
(5) 消費者・小売店に対する商品情報の積極的提案	有 () 無	
(6) 市場外流通の促進強化(地産地消・学校給食・フーズンに出荷)	有 () 無	
(7) 卸売業・小売業者との情報交流を行っている	有 () 無	
(8) 消費者ニーズや苦情を収集し、積極的に改善対応	有 () 無	
(9) 生産・流通供給体制の見直し(輸出も検討)	有 () 無	
(10) 品質管理マニュアル・出荷規定に基づく日持ち確保の出荷	有 () 無	
(11) 生産のコストダウンを推進し、同品質の価格競争に対応	有 () 無	
(12) その他の対策 ()	有 () 無	

経営の外部対策	(該当に○印)
(1) 資材購買対策(コスト見積を重視)	(ア) 積極的に実施 (イ) 普通 (ウ) 無い
(2) 消費需要者対策(ニーズ品目・品種に転換)	(ア) 積極的に実施 (イ) 普通 (ウ) 無い
(3) 小売店・卸売業・市場対策(集中出荷しない)	(ア) 積極的に実施 (イ) 普通 (ウ) 無い
(4) 競争相手対策(高品質の育成導入)	(ア) 積極的に実施 (イ) 普通 (ウ) 無い

経営の内部対策	(該当に○印)
(1) 経営規模の拡大・傾斜園地の整備	(ア) 現状維持 (イ) 拡大化
(2) 生産品目・品種の再検討・ブランド化	(ア) する (イ) しない
(3) 栽培管理技術の見直し(安心・安全・導入新技術)	(ア) する (イ) しない
(4) 作業改善・省力化機械の導入(労働1,800時間の対応)	(ア) する (イ) しない
(5) 観光農園・直売所の開設で果樹に対する安心安全のPR	(ア) 開設する (イ) しない
(6) 加工品の開発・販売による果樹・健康の促進	(ア) 開発・販売 (イ) しない
(7) 労務管理の改善	(ア) する (イ) しない

作業別労働時間調査表 (4-1)

作目名 も も (露地栽培)

〈作業別・時期別労働時間10%当り〉

区 分	基準値	H 年	H _レ 年	批%	摘 要
	A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	C÷A×100	
(1) 作付け面積	%	%	%		
(2) 延作業人数 () 内雇人数	人 人				人 (人)
(3) 労働時間合計 () 1人当り労働時間	237.0 時間				時間
① 育苗労働時間	0 時間	時間	時間		
② 本舗労働時間計	155.0 時間	-			
播種・定植	22.0				
摘蕾・摘果	32.0				
施肥・中耕	16.0				
防除	14.0				
灌水	3.0				
有機物投入	8.0				
防風垣整備	8.0	-			
袋かけ	52.0				
③ 間接労働時間計	82.0 時間				
収穫	37.0				
貯蔵・出荷	45.0				
選果・箱詰め					
④ その他 時間計	0 時間				
研修等					
その他	8.0				
(4) 労働時間区分	237.0 時間				
①家族労働（男女2人）	237.0				
②雇 用（女 人）					

社団法人 中小企業診断協会

作業別労働時間調査表 (4-2)

作目名 な し (露地栽培)

〈作業別・時期別労働時間10㇏-当り〉

区 分	基準値	H 年	H、年	概%	摘 要
	A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	C=A×100	
(1) 作付け面積	1.0 畝	畝	畝		
(2) 延作業人数 ○ 内雇人数	7人 5人				人 (人)
(3) 労働時間合計 ○ 1人当り労働時間	351.0 時間				時間
① 育苗労働時間	0 時間	時間	時間		
② 本舗労働時間計	243.0				
誘引・棚つけ	76.0				
防除	23.0				
摘つぼみ・摘果・摘心	48.0				
施肥	16.0				
中耕	12.0				
除草	8.0				
灌水	20.0				
袋かけ	40.0				
③ 間接労働時間計	108.0				
収穫	72.0				
調整					
選果・箱詰め	36.0				
④ その他 時間計	0				
研修等					
その他					
(4) 労働時間区分					
① 家族労働 (男女2人)					
② 雇 用 (女 人)					

社団法人 中小企業診断協会

作業別労働時間調査表 (4-3)

作目名 いちじく (露地栽培)

〈作業別・時期別労働時間10%当り〉

区 分	基準値	H 年	H 年	比率%	摘 要
	A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	C=A×100	
(1) 作付け面積	3.0 畓	畓	畓		
(2) 延作業人数 ○ 内雇人数	2 人 0 人				人 (人)
(3) 労働時間合計 ○ 1人当り労働時間	402.0 時間				時間
① 育苗労働時間	0 時間	時間	時間		
② 本舗労働時間計	146.0				
剪定	8.0				
芽かき	28.0				
摘心	8.0				
摘葉	11.0				
支柱・誘引	24.0				
土壌・水分管理	21.0				
防除	27.0				
施肥け	19.0				
③ 間接労働時間計	256.0				
収穫・出荷	256.0				
調整					
選果・箱詰め					
④ その他 時間計	0				
研修等					
その他					
(4) 労働時間区分					
① 家族労働 (男女2人)					
② 雇 用 (女 人)					

社団法人 中小企業診断協会

作業別労働時間調査表 (4-4)

作目名 う め (露地栽培)

〈作業別・時期別労働時間10分当り〉

区 分	基準値	H 年	H 年	概%	摘 要
	A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り		
(1) 作付け面積	1.0 畓	%	%		
(2) 延作業人数 ○ 内雇人数	2人 0人				人 (人)
(3) 労働時間合計 ○ 1人当り労働時間	111.0 時間				時間
① 育苗労働時間	0 時間	時間	時間		
② 本舗労働時間計	47.0				
整枝・剪定 (せん定)	30.0				
施肥	8.0				
除草	4.0				
防除	5.0				

社団法人 中小企業診断協会

収益・費用調査表 (5-1)

作目名 も も (露地栽培)

(単位: kg、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対比 %	摘 要
		A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	$C \div A \times 100$	
粗 収 益	生産量	2,300				
	販売単価	566				
	生産額	1,301,800				
	副産物収入	0				
	合 計	1,301,800				
経 営 費	変 動 費	種苗費	0			①
		肥料費	25,894			
		農薬費	48,528			
		光熱動力費	26,850			
		諸材料費	0			
		小農具費	3,183			
		賃料料金	0			
		雇用労費	0			
		水利費	4,000			
		その他	0			
		計	414,184			
	出 荷 経 費	資材費	522,640			
		運賃	23,911			
		手数料	73,388			
		その他	0			
		計	404,408			
	小 計		504,285			
	固 定 費	減価償却費	23,911			
		成園費・成畜費	73,388			
		借地料	0			
		修繕費	9,450			
		その他	0			
	小 計		106,749			
	合 計		629,389			②
成	農 業 所 得		672,411			③ = ① - ②
果	所 得 率		51.7%			③ ÷ ①
	労働1時間当り所得		2,837			③ ÷ T (円/時間)
	家族労働見積額		426,600			
	自己資本利子見積額		11,571			
	自己地代見積額		13,000			
	生産費(全額参入生産費)		1,080,559			④
	利潤		221,241			⑤ = ① - ④
	利潤率		17.0%			⑤ ÷ ①
	総労働時間(時間)		237			
	家族労働時間		237			T
	雇用労働時間		0			
	損益分岐点売上高					
	損益分岐点販売量					

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1%の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

社団法人 中小企業診断協会

収益・費用調査表 (5-2)

作目名 な し (露地栽培)

(単位: kg、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対比 %	摘 要
		A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	$C \div A \times 100$	
粗 収 益	生産量	3,000				
	販売単価	500				
	生産額	1,500,000				
	副産物収入	0				
	合 計	1,500,000				①
経 営 費	変 動 費	直 種苗費	0			
		肥料費	28,124			
		農薬費	40,889			
		接 光熱動力費	40,803			
		諸材料費	4,200			
		生 小農具費	2,500			
		賃料料金	0			
		産 雇用労費	12,580			
		水利費	1,000			
		費 その他	0			
		計	130,096			
	出 荷 経 費	資材費	235,000			
		運賃	20,400			
		手数料	20,640			
		その他	0			
		計	276,040			
	固 定 費	小 計	406,136			
		減価償却費	78,256			
		成園費・成畜費	46,123			
		借地料	0			
		修繕費	28,055			
		その他	0			
		小 計	152,434			
	合 計		558,570			②
成 果	農 業 所 得		941,430			③ = ① - ②
	所 得 率		62.8%			③ ÷ ①
	労働1時間当り所得		2,800			③ ÷ T (円/時間)
家族労働見積額		605,160				
自己資本利子見積額		18,193				
自己地代見積額		10,000				
生産費 (全額参入生産費)		1,191,924				④
利潤		308,076				⑤ = ① - ④
利潤率		20.5%				⑤ ÷ ①
総労働時間 (時間)		351				
家族労働時間		336				T
雇用労働時間		15				
損益分岐点売上高		209,043				
損益分岐点販売量		418				

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

社団法人 中小企業診断協会

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畝の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

収益・費用調査表 (5-3)

作目名 イチジク (露地栽培)

(単位: kg、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対比 %	摘 要
		A. 10%当り	B. 全 体	C. 10%当り	$C \div A \times 100$	
粗 収 益	生産量	3,000				
	販売単価	650				
	生産額	1,950,000				
	副産物収入	0				
	合 計	1,950,000				①
経 営 費	変 動 費	直 接 生産 費				
		種苗費	0			
		肥料費	37,910			
		農薬費	16,664			
		光熱動力費	2,970			
		諸材料費	27,400			
		小農具費	1,933			
		賃料料金	0			
		雇用労費	0			
		水利費	4,000			
		その他	9,000			
		計	99,877			
	出 荷 経 費	資材費	127,608			
		運賃	81,800			
		手数料	195,000			
		その他	0			
		計	404,408			
	小 計		504,285			
	固 定 費	減価償却費	69,438			
		成園費・成畜費	63,745			
		借地料	0			
		修繕費	23,339			
		その他	0			
	小 計		156,521			
	合 計		660,807			②
成 果	農 業 所 得		1,289,193			③ = ① - ②
	所 得 率		66.1%			③ ÷ ①
	労働1時間当り所得		3,207			③ ÷ T (円/時間)
家族労働見積額		723,600				
自己資本利子見積額		20,602				
自己地代見積額		10,000				
生産費 (全額参入生産費)		1,415,008				④
利潤		534,992				⑤ = ① - ④
利潤率		27.4%				⑤ ÷ ①
総労働時間 (時間)		402				
家族労働時間		402				T
雇用労働時間		0				
損益分岐点売上高						
損益分岐点販売量						

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

社団法人 中小企業診断協会

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畝の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

収益・費用調査表 (5-4)

作目名 う め (露地栽培)

(単位: kg、円、%)

項 目		基準値	H 年	H 年	対比 %	摘 要
		A. 10% 当り	B. 全 体	C. 10% 当り	$C \div A \times 100$	
粗 収 益	生産量	2,000				
	販売単価	320				
	生産額	640,000				
	副産物収入	0				
	合 計	640,000				①
経 営 費	変 動 費	直 種苗費	0			
		肥 肥料費	39,774			
		農 農薬費	26,114			
		接 光熱動力費	1,980			
		諸 諸材料費	700			
		生 小農具費	15,800			
		賃 賃料料金	0			
		雇 雇用労費	0			
		水 水利費	4,000			
		其 其他	0			
		計	880,368			
	出 荷 経 費	資 資材費	22,500			
		運 運賃	40,000			
		手 手数料	64,000			
		其 其他	0			
		計	126,500			
	小 計		214,868			
	固 定 費	減 減価償却費	17,969			
		成 成園費・成畜費	28,424			
		借 借地料	0			
		修 修繕費	6,350			
		其 其他	0			
	小 計		52,743			
	合 計		267,611			②
成 果	農 業 所 得		372,389			③ = ① - ②
	所 得 率		58.2%			③ ÷ ①
	労 働 1 時 間 当 り 所 得		3,355			③ ÷ T (円/時間)
家族労働見積額		199,800				
自己資本利子見積額		6,262				
自己地代見積額		13,000				
生産費 (全額参入生産費)		486,673				④
利潤		153,327				⑤ = ① - ④
利潤率		24.0%				⑤ ÷ ①
総労働時間 (時間)		111				
家族労働時間		111				T
雇用労働時間		0				
損益分岐点売上高						
損益分岐点販売量						

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

社団法人 中小企業診断協会

(注2) B欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畝の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

農業経営者認定目標調査表 (6-1)

栽培作物()

1. 経営理念							
2. 経営の特色							
3. 経営改善計画の達成状況							
項 目	A. 第一回認定時 (H 年 月)	B. 第 回現在 (H 年 月)		B/A 達成時			
(1) 営 農 類 型	花 き (露 地・施 設)						
(2) 経営改善の内容							
4. 農業経営規模拡大と達成率							
作 目 ・ 部 門	①作付面積(a)	生産量(本)	②作付面積(a)	生産量(本)	③/① 作付面積	③/② 生産量	
5. 収益性の目標と達成率							
収入・所得・利益 収 入 所 得 (専給含む) 所 得 (専給除く)	H 年認定時 冊	5年後の目標 冊	第2回 認定時(H 年) 冊	5年後の目標 %	H 年現状 冊	目標達成率 %	
売 上 高 営業利益 経常利益							

社団法人 中小企業診断協会

農業経営者認定目標調査表 (6-2)

栽培作目()

6. その他付帯事業等			
付帯事業の内容	認定時の状況	取り組事業 内容・状況	達成状況の課題
第1回(H 年)			
第2回(H 年)			
第3回(H 年)			
7. 生産施設の合理化状況(施設・機械等)			
項 目	第1回認定時(H 年)	現在の状況(H 年)	実施後の課題
面積 ・ 棟数 機 械 設 備			
8. 作目別生産方式の合理化			
作 目 名	第1回認定時(H 年)	計画の現状(H 年)	現状の改善課題
(1)			
(2)			
(3)			
(4)			
花き以外の作目			

社団法人 中小企業診断協会

農業経営者認定目標調査表 (6-3)

栽培作物目()

9. 農業従事者の労務等目標と現状			
項 目	第1回認定時 (H 年)	現 状 (H 年)	● 将来目標コメント
年間実務日数	本人 日 家族 人 日 常時雇用者 人 日 臨時雇用者 人 日 実習生 人 日	日 人 日 人 日 人 日 人 日	
年間労働時間	本人 時間 家族 時間 常時雇用者 時間 臨時雇用者 時間 実習生 時間	時間 時間 時間 時間 時間	
①各種作業の有無 ②労働条件通知書 ③雇用契約書 ④国民健康保険 ⑤農業者年金 ⑥労災保険 ⑦雇用保険 ⑧小規模共済保険 ⑨家族協定書 ⑩福利厚生施策の状況	有 無 有 無 加 入 ・ 未加入 加 入 ・ 未加入 (5人以下)加入 ・ 未加入 (5人以下)加入 ・ 未加入 有 無 有 無	有 無 有 無 加 入 ・ 未加入 加 入 ・ 未加入 加 入 ・ 未加入	
10. 経営管理の合理化目標と現状			
項 目	第1回認定時 (H 年)	現 状 (H 年)	● 将来目標コメント
①青色申告書 ②単式簿記の記帳 ③複式簿記の記帳 ④パソコン簿記記帳 ⑤パソコン活用分野 ⑥サイクル管理の実施 (PDCAサイクル) ⑦その他の取組み課題	有 無 有 無 有 無 有 無 作業記録・各種データ管理 作業記録・各種データ管理	有 無 有 無 有 無 有 無 作業記録・各種データ管理 作業記録・各種データ管理	
今後の取組み課題			

社団法人 中小企業診断協会

栽培体系調査表 もも (日川白鳳) 1.0 号

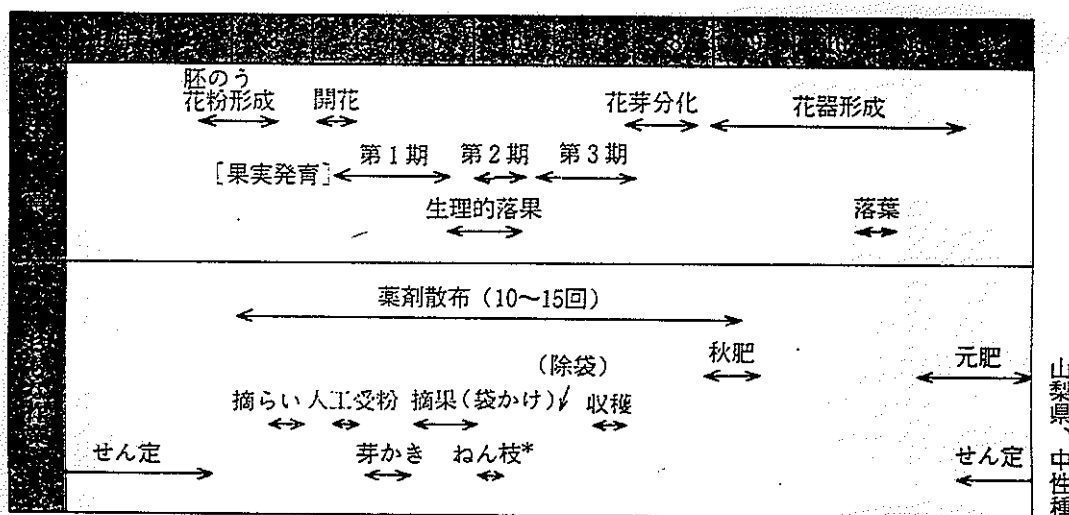
(7-1)

<労働力 家族2人・臨時雇用0>

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ			○ 開花	→		→						落葉
主要作業名				施肥	袋かけ	施肥	収穫	施肥		施肥		

② もも栽培体系(受診農園の場合)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ												
主要作業名												



* 枝を強くひねって徒長を抑え、枝の充実をはかる。

参考文献 図解果樹(発行・農業図書)

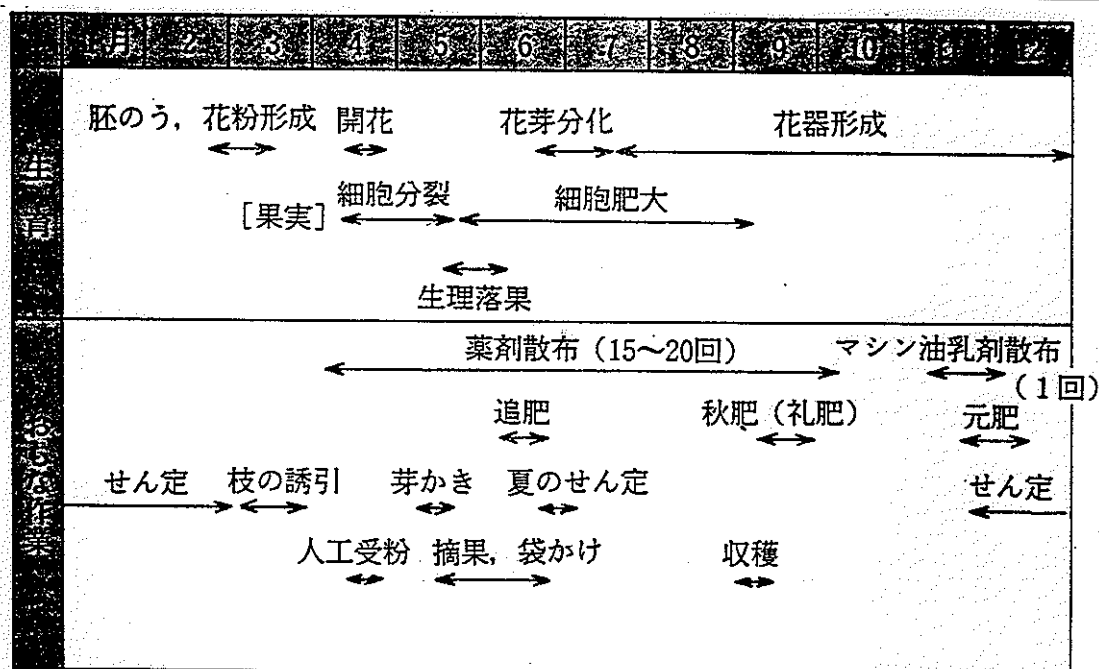
栽培体系調査表 なし (幸水・豊水) 1.0 第

(7-2)

<労働力 家族2人・臨時雇用 女5人>

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ				○ 開花				□			落葉	
主要作業名	せん定				摘果・施肥	袋かけ 施肥	灌水	収穫	施肥		施肥	

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ			○ 開花			□						落葉
主要作業名				施肥	袋かけ 施肥	収穫		施肥		施肥		



参考文献 図解果樹(発行: 農業図書)

栽培体系調査表 いちぢく 0.3 畝

<労働力 家族2人・臨時雇用0人>

(7-3)

・植栽間隔2.5m×3.0m・25段摘葉栽培

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ				△ 発芽								落葉
主要作業名		せん定	施肥	施肥				収穫開始・摘葉	施肥	施肥	収穫終了	貯蔵

(受診農園の場合)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ												
主要作業名												

	品 種	果実の 大きさ	果 形	果皮色	品質	収 穫 期	備 考
夏 専用	ビオレードフィン サンベドロホワイト	大 中	短 卵 円	暗紫褐 帯黄緑	極上 極上	6月下旬～7月上旬 6. 下～7. 中	フランス原産 自然落果が多い
秋 専用	達 菜 柿 セ レ ス ト	中 小	短卵円 長卵円	帯赤紫 紫 褐	中 極上	9. 上～11. 上 8. 上～10. 下	在来種、耐寒性大 耐寒性大、乾果用
夏秋 果兼用	マスイドーフィン ブラウンターキー ホワイトゼノア	大 中 大	長 卵 卵 円 長 卵	帯緑 紫 褐 淡 褐	中 中 上	夏果 7. 上～8. 上 秋果 8. 中～10. 下 夏果 6. 下～7. 下 秋果 8. 下～10. 下 夏果 7. 中 秋果 8. 中～10. 中	アメリカ・カリフォルニア 州から導入、耐輸送性大 耐寒性大

参考文献 図解果樹(発行:農業図書)

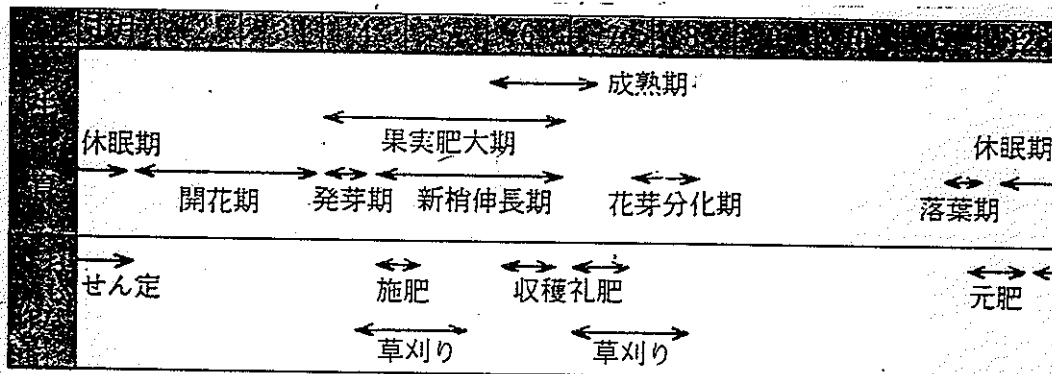
栽培体系調査表 うめ 1.0 号

<労働力 家族2人・臨時雇用0人>

(7-4)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ		○ 開花				□						落葉
主要作業名				施肥	施肥	収穫	施肥			施肥		せん定

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ												
主要作業名												



参考文献 図解果樹(発行・農業図書)

経営分析表 (8-1)

〈果樹作経営全体〉

部門	No	項目	判定	単位	全国平均 (H16) A	県平均 B	H 年 C	H 年 D	D/A・B	備考
農業 収支	1	農業粗収益	大	千円	4,291					
	2	農業経営費	小	千円	2,551					
	3	農業所得	大	千円	1,740					
分析 指標	4	農業所得率	大	%	41.2					
	5	付加価値額	大	千円	2,045					
	6	付加価値率	大	%	46.2					
	7	農業固定資産 装備率	大	円	2,517					
収益 性	8	農業経営関与者 1人当り農業所得	大	千円	796					
	9	農業経営関与者 1人当り総所得	大	千円	2,146					
	10	農業専従者 1人当り農業所得	大	千円	1,899					
	11	家族農業労働 1時間当り所得	大	円	694					
	12	農業固定資産 千円当り所得	大	円	255					
	13	果樹植栽面積 10a当り所得	大	千円	205					
生産 性	14	自営農業労働 1時間当たり	大	円	719					
	15	農業固定資産 千円当たり	大	円	286					
	16	果樹植栽面積 10a当たり	大	円	230					
経営 概況	17	月平均農業経営 関与者数	—	人	2.29					
	18	経営耕地面積	—	a	146					
	19	自営農業労働時間	小	時間	2,845					
	20	家族労働時間(ゆい含む)			2,626					

※ 全国平均値は農水省H16年度統計による。

社団法人 中小企業診断協会

経営分析表 (8-2)

〈なし作経営〉

部門	No	項目	判定	単位	全国平均 (H16) A	県平均 B	H 年 C	H 年 D	D/A・B	備考
農業 収支	1	農業粗収益	大	千円	4,644					
	2	農業経営費	小	千円	2,479					
	3	農業所得	大	千円	2,165					
分析 指標	4	農業所得率	大	%	39.6					
	5	付加価値額	大	千円	2,405					
	6	付加価値率	大	%	44.3					
	7	農業固定資産 装備率	大	円	1,680					
収益 性	8	農業経営関与者 1人当り農業所得	大	千円	907					
	9	農業経営関与者 1人当り総所得	大	千円	1,999					
	10	農業専従者 1人当り農業所得	大	千円	1,547					
	11	家族農業労働 1時間当り所得	大	円	630					
	12	農業固定資産 千円当り所得	大	円	349					
	13	果樹植栽面積 10a当り所得	大	千円	236					
生産 性	14	自営農業労働 1時間当たり	大	円	657					
	15	農業固定資産 千円当たり	大	円	391					
	16	果樹植栽面積 10a当たり	大	円	264					
経営 概況	17	月平均農業経営 関与者数	—	人	2.37					
	18	経営耕地面積	—	a	185					
	19	自営農業労働時間	小	時間	3,663					
	20	家族労働時間(ゆい含む)			2,994					

※ 全国平均値は農水省H16年度統計による。

社団法人 中小企業診断協会

経営の成長目標 (9)

〈果樹作〉

(設立項目に記入)

1. 目 標		平成 年A	平成 年	平成 年	平成 年	平成 年B	B/A×100
(1) 目 標 収 量							
(2) 販 売 目 標 (中・長期)							
(3) 利 益 目 標 (中・長期)							
(4) 規 模 目 標 (作付け面積等)							
(5) 生産額 目 標 (合計額 万円)							
2. 目標達成のための戦略							
平成 年現在	作付面積	生産額万円					
① 花き作部門							
② 麦作部門							
③ 豆作部門							
④ 野菜部門							
⑤ その他部門							
3. 労働力(正・パート)		人	人				
(1) 年間労働 1,800時間実現目標年度							
(2) 農業所得 800万円以上実現目標年度							
(3) マーケティング志向に対応するブランド品づくり(例)果実入り豆乳ゼリー							
(4) 技術革新							
① 省力化							
② 栽培方法							
③ 作業工程							
④ 加工部門							
⑤ その他							
(5) 販売方針							
① 方針の転換							
② 販売チャネル							
(6) 資本金・運営資金の調達							
① 使 途							
② 調達先							
(7) 組織体制の見直し							
(8) 雇用と労働環境の整備				現組織図			

問題点と改善課題 (10)

果樹作目 ()

H 年 月 日

	項 目	問 題 点 改 善 課 題	重要度
経営基本	経営理念の徹底		
	環境保全		
	各種マニュアル		
	経営の計画性		
	P D C A の実施		
	G A P 導入		
生産	新品種の導入・改植		
	高品質化（ブランド化）		
	生産高の目標		
	生産コストの目標		
	栽培基準の有無		
	農業機械の活用		
販売	直売の取組み		
	加工業との連携		
	物流コスト・効率化		
	高品質果実の供給		
	光センサー選果		
	販売戦略		
財務	パソコンの活用		
	費用と収益		
	収益性		
	安全性		
	生産性		
	成長性		
労務	担い手の年代		
	労働時間 1.800		
	労災・雇用保険		
	オペレーターの確保		
	安全衛生基準有無		
	省力化の導入		

社団法人 中小企業診断協会

農業経営SWOT分析表 (11)

診断企業名

診断報告日

SWOT分析と課題

作成者名

①外部環境(外部環境の機会と脅威)分析

	機会 Opportunity	脅威 Threat
立地		
競合性		
消費者志向		

②内部(内部の強みと弱み)分析

		強み Strength		弱み Weakness	
		量	質	量	質
力 ネ	キャッシュ フロー				
	自己資本 比率				
	不動産				
モ ノ	栽培地 (生産・品 揃え)				
		強み Strength		弱み Weakness	
		量	質	量	質
ヒ ト	生産				
	労務				
	店舗				
情 報	什器 活用力				
	生産				
	販売				

社団法人 中小企業診断協会

損益分岐点分析－果樹（12）

収益・費用調査表の損益分岐点売上高・販売量の試算（10a 当り）

ここでは農業所得を除いた場合である。従って農業所得（10a 当り）を含めた損益分岐点売上高・販売量は、同調査表に記載されている、生産額（販売額）及び生産量（販売量）である。

果樹「なし」（露地栽培）の損益分岐試算（10a 当り）

農業所得（10a 当り）941,430 円

$$1. \text{ 農業所得を除いた損益分岐点売上高} = 1 - \frac{\text{固定費}}{\text{変動費}} \times \text{売上高}$$

(1) 収益・費用調査表（5－2）

$$\begin{aligned} &= 152,434 \text{円} \div \left(1 - \frac{406,136}{1,500,000}\right) \\ &= 152,434 \text{円} \div (1 - 0.271) \\ &= 152,434 \text{円} \div 0.729 \\ &= \underline{209,043 \text{ 円}} \end{aligned}$$

(2) 農業所得700万円を得る損益分岐点売上高の試算

調査表10a 当りの農業所得は、941,430 円であるので（調査表参照）栽培面積50a の場合は、4,707,150円である。農業所得を他産業並の所得700万円を実現する損益分岐点売上高は、分母を「固定費＋2,292,850円」として試算する。

損益分岐点売上高は、¥3,353,379円となる。

$$\begin{aligned} &\text{農業所得700万円の試算} \\ &= (152,434 + 2,292,850) \div \left(1 - \frac{2,030,682}{7,500,000}\right) \\ &= 2,445,284 \div 0.729 \\ &= \underline{3,353,379 \text{ 円}} \end{aligned}$$

$$2. \text{ 農業所得を除いた損益分岐点販売量} = \frac{\text{固定費}}{\text{販売単価} - \frac{\text{変動費}}{\text{販売量}}}$$

$$\begin{aligned} &= 152,434 \text{円} \div \left(500 \text{円} - \frac{2,030,682}{15,000}\right) \\ &= 152,434 \text{円} \div (500 \text{円} - 135.4) \\ &= \underline{418 \text{ kg}} \end{aligned}$$

3. 対策

損益分岐点売上高を高めるには、収量を増やすことと、販売単価を高めるために高品質の生産と市場外流通ルート（直売・契約栽培等）の販売戦略が重要である。

1. 農業経営診断予備調査票-1

SWOT分析後記入してください

(青島温州動噴)(平成 年 月現在)

診断希望事項					
1. 生産形態の概要	経営の形態	①個人経営(青色申告) ②法人経営		資本金 千円・増資予定 千円	
	名称			従業員	男 人 女 人
	所在地	〒 _____ 年・ _____ 代目		従業員	男 人 女 人
	就業年数			家族	男 人 女 人
	代表者名	(年齢)		パート(8時間)	男 人 女 人
	認定資格	年 月 (うち法人化 年)		うち認定農業者	男 人 女 人
		①エコ・ファーマー(H 年認定) ②認定農業者(H 年認定) (認定申請予定))		計	男 人 女 人
2. 生産部門	決算日	月 日		作業時間	① h/日平均 ② h/年間
	集 団 裁 培	① 有り・②無し		休 日 数	① 日/月 ② 日/年間
	経営の業態	①単一経営・②複合経営()		後 継 者	①有り ②未定 ③無し
	(1)耕 種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤いも類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧施設野菜作 ⑨路地野菜作 ⑩果樹作 ⑪施設果樹作 ⑫施設花き作 ⑬路地花き作 ⑭その他()		(4)栽培法等の特色(有機・減農薬、マルチ、完熟、相互結実等)	
該 当 に ○ 印	(2)畜 産	①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他		(5)作業記録・日誌の有無(該当に○印) ①果樹園防除記録(農薬名・使用量・回数等) ②果樹園施肥記録(肥料名・使用量・回数等) ③果樹園整備記録(改植、間伐、農道整備等) ④品質チェック記録 ⑤糖度分析記録 ⑥せん定記録	
	(3)加 工	①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③林産加工 (品名)			
	(販売)	①朝市 ②直売所 ③ネット ④その他			
3. 農業経営の現状と計画	〈作目・部門名〉	作物面積・飼養頭数	生産量	〈 農業生産の課題〉	
	①	㍿	㍿	(1)生産部門(○印をつける)	
	②			①農道等基盤整備 ②減農薬等環境への対応	
	③			③トラバシリティへの対応 ④高齢果樹の改植	
	④			⑤機械化の遅れ ⑥生産コストの増加	
	経営面積合計	㍿	㍿	⑦改良品種の導入 ⑧生産量・質の不均一	
	〈経営耕地〉	地 目	面 積	⑨借地権の見直し ⑩他果樹の導入	
4. 生産方式	①所有地	畑・水田・果樹園・他	㍿	⑪ハウス栽培の導入 ⑫その他	
	②借入地	畑・水田・果樹園・他	㍿	(2)果樹園面積	
	〈作業受委託〉	作業内容	面 積	①所有果樹園 _____ ha _____ %	
	委託・受託	①管理 ②収穫	㍿	②借果樹園 _____ ha _____ %	
		③その他		果樹園面積計 _____ ha 100 %	
	(機械・施設名)	形式・性能	台数・面積等	③果樹園を貸付けたい _____ ha	
	①動力噴霧器	別紙記入		④果樹園を借受けたい _____ ha	
②トラクター	(3)10a当たり借地(小作)料				
③モノレール等	¥ _____ ~ ¥ _____				
④建物施設	生産方式の問題点				
⑤加工施設					
〈農用地の現状〉	① _____ a区画主体	②果樹園が小ブロック(a)に分散	③その他		

1. 農業経営診断予備調査票-2

(青島温州動噴)(平成 年 月現在)

5. 販売関係の現状と方針	<p>(1) 消費者ニーズの把握 ①している ②していない</p> <p>(2) 対象とする客層を ①決めている②決めていない</p> <p>(3) 直販の場合の顧客名簿 ①有 ②無</p> <p>(4) 農産物の加工 ①有 ②無</p> <p>(5) 販売計画 ①有 ②無</p> <p>(6) 販売計画の達成度 ①高 ②中 ③低</p> <p>(7) 達成しない理由</p> <p>(8) 代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 %</p> <p>(9) みかん狩り観光 ①実施している ②いない</p> <p>(10) 販売上の問題点</p>	<p>(11) 農産物の部門別・生産量と販売額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生産品目</th><th>生産量(%)</th><th>販売額(%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計</td><td>100%</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table>	生産品目	生産量(%)	販売額(%)	①			②			③			④			⑤			計	100%	100%
生産品目	生産量(%)	販売額(%)																					
①																							
②																							
③																							
④																							
⑤																							
計	100%	100%																					
6. 財務関係	<p>(11) 今後の販売方針戦略の課題</p> <p>(1) 複式簿記(パソコン活用 有・無)</p> <p>(2) 借入金の内訳</p> <p>①政府系金融機関(公庫) 千円</p> <p>②民間金融機関 () 千円</p> <p>計 千円</p> <p>(3) 農業所得+減価償却費 千円</p> <p>(4) 償還元金+家計費 千円</p> <p>(5) 資金余剰 (3)-(4) 千円</p>	<p>(12) 流通(販売)先の割合</p> <p>①農協・市場 %</p> <p>②契約栽培 %</p> <p>③スーパー・外食 %</p> <p>④直販・朝市等 %</p> <p>⑤観光農園・道の駅 %</p> <p>計 (100%)</p>																					
7. 人事・労務関係	<p>(1) 人手 ①十分 ②普通 ③不足</p> <p>(2) 家族経営協定書 有・無</p> <p>(3) 就業規則(法人の場合) 有・無</p> <p>(4) 給与規定(法人の場合) 有・無</p> <p>(5) 退職規定(法人の場合) 有・無</p> <p>(6) 健康保険(法人の場合) 有・無</p> <p>(7) 福利厚生(法人の場合) 有・無</p> <p>(8) 安全衛生規則(法人の場合) 有・無</p>	<p>(6) 借入金の投資内容</p> <p>(7) 利益計画達成の課題</p>																					
8. マニュアル関係	<p>(1) せん定・摘果等作業マニュアル 有・無</p> <p>(2) 土壌・施肥マニュアル 有・無</p> <p>(3) 防除マニュアル 有・無</p> <p>(4) 残留農薬マニュアル 有・無</p> <p>(5) 加工品製造マニュアル 有・無</p> <p>(6) 労務管理マニュアル 有・無</p> <p>(7) GAP(適正農業管理)のチェックシート 有・無</p> <p>(8) その他</p>	<p>(9) 経営組織図(作業分担図)</p> <p>(8) マニュアル導入予定、導入方法(入手先等)</p>																					

2. 本診断調査票-1

(1)経営の沿革・コンセプト、果樹園の面積等状況

(青島温州動噴)

1. 農業経営の沿革(面積・受・委託面積の拡大・機械化の導入レベル・販売先の部門等)										
(1)経営規模の推移と内容。										
(2)栽培方法の転換等の経過。										
(3)現在の経営規模と生産方式。										
(4)現在の経営の特色。										
2. 経営コンセプト(○印をつける)										
(1)食の安心・安全を基本コンセプトにして栽培している。 ①いる ②いない										
(2)販売先(納入)を決めて栽培している。 ①いる ②いない ③一部は契約栽培している										
(3)無・減農薬・有機栽培している。 ①いる ②いない ③一部で実施										
(4)省力化・機械化を導入して効率化を図っている。 ①いる ②いない ③まだ不十分										
(5)ISO14001・9001, JGAPの認定を受けている。 ①いる ②いない										
(6)市場環境変化へ迅速に対応している。 ①いる ②いない										
3. ア)みかん園の樹齢 ① ~5年 a ③11~15年 a ⑤21~30年 a										
②6~10年 a ④16~20年 a ⑥31~ a 計 a										
イ)平均的樹幅 m、 10aあたりの本数 本										
4. 隔年・連年樹別栽培面積						5. 今後の栽培方法				
年 度	隔年樹 A	連年樹 B (相互結実含む)	合 計 C	A/C	B/C	(1) 慣行栽培を継続				
H 1 年	22	22	22	%	%	(2) 樹(枝)別相互結実栽培を検討する				
5 年	22	22	22	%	%					
11 年	22	22	22	%	%					
16 年	22	22	22	%	%	(3) その他				
H 16年構成比	%	%	%	—	—					
6. 隔年結実防止(樹勢維持)実施対策(該当欄に○)						7. みかんの規格別収量 トン				
区 分	毎 年	隔 年	必要に応じ て	実施せず	年 度	SS	S	M	L	LL
摘 蕾					H 1年					
摘 果					5年					
除草剤抑制					11年					
せん定					16年					
中 耕					16年構成比	%	%	%	%	%
秋肥の適正実施					完熟生産の 有無					
その他										
8. 新樹・改植・廃園の状況						9. 今後の品種の方向性				
年 度	新 樹	改 植	廃 園	間 伐	① 新樹、改植の際の検討品種に○印					
H 1 年	22	22	22	本/22	ア 早生					
5 年	22	22	22	本/22	イ 極早生					
11 年	22	22	22	本/22	ウ 現状維持					
16 年	22	22	22	本/22	②その他栽培を計画中の品種					
H16年構成比	%	%	%	%	ポンカン、清美オレンジ、デコポン ブルーベリー、キウイ、いちじく びわ、かき、カボス、ユズ					
品種名					その他()					

2. 本診断調査票-2

(2)販売と生産施設・作業

(青島温州動噴)

10. 販売・受注状況・販売活動の特色(消費者交流など)					
規 格	(販売先例示)	(販 売 先)	受注(契約栽培等)		
M	インターネット販売 40%、生協50%				
L	スーパー50%、生協50%				
S	農協60%、スーパー40%				
SS	加工工場 100%				
LL	スーパー50%、農協50%				
野菜	農協 100%				
キウイ	生協 100%				

11. 果樹園用機械設備の状況					
(例)①モノレール本体 3ps ②モノレール軌道 300m (現状)					
③動力噴霧器 6ps ④薬剤槽 5000L					
⑤トレンチャー 3ps ⑥貯水槽 5000L					
⑦軽トラック ⑧作業場 40㎡					
⑨貯蔵庫 60㎡					

12. 生産・技術・設備状況					
	創園時点	5年前	1年前	現 在	備 考
(1)作付面積の変化	()				・% ()は借地面積
(2)作 業 受 託	()				・% ()は件数
(3)作 業 委 託	()				・% ()は件数
(4)雇 用 人 数	()				・人 ()は女性数
(5)機械の導入(110題)					・11. の該当番号記入
(6)作 業 道					・km
(7)マ ル チ					・%
(8)草 生					・%
(9)用・排水設備					・km

13. 果樹栽培・作業技術について					
(1)果樹栽培・作業技術の先進地事例の視察・研究の有無	①有 ②無 ③検討中()				
(2) " " 体系の有無	①有 ②無 ③検討中()				
(3)果樹園栽培の収量と労働時間の基準	①有 ②無 ③検討中()				
(4)果樹園栽培の栽培費用と労働時間と収量による経営計画	①有 ②無 ③検討中()				
(5)新品種導入	①有 ②無 ③検討中()				
(6)果樹試験場等開発の新技術等導入の検討	①有 ②無 ③検討中()				

14. 労務管理の対応状況(下記の対応程度に応じて番号を記入して下さい。)					
①労働時間の短縮・合理化 ()	⑥雇用者の労働報酬の決め方 ()				
②担い手確保や後継者育成 ()	⑦雇用者確保の方法 ()				
③従業者への技術指導・研修 ()	⑧報酬・退職金等の条件整備 ()				
④従業者の作業位置の適正化 ()	⑨福利厚生制度の整備 ()				
⑤組合員の労働報酬の決め方 ()	⑩作業管理と安全管理 ()				
	⑪家族経営協定内容 ()				

注:1十分対応 2概ね対応 3今後改善が必要 4対応等無し

2. 本診断調査票-3

(3)栽培体系(青島温州動噴) ①モデル(静岡県)

(青島温州動噴)

月旬	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ		△ 発芽	○ 開花									
主要作業名	施肥 せん定			施肥	マルチ被覆	摘果	摘果	摘果	仕上げ 施肥	収穫 マルチ除去	貯蔵・選果・出荷	中耕・苦土石灰

* 静岡県柑橘試験場モデル体系

②モデル(神奈川県)

時期	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
主な作業	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
病害虫名	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
改善	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
黒点病													枯れ枝の除去
灰色かび病													花卉の振落し、通風確保
貯蔵病害													面撃対策、庫内の湿度管理
かいよう病													
そうか病													
ミカンハダニ													不表な殺虫剤を控える
カイガラムシ類													天敵利用を考慮した防除
訪花害虫													
チャノキアザミヤ													茶園など増殖源の整理
ロウムシ類													
ゴマダラカミキリ													天敵糸状菌利用、成虫捕殺
ミカンハモグリカ													
ミカンサビダニ													
アブラムシ類													

◎:重点防除(省略できない)、○:通常防除(通常は実施。発生状況により省略可能)、△:必要に応じて防除、←:発生時期

資料提供:平成16年3月、神奈川県環境農政部農業振興課

③栽培体系(自果樹園)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	
① 慣行													
② 相互													
結実													
③ その他													
主要作業名													

2. 本診断調査票-4

(4)環境保全型施肥防除の実施状況 (該当項目にチェック) * 神奈川県環境農政部農業振興課資料引用 (青島温州動噴)

①土壌肥料	
<input type="checkbox"/> 有機質(牛糞堆肥、なたね油かす等)中心の施肥体系 <input type="checkbox"/> 元肥、夏肥中心の施肥体系 <input type="checkbox"/> 的確な土壌診断に基づく施肥計画 <input type="checkbox"/> その他()	
②病虫害防除	
1)耕種的防除 <input type="checkbox"/> 整枝せん定の徹底により、樹冠内の通風を確保し、病虫害多発の抑制を図る。 <input type="checkbox"/> 薬剤が到達しやすい樹形とし、投下薬剤量の低減を図る。 <input type="checkbox"/> 黒点病、かいよう病、そうか病体策として、病虫害多発枝及び枯れ枝の剪除と焼却。 <input type="checkbox"/> 灰色かび病対策として、花卉のふるい落とし、または水洗。 <input type="checkbox"/> チャノキイロアザミウマ対策として、増殖源のチャ、マキ等の伐採整理により密度抑制。 <input type="checkbox"/> 貯蔵病害対策として、丁寧な収穫と貯蔵管理作業の徹底。 <input type="checkbox"/> その他()	
2)物理的防除 <input type="checkbox"/> 白色シート(タイベック)の敷設(チャノキイロアザミウマの行動阻害、果実の品質向上) <input type="checkbox"/> その他()	
3)生物的防除 <input type="checkbox"/> バイオリサ、カミキリ(天敵系状菌)によるゴマダラカミキリの密度抑制。 <input type="checkbox"/> その他()	
4)化学的防除 <input type="checkbox"/> 低密度時の防除不要。 <input type="checkbox"/> 病虫害の発生を的確に把握して、発生初期の適期防除に努める。 <input type="checkbox"/> 在来天敵の温存のため、選択性薬剤の使用および薬剤の削減。 <input type="checkbox"/> その他()	
5)天敵の活用 <input type="checkbox"/> カンキツでは有力な在来および導入天敵がいくつか存在するので春～夏に有機リン剤、合成ピレスロイド剤、カーバメート剤、ネオニコチノイド剤等の中で天敵に影響が大きいものの使用は必要最小限に止める。薬剤散布はマシン油乳剤及び IGR 剤の利用を基本とし、必要に応じて特効のある薬剤を用いる。 <input type="checkbox"/> その他()	
[有力な天敵] ヤノネカイガラムシ … ヤノネキイロコバチ、ヤノネツヤコバチ イセリヤカイガラムシ … ベタリアテントウ カイガラムシ類 … ヒメアカホシテントウ、寄生蜂 コナカイガラムシ類 … 捕食性テントウムシ ルビーロウムシ … ルビーアカヤドリコバチ ツノロウムシ … ツノロウアカヤドリコバチ アブラムシ類 … 捕食性テントウムシ、アブラバチ、クサカゲロウ、ヒラタアブ ミカンハダニ … ケシハネカクシ類、ハダニアザミウマ、カブリダニ類 ミカンサビダニ … ヒシダニ類 アザミウマ類 … ヒメハナカメムシ類 カメムシ類 … マルボシヒラタヤドリバエ、チャバネクロタマゴバチ、昆虫病原性糸状菌 ミカントゲコナジラミ … シルベストリコバチ ミカンコナジラミ … アスケルソニア(赤きょう菌)	

3. 費用調・収益調査票

(1) 10aあたり経費

(青島温州動噴) (単位:円)

生産費の項目		ア 静岡県指標	イ H13年度実績	ウ H14年度実績	エ H15年度実績	オ H16年度実績	オ÷ア×100
変動費	種苗費	0					
	肥料費	43,630					
	農薬費	26,416					
	光熱動力費	4,470					
	諸材料費	55,000					
	小農具費	980					
	賃料料金	0					
	雇用労賃	46,070					
	水利費	4,000					
	その他	0					
	計	180,566					
出荷経費	資材費	48,000					
	運賃	32,000					
	手数料	89,200					
	その他	0					
	計	169,200					
	小計	349,766					
固定費	減価償却費	40,010					
	成園費・成蓄費	37,300					
	借地料	0					
	修繕費	6,973					
	その他	0					
	小計	84,283					
	合計	434,049					

*静岡県データは、平成16年度

(2) 10aあたりの収益(H16)

家族労働時間 257,000円÷1,797円=143H

項 目	A 静岡県指標	B H 年度実績	C H 年度実績	D H 年度実績	E H 年度実績	F E÷A×100
①生産量	4,000kg					
②kg単価	223円					
③粗収入	892,000円					
諸経費	389,917円					
雇用労働費	46,070円					
家族労働費A	257,040円					
④経費合計	693,027円					

⑤利潤	B	198,973円					
⑥所得 (A+B)		456,013円					
⑦家族労力		143H					
⑦家族1H労力費		1,797円					
⑥家族1H所得		2,880円					

(3) 資本装備(10aあたり)(H16)

区 分	種 類・規 格	取 得 価 格 A 円	面 積 率 B	換 算 取 得 価 格 A×B 円	耐 用 年 数	減 価 償 却 費 円	備 考
大 農 具	モノレール本体 3ps	450,000	50%	225,000	4	5,063	
	動力噴霧器 6ps	223,000	50%	111,500	5	2,007	
	トレンチャー 3ps	500,000	50%	250,000	5	4,500	
	トラック	1,200,000	50%	600,000	5	10,800	
	小 計						
建 物	作業場 40㎡	2,320,000	50%	1,160,000	25	4,176	
	貯蔵庫 60㎡	3,480,000	50%	1,740,000	25	6,264	
	小 計						
構 築 物	モノレール軌道 300m	1,500,000	50%	750,000	25	2,700	
	薬剤槽 5000L	1,000,000	50%	500,000	20	2,250	
	貯水槽 5000L	1,000,000	50%	500,000	20	2,250	
	小 計						
合 計						40,010	

(注)1. ☐は、静岡県の16年度数値。

2. 面積率: 経営面積全体に対する青島温州面積のウエイト

(4) 作業別労働時間調査評価表 (10aあたり)(H16)

項 目	A 静岡県指標	B H 年度実績	C H 年度実績	D H 年度実績	E H 年度実績	F E÷A×100
①育苗						
②せん定	16					
③薬剤散布	23					
④摘果	18					
⑤施肥	7					
⑥土壌管理	8					
⑦中耕・除草	9					
⑧防風樹対策	4					
⑨マルチ被覆・除去	2					
⑩収穫	80					
⑪貯蔵・出荷	30					
⑫労働時間計	197					
労働費合計	303,110円	円	円	円	円	円

(注) Aは、静岡県農水部作成の原単位指標

経営分析表

〈みかん作経営〉

部門	No	項目	判定	単位	全国平均 (H16) A	県平均 B	H 年 C	H 年 D	D/A・B	備考
農業収支	1	農業粗収益	大	千円	4,720					
	2	農業経営費	小	千円						
	3	農業所得	大	千円						
分析指標	4	農業所得率	大	%	38.8					
	5	付加価値額	大	千円	2,052					
	6	付加価値率	大	%	43.5					
	7	農業固定資産 装備率	大	円	3,380					
収益性	8	農業経営関与者 1人当り農業所得	大	千円	815					
	9	農業経営関与者 1人当り総所得	大	千円	2,049					
	10	農業専従者 1人当り農業所得	大	千円	1,729					
	11	家族農業労働 1時間当たり所得	大	円	682					
	12	農業固定資産 千円当たり所得	大	円	186					
	13	果樹植栽面積 10a当たり所得	大	千円	173					
生産性	14	自営農業労働 1時間当たり	大	円	705					
	15	農業固定資産 千円当たり	大	円	209					
	16	果樹植栽面積 10a当たり	大	円	194					
経営概況	17	月平均農業経営 関与者数	—	人	2.25					
	18	経営耕地面積	—	a	139					
	19	自営農業労働時間	小	時間	2,910					
	20	家族労働時間(ゆい含む)			2,689					

※ 全国平均値は農水省H16年度統計による。

社団法人 中小企業診断協会

4. 経営の成長目標

(青島温州動噴)

1. 中期目標(H25) (該当する項目に記入して下さい。)											
項 目		平成18年現在	平成25年目標								
① 生 産	果樹園面積	ヘクタール	ヘクタール								
	みかん生産量	トン	トン								
②機械化管理	機械化導入面積	ヘクタール	ヘクタール								
③基盤整備	作業道整備	km	km								
④果樹園改植	改植目標等	ヘクタール	ヘクタール								
⑤果樹園維持管理	作業委託・共同化等	ヘクタール	ヘクタール								
⑥労働力確保	確保目標	臨時 常勤	臨時 常勤								
⑦収益管理(10a当り)	農業所得目標	千円、所得率 %	千円、所得率 %								
⑧環境保全型農業への取組	減肥、減農薬目標	施肥 トン、農薬 トン	施肥△ トン、農薬△ トン								
2. 目標達成のための戦略											
(1) 従来の経営内容の見直し											
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> ①家族を含めた従業員意識改革 ②普及センター等研究機関との連携 ③販売体制の改善 ④販売手段の工夫 ⑤地域ごとの共同作業連携 </div> <div> ⑥地域送果場の活用 ⑦品目・品種の改植等の計画 ⑧労働力確保の作業委託推進 ⑨モデル栽培の視察と技術活用 ⑩各種マニュアル整備と実施 </div> <div> ⑪機械化と基盤整備推進 ⑫その他 </div> </div>											
(2) 複合経営の推進											
①観光農園 ②加工品作り ③その他											
(3) マーケティング指向に対する産品づくり											
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> ①有機・減農薬で生産されたみかん ②完熟みかん作り(糖度と酸度のバランス) ③スーパー、洋菓子用カット加工品、シロップづけ加工品 </div> <div> 年間の増加率 % 年間の増加率 % 年間の増加率 % </div> </div>											
(4) 生産技術の革新		(5) 販売方法									
①GAP、ISOへの対応 ②堆肥の施用、草生栽培等による環境への対応 ③低コスト、省エネ、効率的果実生産方式 ④利益率の高い品種・品目への転換 ⑤品質管理の徹底によるブランド確立		①方針の転換 ②流通チャネルの多様化 ③インターネットの活用									
(6) 資本金・運営資金の調達と主な使途		(7) 組織体制の見直し									
①公的資金、銀行、家族、農協 ②設備費、肥料等資材費		集落営農への参加、法人化、認定農業者構想、その他 (現 状) (将 来)									
(8) 雇用と労働環境の整備		(9) 今後の組織図									
①臨時雇の計画 ②作業委託の計画 ③労働時間短縮、休日の設定 ④外国人労働者の活用		法人組織図(例) <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td colspan="4">社 長</td> </tr> <tr> <td>営農部</td> <td>加工部</td> <td>販売部</td> <td>総務部</td> </tr> </table> </div>		社 長				営農部	加工部	販売部	総務部
社 長											
営農部	加工部	販売部	総務部								

5. SWOT 分析(経営環境分析)

該当項目に○印を付けてください。また、不足する項目は、記入してください。

(青島温州動噴)

外部環境 (自分の経営外の動き)	機 会(考えられるビジネスチャンス要因)	脅 威(ビジネスの阻害となる要因)
	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズの多様化(簡便性、健康、安全) ・販売手段の多様化(インターネット活用) ・各種補助金の支援 ・本物志向の強い団塊の世代の大量リタイア ・高齢樹みかんをやめて、収益性の高い品種へ転換 ・遊休果樹園を賃借して栽培拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産調整の強化 ・台風等天災の増加 ・流通経費の増加 ・安価な輸入果実・加工品の増加でみかん需要低下 ・果実採取量の減少 ・農業ポジティブリスト制の施行
内部 (自分の経営内の特徴)	強 み(営農上他と差別化出来るもの)	弱 み(営農上解決が必要なもの)
環境対応	<ul style="list-style-type: none"> ・減農薬 ・有機栽培 ・天敵利用 ・堆肥消費で畜産農家との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業ドリフトの問題
技術力	<ul style="list-style-type: none"> ・品種改良への取組 ・収穫量増加への取組 ・食品加工への取組 ・試験場との技術連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・隔年収穫 ・計画生産管理未実施
労働力	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の存在 ・機械化の推進・作業の委託 ・家族経営協定で労働時間を合理化 ・認定農業者の企業的经营で雇用確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足 ・園地が小規模 ・園地が傾斜地 ・機械効率悪く労働集約的 ・基盤整備、集積の遅れ ・ピーク時の労働力不足
財務力	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化による所得の向上 ・計画積み立てによる蓄積 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕種がミカンに限られリスク分散できていない ・簿記未導入 ・価格低迷で所得が低い
情報力	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーサビリティへの対応 ・パソコンの活用 <ul style="list-style-type: none"> ①記帳事務・管理資料の作成 ②市場データ・経営データの入手活用 ③HPIによる販売・果園への誘導 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業日報等の未整備 ・公表統計資料未活用
販売力	<ul style="list-style-type: none"> ・直販・観光農園の展開 ・食品スーパー等販売チャネル多様化 ・加工場納入 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売は農協経由のみ

1. 農業経営診断予備調査票-1

SWOT分析後記入してください

(早生温州SS)(平成 年 月現在)

診断希望事項								
1. 生産形態の概要	経営の形態	①個人経営(青色申告) ②法人経営		資本金 千円・増資予定 千円				
	名称			従業員	男	人	女	人
	所在地	〒		従業員	男	人	女	人
	就業年数	年・代目		家族	男	人	女	人
	代表者名	(年齢)		パート(8時間)	男	人	女	人
	認定資格	年 月(うち法人化 年)		うち認定農業者	男	人	女	人
		①エコ・ファーマー(H 年認定) ②認定農業者(H 年認定)(認定申請予定)		計	男	人	女	人
決算日	月 日		作業時間	① h/日平均 ② h/年間				
集団栽培	① 有り・②無し		休日数	① 日/月 ② 日/年間				
経営の業態	①単一経営・②複合経営()		後継者	①有り ②未定 ③無し				
2. 生産部門	(1)耕種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤いも類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧施設野菜作 ⑨路地野菜作 ⑩果樹作 ⑪施設果樹作 ⑫施設花き作 ⑬路地花き作 ⑭その他()		(4)栽培法等の特色(有機・減農薬、マルチ、完熟、相互結実等)				
		(2)畜産		(5)作業記録・日誌の有無(該当に○印) ①果樹園防除記録(農薬名・使用量・回数等) ②果樹園施肥記録(肥料名・使用量・回数等) ③果樹園整備記録(改植、間伐、農道整備等) ④品質チェック記録 ⑤糖度分析記録 ⑥せん定記録				
		(3)加工						
		(販売)		①朝市 ②直売所 ③ネット ④その他				
3. 農業経営の現状と計画	〈作目・部門名〉	作物面積・飼養頭数	生産量	〈農業生産の課題〉				
	①	㍉	㍉	(1)生産部門(○印をつける) ①農道等基盤整備 ②減農薬等環境への対応 ③トレーサビリティへの対応 ④高齢果樹の改植 ⑤機械化の遅れ ⑥生産コストの増加 ⑦改良品種の導入 ⑧生産量・質の不均一 ⑨借地権の見直し ⑩他果樹の導入 ⑪ハウス栽培の導入 ⑫その他				
	②			(2)果樹園面積				
	③			①所有果樹園 _____ ha _____ % ②借果樹園 _____ ha _____ % 果樹園面積計 _____ ha 100 %				
	④			③果樹園を貸付きたい _____ ha ④果樹園を借受けたい _____ ha				
	経営面積合計	㍉	㍉	(3)10a当たり借地(小作)料 ¥ _____ ~ ¥ _____				
	〈経営耕地〉	地 目	面 積	生産方式の問題点				
①所有地	畑・水田・果樹園・他	㍉						
②借入地	畑・水田・果樹園・他	㍉						
4. 生産方式	〈作業受委託〉	作業内容	面 積					
	委託・受託	①管理 ②収穫 ③その他	㍉					
	(機械・施設名)	形式・性能	台数・面積等					
①スピードスプレーヤ	別紙記入							
②トラック								
③フォークリフト								
④建物施設								
⑤暴風ネット								
〈農用地の現状〉	① _____ a区画主体	②果樹園が小ブロック(a)に分散	③その他					

1. 農業経営診断予備調査票-2

(早生温州SS)(平成 年 月現在)

<p>5. 販売関係の現状と方針</p>	<p>(1) 消費者ニーズの把握 ①している ②していない (2) 対象とする客層を ①決めている②決めていない (3) 直販の場合の顧客名簿 ①有 ②無 (4) 農産物の加工 ①有 ②無 (5) 販売計画 ①有 ②無 (6) 販売計画の達成度 ①高 ②中 ③低 (7) 達成しない理由 (8) 代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 % (9) みかん狩り観光 ①実施している ②いない (10) 販売上の問題点 (11) 今後の販売方針戦略の課題</p>	<p>(11) 農産物の部門別・生産量と販売額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>生産品目</th> <th>生産量(%)</th> <th>販売額(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計</td> <td>(100%)</td> <td>千円 (100%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(12) 流通(販売)先の割合</p> <table> <tbody> <tr><td>①農協・市場</td><td>%</td></tr> <tr><td>②契約栽培</td><td>%</td></tr> <tr><td>③スーパー・外食</td><td>%</td></tr> <tr><td>④直販・朝市等</td><td>%</td></tr> <tr><td>⑤観光農園・道の駅</td><td>%</td></tr> <tr><td>計</td><td>(100%)</td></tr> </tbody> </table>	生産品目	生産量(%)	販売額(%)	①			②			③			④			⑤			計	(100%)	千円 (100%)	①農協・市場	%	②契約栽培	%	③スーパー・外食	%	④直販・朝市等	%	⑤観光農園・道の駅	%	計	(100%)
生産品目	生産量(%)	販売額(%)																																	
①																																			
②																																			
③																																			
④																																			
⑤																																			
計	(100%)	千円 (100%)																																	
①農協・市場	%																																		
②契約栽培	%																																		
③スーパー・外食	%																																		
④直販・朝市等	%																																		
⑤観光農園・道の駅	%																																		
計	(100%)																																		
<p>6. 財務関係</p>	<p>(1) 複式簿記(パソコン活用 有・無) (2) 借入金の内訳 ①政府系金融機関(公庫) 千円 ②民間金融機関 () 千円 計 千円 (3) 農業所得+減価償却費 千円 (4) 償還元金+家計費 千円 (5) 資金余剰 (3)-(4) 千円</p>	<p>(6) 借入金の投資内容 (7) 利益計画達成の課題</p>																																	
<p>7. 人事・労務関係</p>	<p>(1) 人手 ①十分 ②普通 ③不足 (2) 家族経営協定書 有・無 (3) 就業規則(法人の場合) 有・無 (4) 給与規定(法人の場合) 有・無 (5) 退職規定(法人の場合) 有・無 (6) 健康保険(法人の場合) 有・無 (7) 福利厚生(法人の場合) 有・無 (8) 安全衛生規則(法人の場合) 有・無</p>	<p>(9) 経営組織図(作業分担図)</p>																																	
<p>8. マニュアル関係</p>	<p>(1) せん定・摘果等作業マニュアル 有・無 (2) 土壌・施肥マニュアル 有・無 (3) 防除マニュアル 有・無 (4) 残留農薬マニュアル 有・無 (5) 加工品製造マニュアル 有・無 (6) 労務管理マニュアル 有・無 (7) GAP(適正農業管理)のチェックシート 有・無 (8) その他</p>	<p>(8) マニュアル導入予定、導入方法(入手先等)</p>																																	

2. 本診断調査票-1

(1)経営の沿革・コンセプト、果樹園の面積等状況

(早生温州SS)

1. 農業経営の沿革(面積・受・委託面積の拡大・機械化の導入レベル・販売先の部門等)											
(1)経営規模の推移と内容。											
(2)栽培方法の転換等の経過。											
(3)現在の経営規模と生産方式。											
(4)現在の経営の特色。											
2. 経営コンセプト(○印をつける)											
(1)食の安心・安全を基本コンセプトにして栽培している。 ①いる ②いない											
(2)販売先(納入)を決めて栽培している。 ①いる ②いない ③一部は契約栽培している											
(3)無・減農薬・有機栽培している。 ①いる ②いない ③一部で実施											
(4)省力化・機械化を導入して効率化を図っている。 ①いる ②いない ③まだ不十分											
(5)ISO14001・9001, JGAPの認定を受けている。 ①いる ②いない											
(6)市場環境変化へ迅速に対応している。 ①いる ②いない											
3. ア)みかん園の樹齢 ① ~5年 a ③11~15年 a ⑤21~30年 a											
②6~10年 a ④16~20年 a ⑥31~ a 計 a											
イ)平均的樹幅 m、 10aあたりの本数 本											
4. 隔年・連年樹別栽培面積						5. 今後の栽培方法					
年 度	隔年樹 A	連年樹 B	合 計 C	A/C	B/C	(1) 慣行栽培を継続					
		(相互結実含む)				(2) 樹(枝)別相互結実栽培を検討する					
H 1 年	2%	2%	2%	%	%	(3) その他					
5 年	2%	2%	2%	%	%						
11 年	2%	2%	2%	%	%						
16 年	2%	2%	2%	%	%						
H 16年構成比	%	%	%	—	—						
6. 隔年結実防止(樹勢維持)実施対策(該当欄に○)						7. みかんの規格別収量 トン					
						年 度	SS	S	M	L	LL
区 分	毎 年	隔 年	必要に応じ て	実施せず		H 1年					
						5年					
摘 蕾						11年					
摘 果						16年					
除草剤抑制						16年構成比	%	%	%	%	%
せん定						完熟生産の 有無					
中 耕											
秋肥の適正実施											
その他											
8. 新樹・改植・廃園の状況						9. 今後の品種の方向性					
年 度	新 樹	改 植	廃 園	間 伐		① 新樹、改植の際の検討品種に○印					
H 1 年	2%	2%	2%	本/2%		ア 極早生					
5 年	2%	2%	2%	本/2%		イ 晩生					
11 年	2%	2%	2%	本/2%		ウ 現状維持					
16 年	2%	2%	2%	本/2%		②その他栽培を計画中の品種					
H16年構成比	%	%	%	%		ポンカン、清美オレンジ、デコポン ブルーベリー、キウイ、いちじく びわ、かき、カボス、ユズ、その他()					
品種名											

2. 本診断調査票-2

(2)販売と生産施設・作業

(早生温州SS)

10. 販売・受注状況・販売活動の特色(消費者交流など)					
規 格	(販売先例示)	(販 売 先)	受注(契約栽培等)		
M	インターネット販 40%、生協60%				
L	スーパー50%、生協50%				
S	農協出荷60%、スーパー40%				
SS	加工工場 100%				
LL	スーパー50%、農協出荷50%				
野菜	農協 100%				
キウイ	生協 100%				

11. 果樹園用機械設備の状況					
(例)①スピードスプレーヤ 1000ℓ ②普通トラック 2t ③軽トラック ④フォークリフト 1.5t ⑤クローラ式運搬機 ⑥貯蔵庫 200㎡ ⑦暴風ネット					

12. 生産・技術・設備状況					
	創園時点	5年前	1年前	現 在	備 考
(1)作付面積の変化	()				・ℓ()は借地面積
(2)作 業 受 託	()				・ℓ()は件数
(3)作 業 委 託	()				・ℓ()は件数
(4)雇 用 人 数	()				・人()は女性数
(5)機械の導入(11の項)					・11. の該当番号記入
(6)作 業 道					・km
(7)マ ル チ					・ℓ
(8)草 生					・ℓ
(9)用・排水設備					・km

13. 果樹栽培・作業技術について					
(1)果樹栽培・作業技術の先進地事例の視察・研究の有無	①有 ②無 ③検討中()				
(2) " " 体系の有無	①有 ②無 ③検討中()				
(3)果樹園栽培の収量と労働時間の基準	①有 ②無 ③検討中()				
(4)果樹園栽培の栽培費用と労働時間と収量による経営計画	①有 ②無 ③検討中()				
(5)新品種導入	①有 ②無 ③検討中()				
(6)果樹試験場等開発の新技术等導入の検討	①有 ②無 ③検討中()				

14. 労務管理の対応状況(下記の対応程度に応じて番号を記入して下さい。))					
①労働時間の短縮・合理化 ()	⑥雇用者の労働報酬の決め方 ()				
②担い手確保や後継者育成 ()	⑦雇用者確保の方法 ()				
③従業者への技術指導・研修 ()	⑧報酬・退職金等の条件整備 ()				
④従業者の作業位置の適正化 ()	⑨福利厚生制度の整備 ()				
⑤組合員の労働報酬の決め方 ()	⑩作業管理と安全性管理 ()				
	⑪家族経営協定内容 ()				

注:1十分対応 2概ね対応 3今後改善が必要 4対応等無し

(早生温州SS)

* 静岡県柑橘試験場モデル体系

資料提供:平成16年3月、神奈川県環境農政部農業振興課

-139-

2. 本診断調査票-4

(4) 環境保全型施肥防除の実施状況(該当項目にチェック) * 神奈川県環境農政部農業振興課資料引用 (早生温州SS)

① 土壌肥料
<input type="checkbox"/> 有機質(牛糞堆肥、なたね油かす等)中心の施肥体系 <input type="checkbox"/> 元肥、夏肥中心の施肥体系 <input type="checkbox"/> 的確な土壌診断に基づく施肥計画 <input type="checkbox"/> その他()
② 病害虫防除
1) 耕種的防除 <input type="checkbox"/> 整枝せん定の徹底により、樹冠内の通風を確保し、病害虫多発の抑制を図る。 <input type="checkbox"/> 薬剤が到達しやすい樹形とし、投下薬剤量の低減を図る。 <input type="checkbox"/> 黒点病、かいよう病、そうか病体策として、病害多発枝及び枯れ枝の剪除と焼却。 <input type="checkbox"/> 灰色かび病対策として、花卉のふりい落とし、または水洗。 <input type="checkbox"/> チャノキイロアザミウマ対策として、増殖源のチャ、マキ等の伐採整理により密度抑制。 <input type="checkbox"/> 貯蔵病害対策として、丁寧な収穫と貯蔵管理作業の徹底。 <input type="checkbox"/> その他()
2) 物理的防除 <input type="checkbox"/> 白色シート(タイベック)の敷設(チャノキイロアザミウマの行動阻害、果実の品質向上) <input type="checkbox"/> その他()
3) 生物的防除 <input type="checkbox"/> バイオリサ、カミキリ(天敵系状菌)によるゴマダラカミキリの密度抑制。 <input type="checkbox"/> その他()
4) 化学的防除 <input type="checkbox"/> 低密度時の防除不要。 <input type="checkbox"/> 病害虫の発生を的確に把握して、発生初期の適期防除に努める。 <input type="checkbox"/> 在来天敵の温存のため、選択性薬剤の使用および薬剤の削減。 <input type="checkbox"/> その他()
5) 天敵の活用 <input type="checkbox"/> カンキツでは有力な在来および導入天敵がいくつか存在するので春～夏に有機リン剤、合成ピレスロイド剤、カーバメート剤、ネオニコチノイド剤等の中で天敵に影響が大きいものの使用は必要最小限に止める。薬剤散布はマシン油乳剤及び IGR 剤の利用を基本とし、必要に応じて特効のある薬剤を用いる。 <input type="checkbox"/> その他()
[有力な天敵] ヤノネカイガラムシ … ヤノネキイロコバチ、ヤノネツヤコバチ イセリヤカイガラムシ … ベダリア TENTOU カイガラムシ類 … ヒメアカホシ TENTOU、寄生蜂 コナカイガラムシ類 … 捕食性 TENTOU ムシ ルビーロウムシ … ルビーアカヤドリコバチ ツノロウムシ … ツノロアカヤドリコバチ アブラムシ類 … 捕食性 TENTOU ムシ、アブラバチ、クサカゲロウ、ヒラタアブ ミカンハダニ … ケシハネカクシ類、ハダニアザミウマ、カブリダニ類 ミカンサビダニ … ヒシダニ類 アザミウマ類 … ヒメハナカメムシ類 カメムシ類 … マルボシヒラタヤドリバエ、チャバネクロタマゴバチ、昆虫病原性糸状菌 ミカントゲコナジラミ … シルベストリコバチ ミカンコナジラミ … アスケルソニア(赤きょう菌)

3. 費用・収益調査表

(1) 10aあたり経費

(早生温州SS) (単位:円)

生産費の項目		ア 静岡県指標	イ H13年度実績	ウ H14年度実績	エ H15年度実績	オ H16年度実績	オ÷ア×100
変 動 費	直 種苗費	0					
	直 肥料費	39,690					
	接 農薬費	36,322					
	接 光熱動力費	1,663					
	生 諸材料費	28,386					
	生 小農具費	8,492					
	産 賃料料金	0					
	産 雇用労賃	73,497					
	費 水利費	4,000					
	費 その他	0					
	計	192,050					
出 荷 経 費	資材費	33,000					
	運賃	17,325					
	手数料	73,800					
	その他	0					
	計	124,125					
	小 計	316,175					
固 定 費	減価償却費	31,014					
	成園費・成蓄費	34,865					
	借地料	0					
	修繕費	9,957					
	その他	0					
	小 計	75,835					
	合 計	392,010					

*静岡県データは、平成16年度

(2) 10aあたりの収益(H16)

家族労働時間 154,860円÷1,800円=86H

項 目	A 静岡県指標	B H 年度実績	C H 年度実績	D H 年度実績	E H 年度実績	F E÷A×100
①生産量	3,000kg					
②kg単価	246円					
③粗収入	738,000円					
諸経費	318,513円					
雇用労働費	73,497円					
家族労働費A	154,860円					
自己資本利子見 積額	7,159円					

自己地代見積額	13,000円					
④経費合計	567,029円					
⑤利潤 B	170,971円					
⑥所得 (A+B)	325,831円					
⑦家族労力	86H					
⑦家族1H労力費	1,800円					
⑥家族1H所得	3,788円					

(3)資本装備(10aあたり)(H16)

区分	種類・規格	取得価格 A 円	面積率 B	換算取得価格 A×B 円	耐用年数	減価償却費 円	備 考
大 農 具	スピードスプレー 1000%	5,150,000	60%	2,060,000	5	18,540	
	普通トラック 2t	1,800,000	60%	720,000	5	6,480	
	軽トラック	750,000	60%	300,000	4	3,375	
	フォークリフト 1.5t	2,010,000	60%	804,000	4	9,045	
	クローラ式運搬車 500kg	3,600,000	60%	1,440,000	4	16,200	
	小 計						
建 物	貯蔵庫 200㎡	9,000,000	60%	1,160,000	22	7,364	
	小 計						
構 築 物	防風ネット 300m	853,000	60%	750,000	15	1,024	
	小 計						
合 計						62,027	

(注)1. ☐は、静岡県の16年度数値。

2. 面積率: 経営面積全体に対する早生温州のウエイト

(4)作業別労働時間調査評価表 (10aあたり)(H16)

項 目	A 静岡県指標	B H 年度実績	C H 年度実績	D H 年度実績	E H 年度実績	F E÷A×100
①育苗						
②せん定	20					
③薬剤散布	4.5					
④摘果	20					
⑤施肥	6					
⑥除草	10					
⑦防風管理	6					
⑧灌水	2					
⑨マルチ被覆・除去						
⑩収穫	75					
⑪搬出	6					
⑫家族選別	16					
⑬出荷	7					
⑭労働時間計	172.5					
労働費合計	228,357円	円	円	円	円	円

(注)Aは、静岡県農水部作成の原単位指標

4. 経営の成長目標

(早生温州SS)

1. 中期目標(H25) (該当する項目に記入して下さい。)			
項 目		平成18年現在	平成25年目標
① 生 産	果樹園面積 みかん生産量	ヘクタール トン	ヘクタール トン
②機械化管理	機械化導入面積	ヘクタール	ヘクタール
③基 盤 整 備	作業道整備	km	km
④果 樹 園 改 植	改植目標等	ヘクタール	ヘクタール
⑤果樹園維持管理	作業委託・共同化等	ヘクタール	ヘクタール
⑥労働力確保	確保目標	臨時 常勤	臨時 常勤
⑦収益管理(10a当り)	農業所得目標	千円、所得率 %	千円、所得率 %
⑧環境保全型農業への取組	減肥、減農薬目標	施肥 トン、農薬 トン	施肥△ トン、農薬△ トン
2. 目標達成のための戦略			
(1) 従来の経営内容の見直し			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> ①家族を含めた従業員意識改革 ②普及センター等研究機関との連携 ③販売体制の改善 ④販売手段の工夫 ⑤地域ごとの共同作業連携 </div> <div> ⑥地域送果場の活用 ⑦品目・品種の改植等の計画 ⑧労働力確保の作業委託推進 ⑨モデル栽培の視察と技術活用 ⑩各種マニュアル整備と実施 </div> <div> ⑪機械化と基盤整備推進 ⑫その他 </div> </div>			
(2) 複合経営の推進			
①観光農園 ②加工品作り ③その他			
(3) マーケティング指向に対する産品づくり			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> ①有機・減農薬で生産されたみかん ②完熟みかん作り(糖度と酸度のバランス) ③スーパー、洋菓子用カット加工品、シロップづけ加工品 </div> <div> 年間の増加率 % 年間の増加率 % 年間の増加率 % </div> </div>			
(4) 生産技術の革新		(5) 販売方法	
①GAP、ISOへの対応 ②堆肥の施用、草生栽培等による環境への対応 ③低コスト、省エネ、効率的果実生産方式 ④利益率の高い品種・品目への転換 ⑤品質管理の徹底によるブランド確立		①方針の転換 ②流通チャネルの多様化 ③インターネットの活用	
(6) 資本金・運営資金の調達と主な使途		(7) 組織体制の見直し	
①公的資金、銀行、家族、農協 ②設備費、肥料等資材費		集落営農への参加、法人化、認定農業者構想、その他 (現 状) (将 来)	
(8) 雇用と労働環境の整備		法人組織図(例)	
①臨時雇の計画 ②作業委託の計画 ③労働時間短縮、休日の設定 ④外国人労働者の活用		<div style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 100px;">社 長</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px;">営農部</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px;">加工部</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px;">販売部</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px;">総務部</div> </div> </div>	
9) 今後の組織図			

5. SWOT 分析(経営環境分析)

該当項目に○印を付けてください。また、不足する項目は、記入してください。

(早生温州SS)

外部環境 (自分の経営外の動き)	機 会(考えられるビジネスチャンス要因)	脅 威(ビジネスの阻害となる要因)
	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズの多様化(簡便性、健康、安全) ・販売手段の多様化(インターネット活用) ・各種補助金の支援 ・本物志向の強い団塊の世代の大量リタイア ・高齢樹みかんをやめて、収益性の高い品種へ転換 ・遊休果樹園を賃借して栽培拡大する 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産調整の強化 ・台風等天災の増加 ・流通経費の増加 ・安価な輸入果実・加工品の増加でみかん需要低下 ・果実摂取量の減少 ・農薬ポジティブリスト制の施行
内部 (自分の経営内の特徴)	強 み(営農上他と差別化出来るもの)	弱 み(営農上解決が必要なもの)
環境対応	<ul style="list-style-type: none"> ・減農薬 ・有機栽培 ・天敵利用 ・堆肥消費で畜産農家との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬ドリフトの問題
技術力	<ul style="list-style-type: none"> ・品種改良への取組 ・収穫量増加への取組 ・食品加工への取組 ・試験場との技術連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・隔年収穫 ・計画生産管理未実施
労働力	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の存在 ・機械化の推進・作業の委託 ・家族経営協定で労働時間を合理化 ・認定農業者の企業的经营で雇用確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者不足 ・園地が小規模 ・園地が傾斜地 ・機械効率悪く労働集約的 ・基盤整備、集積の遅れ ・ピーク時の労働力不足
財務力	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化による所得の向上 ・計画積み立てによる蓄積 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕種がミカンに限られリスク分散できていない ・簿記未導入 ・価格低迷で所得が低い
情報力	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーサビリティへの対応 ・パソコンの活用 <ul style="list-style-type: none"> ①記帳事務・管理資料の作成 ②市場データ・経営データの入手活用 ③HPIによる販売・果園への誘導 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業日報等の未整備 ・公表統計資料未活用
販売力	<ul style="list-style-type: none"> ・直販・観光農園の展開 ・食品スーパー等販売チャネル多様化 ・加工場納入 	<ul style="list-style-type: none"> ・販売は農協経由のみ

1. 農業経営診断予備調査書(1-1)

施設栽培(ハウスみかん) (平成 年 月 日現在)
個人経営の場合

診断希望事項										
1 生産法人の概要	経営の形態	法人経営 ①認定農業者 ②エコファーマー			資本金	千円		増資予定	千円	
	名称	e-mail			従業員	男	人	女	人	
	所在地	〒 TEL			従業員	男	人	女	人	
	代表者名	(年齢)			パート(8時間換算)	男	人	女	人	
	営業年数	年(うち法人化 年)			計	男	人	女	人	
	決算日	月 日			休日数	①月間	日	②年間	日	
	集団栽培	①有り ②無し			後継者	①有り	②未定	③無し		
	経営の業態	①単一経営 ②複合経営()			(5)栽培法等の特色					
	①認定 ②エコファーマーの時期	① 年 月 ② 年			①ハウス栽培(土壌養水式)					
	2 生産部門 該当に○印	(1)耕種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤イモ類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧果樹作 ⑨露地野菜作 ⑩露地花き作 ⑪施設野菜作 ⑫施設花き作 ⑬施設果物作 ⑭その他()			②水耕(養液)栽培(平成 年より) ③方法 a等量交換式 bNFT(自作・高段方式) ④環境制御のパソコンによる自動制御化 ⑤その他()				
(2)畜産		①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他			(6)施設栽培の課題(○印、コメントを記入) ①施設の老朽化 ②規模拡大に障害() ③作物の選択 ④施設管理技術 ⑤水耕管理 ⑥労働時間・作業様式 ⑦市場対応(観光客の誘引・販売確保) ⑧その他					
(3)養蚕		①養蚕								
(4)加工		①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③林産加工(品名)								
3 農業経営の現状と計画		(1)作目・部門名	作物面積・飼養頭数 生産量 売上			(5)農業経営の特徴				
		構成	ha/頭 トン							
		①	ha/頭 トン							
		②	ha/頭 トン							
		経営面積合計			ha					
		(2)経営耕地								
	①所有地	畑・水田・施設栽培地・他 ha								
	②借入地	畑・水田・施設栽培地・他 ha								
	(3)作業受委託	作業内容 面積等								
	委託・受託	ha								
4 生産方式	(4)栽培施設の現状	ガラス プラスチック			(6)作業記録・日誌の有無(有りに○印)					
	他				①防除日誌(農薬名、散布量、回数、散布日等)					
	施設種類	フェンロー型 棟 棟			②施肥日誌(肥料名、使用量、使用日等)					
	棟	m ² m ²			③作業日誌					
	m ²	両屋根型 棟 棟			(7)家族協定書の(有 無)					
	棟	m ² m ²			(8)従業員・パート就業規則の(有 無)					
	m ²	鉄骨補強ハイハウス 棟 棟			①労働条件通知書(有 無)					
	棟	m ² m ²			②雇用契約書(有 無)					
	◆方式				③労災保険(従業員5人以上、5人以下)(有 無)					
	①養液栽培				④雇用保険(従業員5人以上、5人以下)(有 無)					
②高設式				◆生産方式の課題点						
③バッグ式				①生産履歴の記載①有②無(理由)						
④養液土耕式				②ロックウールの廃棄処理						
◆農用地の現状				③品質レベルの統一(ハウス毎の品質管理)						
				④品種の開発						

1. 農業経営診断予備調査書(1-1)

施設栽培(ハウスみかん) (平成 年 月 日現在)
法人経営の場合

診断希望事項																						
1 生産法人の概要	経営の形態	法人経営 ①認定農業者 ②エコファーマー			資本金	千円		増資予定	千円													
	名称	e-mail			従業員	男	人	女	人													
	所在地	〒 TEL			従業員	男	人	女	人													
	代表者名	(年齢)			パート(8時間換算)	男	人	女	人													
	営業年数	年(うち法人化 年)			計	男	人	女	人													
	決算日	月 日			作業時間	①1日あたり平均 時間																
	集約栽培	①有り ②無し			後継者	①有り ②未定 ③無し																
	経営の業態	①単一経営 ②複合経営()			(5)栽培法等の特色																	
	①認定 ②エコファーマーの時期	① 年 月 ② 年			①ハウス栽培(土壌養水式)																	
	2 生産部門 該当に○印	(1)耕種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤イモ類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧果樹作 ⑨露地野菜作 ⑩露地花き作 ⑪施設野菜作 ⑫施設花き作 ⑬施設果物作 ⑭その他()			②水耕(養液)栽培(平成 年より) ③方法 a等量交換式 bNFT(自作・高段方式) ④環境制御のパソコンによる自動制御化 ⑤その他()																
(2)畜産		①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他			(6)施設栽培の課題(○印、コメントを記入)																	
(3)養蚕		①養蚕			①施設の老朽化																	
(4)加工		①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③林産加工(品名)			②規模拡大に障害() ③作物の選択 ④施設管理技術 ⑤水耕管理 ⑥労働時間・作業様式 ⑦市場対応(観光客の誘引・販売確保) ⑧その他																	
3 農業経営の現状と計画		(1)作目・部門名	作物面積・飼養頭数 生産量 売上			(5)農業経営の課題																
		①	ha/頭 ト			①生産部門																
		②	ha/頭 ト			②貸付農家数と作物面積の内訳																
		経営面積合計 ha			<table border="1"> <thead> <tr> <th>農家数</th> <th>貸付数</th> <th>貸付面積</th> <th>地代10アール</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>共同参加</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						農家数	貸付数	貸付面積	地代10アール					共同参加			
		農家数	貸付数	貸付面積	地代10アール																	
	共同参加																					
	(2)経営耕地				③貸付農地の問題点																	
	①所有地	畑・水田・施設栽培地・他 ha			・飛地・区画																	
	②借入地	畑・水田・施設栽培地・他 ha			・地代																	
(3)作業受委託	作業内容 面積等			・その他																		
委託・受託	ha																					
委託・受託	ha																					
4 生産方式	(4)栽培施設の現状	ガラス プラスチック			(6)作業記録・日誌の有無(有りに○印)																	
	他				①防除日誌(農薬名、散布量、回数、散布日等)																	
	施設種類 フェンロー型	棟 棟			②施肥日誌(肥料名、使用量、使用日等)																	
	棟	㎡ ㎡			③作業日誌																	
	㎡	両屋根型			(7)トレーサビリティの対応生産履歴の記帳(有無)																	
	棟	棟 棟			(理由)																	
	㎡	㎡ ㎡			(8)従業員・パート就業規則の状況・課題																	
	棟	鉄骨補強ハイハウス			(9)今後の主要な計画																	
	棟	㎡ ㎡																				
	◆方式				◆生産方式の課題点																	
①養液栽培				①生産履歴の記帳①有②無(理由)																		
②高設式				②ロックウールの廃棄処理																		
③バッグ式				③品質レベルの統一(ハウス毎の品質管理)																		
④養液土耕式				④品種の開発																		
◆農用地の現状																						

1. 農業経営診断予備調査書(1-2)

施設栽培(ハウスみかん) (平成 年 月 日現在)

5 販売関係の現状と方針	(1) 消費者ニーズ把握 ①している ②していない	<table border="1"> <tr> <th>生産品目</th> <th>生産量(トン、%)</th> <th>販売額(トン、%)</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td>トン %</td> <td>千円 %</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>トン 100%</td> <td>千円 100%</td> </tr> </table>	生産品目	生産量(トン、%)	販売額(トン、%)	①	トン %	千円 %	②			③			④			⑤			計	トン 100%	千円 100%
	生産品目		生産量(トン、%)	販売額(トン、%)																			
	①		トン %	千円 %																			
	②																						
	③																						
	④																						
	⑤																						
	計	トン 100%	千円 100%																				
	(2) 対象とする客層を ①決めている ②決めていない																						
	(3) 直販の場合の顧客名簿 ①有り ②無し																						
(4) 販売計画 ①有り ②無し																							
(5) 計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い																							
(6) 達成度低い時の理由																							
(7) 代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 %	(11) 流通(販売)先の割合 ①農協・市場 % ②契約栽培 % ③スーパー・外食 % ④直販・朝市等 % ⑤インターネット・宅配等 % ⑥観光果樹園 計 100%																						
(8) 販売上の問題点																							
(9) 今後の販売方針・戦略の課題																							
6 財務会計	(1) 複式簿記 ①使用 ②使用しない パソコン活用 ①有り ②無し	(6) 資金管理 ①支払い利息 円/㎡ ②農業所得(法人は経常利益) 円/㎡ ③借入金残高 円/㎡ ④年間償還額 円/㎡ ⑤年間家計費(法人は無し) 円/㎡																					
	(2) 借入金の内訳 ①農林中金農林漁業公庫 スーパーL資金 千円 スーパーS資金 千円 経営体育成強化資金 千円 ②JAバンク・銀行・金庫 農業近代化資金 千円 合計 千円																						
	(3) 利益計画 ①有り ②無し																						
	(4) 計画達成 ①した ②しない	(7) 収入・所得・利益 ①1回目認定時 収入 (万円) 専従者所得 (万円) 専従者除く所得 (万円) ②現在 収入 (万円) 専従者所得 (万円) 専従者除く所得 (万円)																					
	(5) 資金繰り表 ①有り ②無し																						
	7 人事・労務関係	(1) 人手 ①十分 ②普通 ③不足	(11) 経営組織図 外国人の雇用 ①有り ②無し																				
(2) 家族協定書 ①有り ②無し																							
(3) 就業規則 ①有り ②無し																							
(4) 給与規定 ①有り ②無し																							
(5) 退職規定 ①有り ②無し																							
(6) 健康保険 ①有り ②無し																							
(7) 厚生年金保険 ①有り ②無し																							
(8) 慰安旅行 ①有り ②無し																							
(9) 労災保険 ①有り ②無し																							
(10) 労働保険 ①有り ②無し																							
8 各種マニュアル整備	①施設内環境整備マニュアル ①有り ②無し 光、温度など	9 経営上の課題点 □(1) 従業者の高齢化 □(11) 後継者難 □(2) 従業者の確保難 □(12) 施設コストの増加 □(3) 生産方式の改善難 □(13) 軽労化困難 □(4) 生産効率の低下 □(14) IT化の進展困難 □(5) 生産コストの増加 □(15) 経営規模拡大困難 □(6) 作業システムの不備 □(7) 販売高の低下 □(8) 利益率の低下 □(9) 無減農薬の対応 □(10) 有機栽培の対応																					
	②栽培管理用機器操作マニュアル ①有り ②無し 防除、灌水、収穫など																						
	③養液栽培・植物工場マニュアル ①有り ②無し																						
	④IT操作活用マニュアル ①有り ②無し																						
	⑤作業マニュアル ①有り ②無し																						

2. ハウスみかんの加温と水管理

＜加温の目的＞

品質の向上：味・外観の向上。寒害防止

熟期の促進：増糖、減酸、肥大。成熟期の前進

生産の安定：生長促進、着果数増加、病虫害防止。

①早期加温

月		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
温度管理	最高												
	最低												
水管理													

②後期加温

月		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
温度管理	最高℃		←→		←→	←→	←→		←→				
	最低℃		←→		←→	←→	←→		←→				
水管理			←→		←→	←→	←→		←→	←→	←→	←→	←→

受診農園の場合

①早期加温

月		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
温度管理	最高℃												
	最低℃												
水管理													

②後期加温

月		11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
温度管理	最高												
	最低												
水管理													

2. 診断調査表(2-1)

施設栽培(ハウスみかん)

1. 農業経営の沿革										
(1)経営規模の推移と内容										
(2)栽培方式の転換などの経過										
(3)現在の経営規模と生産方式										
(4)現在の経営の特色										
2. 農業コンセプト(○印をつける)										
(1)食の安心・安全を基本にして栽培して ①いる ②いない										
(2)販売先・消費対象客を定めて栽培して ①いる ②いない ③一部は契約栽培している										
(3)無・減農薬・有機栽培している。 ①いる ②いない ③一部はしている										
(4)省力化・機械化を導入して効率化を図って ①いる ②いない ③まだ不十分										
(5)ISO14001・9001・22000の導入 ①している ②していない										
(6)JGAPの導入 ①している ②していない										
3. 作目・品種部門の内容										
記入欄	作目	種目	品種	作型	施設種類	面積(㎡)	栽培方式	無農薬	減農薬	有機栽培
4. 施設・栽培方式の経緯										
作目	年度					5. 栽培変更計画中の作目・品種は				
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	その特徴は				
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	その栽培時期は				
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	その成長の度合い、収穫数は				
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル					
	平成 年構成比	%	%	%	%					
作目	品種名									
	年度					備考欄				
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル					
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル					
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル					
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル					
作目	平成 年構成比	%	%	%	%					
	品種名									
	年度									
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル					
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル					
	平成年	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル	ヘクタル					
6. 収穫方法										
7. 作目・品種・立地条件・などの問題点										

2. 診断調査表 (2-2)

施設栽培 (ハウスみかん)

8. 販売・受注状況・販売活動の特色 (消費者交流など)				
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注 (契約栽培など)
	食味 優 食味 良 食味 並 食味 悪	インターネット宅配100% コンビニ50%、ホテル50% 中級食堂チェーン100%		
	食味 優 食味 良 食味 並 食味 悪	インターネット宅配100% コンビニ50%、ホテル50% 中級食堂チェーン100%		
	食味 優 食味 良 食味 並 食味 悪	インターネット宅配100% コンビニ50%、ホテル50% 中級食堂チェーン100%		

9. 機械・設備の状況と作業受委託の状況				
(1) 機械・設備 ①トラクター 台 ②トラック 台 ③パイプハウス m (m × m) ④ヒートポンプ kW × 台 ⑤換気扇 台 ⑥ポンプ kw × 台 ⑨軽トラック ⑩蒸気消毒機				
(2) 作業受託				
(3) 作業委託				
(4) その他設備 (貯蔵庫など)				

10. 生産・技術・設備状況 (特色は、)					
	創業時点	2年前	1年前	現在	備考
(1) 作付面積の変化	()	()	()	()	※ () は借地面積
(2) 作業受託	()	()	()	()	※ () は件数
(3) 作業委託	()	()	()	()	※ () は件数
(4) 雇用人数	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	※ () は女性数
(5) 機械の導入	()	()	()	()	
(6)	()	()	()	()	

11. 野菜施設栽培・作業技術について			
(1) ハウスみかん栽培・作業技術の先進事例の観察・研究の有無	①有	②無	③検討中 ()
(2) ハウスみかん栽培・作業技術の体系の有無	①有	②無	③検討中 ()
(3) ハウスみかん栽培 (様式別) の収量と労働時間の基準	①有	②無	③検討中 ()
(4) ハウスみかん栽培の栽培費用・労働時間・収量基準	①有	②無	③検討中 ()
(5) 農業試験場などによる奨励品種の検討	①有	②無	③検討中 ()
(6) その他栽培・作業技術の検討	①有	②無	③検討中 ()

12. 労働環境の改善等実施状況	
下記の実施程度に○印をつけてください	
①労働時間の短縮・合理化	◎ ○ △ ×
②担い手確保や後継者育成	◎ ○ △ ×
③従業者への技術指導・研修	◎ ○ △ ×
④従業者の作業位置の適正化	◎ ○ △ ×
⑤組合員の労働報酬の決め方	◎ ○ △ ×
⑥雇用者の労働報酬の決め方	◎ ○ △ ×
⑦雇用確保の方法	◎ ○ △ ×
⑧報酬・退職金等の条件整備	◎ ○ △ ×
⑨福利厚生制度の整備	◎ ○ △ ×
⑩作業管理と安全管理	◎ ○ △ ×
その他労務上の問題点	

4. 農産物生産の作業別労働時間調査表

施設栽培(ハウスみかん)

[illegible]

(注1)基準値は、静岡県農業試験場・モデル。

(注2) B、C欄は、診断先の実績を記入する。

(注3)栽培面積1%の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

5. 収益と費用

施設栽培(ハウスみかん)

(単位:kg、円、%)

項目	基準値	診断対象			対比	備考
	H 年 A10%当り	H 年 B 全体	H 年 C 全体	H 年 D10%当り	D÷A×100	
粗収益						
生産量(kg)	5,050					
販売単価	653					
生産額	3,591,500					
副産物収入	0					
合計	3,591,500					
変動費						①
直接生産費						
種苗費	0					
肥料費	20,600					
農薬費	77,052					
光熱動力費	620,229					
諸材料費	197,285					
小農具費	31,508					
賃料料金	0					
雇用労賃	199,467					
水利費	4,000					
その他	0					
計	1,150,141					
出荷経費						
資材費	167,750					
運賃	71,500					
手数料	348,205					
その他	33,000					
計	620,455					
小計	1,770,596					
固定費						
減価償却費	444,856					
成園費・成蓄費	35,388					
借地料	0					
修繕費	132,479					
その他	0					
小計	612,723					
合計	2,383,319					②
成果						③=①-②
農業所得	1,208,181					③÷①
所得率 %	33.6%					③÷T (円/時間)
家族労働1時間当たり所	2,004					
家族労働見積額 円	1,086,000					
自己資本利子見積額 円	112,016					
自己地代見積額 円	13,000					
生産費(全額参入生産費)	3,594,334					④
利潤 円	-2,834					⑤=①-④
利潤率 %	-0.1%					⑤÷①
総労働時間(時間)	838					
家族労働時間	603					T
雇用労働時間	235					

(注1) 基準値は、静岡県農業試験場モデル。

(注2) B、C、D欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1畝の場合、およそ基準値の10倍の数字になると考えられる。

キウイフルーツ (平成 年 月 日現在)
個人経営の場合

-154-

1. 農業經營診斷予備調查書(1-2)

キウイフ(平成 年 月 日現在)
個人経営の場合

5	販売関係の現状と方針	(1)消費者ニーズ把握 ①している ②していない (2)対象とする客層を ①決めている ②決めていない (3)直販の場合の顧客名簿 ①有り ②無し (4)販売計画 ①有り ②無し (5)計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い (6)達成度低い時の理由 (7)代金 ①農協経由 %②現金 % ③その他 % (8)販売上の問題点 (9)今後の販売方針・戦略の課題		(10)農産物の部門別生産量・販売量																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>生産品目</th> <th>生産量</th> <th>販売額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>トン %</td> <td>トン %</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>③</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>④</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		生産品目	生産量	販売額	①	トン %	トン %	②			③			④			⑤			計		
生産品目	生産量	販売額																						
①	トン %	トン %																						
②																								
③																								
④																								
⑤																								
計																								
6	財務会計	(1)複式簿記 ①使用 ②使用しない パソコン活用 ①有り ②無し (2)借入金の内訳 ①農林中金・農林漁業公庫 スーパーL資金 千円 スーパーS資金 千円 経営体育成強化資金 千円 ②JAバンク・銀行・金庫 農業近代化資金 千円 合計 千円 (3)利益計画 ①有り ②無し (4)計画達成 ①した ②しない (5)資金繰り表 ①有り ②無し		(6)資金管理 ①支払利息 円/m ² ②農業所得(経常利益) 円/m ² ③借入金残高 円/m ² ④年間償還額 円/m ² ⑤年間家計費 円/m ² (7)収入・所得・利益 ①1回目認定時 単位万円 <table border="1"> <thead> <tr> <th>収入</th> <th>専従者所得</th> <th>専従者除く所得</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ②現在 <table border="1"> <thead> <tr> <th>収入</th> <th>専従者所得</th> <th>専従者除く所得</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		収入	専従者所得	専従者除く所得				収入	専従者所得	専従者除く所得										
		収入	専従者所得	専従者除く所得																				
収入	専従者所得	専従者除く所得																						
7	人事・労務関係	(1)人手 ①十分 ②普通 ③不足 (2)家族協定書 ①有り ②無し (3)就業規則 ①有り ②無し (4)給与規定 ①有り ②無し (5)退職規定 ①有り ②無し (6)健康保険 ①有り ②無し (7)厚生年金保険 ①有り ②無し (8)慰安旅行 ①有り ②無し (9)労災保険 ①有り ②無し (10)労働保険 ①有り ②無し		(11)経営組織図																				
		①施設内環境整備マニュアル ①有り ②無し 光、温度 ②栽培管理用機器操作マニュアル ①有り ②無し 防除、灌水、収穫 ③養液栽培・植物工場マニュアル ①有り ②無し ④IT操作活用マニュアル ①有り ②無し ⑤作業マニュアル ①有り ②無し		外国人の雇用 ①有り ②無し □(1) 従業者の高齢化 □(2) 従業者の確保 □(3) 生産方式の改善難 □(4) 生産効率の低下 □(5) 生産コストの増加 □(6) 作業システムの不備 □(7) 販売高の低下 □(8) 利益率の低下 □(9) 無減農薬の対応 □(10) 有機栽培の対応 □(11) 後継者難 □(12) 施設コストの増加 □(13) 軽労化困難 □(14) IT化の進展困難 □(15) 経営規模拡大困難																				
8	各種マニュアル整備	9 経営上の課題点																						

2. 診断調査書(2-1)

キウイフルーツ

1. 農業経営の沿革 (1) 経営規模の推移と内容 (2) 栽培方式の転換などの経過 (3) 現在の経営規模と生産方式 (4) 現在の経営の特色										
2. 農業コンセプト(○印をつける) (1) 消費者の満足を基本にして栽培している ①いる ②いない (2) 販売先・消費対象客を定めて栽培している ①いる ②いない ③一部は契約栽培している (3) 無・減農薬・有機栽培している ①いる ②いない ③一部はしている (4) 省力化・機械化を導入して効率化を図っている ①いる ②いない ③まだ不十分 (5) ISO 14001・9001・22000の導入 ①いる ②していない										
3. 作目・品種部門の内容										
	作物	種目	品種	作型	施設種類	面積	栽培方式	無農薬	減農薬	有機栽培
4. 施設・栽培方式の経緯						5. 栽培変更計画中の作目・品種は				
作目	年度									
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	その特徴は その栽培時期は				
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年構成比	%	%	%	%					
	品種名					そのおいしさは その成長の度合い、収穫数は				
作目	年度									
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年構成比	%	%	%	%	備考欄				
	品種名									
作目	年度									
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年構成比	%	%	%	%					
	品種名									
6. 収穫方法										
7. 作目・品種・立地条件などの問題点										

2. 診断調査書(2-2)

キウイフルーツ

8. 販売・受注状況・販売活動の特色(消費者交流など)				
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培など)
	食味 優	インターネット宅配 100%		
	食味 良	コンビニ 50% ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
	食味 悪			
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培など)
	食味 優	インターネット宅配 100%		
	食味 良	コンビニ 50% ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
食味 悪				
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培など)
	食味 優	インターネット宅配 100%		
	食味 良	コンビニ 50% ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
食味 悪				

9. 機械・設備の状況と作業受委託の状況

(1) ①トラクター(台)PS ②トラック 台 ③パイプハウス m²(m × m)
 ④ヒートポンプ kw × 台 ⑤換気扇 台 ⑥ポンプ kw × 台
 ⑦

(2)作業受託
 (3)作業委託
 (4)その他設備(貯蔵庫)

10. 生産・技術・設備状況(特色は、)

	創業時点	2年前	1年前	現在	備考
(1)作付け面積の変化					
(2)作業受託					
(3)作業委託					
(4)雇用人数					
(5)機械の導入					

11. 果樹施設栽培・作業技術について

(1)キウイフルーツ施設栽培・作業技術の先進事例の観察・研究の有無 ①有 ②無 ③検討中()
 (2)キウイフルーツ施設栽培・作業技術の体系の有無 ①有 ②無 ③検討中()
 (3)キウイフルーツ施設栽培(様式別)の収量と労働時間の基準 ①有 ②無 ③検討中()
 (4)キウイフルーツ施設栽培の栽培費用・労働時間・収量基準 ①有 ②無 ③検討中()
 (5)農業試験場などによる奨励品種の検討 ①有 ②無 ③検討中()
 (6)その他栽培方式・作業技術の再検討 ①有 ②無 ③検討中()

12. 労働環境の改善等実施状況

下記の実施程度に○印をつけてください

	◎	○	△	×
①労働時間の短縮・合理化	◎	○	△	×
②担い手確保や後継者育成	◎	○	△	×
③従業者への技術指導・研修	◎	○	△	×
④従業者の作業位置の適正化	◎	○	△	×
⑤組合員の労働報酬の決め方	◎	○	△	×
⑥雇用者の労働報酬の決め方	◎	○	△	×
⑦雇用確保の方法	◎	○	△	×
⑧報酬・退職金の条件整備	◎	○	△	×
⑨福利厚生制度の整備	◎	○	△	×
⑩作業管理と安全管理	◎	○	△	×

その他労務上の問題点

3. 診断調査書

1. キウイフルーツ栽培体系(モデル)例

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
一文字整枝 長期貯蔵による有利販売を行う												
生育過程	新梢伸長期											
	休眠期 開花期 果実肥大期 成熟期 休眠期											
主要作業名	剪定・誘引 植付け	剪定・誘引 施肥	防風対策	芽かき	新梢の誘引 摘心	摘心 人工授粉 施肥	芽かき 敷きわら	日焼け防止 台風対策	日焼け防止 台風対策	施肥	施肥	植付け

*主要な技術及び留意点

●結果母枝は前年春に発生した枝と前年結実した枝で結実部より先の7節が母枝となり、この位置で切り直し剪定をし、最先端部は必ず誘引。	●定植後3年位の若木の選定は、整枝に重点を置く。 ●2月下旬から樹液の流動が激しくなるので、剪定は遅くとも中旬までに終了させる。	●キウイフルーツは風に非常に弱く、新芽が欠けたり、葉ずれやカイヨウ病の発生原因となるので、防風対策が必要。	●更新予定となる横芽は残し、徒長的に強く伸びる直上芽は優先的に芽かきをする。 ●芽かきは8月まで随時行い、不要の芽は早めに処理する。	●誘引は芽がかかりやすいので注意して行い、交差枝や重なり枝にならないよう配置し、根に結束する。 ●人工授粉を積極的に取り入れ結実、肥大促進。	●果実の肥大は7月一杯で収穫量の90%近くまで肥大する。 ●着果量は1節1果とし、mあたり25果とする。 ●結果枝の最終着果部より6〜7節で摘心。	●乾燥害を防ぐため助走と同時に根の周りを敷き草(ワラ)をする。	●徒長的に伸びる不要な枝は早めに除去し、使う枝は摘心、誘引によって活用を図る。 ●貯蔵中の腐敗防止のため、上旬と中旬に薬剤を散布する。	●不要な芽が発生した場合は、早めの芽かきで除去し、樹下の明るさを確保。 ●台風シーズンとなり風に弱いので、防風垣の整備、垣の補強を行う。	●9月は梅雨や台風の影響を少なくするため、排水を良好にし、枝の結束を行っておく。 ●不要な芽が発生したときは、早めに芽かきをする。	●10月下旬に元肥としてキウイフルーツ専用肥料を年間施肥量の50%を施肥。 ●薄切りを行い堆肥とともに元肥を施用して覆土する。	●収穫適期は、糖度で7%位とする。 ●霜害を受ける前に収穫する。 ●収穫後、直ちに低温貯蔵。	●元肥時、雄肥が入らない場合にはこの時期施用し、軽い中耕を行う。
--	---	---	---	---	---	---------------------------------	--	---	--	--	--	----------------------------------

2. キウイフルーツ栽培体系(受診農園の場合)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
主要作業名	剪定・誘引 植付け	剪定・誘引 施肥	防風対策	芽かき	新梢の誘引 摘心	摘心 人工授粉 施肥	芽かき 敷きわら	日焼け防止 台風対策	日焼け防止 台風対策	施肥	施肥	植付け

引用参考図書:「百科キウイ・フェイジョア・ブルーベリー」 重田利夫 ひかりのくに

キウイフルーツ栽培体系

注1 基準値は、平成18年3月神奈川県環境農政部農業振興課資料による

5. 収益と費用

キウイフルーツ栽培体系 品種ヘイワード						
項目		基準値	診断対象			備考
		H 15年 A 10㍓当り	H 年 B 全体	H 年 C 全体	H 年 D 10㍓当り	
粗 収 益	生産量	2,000				横浜中央卸売市場
	販売単価	374				
	生産額	748,000				
	副産物収入					
	合計	748,000				
経 営 費	変 動 費	直接生産費	種苗費	1,000		
			肥料費	41,311		
			農薬費	25,713		
			光熱水費	2,027		
			ガソリン	1,002		
			軽油	320		
			潤滑油	397		
			その他	308		
			諸材料費	18,019		
			施設費			
			農機具費	30,600		
			小農具取替費	30,600		
			計	118,670		
		出 荷 経 費	出荷資材費	0		
			出荷経費	1,610		
			共選運賃			
			運搬車使用負担	1,295		
			運搬車燃料	315		
			共販手数料	238,540		
			計	240,150		
	固 定 費	小計	358,820			
		減価償却費	86,311			
		成園費	6,000			
		借地料				
		修繕費	17,447			
	成 果	その他				
		小計	109,758			
	成 果	合計	468,578			
		農業所得	279,422			
		所得率	37.4%			
		所要労働時間	204			
	成 果	家族労働1時間当り所得	1,370			

注1 基準値は、平成18年3月神奈川県環境農政部農業振興課資料による

1. 農業経営診断予備調査書 (1-1) ブドウ栽培 (平成 年 月 日現在)

診断希望事項										
1 生産法人の概要	経営の形態	①個人経営 ②法人経営			資本金(法人)	千円・元入金(個人)		千円		
	名称				従業員	男	女	人	人	
	所在地	〒			パート(8時間換算)	男	女	人	人	
	電話/FAX				その他	男	女	人	人	
	e-mail				計	男	女	人	人	
	HP				作業時間					
	代表者名				①一日当たり平均	時間				
	認定農業者資格	第1回認定日 H 年 月			②年間	時間				
	エコファーマー	認定日 H 年 月			休日数					
	営農年数	年(うち法人化 年)			①月間	日				
決算日	月 日			②年間	日					
2 生産部門/該当に○	経営の形態	①有り ②無し(考えている、いない)			後継者	①有り ②未定 ③無し				
	経営の業態	①単一経営 ②複合経営()			(5)作業記録・日誌の有無(有り)v					
	(1)耕種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤イモ類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧果樹作 ⑨露地野菜作 ⑩露地花卉作 ⑪施設野菜作 ⑫施設花卉作 ⑬施設果物作 ⑭その他()			①作業項目ごとの作業日誌 (内容と所要時間・人員数・方法等) ②ほ場ごとの機械作業時間の記録 ③消毒記録(液名・使用量・回数等) ④施肥記録(肥料名・使用量・回数等)					
	(2)畜産	①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他			(6)栽培方法の特色					
	(3)養蚕	①養蚕								
	(4)加工	①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③林産物加工(品名)								
	3 農業経営の現状と計画	(1)作目・部門名	作物面積・飼養頭数	生産量(t)	(5)農業経営の課題(v印、コメントを記入)					
		①			①品種の開発					
		②			②規模拡大に障害					
		③			③作物の選択					
④				④労働時間・作業様式						
経営面積合計				⑤市場対応(観光客の誘引・販売確保)						
(2)経営耕地		面積(ha)		⑥その他						
①所有地		畑・水田・施設栽培地・他								
②借入地		畑・水田・施設栽培地・他								
(3)作業受委託		作業内容	面積(ha)							
4 生産方式	委託・受託			(6)今後の主要な計画						
	委託・受託									
	委託・受託									
	(4)栽培施設の現状									
	施設の種類	棟数	面積(ha)							
	簡易ハウス									
	無加温ハウス									
	鉄骨補強ハウス									
	その他									
	(1)機械・施設名	(2)農用地の現状		(3)生産方式の課題						
①農業倉庫										
②ぶどう棚										
③灌水装置										
④ジベスプレー										
⑤梱包機										
⑥バックホー										
⑦SS										

1. 農業経営診断予備調査書

ブドウ栽培 (平成 年 月 日現在)

5 販売関係の現状と方針	(1)消費者ニーズ把握 ①している ②していない	(10)農産物の部門別生産量・販売量
	(2)対象とする客層を ①決めている ②決めていない	生産品目 生産量(トン、%) 販売額(千円、%)
	(3)直販の場合の顧客名簿 ①有り ②なし	①
	(4)販売計画 ①有り ②なし	②
	(5)計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い	③
6 財務会計	(6)達成度の低い時の理由	④
	(7)代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 %	⑤
	(8)販売上の問題点	合計 トン 100% 千円 100%
	(9)今後の販売方針・戦略の課題	(11)流通(販売)先の割合
		①農協・市場 % ②契約栽培 % ③スーパー・外食 % ④直販・朝市等 % ⑤インターネット・宅配等 % ⑥観光果樹園 計 100%
7 人事・労務管理	(1)複式簿記 ①使用 ②使用しない	(6)資金管理
	パソコン活用 ①有り ②なし	①支払利息 円/m ²
	(2)借入金の内訳	②農業所得(法人は経常利益) 円/m ²
	①農林中金・農林漁業公庫 スーパーL資金 千円	③借入金残高 円/m ²
	スーパーS資金 千円	④年間償還額 円/m ²
8 各種マニュアル整備	経営体育成強化資金 千円	⑤年間家計費(法人はなし) 円/m ²
	②JAバンク・銀行・金庫 農業近代化資金 千円	(7)収入・所得・利益 千円
	(3)利益計画 ①有り ②なし	①1回目認定時 ②現在
	(4)計画達成 ①した ②しない	収入 万円 万円
	(5)資金繰り表 ①有り ②無し	専従者所得 万円 万円
9 経営課題	(1)人手 ①十分 ②普通 ③不足	専従者除く所得 万円
	(2)家族協定書 ①有り ②なし	(11)経営組織図
	(3)就業規則 ①有り ②なし	
	(4)給与規定 ①有り ②なし	
	(5)退職規定 ①有り ②なし	
9 経営課題	(6)健康保険 ①有り ②なし	外国人の雇用 ①有り ②なし
	(7)厚生年金保険 ①有り ②なし	□(1)従業者の高齢化 □(11)後継者難
	(8)慰安旅行 ①有り ②なし	□(2)従業者の確保難 □(12)施設コストの増加
	(9)労災保険 ①有り ②なし	□(3)生産方式の改善難 □(13)軽労化困難
	(10)労働保険 ①有り ②なし	□(4)生産効率の低下 □(14)IT化の進展困難
9 経営課題	(1)施設内環境整備マニュアル ①有り ②なし	□(5)生産コストの増加 □(15)経営規模拡大困難
	(2)栽培管理用機器操作マニュアル ①有り ②なし	□(6)作業システムの不備
	(3)養液栽培・植物工場マニュアル ①有り ②なし	□(7)販売高の低下
	(4)IT操作マニュアル ①有り ②なし	□(8)利益率の低下
	(5)作業マニュアル ①有り ②なし	□(9)無・減農薬の対応 □(10)有機栽培の対応

2. 診断調査票(2-2)

8. 販売・受注状況・販売活動の特色(消費者交流など)				
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培など)
	食味 優	インターネット販売 100%		
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
	悪			
	食味 優	インターネット販売 100%		
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
	悪			
	食味 優	インターネット販売 100%		
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
	悪			

9. 機械・設備の状況と作業受委託の状況				
(1)機械・設備				
①トラクター(台)	②トラック(台)	③パイプハウス m ² (m x m)		
④ヒートポンプ kwx 台	⑤換気扇 台	⑦SS 台		
⑥ポンプ kwx 台				
⑧				
(2)作業受託				
(3)作業委託				
(4)その他設備(貯蔵庫等)				

10. 生産・技術・設備状況(特色は、)					
	創業時点	2年前	1年前	現在	備考
(1)作業面積の変化	ha()	ha()	ha()	ha()	()は借地面積
(2)作業受託	ha()	ha()	ha()	ha()	()は件数
(3)作業委託	ha()	ha()	ha()	ha()	()は件数
(4)雇用人数	人()	人()	人()	人()	()は女性数
(5)機械の導入	ha()	ha()	ha()	ha()	
	ha()	ha()	ha()	ha()	

11. 栽培・作業技術について			
(1)ブドウ栽培・作業技術の先進事例の観察・研究の有無	①有	②無	③検討中()
(2)ブドウ栽培・作業技術の体系の有無	①有	②無	③検討中()
(3)ブドウ栽培(様式別)の収量と労働時間の基準	①有	②無	③検討中()
(4)ブドウ栽培の栽培費用・労働時間・収量基準	①有	②無	③検討中()
(5)農業試験場などによる奨励品種の検討	①有	②無	③検討中()
(6)その他栽培方式・作業技術の再検討	①有	②無	③検討中()

12. 労働環境の改善等実施状況											
下記の実施程度に○印をつけてください											
①労働時間の短縮・合理化	◎	○	△	×	⑥雇用者の労働報酬の決め方	◎	○	△	×		
②担い手確保や後継者育成	◎	○	△	×	⑦雇用確保の方法	◎	○	△	×		
③従業者への技術指導・研修	◎	○	△	×	⑧報酬・退職金等の条件整備	◎	○	△	×		
④従業者の作業位置の適正化	◎	○	△	×	⑨福利厚生制度の整備	◎	○	△	×		
⑤組合員の労働報酬の決め方	◎	○	△	×	⑩作業管理と安全管理	◎	○	△	×		
その他労務上の問題点											

3. 作目・品種部門の内容

記入欄	作目	種目	品種	作型	施設種類	面積(ha)	栽培方式	無農薬	減農薬	有機栽培
4. 施設・栽培方式の経緯						5. 栽培変更計画中の作目・品種は				
作目	年度					その特徴は その栽培時期は そのおいしさは その成長の度合い、実の収穫数は				
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年構成比	%	%	%	%					
	品種名									
作目	年度									
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年構成比	%	%	%	%					
	品種名									
作目	年度					備考欄				
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年構成比	%	%	%	%					
	品種名									
6. 収穫方法										
7. 作目・品種・立地条件などの問題点										

3. 診断調査表

1. ブドウ栽培体系(モデル例:ベリーA)

月旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12	
栽培型	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	発芽・展葉 — G — — G — ■ ■ ■ ■ (G:ジベレリン処理)																							
主要作業名		棚修理 粗皮はぎ			一部被覆		摘房・整房 誘引 ジベレリン処理		袋掛け		収穫		収穫			土壌管理		土壌管理						
栽培技術上の ポイント	1. 樹勢が中程度で、結果枝の揃いがよいこと 2. 販売は、直売であるために味にこだわり、特に酸抜きのよいもの、糖度が高いものを重視する 3. 土壌管理は、深耕＋堆肥施用＋草生栽培を行う																							
栽培概要	施肥量(kg／10a) N 13 P 8 K 13 樹間 8m×6m 栽植密度 30本／10a)																							

2. ブドウ栽培体系(モデル例:ピオーネ)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	休眠期 展葉 開花 休眠期 主枝誘引 ○ — — — — G G — — — — ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ 芽かき 一部被覆 袋掛け 摘房整房 整枝剪定 被覆除去 (G:ジベレリン処理)											
主要作業名	整枝剪定 中耕除草	落葉処理 一部被覆	整枝剪定 棚修理 粗皮削り 主枝結束	一部被覆 病害虫防除	芽かき 摘房・整房 誘引	病害虫防除 摘房 誘引	病害虫防除 摘房 誘引	収穫	収穫	収穫	一部被覆	整枝剪定 土壌作り
栽培技術上のポイント	1. 10a当たり房数は2800~3500房とし、1房重は500g~700gとする 2. ジベレリン処理は適期に行う 3. 予期摘粒の実施により、作業の効率化を図る 4. 病害虫の早期防除に努める											
栽培概要	施肥量(kg/10a) N 8 P 10 K 13 樹間 8m×6m 栽植密度 20本/10a											

3. 受診農園の場合

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業名												

4. 農産物生産の作業別労働時間調査表
ぶどう(ベリーA 一部被覆)

項目	当園実績	労働時間割合 (%表示)	当園(h) 10aあたり	兵庫県(h) 10aあたり	労働時間割合 (%表示)
作付け面積(a)					
本 園	整枝・せん定			17.0	3.7%
	除草			12.0	2.6%
	防除			14.0	3.1%
	一部被覆・除去			34.0	7.4%
	主枝結束			8.0	1.8%
	芽かき			6.0	1.3%
	摘房・整房			29.0	6.3%
	ジベレリン処理			18.0	3.9%
	誘引			32.0	7.0%
	また芽取り			24.0	5.3%
	摘粒			40.0	8.8%
	袋掛け			20.0	4.4%
	施肥			5.0	1.1%
	落葉処理			4.0	0.9%
	土壌管理			32.0	7.0%
	棚修理			16.0	3.5%
	粗皮はぎ			16.0	3.5%
収穫・販売				126.0	27.6%
その他					
計				4.0	0.9%
合計				457.0	100.0%
家族労働時間					
雇用労働時間					

出典: 兵庫県農林水産部普及教育課
平成13年度 地域農業経営指導ハンドブック

5. 農産物生産の収益・費用調査表
ぶどう(ベリーA 一部被覆)

項目	当園	費用割合 (%表示)	当園 10aあたり	兵庫県 10aあたり	費用割合 (%表示)	兵庫県摘要
面積(a)						
主産物生産量			2,000			
販売単価			650			
主産物販売収入			1,300,000			
副産物生産量			500			
販売単価			500			
副産物販売収入			250,000			
その他収入			0			
合計			1,550,000			
肥料費			19,322		3.1%	化成肥料、骨粉、硫酸カリ、堆肥等
農薬費			24,104		3.9%	殺菌、殺虫剤、ジベリリン等
諸材料費			46,615		7.6%	ポリ原反、ベジタロン、果実袋
光熱水費			4,698		0.8%	軽油、ガolin等
小農具費			2,652		0.4%	草刈機、結束機、鋏、鎌等
荷造り出荷費			102,534		16.7%	化粧箱(2kg箱)、エアマット等
販売費			25,920		4.2%	直売用テント、宣伝・広告費等
その他			15,660		2.5%	水利費、部会費、租税公課等
小計			241,505		39.2%	
修繕費			73,805		12.0%	建物施設 1,969,000円×2%、機械 688,500円×5%
支払利息			22,838		3.7%	負担新調価格 3,582,500円×0.5×0.5×2.55%
減価償却費			277,510		45.1%	建物施設 107,640円 機械 96,641円 植物 73,229円
小計			374,153		60.8%	
計			615,658		100.0%	
所得			934,342			
限界利益			1,308,495			
成果						

経営分析表

〈ぶどう作経営〉

部門	No	項目	判定	単位	全国平均 (H16) A	県平均 B	H 年 C	H 年 D	D/A・B	備考
農業 収支	1	農業粗収益	大	千円	4,664					
	2	農業経営費	小	千円	2,479					
	3	農業所得	大	千円	2,165					
分析 指標	4	農業所得率	大	%	46.7					
	5	付加価値額	大	千円	2,434					
	6	付加価値率	大	%	51.7					
	7	農業固定資産 装備率	大	円	1,668					
収益 性	8	農業経営関与者 1人当り農業所得	大	千円	948					
	9	農業経営関与者 1人当り総所得	大	千円	2,384					
	10	農業専従者 1人当り農業所得	大	千円	1,982					
	11	家族農業労働 1時間当り所得	大	円	735					
	12	農業固定資産 千円当り所得	大	円	415					
	13	果樹植栽面積 10a当り所得	大	千円	319					
生産 性	14	自営農業労働 1時間当り	大	円	767					
	15	農業固定資産 千円当り	大	円	460					
	16	果樹植栽面積 10a当り	大	円	353					
経営 概況	17	月平均農業経営 関与者数	—	人	2.32					
	18	経営耕地面積	—	a	121					
	19	自営農業労働時間	小	時間	3,175					
	20	家族労働時間(ゆい含む)			2,994					

※ 全国平均値は農水省H16年度統計による。

社団法人 中小企業診断協会

1. 農業経営診断予備調査書 (1-1) くり栽培 (平成 年 月 日現在)

診断希望事項										
1 生産 法人	経営の形態	①個人経営 ②法人経営			資本金(法人)	千円・元入金(個人)	千円			
	名称				従業員数	男	女	人		
	所在地	〒			業	男	女	人		
	電話/FAX				者	男	女	人		
	e-mail				パート(8時間換算)	男	女	人		
	HP				計	男	女	人		
	代表者名				作業時間					
	認定農業者資格	第1回認定日 H 年 月			①一日当たり平均	時間				
	エコファーマー	認定日 H 年 月			②年間	時間				
	営農年数	年(うち法人化 年)			休日数					
2 生産 部門 に 当 り て の 概 要	決算日	月 日			①月間	日				
	集団栽培	①有り ②無し(考えている、いない)			②年間	日				
	経営の業態	①単一経営 ②複合経営()			後継者	①有り ②未定 ③無し				
	(1)耕種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤イモ類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧果樹作 ⑨露地野菜作 ⑩露地花卉作 ⑪施設野菜作 ⑫施設花卉作 ⑬施設果樹作 ⑭その他()			(5)作業記録・日誌の有無(有りにv) ①作業項目ごとの作業日誌 (内容と所要時間・人員数・方法等) ②ほ場ごとの機械作業時間の記録 ③消毒記録(液名・使用量・回数等) ④施肥記録(肥料名・使用量・回数等)					
	(2)畜産	①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他			(6)栽培方法の特色					
	(3)養蚕	①養蚕								
	(4)加工	①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③林産物加工(品名)								
	3 農業 経営 の 現 状 と 計 画	(1)作目・部門名	作物面積・飼養頭数	生産量(t)	(5)農業経営の課題(v印、コメントを記入)					
		①			①品種の開発					
		②			②規模拡大に障害					
③				③作物の選択						
④				④労働時間・作業様式						
経営面積合計				⑤市場対応(観光客の誘引・販売確保)						
(2)経営耕地			面積(ha)	⑥その他						
①所有地		畑・水田・施設栽培地・他								
②借入地		畑・水田・施設栽培地・他								
(3)作業受委託		作業内容	面積(ha)							
4 生 産 方 式	委託・受託			(6)今後の主要な計画						
	委託・受託									
	委託・受託									
	(4)栽培施設の現状									
	施設の種類	棟数	面積(ha)							
	作業場兼収納舎									
	売店									
	保冷庫									
	その他									
	(1)機械・施設名	(2)農用地の現状		(3)生産方式の課題						
①自走モーター										
②自走運搬機										
③いがむき機										
④選果機										
⑤軽四トラック										
⑥SS										

(1)消費者ニーズ把握 ①している ②していない	(10)農産物の部門別生産量・販売量
(2)対象とする客層を ①決めている ②決めていない	生産品目 生産量(トン、%) 販売額(千円、%)
(3)直販の場合の顧客名簿 ①有り ②なし	①
(4)販売計画 ①有り ②なし	②
(5)計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い	③
(6)達成度の低い時の理由	④
	⑤
	合計 トン 100% 千円 100%
(7)代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 %	(11)流通(販売)先の割合
(8)販売上の問題点	① 農協・市場 %
	② 契約栽培 %
	③ スーパー・外食 %
	④ 直販・朝市等 %
	⑤ インターネット・宅配等 %
(9)今後の販売方針・戦略の課題	⑥ 観光果樹園 %
	計 100%
(1)複式簿記 ①使用 ②使用しない	(6)資金管理
パソコン活用 ①有り ②なし	① 支払利息 円/㎡
(2)借入金の内訳	② 農業所得(法人は経常利益) 円/㎡
①農林中金・農林漁業公庫 スーパーL資金 千	③ 借入金残高 円/㎡
スーパーS資金 千	④ 年間償還額 円/㎡
経営体育成強化資金 千	⑤ 年間家計費(法人はなし) 円/㎡
②JA/バンク・銀行・金庫 農業近代化資金 千	(7)収入・所得・利益
合計 千	収入 ①1回目認定時 ②現在
(3)利益計画 ①有り ②なし	収入 万円 万円
(4)計画達成 ①した ②しない	専従者所得 万円 万円
(5)資金繰り表 ①有り ②無し	専従者除く所得 万円 万円
(1)人手 ①十分 ②普通 ③不足	(11)経営組織図
(2)家族協定書 ①有り ②なし	
(3)就業規則 ①有り ②なし	
(4)給与規定 ①有り ②なし	
(5)退職規定 ①有り ②なし	
(6)健康保険 ①有り ②なし	
(7)厚生年金保険 ①有り ②なし	
(8)慰安旅行 ①有り ②なし	
(9)労災保険 ①有り ②なし	
(10)労働保険 ①有り ②なし	
(1)施設内環境整備マニュアル ①有り ②なし	外国人の雇用 ①有り ②なし
光、温度など	□(1)従業者の高齢化 □(11)後継者難
(2)栽培管理用機器操作マニュアル ①有り ②なし	□(2)従業者の確保難 □(12)施設コストの増加
防除、灌水、収穫など	9 □(3)生産方式の改善難 □(13)軽労化困難
(3)養液栽培・植物工場マニュアル ①有り ②なし	□(4)生産効率の低下 □(14)IT化の進展困難
(4)IT操作マニュアル ①有り ②なし	□(5)生産コストの増加 □(15)経営規模拡大困難
(5)作業マニュアル ①有り ②なし	□(6)作業システムの不備
	の □(7)販売高の低下
	課 □(8)利益率の低下
	題 □(9)無・減農薬の対応
	□(10)有機栽培の対応

2. 診断調査表

1. 農業経営の沿革 (1)経営規模の推移と内容 (2)栽培方式の転換などの経過 (3)現在の経営規模と生産方式 (4)現在の経営の特色										
2. 農業コンセプト(O印をつける)										
(1)食の安心・安全を基本にして栽培している				①いる	②いない					
(2)販売先・消費対象客を定めて栽培している				①いる	②いない	③一部は契約栽培をしている				
(3)無・減農薬・有機栽培している				①いる	②いない	③一部はしている				
(4)省力化・機械化を導入して効率化を図っている				①いる	②いない	③まだ不十分				
(5)ISO 14001・9001・22000の導入				①いる	②していない					
3. 作目・品種部門の内容										
記入欄	作目	種目	品種	作型	施設種類	面積(ha)	栽培方式	無農薬	減農薬	有機栽培
4. 施設・栽培方式の経緯						5.栽培変更計画中の作目・品種は				
作目	年度					その特徴は その栽培時期は そのおいしさは その成長の度合い、実の収穫数は				
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
品種名						備考欄				
作目	年度									
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
品種名										
6. 収穫方法										
7. 作目・品種・立地条件などの問題点										

2. 診断調査票(2-2)

8. 販売・受注状況・販売活動の特色(消費者交流など)					
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培など)	
	食味 優	インターネット販売 100%			
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%			
	食味 並	中級食堂チェーン 100%			
	悪				
	食味 優	インターネット販売 100%			
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%			
	食味 並	中級食堂チェーン 100%			
	悪				
	食味 優	インターネット販売 100%			
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%			
	食味 並	中級食堂チェーン 100%			
	悪				
9. 機械・設備の状況と作業受委託の状況					
(1)機械・設備					
①トラクター(台) ②トラック(台) ③自走運搬機 台					
④自走モアー 台 ⑤いがむき機 台					
⑥選果機 台 ⑦SS 台					
⑧					
(2)作業受託					
(3)作業委託					
(4)その他設備(貯蔵庫等)					
10. 生産・技術・設備状況(特色は、)					
	創業時点	2年前	1年前	現在	備考
(1)作業面積の変化	ha()	ha()	ha()	ha()	()は借地面積
(2)作業受託	ha()	ha()	ha()	ha()	()は件数
(3)作業委託	ha()	ha()	ha()	ha()	()は件数
(4)雇用人数	人()	人()	人()	人()	()は女性数
(5)機械の導入	ha()	ha()	ha()	ha()	
	ha()	ha()	ha()	ha()	
11. 栽培・作業技術について					
(1)くり栽培・作業技術の先進事例の観察・研究の有無	①有	②無	③検討中()		
(2)くり栽培・作業技術の体系の有無	①有	②無	③検討中()		
(3)くり栽培(様式別)の収量と労働時間の基準	①有	②無	③検討中()		
(4)くり栽培の栽培費用・労働時間・収量基準	①有	②無	③検討中()		
(5)農業試験場などによる奨励品種の検討	①有	②無	③検討中()		
(6)その他栽培方式・作業技術の再検討	①有	②無	③検討中()		
12. 労働環境の改善等実施状況					
下記の実施程度に○印をつけてください					
①労働時間の短縮・合理化	◎	○	△	×	⑥雇用者の労働報酬の決め方 ◎ ○ △ ×
②担い手確保や後継者育成	◎	○	△	×	⑦雇用確保の方法 ◎ ○ △ ×
③従業者への技術指導・研修	◎	○	△	×	⑧報酬・退職金等の条件整備 ◎ ○ △ ×
④従業者の作業位置の適正化	◎	○	△	×	⑨福利厚生制度の整備 ◎ ○ △ ×
⑤組合員の労働報酬の決め方	◎	○	△	×	⑩作業管理と安全管理 ◎ ○ △ ×
その他労務上の問題点					

1. くり栽培体系

2. 受診農園の場合

4. 農産物生産の作業別労働時間調査表

出典：兵庫県農林水産部普及教育課
平成13年度 地域農業経営指導ハンドブック

5. 農産物生産の収益・費用調査表

項目		費用割合	当園	静岡県	費用割合	兵庫県	費用割合	兵庫県の摘要	
面積(a)		(%表示)	10aあたり	10aあたり	(%表示)	10aあたり	(%表示)		
粗収益	主産物生産量		350			200		200kg(3L)	
	販売単価		410			1,000			
	主産物販売収入		143,500			200,000			
	副産物生産量		0			250		160kg(2L), 90kg(L)	
	販売単価		0			692			
	副産物販売収入		0			173,000			
	その他収入		0			12,000		入園料収入	
	合計		143,500			385,000		完熟堆肥、高度化成、NK化成2号	
	肥料費		11,600		8.8%	8,439	6.4%	補植用苗木	
	育苗費		0		0.0%	3,300	2.5%	殺菌、殺虫剤、除草剤	
変動費	農薬費		10,109		7.7%	10,971	8.3%	ガソリン、電気、水道	
	諸材料費		200		0.2%	0	0.0%	刈立、高枝切り、剪定ばさみ、チェーンソー、ノコギリ、コシテナ、火箸	
	光熱水費		297		0.2%	1,745	1.3%	出荷用箱、ガムテープ、袋	
	小農具費		750		0.6%	5,800	4.4%	研修費、固定資産税、作業衣服代	
	荷造り出荷費		31,395		23.8%	4,250	3.2%	建物施設 310,200円×2%、機械 215,900円×5%	
	販売費		0		0.0%	0	0.0%	負担新調価格 933,100円×0.5×0.5×2.55%	
	その他		0		0.0%	4,035	3.1%	建物施設 15,782円 機械 39,355円 植物 15,466円	
	小計		54,351		41.1%	38,540	29.2%		
	修繕費		7,348		5.6%	16,999	12.9%		
	支払利息				0.0%	5,949	4.5%		
固定費	減価償却費		17,065		12.9%	70,603	53.5%		
	成園・成蓄費		11,856		9.0%	0	0.0%		
	小計		36,269		27.5%	93,551	70.8%		
計			90,620		68.6%	132,091	100.0%		
			52,880			252,909			
			89,149			346,460			
成果	所得								
	限界利益								
家族労働1時間あたり所得			853			5,535			

1. 農業経営診断予備調査書 (1-1) 黒大豆栽培 (平成 年 月 日現在)

診断希望事項

経営の形態		①個人経営 ②法人経営		資本金(法人)		千円・元入金(個人)		千円	
名称				従業員数		男		女	
所在地		〒		家族従業員		男		女	
電話/FAX				パート(8時間換算)		男		女	
e-mail				その他		男		女	
HP				計		男		女	
代表者名				作業時間		①一日あたり平均		時間	
認定農業者資格		第1回認定日 H 年 月		②年間				時間	
エコファーマー		認定日 H 年 月		休日数		①月間		日	
営農年数		年(うち法人化 年)		②年間				日	
決算日		月 日		後継者		①有り ②未定 ③無し			
集団栽培		①有り ②無し(考えている、いない)							
経営の形態		①単一経営 ②複合経営()							
(1)耕種		①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤イモ類作 ⑥飼料作 ⑦工業作物作 () ⑧果樹作 ⑨露地野菜作 ⑩露地花卉作 ⑪施設野菜作 ⑫施設花卉作 ⑬施設果物作 ⑭その他()		(5)作業記録・日誌の有無(有りにv)		①作業項目ごとの作業日誌(内容と所要時間・人員数・方法等)			
(2)畜産		①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他		②ほ場ごとの機械作業時間の記録					
(3)養蚕		①養蚕		③消毒記録(液名・使用量・回数等)					
(4)加工		①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③林産物加工(品名)		④施肥記録(肥料名・使用量・回数等)					
				(6)栽培方法の特色					
(1)作目・部門名		作物面積・飼養頭数		生産量(t)		(5)農業経営の課題(v印、コメントを記入)			
①						①品種の開発			
②						②規模拡大に障害			
③						③作物の選択			
④						④労働時間・作業様式			
の経営面積合計						⑤市場対応(観光客の誘引・販売確保)			
(2)経営耕地		面積(ha)				⑥その他			
①所有地		畑・水田・施設栽培地・他							
②借入地		畑・水田・施設栽培地・他							
(3)作業受委託		作業内容		面積(ha)					
委託・受託									
委託・受託									
委託・受託									
(4)栽培施設の現状						(6)今後の主要な計画			
施設の種類		棟数		面積(ha)					
パイプハウス									
その他									
(1)機械・施設名		(2)農用地の現状		(3)生産方式の課題					
①農業倉庫									
②トラクター									
③半自動移植機									
④動噴									
⑤脱粒機									
⑥乾燥機									
⑦選粒機									
⑧軽四トラック									

1. 農業経営診断予備調査書

黒大豆栽培 (平成 年 月 日現在)

5 販売関係の現状と方針	(1)消費者ニーズ把握 ①している ②していない	(10)農産物の部門別生産量・販売量
	(2)対象とする客層を ①決めている ②決めていない	生産品目 生産量(トン、%) 販売額(千円、%)
	(3)直販の場合の顧客名簿 ①有り ②なし	①
	(4)販売計画 ①有り ②なし	②
	(5)計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い	③
6 財務会計	(6)達成度の低い時の理由	④
	(7)代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 %	⑤
	(8)販売上の問題点	合計 トン 100% 千円 100%
	(9)今後の販売方針・戦略の課題	(11)流通(販売)先の割合
		① 農協・市場 % ② 契約栽培 % ③ スーパー・外食 % ④ 直販・朝市等 % ⑤ インターネット・宅配等 % ⑥ 観光果樹園 % 計 100%
7 人事・労務管理	(1)複式簿記 ①使用 ②使用しない	(6)資金管理
	パソコン活用 ①有り ②なし	① 支払利息 円/m ²
	(2)借入金の内訳	② 農業所得(法人は経常利益) 円/m ²
	①農林中金・農林漁業公庫 スーパーL資金	③ 借入金残高 円/m ²
	スーパーS資金 経営体育成強化資金	④ 年間償還額 円/m ²
8 各種マニュアル整備	②JAバンク・銀行・金庫 農業近代化資金	⑤ 年間家計費(法人はなし) 円/m ²
	(3)利益計画 ①有り ②なし	(7)収入・所得・利益
	(4)計画達成 ①した ②しない	千円 ①1回目認定時 ②現在
	(5)資金繰り表 ①有り ②無し	収入 万円
		専従者所得 万円
9 経営課題	(1)人手 ①十分 ②普通 ③不足	専従者除く所得 万円
	(2)家族協定書 ①有り ②なし	(11)経営組織図
	(3)就業規則 ①有り ②なし	
	(4)給与規定 ①有り ②なし	
	(5)退職規定 ①有り ②なし	
9 経営課題	(6)健康保険 ①有り ②なし	外国人の雇用 ①有り ②なし
	(7)厚生年金保険 ①有り ②なし	□(1)従業者の高齢化 □(11)後継者難
	(8)慰安旅行 ①有り ②なし	□(2)従業者の確保難 □(12)施設コストの増加
	(9)労災保険 ①有り ②なし	□(3)生産方式の改善難 □(13)経労化困難
	(10)労働保険 ①有り ②なし	□(4)生産効率の低下 □(14)IT化の進展困難
9 経営課題	(1)施設内環境整備マニュアル ①有り ②なし	□(5)生産コストの増加 □(15)経営規模拡大困難
	(2)栽培管理用機器操作マニュアル ①有り ②なし	□(6)作業システムの不備
	(3)養液栽培・植物工場マニュアル ①有り ②なし	□(7)販売高の低下
	(4)IT操作マニュアル ①有り ②なし	□(8)利益率の低下
	(5)作業マニュアル ①有り ②なし	□(9)無・減農薬の対応 □(10)有機栽培の対応

2. 診断調査表

1. 農業経営の沿革 (1)経営規模の推移と内容 (2)栽培方式の転換などの経過 (3)現在の経営規模と生産方式 (4)現在の経営の特色										
2. 農業コンセプト(○印をつける) (1)食の安心・安全を基本にして栽培している ①いる ②いない (2)販売先・消費対象客を定めて栽培している ①いる ②いない ③一部は契約栽培をしている (3)無・減農薬・有機栽培している ①いる ②いない ③一部はしている (4)省力化・機械化を導入して効率化を図っている ①いる ②いない ③まだ不十分 (5)ISO 14001・9001・22000の導入 ①いる ②していない										
3. 作目・品種部門の内容										
記入欄	作目	種目	品種	作型	施設種類	面積(ha)	栽培方式	無農薬	減農薬	有機栽培
4. 施設・栽培方式の経緯						5. 栽培変更計画中の作目・品種は				
作目	年度					その特徴は その栽培時期は そのおいしさは その成長の度合い、実の収穫数は				
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
品種名						備考欄				
作目	年度									
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
品種名						備考欄				
作目	年度									
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
	平成 年	ha	ha	ha	ha					
6. 収穫方法										
7. 作目・品種・立地条件などの問題点										

2. 診断調査票(2-2)

8. 販売・受注状況・販売活動の特色(消費者交流など)				
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培など)
	食味 優	インターネット販売 100%		
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
	悪			
	食味 優	インターネット販売 100%		
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
	悪			
	食味 優	インターネット販売 100%		
	食味 良	コンビニ 50%、ホテル 50%		
	食味 並	中級食堂チェーン 100%		
	悪			

9. 機械・設備の状況と作業受委託の状況

(1)機械・設備

①トラクター(台) ②トラック(台) ③パイプハウス m(m x m)

④半自動移植機 kwx 台 ⑤動噴 台

⑥脱粒機 kwx 台 ⑦乾燥機 台

⑧選粒機 台

(2)作業受託

(3)作業委託

(4)その他設備(貯蔵庫等)

10. 生産・技術・設備状況(特色は、)

	創業時点	2年前	1年前	現在	備考
(1)作業面積の変化	ha()	ha()	ha()	ha()	()は借地面積
(2)作業受託	ha()	ha()	ha()	ha()	()は件数
(3)作業委託	ha()	ha()	ha()	ha()	()は件数
(4)雇用人数	人()	人()	人()	人()	()は女性数
(5)機械の導入	ha()	ha()	ha()	ha()	
	ha()	ha()	ha()	ha()	

11. 栽培・作業技術について

(1)黒大豆栽培・作業技術の先進事例の観察・研究の有無	①有	②無	③検討中()
(2)黒大豆栽培・作業技術の体系の有無	①有	②無	③検討中()
(3)黒大豆栽培(様式別)の収量と労働時間の基準	①有	②無	③検討中()
(4)黒大豆栽培の栽培費用・労働時間・収量基準	①有	②無	③検討中()
(5)農業試験場などによる奨励品種の検討	①有	②無	③検討中()
(6)その他栽培方式・作業技術の再検討	①有	②無	③検討中()

12. 労働環境の改善等実施状況

下記の実施程度に○印をつけてください

①労働時間の短縮・合理化	◎	○	△	×	⑥雇用者の労働報酬の決め方	◎	○	△	×
②担い手確保や後継者育成	◎	○	△	×	⑦雇用確保の方法	◎	○	△	×
③従業者への技術指導・研修	◎	○	△	×	⑧報酬・退職金等の条件整備	◎	○	△	×
④従業者の作業位置の適正化	◎	○	△	×	⑨福利厚生制度の整備	◎	○	△	×
⑤組合員の労働報酬の決め方	◎	○	△	×	⑩作業管理と安全管理	◎	○	△	×

その他労務上の問題点

3. 診断調査表

1. 黒大豆栽培体系(移植栽培)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
						播種 育苗 定植	中耕 追肥	追肥			■ ■ 稲木架け脱粒 乾燥 調製	
主要作業名				基肥 耕耘・整地		育苗 定植	中耕培土 追肥	防除 追肥	防除		収穫 調製	収穫 乾燥 調製
栽培技術上の ポイント	1. 優良種子を用いる 2. ほ場の排水(冬から)に留意する 3. 早めに培土を行う 4. 病害虫防除を徹底する											
栽培概要	施肥量(kg/10a) N 元肥2 追肥2 P 元肥8 追肥0 N 元肥8 追肥2 畝幅 160cm 株間 45cm 1条 栽植密度 1400株/10a											

2. 黒大豆栽培体系(直播栽培)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
						播種 補植	培土 追肥	追肥			■ ■ 予備乾燥 脱粒 調製	
主要作業名				基肥 耕耘・整地		播種 育苗 補植	中耕培土 追肥	防除 追肥	防除		収穫 調製	収穫 乾燥 調製
栽培技術上の ポイント	1. 種子の更新、適期播種の励行 2. 日当たり良く、土づくりのできた灌排水良好なほ場の選定 3. 発芽率80%以上の確保、補植の実施 4. 早期培土と十分な培土作業 5. 病害虫防除の徹底											
栽培概要	施肥量(kg/10a) N 元肥2 追肥2 P 元肥8 追肥0 N 元肥8 追肥2 畝幅 160cm 株間 45cm 1条 栽植密度 1400株/10a											

3. 受診農園の場合

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
栽培型	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主要作業名												

4. 農産物生産の作業別労働時間調査表
黒大豆(移植栽培)

項目	当園実績	労働時間割合	当園(h)	兵庫県(h)	労働時間割合
作付け面積(a)		(%表示)	10aあたり	10aあたり	(%表示)
本園	基肥			6.0	8.4%
	耕耘・整地			4.0	1.0%
	育苗			2.5	3.5%
	定植			1.0	1.4%
	中耕培土			4.0	5.6%
	防除			3.2	4.5%
	追肥			0.4	0.6%
	収穫・販売			10.0	14.1%
その他	乾燥			5.0	7.0%
	調製			35.0	49.2%
合計				40.0	56.3%
合計				71.1	100.0%
家族労働時間			出典: 兵庫県農林水産部普及教育課 平成13年度 地域農業経営指導ハンドブック		
雇用労働時間					

黒大豆(直播栽培)

項目	当園実績	労働時間割合	当園(h)	兵庫県(h)	労働時間割合
作付け面積(a)		(%表示)	10aあたり	10aあたり	(%表示)
本園	基肥			6.0	8.4%
	耕耘・整地			4.0	5.6%
	播種			2.5	3.5%
	育苗			0.6	0.8%
	補植			1.0	1.4%
	中耕培土			4.0	5.6%
	防除			3.2	4.5%
	追肥			0.4	0.6%
収穫・販売				10.0	13.9%
その他	乾燥			5.0	7.0%
	調製			35.0	48.8%
合計				40.0	55.8%
合計				71.7	100.0%
家族労働時間			出典: 兵庫県農林水産部普及教育課 平成13年度 地域農業経営指導ハンドブック		
雇用労働時間					

5. 農産物生産の収益・費用調査表

黒大豆(移植栽培)

黒大豆(移転栽培)							
項目	当園	費用割合	当園	兵庫県	費用割合	摘要	
面積(a)	(%表示)	10aあたり	10aあたり	(%表示)			
粗収益	主産物生産量			180		kg	
	販売単価			1,500			
	主産物販売収入			270,000			
	副産物生産量						
	販売単価						
	副産物販売収入						
	その他収入			0			
合計			270,000				
経営費	変動費	種苗費		6,000	4.0%	種子2kg	
		肥料費		25,980	17.5%	堆肥、化成肥料、NK化成、石灰質肥料	
		農薬費		13,276	9.0%	殺虫剤、殺菌剤、除草剤	
		諸材料費		16,800	11.3%	支柱、マイカー線、セルトレイ15箱、育苗培土	
		光熱水費		4,822	3.3%	電気、ガソリン、軽油、オイル	
		小農具費		328	0.2%	鍬、鎌、スコップ、鉄	
		荷造出荷費		640	0.4%	出荷袋	
		販売手数料		9,450	6.4%	手数料3.5%	
		その他		11,840	8.0%	水利費、租税公課等	
	小計		89,136	60.1%			
	固定費	修繕費		15,887	10.7%	建物施設 209,100円×2%、機械 234,100円×5%	
		支払利息		2,825	1.9%	負担新調価格 443,200円×0.5×0.5×2.55%	
		減価償却費		40,476	27.3%	建物施設 9,699円 機械 30,777円	
		小計		59,188	39.9%		
		計		148,324	100.0%		
成果	所得			121,676			
	限界利益			180,864			

出典:兵庫県農林水産部普及教育課
平成13年度 地域農業経営指導ハンドブック

黒大豆(直播栽培)

項目	当園	費用割合	当園	兵庫県	費用割合	摘要
面積(a)	(%表示)	10aあたり	10aあたり	(%表示)		
粗収益	主産物生産量			180		kg
	販売単価			1,500		
	主産物販売収入			270,000		
	副産物生産量					
	販売単価					
	副産物販売収入					
	その他収入			0		
合計			270,000			
経営費	変動費	種苗費		6,000	4.5%	種子2kg
		肥料費		25,980	19.3%	堆肥、化成肥料、NK化成、石灰質肥料
		農薬費		13,363	9.9%	殺虫剤、殺菌剤、除草剤
		諸材料費		14,390	10.7%	支柱、マイカー線、セルトレイ3箱、育苗培土、防鳥テープ
		光熱水費		4,822	3.6%	電気、ガソリン、軽油、オイル
		小農具費		328	0.2%	鍬、鎌、スコップ、鉄
		荷造出荷費		640	0.5%	出荷袋
		販売手数料		9,450	7.0%	手数料3.5%
		その他		7,556	5.6%	水利費、租税公課等
		小計		82,529	61.4%	
	固定費	修繕費		14,287	10.6%	建物施設 193,100円×2%、機械 208,500円×5%
		支払利息		2,560	1.9%	負担新調価格 401,600円×0.5×0.5×2.55%
		減価償却費		35,027	26.1%	建物施設 7,899円 機械 27,128円
		小計		51,874	38.6%	
		計		134,403	100.0%	
成果	所得		135,597			
	限界利益		187,471			

出典:兵庫県農林水産部普及教育課
平成13年度 地域農業経営指導ハンドブック

1. 農業経営診断予備調査書(1-1)

露地栽培(かき) (平成 年 月 日現在)

診断希望事項																	
1 生産法人の概要	経営の形態	①個人経営 ②法人経営		資本金 千円・増資予定 千円													
	名称			従業員 男 人 女 人													
	e-mail			従業員 男 人 女 人													
	HP			家族 男 人 女 人													
	所在地	〒	TEL	パート(8時間換算) 男 人 女 人													
				計 男 人 女 人													
	代表者名	(年齢)		作業時間 ①1日あたり平均 時間													
	営農年数	年(うち法人化 年)		②年間 時間													
	決算日	月 日		休日数 ①月間 日 ②年間 日													
	集団栽培	① 有り、② 無し(考えている、いない)		後継者 ①有り ②未定 ③無し													
2 生産部門 該当に○印	経営の業態	①単一経営、②複合経営()		(5)栽培法等の特色													
	(1)耕種	①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤イモ類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧果樹作 ⑨露地野菜作 ⑩露地花き作 ⑪施設野菜作 ⑫施設花き作 ⑬施設果物作 ⑭その他()		(5)栽培の課題(○印、コメントを記入) ①品種の開発 ②規模拡大に障害 ③作物の選択 ④労働時間・作業様式 ⑤市場対応(観光客の誘引・販売確保) ⑥その他													
	(2)畜産	①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他															
	(3)養蚕	①養蚕															
	(4)加工	①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③林産加工(品名)															
	3 農業経営の現状と計画	(1)作目・部門名	作物面積・飼養頭数生産量	(5)農業経営の課題													
		①	ha トン	①生産部門													
		②	ha トン	②貸付農家数と作物面積の内訳													
		③	ha トン	<table border="1"> <tr> <th>農家数</th> <th>貸付数</th> <th>貸付面積</th> <th>地代10アール</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>共同参加</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		農家数	貸付数	貸付面積	地代10アール					共同参加			
		農家数	貸付数	貸付面積	地代10アール												
共同参加																	
④		ha トン															
経営面積合計		ha トン															
(2)経営耕地				③貸付農地の問題点													
①所有地	畑・水田・施設栽培地・他	ha	・飛地・区画														
②借入地	畑・水田・施設栽培地・他	ha	・地代														
(3)作業受委託	作業内容	面積等	・その他														
4 生産方式	委託・受託	ha	(6)作業記録・日誌の有無(有りに○印)														
	委託・受託	ha	①防除日誌(農薬名、散布量、回数、散布日等)														
	委託・受託	ha	②施肥日誌(肥料名、使用量、使用日等)														
	委託・受託	ha	③作業日誌														
			(7)今後の主要な計画														
◆機械・施設名	①トラクター			◆生産方式の課題点													
	②マルチ栽培																
	③灌水設備																
	④加工施設																
	◆農用地の現状																

1. 農業経営診断予備調査書(1-2)

		露地栽培(かき)		(平成 年 月 日現在)			
販売関係の現状と方針	5	(1)消費者ニーズ把握 ①している ②していない (2)対象とする客層を ①決めている ②決めていない (3)直販の場合の顧客名簿 ①有り ②無し (4)販売計画 ①有り ②無し (5)計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い (6)達成度低い時の理由	(10)農産物の部門別生産量・販売量				
			生産品目	生産量(トン、%)	販売額(トン、%)		
			①	トン %	千円 %		
			②				
財務会計	6	(1)複式簿記 ①使用 ②使用しない パソコン活用 ①有り ②無し (2)借入金の内訳 ①農林中金・農林漁業公庫 スーパーL資金 千円 スーパーS資金 千円 経営体育成強化資金 千円 ②JAバンク・銀行・金庫 農業近代化資金 千円 合計 千円 (3)利益計画 ①有り ②無し (4)計画達成 ①した ②しない (5)資金繰り表 ①有り ②無し (6)キャッシュフロー管理	(11)流通(販売)先の割合 ①農協・市場 % ②契約栽培 % ③スーパー・外食 % ④直販・朝市等 % ⑤インターネット・宅配等 % ⑥観光果樹園 % 計 100%				
	人事・労務関係	7	(1)人手 ①十分 ②普通 ③不足 (2)家族協定書 ①有り ②無し (3)就業規則 ①有り ②無し (4)給与規定 ①有り ②無し (5)退職規定 ①有り ②無し (6)健康保険 ①有り ②無し (7)厚生年金保険 ①有り ②無し (8)慰安旅行 ①有り ②無し (9)定期健康診断 ①有り ②無し	(10)経営組織図			
		各種マニュアル整備	8	①栽培管理用機器操作マニュアル ①有り ②無し 防除、灌水、収穫など ②IT操作活用マニュアル ①有り ②無し ③その他	9		
					□(1)従業者の高齢化	□(11)後継者難	
				□(2)従業者の確保難	□(12)施設コストの増加		
			□(3)生産方式の改善難	□(13)軽労化困難			
経営上の課題点			□(4)生産効率の低下	□(14)IT化の進展困難			
			□(5)生産コストの増加	□(15)経営規模拡大困難			
			□(6)作業システムの不備				
			□(7)販売高の低下				
			□(8)利益率の低下				
			□(9)無減農薬の対応				
			□(10)有機栽培の対応				

2. 診断調査表(2-1)

露地栽培(かき)

1. 農業経営の沿革										
(1)経営規模の推移と内容										
(2)栽培方式の転換などの経過										
(3)現在の経営規模と生産方式										
(4)現在の経営の特色										
2. 農業経営コンセプト(○印をつける)										
(1)食の安心・安全を基本にして栽培し①いる ②いない										
(2)販売先・消費対象客を定めて栽培し①いる ②いない ③一部は契約栽培している										
(3)無・減農薬・有機栽培している。 ①いる ②いない ③一部はしている										
(4)省力化・機械化を導入して効率化を①いる ②いない ③まだ不十分										
(5)ISO 14001・9001・22000の導入①している ②していない(予定している、いない)										
(6)JGAPの導入 ①している ②していない(予定している、いない)										
3. 作目・品種部門の内容										
記入欄	作目	種目	品種	作型	施設種類	面積(㎡)	栽培方式	無農薬	減農薬	有機栽培
4. 施設・栽培方式の経緯										
作目	年度				()	5. 栽培変更計画中の作目・品種は				
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年横成比	%	%	%	%					
	品種名									
作目	年度					備考欄				
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年横成比	%	%	%	%					
	品種名									
作目	年度									
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
平成	年	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール	ヘク タール					
	平成 年横成比	%	%	%	%					
	品種名									
6. 収穫方法										
7. 作目・品種・立地条件などの問題点										

2. 診断調査表(2-2)

露地栽培(かき)

8. 販売・受注状況・販売活動の特色(消費者交流など)				
作物名	品質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培など)
	食味 優 食味 良 食味 並 悪	インターネット宅配 100% コンビニ50%、ホテル50% 中級食堂チェーン100%		
	食味 優 食味 良 食味 並 悪	インターネット宅配 100% コンビニ50%、ホテル50% 中級食堂チェーン100%		
	食味 優 食味 良 食味 並 悪	インターネット宅配 100% コンビニ50%、ホテル50% 中級食堂チェーン100%		

9. 機械・設備の状況と作業受委託の状況				
(1)①トラクター (台)PS ④ヒートポンプ kw× ⑦ ⑧	(2)トラック ⑤換気扇	台 ③パイプハウス m(m× m) 台 ⑥ポンプ kw× 台		
(2)作業受託 (3)作業委託 (4)その他設備(貯蔵庫など)				

10. 生産・技術・設備状況(特色は、)					
	創業時点	2年前	1年前	現在	備考
(1)作付面積の変化	()	()	()	()	22()は借地面積
(2)作業受託	()	()	()	()	22()は件数
(3)作業委託	()	()	()	()	22()は件数
(4)雇用人数 人()	人()	人()	人()	人()	22()は女性数
(5)機械の導入	()	()	()	()	
(6)	()	()	()	()	

11. かき栽培・作業技術について			
(1) かき栽培・作業技術の先進事例の観察・研究の有無	①有 ②無 ③検討中		
(2) かき栽培・作業技術の体系の有無	①有 ②無 ③検討中		
(3) かき栽培(様式別)の収量と労働時間の基準	①有 ②無 ③検討中		
(4) かき栽培の費用・労働時間・収量基準	①有 ②無 ③検討中		
(5) 農業試験場などによる奨励品種の検討	①有 ②無 ③検討中		
(6) 農業試験場等による品質基準の有無	①有 ②無 ③検討中		
(7) その他栽培方式・作業技術の再検討	①有 ②無 ③検討中		

12. 労働環境の改善等実施状況			
下記の実施程度に○印をつけてください			
①労働時間の短縮・合理化	◎ ○ △ ×	⑥雇用者の労働報酬の	◎ ○ △ ×
②担い手確保や後継者育成	◎ ○ △ ×	⑦雇用確保の方法	◎ ○ △ ×
③従業者への技術指導・研修	◎ ○ △ ×	⑧報酬・退職金等の条件	◎ ○ △ ×
④従業者の作業位置の適正化	◎ ○ △ ×	⑨福利厚生制度の整備	◎ ○ △ ×
⑤組合員の労働報酬の決め方	◎ ○ △ ×	⑩作業管理と安全性管理	◎ ○ △ ×

その他労務上の問題点

3. 診断調査表

かき栽培体系 (モデル)

月旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
生育ステージ				△ 発芽	○ 開花							落葉
主要作業名	せん定				摘蕾	施肥	摘果 施肥	施肥		施肥	収穫	施肥

<計算の前提となる経営条件>

○経営規模

作型	品種名	栽培面積(ha)	内借地分(ha)
露地	早生次郎	1.0	0.0
小計		1.0	0.0
小計		0.0	0.0
合計		1.0	0.0

○労働力

区分	人数(人)
家族 男	1
家族 女	1
合計	2
雇用 常時 男	
雇用 常時 女	
雇用 臨時 男	
雇用 臨時 女	1
合計	1

○主要な技術及び留意点

- ・農薬散布量はSSで散布するため300% / 10a。
- ・スピードスプレーヤーは丸山500%。
- ・全量共選
- ・平均単価はとびあ浜松出荷分4年間平均。
- ・借地なし。

静岡県農業試験場モデル

栽培技術

1 早生次郎、普通次郎の生態と月別作業の概要

	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育・生態	休眠期			新梢伸長期 発芽期 枝葉の伸長	開花期	生理的落果期	花芽分化開始	生理的落果期	果実肥大期	成熟期	落葉期	休眠期
主な作業	整枝・剪定 東海堆肥施用 中耕	硫酸加里施用 主幹粗皮削り		防霜 除草	摘蕾・摘花、芽かき	夏配合施用 P K施用 除草	摘果	除草 枝吊り、支柱立て	摘葉 除草	収穫	冬配合施用	

2 作業手順と管理のポイント

月・旬	作業名	作業のポイント
1 ~ 2	剪定	通風、採光性、作業能率を考え行なう
"	土づくり	東海堆肥を全面施用と中耕
3下~4	防霜	常習園はスプリンクラー散水を行なう
4 ~ 5	除草	
5	摘蕾	15葉に1花の割合で横向きか下向きのヘタのしっかりした蕾を残す
6	剥皮	
"	除草	
7 ~ 8	摘果	20~25葉に1果をめやすに奇形果、病虫害被害果、5葉以下の結果枝の果実を摘果する
8	除草	
8 ~ 9	枝吊り 支柱立て	
9	摘葉	果実に接している葉を摘み取り、汚損果や着色むらをなくす
"	除草	
10 ~ 12	収穫	カラーチャートを使い、色の濃い果実から

参考資料；

果樹園芸百科 6 かき

社団法人 農山漁村文化協会

4. 農産物生産の作業別労働時間調査表

区 分	基準値 時間	診断対象	時間	対 比	備 考
	A 10a 当り	B H 年 全体	C H 年 10a 当り	$C \div A$ $\times 100$	
(1) 作付け面積					
(2) 延べ作業人数 () 内雇人数					
(3) 労働時間合計 ※1人当り労働時間	120				
家族労働時間	113				
雇用労働時間	7				
①直接労働時間計	116				
育苗	0				
剪定	24				
摘蕾・摘果	28				
防除	16				
施肥	8				
土壌改良	8				
除草	0				
収穫	32				
②間接労働時間	4				
出荷	4				
(4) 労働費合計	209,730				
区分 A					
①家族労働	204,120				
②雇用労働	5,610				
区分 B					
①直接費	53,638				
②間接費	220,000				

(注1) 基準値は静岡県農業試験場モデル

(注2) B,C 欄は、診断先の実績を記入する。

(注3) 栽培面積1haの場合、およそ基準値の10倍の数値になると考えられる。

5. 収益・費用調査表

(単位: Kg、円、%)

項 目		基準モデル A 10a 当り	調査対象 B		B/A × 100	摘 要
			全体	10a 当り		
粗 収 益	生産量	2,500				
	販売単価	250				
	生産額	625,000				
	副産物収入	0				
合 計		625,000				①
経 営 費	変 動 費	直 種苗費	0			
		接 肥料費	14,250			
		生 農薬費	22,578			
		産 光熱動力費	5,400			
		動 諸材料費	1,160			
		費 小農具費	640			
		賃料料金	0			
		雇用労賃	5,610			
		水利費	4,000			
		その他	0			
		計	53,638			
	出 荷 経 費	資材費	0			
		運賃	0			
		手数料	62,500			
		その他	157,500			選果場利用料 (資材、運賃を含む)
		計	220,000			
	小 計		273,638			
	固 定 費	減価償却費	30,978			
		成園費・成畜費	27,441			
		借地料	0			
		修繕費	10,875			
		その他	0			
	小 計		69,295			
合 計		342,933				②
成 果	農 業 所 得		282,067			③=①-②
	所 得 率		45.1%			③÷①
	家族労働1時間あたり所得		2,487			③÷T (円/時間)
	家族労働見積額		204,120			
	自己資本利子見積額		7,564			
	自己地代見積額		13,000			
	生産費 (全額参入生産費)		567,617			④
	利潤		57,383			⑤=①-④
	利潤率		9.2%			⑤÷①
	総労働時間 (時間)		120			
	家族労働時間		113			T
	雇用労働時間		7			

出典: 基準は静岡県農業水産部

作物別技術原単位

第4章 林業きのこ栽培の経営診断予備調査表

1. きのこ栽培経営診断予備調査表

I. 農業経営診断予備調査表(きのこ栽培)1-1

年 月 日現在

診断希望事項					
1 経営の概要	所在地	〒 TEL		従業者数	家族従業者 男 人 女 人 雇用従業者 男 人 女 人 パート(8時間換算) 男 人 女 人 その他() 男 人 女 人 計 男 人 女 人
	経営者氏名	(年齢)		作業時間	①1日当り 時間 ②年間 時間
	就農年数	年(うち認定農業者 年)		休日数	①月 日 ②年間 日
	経営の特徴	①認定農業者②エコファーマー③指導農業者④その他()		後継者	①有り ②未定 ③無し
	認定年月日	第一回認定 H 年 月 日 第二回認定 H 年 月 日			
	経営の業態	①単一経営 ②複合経営()			
	収入・所得	収入(万円) 所得(万円)			
	2 生産部門★該当に○印を	(1)きのこ類	①乾燥しいたけ②生しいたけ③えのき⑤まいたけ ⑥なめこ ⑦その他()		(5)栽培方法等の特色 ①原木栽培 i. 原木種類 ・クヌギ、・コナラ、・ミズナラ、・その他() ii. 原木調達方法 ・自己所有の山林、・森林組合、・農協、 ・木材業者、・その他() iii. 植菌(接種)方法 ・孢子接種法 ・菌糸接種法
(2)耕種		①稲作 ②麦作 ③雑穀作 ④豆類作 ⑤いも類作 ⑥飼料作 ⑦工芸作物作() ⑧施設野菜作 ⑨路地野菜作 ⑩果樹作 ⑪施設花き作 ⑫路地花き作 ⑬その他()			
(3)畜産		①酪農 ②養豚 ③肉用牛 ④養鶏 ⑤養蜂 ⑥その他()			
(4)養蚕		①養蚕		②菌床栽培 ・自家培養型栽培 ・菌床購入型栽培	
(5)加工		①農産物加工(品名) ②畜産物加工(品名) ③林産物加工(品名)			
3 農業経営の現状と計画	◇作目・部門	経営規模項目	本数、面積、生産量	◇農業経営の課題	
	(1)きのこ類			(1)安全安心への取組 ①有機JAS認証 ②農業のISO9000、14000、22000認証 ③JGAP認証 ④減農薬・減化学肥料栽培 ⑤その他特徴のある栽培方法	
	・原木栽培	・年平均植菌ほだ木数	本		
		・稼働ほだ木数	本		
		・稼働年数	年		
	・菌床栽培	・所有培地数(1.2kg袋)	袋		
	・年間栽培培地数	袋			
(2)米	水田面積	ha			
◇経営耕地	地目	面積	(2)トレーサビリティシステムの構築		
①所有地	畑・水田・他()	ヘクタール	①作業記録・日誌の有無		
②借入地	畑・水田・他()	ヘクタール	②栽培工程毎の記録(時間・内容・方法等)の有無		
◇作業受委託	作業内容	面積等	③防除・施肥記録(名称・使用量・倍率等)の有無		
4 生産方式	◆機械・施設	型式・性能	台数・面積等	◆生産方式の特色	
	①乾燥舎			(1)原木栽培	
	②人工ほだ場	雨よけ施設付き		①自然型(林内)栽培 ②ハウス型栽培	
	③散水施設			③多植型栽培 ④集中ホダ化型栽培	
	④乾燥機			(2)菌床栽培	
	⑤軽トラック			①森産業型 ②北研型	
	⑥ほだ木運搬車			③ジャパンアグリテック型	
	⑦発電機	1,200W		◆生産方式の問題点	
	⑧チェンソー				
	⑨培養舎				
	⑩培養舎パイプハウス				
	⑪建物施設				
	⑫加工施設				
⑬その他					

I. 農業経営診断予備調査表(きのこ栽培)1-2

年 月 日

5 販売関係の現状と方針	(1)消費客のニーズ把握 ①して②していない (2)対象とする客層を ①決めて②決めていない (3)直販の場合の顧客名簿①有 ②無 (4)販売計画 ①有 ②無 (5)計画の達成度 ①高い ②普通 ③低い (6)達成しない理由 (7)代金 ①農協経由 % ②現金 % ③その他 % (8)販売上の問題点 (9)今後の販売戦略の課題		(10)農産物の部門別・生産量と販売額 <table border="1"> <thead> <tr> <th>生産品目</th> <th>生産量(比率%)</th> <th>販売額(比率%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑥</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑦</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>合計</td> <td>トン 100 %</td> <td>千円 100%</td> </tr> </tbody> </table>			生産品目	生産量(比率%)	販売額(比率%)	①			②			③			④			⑤			⑥			⑦			合計	トン 100 %	千円 100%
	生産品目	生産量(比率%)	販売額(比率%)																													
①																																
②																																
③																																
④																																
⑤																																
⑥																																
⑦																																
合計	トン 100 %	千円 100%																														
(11)流通(販売)先の割合(%) ①農協 ②契約栽培 ③スーパー・外食 ④直販・朝市等																																
6 財務会計	(1)複式簿記(パソコン活用 有・無) (2)借入金の内訳 ①政府系金融機関(公庫) 千円 ②農業経営基盤強化資金(スーパーL資金) 千円 ③農業経営改善資金(スーパーS資金) 千円 ④農業近代化資金 千円 ⑤経営体育成強化資金 千円 ⑥その他 千円 (3)利益計画 有・無		(4)資金の運用と調達 ①借入金残高 千円 ②元金償還額 千円 ③税引後利益 千円 ④原価償却費 千円 ⑤キャッシュフロー③+④ 千円 ⑥運用余剰金⑤-② 千円 (5)設備投資計画 有・無 ①借入金予定(返済 年) 千円 ②年間元金償還額 千円																													
	(1)人 手 ①十分 ②普通 ③不足 (2)労働条件通知書(雇用時) (3)国民健康保険(加入) 有・無 (4)農業者年金(加入) 有・無 (5)労災保険(5人以上) 有・無 (6)雇用保険(5人以上) 有・無 (7)小規模共済保険 有・無 (8)家族経営協定 有・無		(9)労働力(人数) ①家族(うち女性 人(人) ②常時雇用(6ヵ月以上の契約) 人(人) ③臨時雇用(6ヵ月以内の契約) 人(人) (10)労働時間(年間常時雇用以上) 現在 目標 ①家族 時間 時間 ②常時雇用 時間 時間																													
8 経営管理	(1)経営改善計画の取組状況		(2)経営上の問題点(該当に○印) ①経営者の高齢化 ⑦作業システムの不備 ②担い手の確保難 ⑧経営管理が弱い ③生産方式の改善 ⑨利益率の低下 ④後継者難 ⑩無減農薬の対応 ⑤販売力が弱い ⑪有機栽培の対応 ⑥生産コストの増加 ⑫各種マニュアルの不備																													
9. 所見																																

Ⅱ. 診断調査表(きのこ栽培)1-1

年 月 日

1. 農業経営の沿革			
(1)就農時の経営規模と内容	①ほだ木数	本、袋数	袋 ②従業者数 人
(2)現在の経営規模と内容	①ほだ木数	本、袋数	袋 ②従業者数 人
(3)現在の経営の特徴			
①			
②			
③			
2. 経営コンセプト			
(1)食の安心・安全を基本コンセプトにして省力化、効率化経営をビジョンとしているか。			
		①いる	②いない
(2)消費対象客を定めて栽培しているか。			
		①いる	②いない
(3)無・減農薬・有機栽培をしているか。			
		①いる	②いない
(4)ISO9000、22000の認証を目指しているか。			
		①認証済み	②いる ③いない
(5)HACCP、JGAPの認証を目指しているか。			
		①認証済み	②いる ③いない
(6)栽培履歴JASの認証を目指しているか			
		①認証済み	②いる ③いない
3. 将来構想、中長期目標			
(1)5年後の目標			
(2)10年後の目標			
4. 作目・品種部門			
作目	種目	品種	生産方式 耕法 生産量 減・無農薬
きのこ	乾しいたけ		
	生しいたけ		
	えのきたけ		
	ぶなしめじ		
	まいたけ		
	なめこ		
米			
野菜			
その他			
6. 作目・品種、立地条件等の問題点			
7. 販売・受注状況・販売活動の特色			
品 質	販売先例示	販売先	受注(契約栽培等)
しいたけ 秀	農協出荷 80%・ホテル 20%		
しいたけ 優	スーパー 80%・直売所 20%		
しいたけ 良	食堂チェーン 100%		
米	インターネット宅配 100%		
野菜	直売所 100%		

Ⅱ. 診断調査表(きのこ栽培)1-2

年 月 日

8. きのこ生産・技術・設備状況及び目標						
	5年後	現在	1年前	3年前	5年前	備考
(1) 稼動ほだ木	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	
(2) 年間栽培袋数	(袋)	(袋)	(袋)	(袋)	(袋)	
(3) 従業者人数	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	
(4) ほだ場	(㎡)	(㎡)	(㎡)	(㎡)	(㎡)	
(5) 培養舎	(㎡)	(㎡)	(㎡)	(㎡)	(㎡)	

9. 安心きのこ生産マニュアル		
(1) 農業、食品添加物取り扱いマニュアルの有無	①有り	②無し
(2) 施設・器具・機材の消毒マニュアルの有無	①有り	②無し
(3) 原料取り扱いマニュアル・規格基準の有無		
① 原木、オガコ、チップ	①有り	②無し
② 培地基材(コーンコブ、コットンハル等)	①有り	②無し
③ 栄養材(米ぬか、フスマ、コーンブラン、大豆油粕等)	①有り	②無し
④ その他栄養材、添加材	①有り	②無し
(4) 栽培に使用する水の水質基準の有無	①有り	②無し
(5) 増収剤の取り扱いマニュアルの有無	①有り	②無し
(6) 封ロー、スチロール栓の取り扱いマニュアル	①有り	②無し
(7) 農業・除草剤の散布マニュアル	①有り	②無し
(9) 選別・包装工程のマニュアル	①有り	②無し
(10) 保管・出荷工程のマニュアル	①有り	②無し

10. きのこ栽培技術について			
① きのこ栽培技術の先進地事例視察・研究の有無	(ア)有	(イ)無	(ウ)検討中
② きのこ栽培技術体系の有無	(ア)有	(イ)無	(ウ)検討中
③ きのこの栽培の収量と労働時間の基準	(ア)有	(イ)無	(ウ)検討中
④ きのこの栽培費用と労働時間と収量による経営計画	(ア)有	(イ)無	(ウ)検討中

11. 労務管理の実施状況(下記の実施程度に○印をつけてください)				
① 労働時間の短縮・合理化	◎	○	△	×
② 担い手確保や後継者養成	◎	○	△	×
③ 従業者への技術指導・研修	◎	○	△	×
④ 従業者の作業配置の適正化	◎	○	△	×
⑤ 従業者の労働報酬の決め方	◎	○	△	×
⑥ 雇用者の労働報酬の決め方	◎	○	△	×
⑦ 休日の決め方	◎	○	△	×
⑧ 労災保険への加入	◎	○	△	×
⑨ 農業者年金への加入	◎	○	△	×
⑩ 労働安全衛生管理	◎	○	△	×

12. 所見	

Ⅲ. きのこ栽培経営状況調査票1(乾燥しいたけ・原木栽培)

区 分		単位	標準値	調 査			増減率
				平成 年	平成 年	平成 年	
経営の概況	年度始め世帯員数	人	3.52				
	培養用地面積	m ²	4,159				
	発生用地面積	〃	4,300				
	年初め保有ほだ木数	10本	1,428				
	年間使用ほだ木数	〃	1,078				
	出荷数量	kg	352				
	投下労働時間	時間	632				
	家 族	〃	580				
経営の総括	雇 用	〃	52				
	租 收 益	千円	1,388				
	経 営 費	〃	1,227				
	雇 用 労 賃	〃	40				
	種 菌 費	〃	5				
	原 木 費	〃	747				
	薬 剤 費	〃	1				
	諸 材 料 費	〃	29				
	光 熱 動 力 費	〃	97				
	機 械 修 繕 費	〃	107				
	建 物 維 持 費	〃	67				
	賃 借 料・料 金	〃	44				
	荷 造 運 賃 手 数 料	〃	57				
	企 画 管 理 費	〃	4				
	物 件 税 そ の 他	〃	29				
	所 得	千円	161				
	所 得 率	%	11.6				
	労働時間1時間当たり所得	円	278				

注)標準値は林業経営統計調査報告 栽培きのこ経営統計(平成16年)

Ⅲ. きのこ栽培経営状況調査票2(生しいたけ・原木栽培)

区 分		単位	標準値	調 査			増減率
				平成 年	平成 年	平成 年	
経営の概況	年度始め世帯員数	人	3.62				
	培 養 用 地 面 積	m ²	3,001				
	発 生 用 地 面 積	〃	700				
	年初め保有ほだ木数	10本	1,466				
	年間使用ほだ木数	〃	1,030				
	出 荷 数 量	kg	3,271				
	投 下 労 働 時 間	時間	2,008				
	家 族	〃	1,844				
経営の総括	雇 用	〃	164				
	租 收 益	千円	2,781				
	経 営 費	〃	2,473				
	雇 用 労 賃	〃	105				
	種 菌 費	〃	6				
	原 木 費	〃	1,435				
	薬 剤 費	〃	3				
	諸 材 料 費	〃	132				
	光 熱 動 力 費	〃	191				
	機 械 修 繕 費	〃	192				
	建 物 維 持 費	〃	175				
	賃 借 料・料 金	〃	41				
	荷 造 運 賃 手 数 料	〃	100				
	企 画 管 理 費	〃	21				
	物 件 税 そ の 他	〃	72				
	所 得	千円	309				
	所 得 率	%	11.1				
	労働時間1時間当たり所得	円	168				

注)標準値は林業経営統計調査報告 栽培きのこ経営統計(平成16年)

Ⅲ. きのこ栽培経営状況調査票3(生しいたけ・菌床栽培)

区 分		単位	標準値	調 査			増減率
				平成 年	平成 年	平成 年	
経営の概況	年度始め世帯員数	人	3.56				
	培 養 用 地 面 積	m ²	218				
	発 生 用 地 面 積	"	322				
	年初め保有菌床数	10個	1,313				
	年 間 使 用 菌 床 数	"	1,549				
	出 荷 数 量	kg	9,141				
	投 下 労 働 時 間	時間	3,468				
	家 族	"	2,749				
経営の総括	雇 用	"	719				
	租 收 益	千円	8,232				
	経 営 費	"	6,200				
	雇 用 労 賃	"	515				
	種 菌 費	"	205				
	菌 床 材 料 費	"	2,434				
	薬 剤 費	"	9				
	諸 材 料 費	"	261				
	光 熱 動 力 費	"	845				
	機 械 修 繕 費	"	375				
	建 物 維 持 費	"	387				
	賃 借 料・料 金	"	243				
	荷 造 運 賃 手 数 料	"	659				
	企 画 管 理 費	"	99				
	物 件 税 そ の 他	"	168				
	所 得	千円	2,032				
	所 得 率	%	24.7				
	労働時間1時間当たり所得	円	739				

注)標準値は林業経営統計調査報告 栽培きのこ経営統計(平成16年)

Ⅲ. きのこ栽培経営状況調査票4(えのきたけ・菌床栽培)

区 分		単位	標準値	調 査			増減率
				平成 年	平成 年	平成 年	
経営の概況	年度始め世帯員数	人	3.87				
	培養用地面積	m ²	133				
	発生用地面積	"	279				
	年初め保有菌床数	10個	10,011				
	年間使用菌床数	"	55,488				
	出荷数量	kg	123,169				
	投下労働時間	時間	8,322				
	家 族	"	4,409				
経営の総括	雇 用	"	3,913				
	租 收 益	千円	34,566				
	経 営 費	"	29,287				
	雇 用 労 賃	"	4,142				
	種 菌 費	"	616				
	菌床材料費	"	9,980				
	光熱動力費	"	3,078				
	機械修繕費	"	1,770				
	建物維持費	"	982				
	賃借料・料金	"	1,649				
	荷造運賃手数料	"	4,103				
	所 得	千円	5,278				
	所 得 率	%	15.3				
	労働時間1時間当たり所得	円	1,197				

注) 標準値は林業経営統計調査 平成16年度栽培きのこ経営体の経営収支 平成17年10月31日公表

Ⅲ. きのこと栽培経営状況調査票5(ぶなしめじ・菌床栽培)

区 分		単位	標準値	調 査						増減率
				平成	年	平成	年	平成	年	
経営の概況	年度始め世帯員数		人	4.06						
	培 養 用 地 面 積		m ²	236						
	発 生 用 地 面 積		〃	195						
	年初め保有菌床数		10個	20,035						
	年間使用菌床数		〃	54,504						
	出 荷 数 量		kg	85,184						
	投 下 労 働 時 間		時間	9,689						
		家 族	〃	4,356						
		雇 用	〃	5,333						
経営の総括	租 收 益		千円	39,288						
	経 営 費		〃	30,405						
		雇 用 労 賃	〃	5,111						
		種 菌 費	〃	1,671						
		菌 床 材 料 費	〃	6,171						
		光 熱 動 力 費	〃	4,854						
		機 械 修 繕 費	〃	2,622						
		建 物 維 持 費	〃	2,187						
		賃 借 料・料 金	〃	1,322						
		荷 造 運 賃 手 数 料	〃	1,141						
	所 得		千円	8,883						
	所 得 率		%	22.6						
労働時間1時間当たり所得		円	2,039							

注) 標準値は林業経営統計調査 平成16年度栽培きのこ経営体の経営収支 平成17年10月31日公表

Ⅲ. きのこ栽培経営状況調査票6(まいたけ・菌床栽培)

区 分		単位	標準値	調 査			増減率
				平成 年	平成 年	平成 年	
経営の概況	年度始め世帯員数	人	3.99				
	培養用地面積	m ²	189				
	発生用地面積	"	273				
	年初め保有菌床数	10個	6,843				
	年間使用菌床数	"	22,681				
	出荷数量	kg	52,474				
	投下労働時間	時間	6,950				
	家 族	"	2,598				
経営の総括	雇 用	"	4,352				
	租 收 益	千円	31,106				
	経 営 費	"	25,878				
	雇 用 労 賃	"	7,188				
	種 菌 費	"	858				
	菌 床 材 料 費	"	5,904				
	光 熱 動 力 費	"	3,784				
	機 械 修 繕 費	"	1,678				
	建 物 維 持 費	"	1,582				
	賃 借 料・料 金	"	1,102				
	荷 造 運 賃 手 数 料	"	956				
	所 得	千円	5,228				
	所 得 率	%	16.8				
	労働時間1時間当たり所得	円	2,012				

注)標準値は林業経営統計調査 平成16年度栽培きのこ経営体の経営収支 平成17年10月31日公表

Ⅲ. きのこ栽培経営状況調査票7(なめこ・菌床栽培)

区 分		単位	標準値	調 査			増減率
				平成 年	平成 年	平成 年	
経営の概況	年度始め世帯員数	人	4.86				
	培養用地面積	m ²	160				
	発生用地面積	"	209				
	年初め保有菌床数	10個	10,120				
	年間使用菌床数	"	15,609				
	出荷数量	kg	36,422				
	投下労働時間	時間	6,934				
	家 族	"	3,568				
経営の総括	雇 用	"	3,366				
	租 收 益	千円	13,765				
	経 営 費	"	10,849				
	雇 用 労 賃	"	2,529				
	種 菌 費	"	571				
	菌 床 材 料 費	"	2,068				
	光 熱 動 力 費	"	1,349				
	機 械 修 繕 費	"	918				
	建 物 維 持 費	"	560				
	賃 借 料・料 金	"	308				
	荷造運賃手数料	"	1,398				
	所 得	千円	2,915				
	所 得 率	%	21.2				
	労働時間1時間当たり所得	円	817				

注)標準値は林業経営統計調査 平成16年度栽培きのこの経営体の経営収支 平成17年10月31日公表

Ⅳ. きのこと栽培経営費と収益調査表1-1(乾しいたけ:原木栽培)

【 設 定 条 件 】		標準値	平成	年	平成	年	平成	年	増減率(%)
1. 経営類型		複合経営							
2. 栽培条件									
春季発生		80 %							
秋季発生		20 %							
3. 標準経営規模									
年植菌ほだ木		10,000 本							
稼働ほだ木本数		38,000 本							
4. 家族労働力									
基幹		2 人							
補助		2 人							
5. 主な施設、機械									
乾燥舎		60 m ²							
人工ほだ場 <small>(雨よけ施設付き)</small>		1,200 m ²							
散水施設		30 a							
乾燥機		3 台							
軽トラック		1 台							
ほだ木運搬車		1 台							
発電機(1,200W)		1 台							
6. 標準発生量									
標準ほだ木									
(10cm×1.2m)		170 g							
1本1代当りの発生		(乾燥)							
7. 原木購入		立木購入							
区分	【経営費と収益】	標準値	平成	年	平成	年	平成	年	増減率(%)
	項 目	金 額(円)	(円)		(円)		(円)		
経営費	種菌費	432,000							
	立木代	1,200,000							
	諸材料費	123,500							
	光熱・動力費	277,870							
	修繕費	150,000							
	公租公税	30,000							
	償却費								
	建物	287,063							
	機械器具	536,729							
	借入金利子	268,352							
流通経費	ほだ場借料	21,000							
	経 営 費 合 計	3,326,514							
流 通 経 費		512,760							
計		3,839,274							
租 収 益	生産物収量(kg)	1,615							
	平均単価	4,400							
	売上金額	7,106,000							
所 得		3,266,726							
1 日 当 り 家 族 労 働		7,778							

- ＜備考＞ (1) 借入金は固定資産取得額の70%とし、金利を年5%として算出した。
(2) 年償却額は、取得価額×0.9÷耐用年数
(3) ほだ場借料は自然ほだ場が、0.2ha分6,000円、人工ほだ場1,200m²が15,000円である。
(4) 生産量の発生量は、伏せこみ本数に対し、ロス率5%として算出した。

注) 標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社) (九州大学農学部・佐藤 宣子)

IV. きのこ栽培経営費と収益調査表1-2(乾しいたけ:原木栽培)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査					
区分	品目名	使用量	単位	単価(円)	金額(円)	使用量	単位	単価(円)	金額(円)		
種 菌	中低温系種菌	80,000	個	2.4	432,000		個				
	低温系種菌	100,000	個								
原 木	立木代金	10,000 (94㎡)	本	120 (12720円 /㎡)	1,200,000		本				
諸 材 料	ドリル	年に1台		14,500	14,500						
	替えきり	18	本	500	9,000		本				
	ほだ場材料				40,000						
	散水用具				30,000						
	その他				30,000						
	小計				123,500						
光 熱 動 力 費	重油	3,800	ℓ	45	182,400		ℓ				
	混合油	300	ℓ	150	45,000		ℓ				
	ガソリン	250	ℓ	105	26,250		ℓ				
	エンジンオイル	6	ℓ	800	4,800		ℓ				
	チェーンオイル	18	ℓ	190	3,420		ℓ				
	電気料	800	kw	20	16,000		kw				
	小計				277,870						
計					2,033,370						
【固定資産・減価償却費】		標 準 値				調 査					
固定資産名		取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却額 (千円)	負担 割合 (%)	単位当り 負担額 (円)	取得価 格 (千円)	耐用 年数	年償却 額(千円)	負担 割合 (%)	単位当り 負担額 (円)
建 物 施 設	乾燥舎 60㎡	1,500	18	75	100	75,000					
	人工ほだ場 1,200㎡	1,700	10	153	100	153,000					
	散水施設 30a	525	8	59	100	59,063					
	小計	3,725		287		287,063					
農 機 具	乾燥機	982	8	110	100	110,475					
	〃	982	8	110	100	110,475					
	〃	597	8	67	100	67,163					
	発電機	125	5	23	100	22,500					
	軽トラック	974	5	175	70	122,724					
	ほだ木運搬車	580	5	104	80	83,520					
	チェーンソー	138	5	25	80	19,872					
小計 (うち乾しいたけ部門)		4,378 3,942				536,729					
計 (うち乾しいたけ部門)		8,103 7,667				823,792					
【 流 通 経 費 】		標 準 値				調 査					
項 目	単価	単位当 り数量	単位当り金額 (円)	摘要	単価	単位当 り数量	単位当 り金額	摘要			
段ボール箱、内袋 ポリ袋、テープ式 手数料	800	108箱	86,400	1箱に15kg							
計			426,360	売上金の6%							

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)(九州大学農学部・佐藤 宣子)

IV. きのこと栽培経営費と収益調査表2-1(生しいたけ・原木栽培)

【設 定 条 件】		標準値	平成	年	平成	年
1. 経営類型	生しいたけ主体 複合経営					
2. 栽培条件	施設型周年栽培					
3. 標準経営規模						
年植菌ほだ木本数	10,000 本					
稼働ほだ木本数	27,100 本					
4. 家族労働力	2名 (男女各1名)					
5. 主な施設、機械						
ハウス	150 m ²					
人工庇陰	165 m ²					
電動式ホイス	1 台					
軽四輪	1					
(しいたけ部門利用50%)						
動力運搬車	1					
(しいたけ部門利用50%)						
6. 標準発生量						
標準ほだ木	径9cm×1.2m					
1本1代の発生量	900 g					
7. ほだ木						
育成年数	1					
用役年数	2					
8. 原木	すべて玉切り購入					
9. 土地、労働力、資金	自己所有地、家 族労働、自己資					
区 分	【経営費と収益】	標準値	平成	年	平成	年
	項 目	金 額(円)	(円)	(円)	(円)	増減率(%)
経 営 費	原木代	2,300,000				
	種駒代	910,000				
	諸材料費	149,650				
	光熱・動力費	141,800				
	修繕費	71,840				
	租税公課	30,000				
	償却費					
	建物・施設	136,800				
	機械・器具	247,538				
	支払利子	0				
	ほだ場借上料	0				
	経営費小計	3,987,628				
	流通経費	1,466,500				
	合 計	5,454,128				
租	生産物収量(kg)	10,000				
収	平均単価	840				
益	売上金額	8,400,000				
①	差 引 所 得 (しいたけ部門)	2,945,872				
②	1日当り家族労働報酬	6,195				
③	投下資本利回り(%)	2.5				

＜備考＞ (1)②の指標は(①－投下資本利子見積額)/換算家族労働日数で、③の指標は(①－家族労働見積額)/投下資本額×100で算出した。

(2)家族労働は1時間当り男子900円、女子650円とした。

(3)修繕費は建物負担評価額×1%+機器負担評価額×4%とした。

(4)生産物平均単価は平成9～11年の大阪中央卸売市場年平均価格の入荷量による加重平均である。

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、鳥取大学農学部・助教授・古塚 秀雄

Ⅳ. きのに栽培経営費と収益調査表2-2(生しいたけ:原木栽培)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査			
区分	品目名	使用量	単位	単価(円)	金額(円)	使用量	単位	単価(円)	金額(円)
種 菌	高温菌	140,000	個	2.6	364,000		個		
	中低温菌	210,000	個	2.6	546,000		個		
	小 計				910,000				
原 木	コナラ	10,000	本	230	2,300,000		本		
諸 材 料	専用ドリル	2	台	23,000	46,000				
	替えきり	10	本	1,365	13,650		本		
	包装機	1	台	50,000	50,000		台		
	その他				40,000				
	小計				149,650				
光 熱 動 力 費	灯油	400	ℓ	43	17,200		ℓ		
	混合油	20	ℓ	120	2,400		ℓ		
	ガソリン	400	ℓ	103	41,200		ℓ		
	エンジンオイル	20	ℓ	800	16,000		ℓ		
	電気料	800	kw	20	16,000		kw		
	小計				242,450				
計					2,033,370				

【固定資産・減価償却費】		標 準 値			調 査		
固定資産名		取得価格 (千円)	耐用年 数	年償却額 (千円)	取得価格 (千円)	耐用年数	年償却額 (千円)
建 物 施 設	ハウス	540,000	8	60,750			
	人工庇陰	330,000	15	19,800			
	浸水槽	300,000	20	13,500			
	散水施設	380,000	8	42,750			
	小計	1,550,000		136,800			
機 械 ・ 器 具	電動式ホイスト	350,000	8	39,375			
	軽四輪 (50%使用)	800,000 (400,000)	4	90,000			
	動力運搬車 (50%使用)	317,000 (158,500)	4	35,663			
	暖房機	250,000	5	175			
	冷却用クーラー	250,000	5	104			
	小計	1,408,500		247,538			
計		2,958,500		384,338			

【 流 通 経 費 】		標 準 値				調 査			
項 目	単価 (円)	数量 (個・箱)	金額(円)	摘要	単価 (円)	金額(円)	摘要		
トレー・ラベル	22/パック	100,000	220,000						
ガムテープ	0.09/ "	100,000	9,000						
フィルム	1.7/ "	100,000	170,000						
段ボール箱	85/箱	1,500	127,500	1箱に50/パック					
スチロール箱	200/ "	500	100,000						
市場手数料	10.0%	8,400,000	840,000	売上金の10%					
合 計			1,466,500						

＜摘要＞(1)種菌は原木1本当り35個打ちとした。また、高温菌は4,000本で、中低温菌は6,000本とした。

(2)市場手数料(10%)は農協1.5%、市場8.5%とした。

(3)軽四輪および動力運搬車の年間償却額はしいたけ栽培利用割合を取得価額に乗じたものをもとに計算した。

(4)スチロール箱を利用したパック数は全体の25%とした。

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、鳥取大学農学部・助教授・古塚 秀雄

Ⅳ. きのこ栽培経営費と収益調査表3-1

(生しいたけ:菌床栽培 培養発生一貫生産タイプ、1. 2kg袋培地、4万袋規模)

【 設 定 条 件 】		標準値	平成 年		平成 年	
1. 経営類型		生しいたけ主体 複合経営				
2. 適応地域		農山村、中山間地				
3. 栽培条件、規模 生産タイプ 培地 所有袋数 年間回転率 年間栽培数		周年栽培 培養発生一貫 1. 2kg袋 40,000 袋 1 回転 40,000 袋				
4. 家族労働力		3 人				
5. 主な施設、機械 作業舎1棟 培養舎1棟3室 パイプハウス4棟 培養舎冷暖房施設 発生舎暖房装置 栽培機器		48.6 m ² 59.4 m ² 396.0 m ² 一式 一式 一式				
6. 主要技術指標 1日当り仕込量 1作期間 培養 収穫 収穫目標1培地当り A級比率 害菌ロス率		500 袋 9 カ月 3 カ月 6 カ月 300 g 85 %以上 2 %以下				
区分	【経営費と収益】	標準値	平成 年		平成 年	増減率(%)
	項 目	金 額(円)	(円)		(円)	
経 営 費	種菌費	120,000				
	培養基費	206,660				
	培地材料費	30,000				
	薬剤費	2,990				
	光熱・動力費	164,510				
	修繕費	71,670				
	租税公課	35,510				
	償却費					
	建物・施設	114,350				
	機械・器具	338,510				
	支払利子	84,720				
	経費合計	1,168,920				
流通経費	726,430					
合 計		1,895,350				
相 収 益	生産物収量(kg)	2,548				
	平均単価	1,170				
	売上金額	2,981,160				
所 得		1,085,810				
1日当り家族労働報酬		6,630				

＜備考＞ (1)固定資産の取得価格は、所有袋数40,000袋で試算。

(2)修繕費、建物、施設は取得価格の0.5%、機械器具は取得価格の2.5%。

(3)支払利息は固定資産取得額の50%借入金額を年利2.5% で元利均等償却した場合の平均支払額。

(4)このモデルにおける総所得は454万円

(5)1日当りの家族労働報酬は家族労働3人で試算(年間1,311時間)。

(6)試算基礎は平成10年度長野県きのこ基本計画を準用

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、長野県林業総合センター・竹内 嘉江

Ⅳ. きのか栽培経営費と収益調査表3-2

(生しいたけ:菌床栽培 培養発生一貫生産タイプ、1.2kg袋培地、4万袋規模)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査			
区分	品目名	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)
種 菌	種菌	80	本	1,500	120,000		本		
	小 計				120,000				
培 養 基 費	オガコ	22	m	6,800	149,600		m		
	フスマ	420	kg	43	18,060		kg		
	コーンブラン	600	kg	65	39,000		kg		
	小 計				206,660				
	諸料 材費	P. P. 袋	10,000	枚	3	30,000		枚	
	小 計				30,000				
薬 劑 費	アルコール	1	ℓ	1,000	1,000		ℓ		
	ホルマリン	0.5	ℓ	103	50		ℓ		
	オスバン	0.5	ℓ	540	270		ℓ		
	ベントーレ	0.1	kg	9,220	920		kg		
	殺虫剤	0.1	ℓ	2,500	250		ℓ		
	綿、ガーゼ				500				
	小 計				2,990				
光 熱 動 力 費	灯油	1,900	ℓ	50	95,000		ℓ		
	ガソリン	150	ℓ	121	18,150		ℓ		
	電気料	1,720	kw	20	34,400		kw		
	水道料	160	m	106	16,960		m		
	小 計				164,510				
修 繕 費	建物	1式			11,010				
	機械	1式			60,660				
	小 計				71,670				
計					595,830				

【 流通経費 】		標 準 値				調 査			
項 目	単価 (円)	数量 (箱)	金額(円)	摘要	単価	数量 (箱)	金額(円)	摘要	
トレー	112	637	71,340						
シール	40	637	25,480						
ラップ	40	637	25,480						
段ボール箱	100	637	63,700	4kg詰め					
手数料			387,550						
運賃	212	637	135,040						
雑費	28	637	17,840						
計			726,430						

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、長野県林業総合センター・竹内 嘉江地

Ⅳ. きのこ栽培経営費と収益調査表3-3

(生しいたけ:菌床栽培 培養発生一貫生産タイプ、1. 2kg袋培地、4万袋規模)

固定資産・減価償却費		標準値					調査				
固定資産名		取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却 額(円)	負担 割合 (%)	単位当 たり負担 額(円)	取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却 額(円)	負担 割合 (%)	単位当 たり負担額 (円)
建物 施設	作業場1棟 48.6㎡	2,576	18	128,800		32,200					
	栽培舎(培) 159.4㎡	5,809	18	290,450		72,610					
	パイプハウ 396.0㎡	424	10	38,160		9,540					
	(発)4棟										
	小計	8,809		457,410		114,350					
機械・ 器具	冷暖房施設(培)	1,782	13	123,370		30,840					
	暖房機(発) 4	1,000	10	90,000		22,500					
	かく拌機 1	570	5	102,600		25,650					
	詰機 1	480	5	86,400		21,600					
	コンベア 1	200	5	36,000		9,000					
	高圧殺菌窯 1	2,280	5	410,400		102,600					
	接種機 1	220	5	39,600		9,900					
	台車 6	300	4	67,500		16,880					
	ラップ機 1	100	5	18,000		4,500					
	軽トラック 1	861	4	193,730	50	24,220					
	オイルタンク 1	80	7	10,290		2,570					
	棚材(培、発)	700	10	63,000		15,750					
	浸水層 1	200	30	6,000		1,500					
	ホース 30	5	5,400		1,350						
	ハウス用ビニール 4	112	3	33,600		8,400					
	ピアレスフィルム 4	190	3	57,000		14,250					
	殺菌用コンテナ 100	5	18,000		4,500						
	キャップ、筒口 500	5	90,000		22,500						
小計		9,705		1,450,890		338,510					
計		18,514		1,908,300		452,860					

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、長野県林業総合センター・竹内 嘉江

Ⅳ. きのこ栽培経営費と収益調査表4-1

(生しいたけ: 菌床栽培発生分業生産タイプ、1. 2kg袋培地、5,000袋当り)

【 設 定 条 件 】		標準値	平成	年	平成	年
1. 経営類型		生しいたけ 複合経営				
2. 適応地域		農山村、中山間地				
3. 栽培条件、規模 培養センター		農閑期、季節栽培 1. 2kg袋 培地購入 所有袋数 5,000 袋 年間回転率 1 回転 年間栽培数 5,000 袋				
4. 家族労働力		1 名				
5. 主な施設、機械 パイプハウス1棟 発生舎暖房装置 栽培機器一式		99 m ²				
6. 主要技術指標 1作期間 1坪当り A級比率 害菌ロス率		6 カ月 300 g (115g×2.6パック) 85 %以上 2 %以下				
区分	【経営費と収益】	標準値	平成	年	平成	年
	項 目	金 額(円)	(円)		(円)	増減率(%)
経 営 費	培地費	540,000				
	薬剤費	1,440				
	光熱・動力費	73,740				
	修繕費	24,880				
	租税公課	35,420				
	償却費					
	建物・施設	9,540				
	機械・器具	125,970				
	支払利子	17,240				
	経費合計	828,230				
	流通経費	363,490				
	計	1,191,720				
収	生産物収量(kg)	1,274				
	平均単価	1,170				
	売上金額	1,490,580				
	差引所得	298,860				
1日当り家族労働報酬		7,470				

<留意点>

- (1) 固定資産の取得価格は、所有袋数5,000袋で試算。
 - (2) 修繕費、建物、施設は取得価格の0.5%、機械器具は取得価格の2.5%。
 - (3) 支払利息は固定資産取得額の50%借入金額を年利2.5%で元利均等償還した場合の平均支払額
 - (4) このモデルにおける総所得は32万円。
 - (5) 1日当たりの家族労働報酬は家族労働1人で試算(年間320時間)。
 - (6) 試算基礎は平成10年度長野県きのこ基本計画を準用
- 注) 標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、長野県林業総合センター・竹内 嘉江

Ⅳ. きのこ栽培経営費と収益調査表4-2
(生しいたけ: 菌床栽培発生分業生産タイプ、1. 2kg袋培地、5,000袋当り)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査					
区分	品目名	単位当り使用量	単位	単価(円)	金額(円)	単位当り使用量	単位	単価(円)	金額(円)		
費 培 地	購入培地	5,000	袋	108	540,000		袋				
	小 計				540,000						
薬 剤 費	オスバン	0.5	ℓ	540	270		ℓ				
	ベントーレ	0.1	kg	9,220	920		kg				
	殺虫剤	0.1	ℓ	2,500	250		ℓ				
	小 計				1,440						
光 熱 動 力 費	灯油	1,040	ℓ	50	52,000		ℓ				
	ガソリン	60	ℓ	121	7,260		ℓ				
	電気料	300	kw	20	6,000		kw				
	水道料	80	m³	106	8,480		m³				
	小 計				73,740						
修 繕 費	建物	1	式	43	530	1	式				
	機械	1	式	120	24,300	1	式				
	小 計	400		103	24,830						
計					640,060						
【固定資産・減価償却費】		標 準 値				調 査					
固定資産名		取得価格(千円)	耐用年数	年償却額(千円)	負担割合(%)	単位当たり負担額(円)	取得価格(千円)	耐用年数	年償却額(千円)	負担割合(%)	単位当たり負担額
建 物	パイプハウス1棟 99.0㎡	106	10	9,540	100	9,540					
	小 計	106		9,540		9,540					
機 械 ・ 器 具	暖房機(発)	1	250	10	22,500	100	22,500				
	ラップ機	1	100	5	18,000	100	18,000				
	軽トラック	1	861	4	193,730	20	38,750				
	オイルタンク	1	40	7	5,140	100	5,140				
	棚材(発)		130	10	11,700	100	11,700				
	浸水槽	1	200	30	6,000	100	6,000				
	ホース		6	5	1,080	100	1,080				
	ハウス用ビニール		28	3	8,400	100	8,400				
	ピアレスフィルム		48	3	14,400	100	14,400				
小 計		1,663		280,950		125,970					
計		1,769		290,490		135,510					
【 流 通 経 費 】		標 準 値				調 査					
項 目	単価(円)	数量(箱)	金額(円)	摘要	単価(円)	単価(円)	金額(円)	摘要			
トレー	112	319	35,730								
シール	40	319	12,760								
段ボール箱	100	319	31,900								
ラップ	40	319	12,760								
運賃	212	319	67,630								
手数料			193,780								
雑費	28	319	8,930								
合 計				363,490							

注) 標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、長野県林業総合センター・竹内 嘉江

Ⅳ. きのこ栽培経営費と収益調査表5-1
(えのきたけ:菌床栽培 一貫栽培、大容量12万本、1万本当り)

【 設 定 条 件 】		標準値	平成 年	平成 年
1. 経営類型		えのきたけ専業		
2. 適応地域		長野県		
3. 栽培条件		周年栽培		
4. 規模				
所有ビン数1,100ml		120 千本		
年間回転数		5 回転		
年間栽培ビン数		600 千本		
5. 労働力				
家族 3人		6,300 時間		
雇用 3人		4,680 時間		
合計		10,980 時間		
6. 主たる設備、機械				
作業場		281 m ²		
栽培舎		655 m ²		
冷暖房		一式		
栽培用機器		一式		
7. 主要栽培指標				
一栽培期間		58 日		
A級比率		90 %以上		
ロスビン率		1 %		
1ビン収量		260 g		
区分	経営費と収益	標準値	平成 年	平成 年
項目	金額(円)	(円)	(円)	増減率(%)
経 営 費	種菌費	32,500		
	培地材料費	101,850		
	諸材料費	5,625		
	薬剤費	872		
	光熱・動力費	73,170		
	修繕費	39,127		
	償却費			
	建物構築物	51,300		
	施設	16,904		
	機械・器具	106,815		
	借入金利息	16,738		
	雇用労働費	64,669		
	租税公課	21,593		
	経費合計	531,163		
	流通経費	208,494		
	手数料	105,019		
	流通経費合計	313,513		
計	844,676			
租 収 益	生産物収量(kg)	2,574		
	平均単価	340		
	売上金額	875,160		
	所得	30,484		
1日当り家族労働報酬		2,323		

<備考> (1)修繕費 建物、施設は、取得価格の0.5%
機械器具は、取得価格の5.0%

(2)支払利息は同

(3)所得は目標所得

(4)1日当りの家族労働報酬は家族労働力人数当りで試算

注)標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編」長野県きのこ基本計画(平成15年度)」

Ⅳ. きのか栽培経営費と収益調査表5-2
(えのかたけ: 菌床栽培 一貫栽培、大容量12万本、1万本当り)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査			
区分	品目名	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)
種 菌	種菌	325	本	100	32,500		本		
	小 計				32,500				
料 培 養 費	コーンコブミール	1,020	kg	6,800	149,600		kg		
	米ぬか	970	kg	43	18,060		kg		
	その他栄養材	920	kg	65	39,000		kg		
	小 計				206,660				
薬 剤 費	アルコール	1.0	ℓ	486	486		ℓ		
	次亜塩素酸ナトリウム	1.0	ℓ	116	116		ℓ		
	オスバン	0.5	ℓ	540	270		ℓ		
	小 計				872				
料 諸 費	紙巻き	125	枚	5	625		枚		
	その他			5,000	5,000				
	材 小 計				5,625				
光 熱 動 力 費	重油	260	ℓ	48	12,480		ℓ		
	灯油(暖房用)	20	ℓ	49	980		ℓ		
	電気料	2,860	kw	20	57,980		kw		
	水道料	4	m	150	600		m		
	ガソリン(運搬用)	10	ℓ	113	1,130		ℓ		
	小 計				73,170				
修 繕 費	建物・構築物			7,410	7,410				
	施設			1,409	1,409				
	機械・器具			30,308	30,308				
	小 計				39,127				
	計				352,329				

【 流通経費 】		標 準 値			調 査			
項 目	単価 (円)	数量 (箱)	金額(円)	摘要	単価	数量 (箱)	金額(円)	摘要
運賃	190	515	97,812					
トレー・レットル・フィルム	90	515	46,332					
包装資材	90	515	46,332					
手数料								
その他経費	35	515	18,018					
計			208,494					

注) 標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編「長野県きのか基本計画(平成15年度)」

IV. きのか栽培経営費と収益調査表5-3
(えのきたけ: 菌床栽培 一貫栽培、大容量12万本、1万本当り)

【固定資産・減価償却費】		標準値				調査			単位当たり負担額(円)
固定資産名		取得価格(千円)	耐用年数	年償却額(千円)	単位当たり負担額(円)	取得価格(千円)	耐用年数	年償却額(千円)	
建物	作業場	26,676	26	2,155	35,910				
	栽培舎	62,244	26	923	15,390				
	小計	88,920		3,078	51,300				
施設	空調施設	16,904	15	1,014	16,904				
	小計	16,904		1,014	16,904				
機械・器具	ミキサー(4,300本)	1,380	5	248	4,140				
	詰め機	2,400	5	432	7,200				
	高速殺菌釜	9,290	5	1,672	27,870				
	自動接種木	2,150	5	387	6,450				
	菌掻き機	2,500	5	450	7,500				
	熱交換器一式	3,000	5	540	9,000				
	包装機	3,680	8	414	6,900				
	加湿器	100	5	18	300				
	ふるい機	530	5	95	1,590				
	チェーンコンベアー	80	5	14	240				
	掻き出し機	2,200	5	396	6,600				
	フォークリフト	680	4	153	2,550				
	軽トラック	850	4	191	3,188				
	ホイールローダー	930	4	209	3,488				
	ピン・キャップ・コンテナ	6,600	5	1,188	19,800				
小計		36,370		6,407	106,815				
計		142,194		10,501	175,019				

注)標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編「長野県きのこ基本計画(平成15年度)」

<引用文献・参考文献>

- 1 農業経営診断マニュアル編集委員会『農業経営診断マニュアル 第2集』(社)中小企業診断協会 平成18年2月
- 2 (株)特産情報きのこ年鑑編集部『2006年度版 きのこ年鑑』(株)プランツワールド
- 3 農村文化社 きのこガイドブック編集部『2001年度版 きのこガイドブック』(株)農村文化社 2000年11月10日
- 4 (社)金融財政事情研究改編『業種別審査辞典 第一巻』(社)金融財政事情研究会 2003年
- 5 古塚秀夫『シイタケ栽培経営管理論』明文書房 1992年
- 6 古塚秀夫「シイタケ栽培の現状と課題」(今井金雷蔵編『現代農業経済問題へのアプローチ』)
- 7 農林統計協会平成10年
- 8 農林水産省「平成16年度 栽培きのこ経営体の経営収支平成17年10月31日公表」『林業経営統計調査』
農林水産省ホームページ <http://www.maff.go.jp>
- 9 食品産業センター『生産情報公表JAS規格ガイドブック(きのこ)』食品産業センターホームページ
http://www.shokusan.or.jp/center_osirase/h18jas-nousan/4-3.pdf
- 10 農林水産省「きのこGAP策定・普及マニュアル」農林水産省ホームページ
http://www.maff.go.jp/syohi_anzen/gap/pdf/manual/kinoko.pdf

Ⅳ. きのこ栽培経営費と収益調査表6-1

(えのきたけ:菌床栽培 培養センター利用栽培、大容量5万5,000本、1万本当り)

【 設 定 条 件 】		標準値	平成	年	平成	年
1. 経営類型		えのきたけ専業				
2. 適応地域		長野県				
3. 栽培条件		周年栽培				
4. 規模 年間回転数 年間栽培ビン数		10 回転 550 千本				
5. 労働力 家族 3人 雇用 2人 合計		6,300 時間 1,895 時間 8,195 時間				
6. 主たる設備、機械 作業場 栽培舎 冷暖房 栽培用機器		83 m ² 358 m ² 一式 一式				
7. 主要栽培指標 一栽培期間 A級比率 ロスビン率 1ビン収量		30 日 90 %以上 1 % 260 g				
区分	【経営費と収益】	標準値	平成	年	平成	年
	項 目	金 額(円)	(円)		(円)	
経 営 費	種菌費	300,000				
	培養基費	0				
	諸材料費	6,250				
	薬剤費	872				
	光熱・動力費	42,354				
	修繕費	13,097				
	償却費					
	建物構築物	32,192				
	施設	13,651				
	機械・器具	23,048				
	借入金利息	9,190				
	雇用労働費	24,665				
	租税公課	8,000				
	経費合計	473,319				
	流通経費	208,494				
	手数料	105,019				
	流通経費合計	313,513				
	計	786,833				
租 収 益	生産物収量(kg)	2,574				
	平均単価	340				
	売上金額	875,160				
	所 得	88,327				
1日当り家族労働報酬		9,254				

<備考> (1)修繕費 建物、施設は、取得価格の0.5%
機械器具は、取得価格の5.0

(2)支払利息は固定資産取得額の50%借入金額を年利2.5% で元利均等償却した場合の平均支払額

(3)所得は目標所得

(4)1日当りの家族労働報酬は家族労働力人数当りで試算

注)標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編」長野県きのこ基本計画(平成15年度)」

Ⅳ. きのか栽培経営費と収益調査表6-2

(えのきたけ:菌床栽培 培養センター利用栽培、大容量5万5,000本、1万本当り)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査			
区分	品目名	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)
種 菌 費	培養ビン	10,000	本	30	300,000		本		
	小 計				300,000				
料 培 養 費 材	オガコ		kg				kg		
	米ぬか		kg				kg		
	その他栄養材		kg				kg		
	小 計				0				
薬 剤 費	アルコール	1.0	ℓ	486	486		ℓ		
	次亜塩素酸ナトリウム	1.0	ℓ	116	116		ℓ		
	オスバン	0.5	ℓ	540	270		ℓ		
	小 計				872				
料 諸 費 材	紙巻き	250	枚	5	1,250		枚		
	その他			5,000	5,000				
	小 計				6,250				
光 熱 動 力 費	重油		ℓ				ℓ		
	灯油(暖房用)	6	ℓ	49	294		ℓ		
	電気料	2,000	kw	20	40,780		kw		
	水道料	1	m	150	150		m		
	ガソリン(運搬用)	10	ℓ	113	1,130		ℓ		
	小 計				42,354				
修 繕 費	建物・構築物			4,650	4,650				
	施設			1,138	1,138				
	機械・器具			7,309	7,309				
	小 計				13,097				
計					356,323				

【 流通経費 】	標 準				調 査			
項 目	単価 (円)	数量 (箱)	金額(円)	摘要	単価	数量 (箱)	金額(円)	摘要
運賃	190	515	97,812					
トレー・レットル・フィルム	90	515	46,332					
包装資材	90	515	46,332					
手数料								
その他経費	35	515	18,018					
計			208,494					

注)標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編」長野県きのか基本計画(平成15年度)」

IV. きのこ栽培経営費と収益調査表6-3

(えのきたけ:菌床栽培 培養センター利用栽培、大容量5万5,000本、1万本当り)

【固定資産・減価償却費】		標準値				調査			
固定資産名		取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却額 (千円)	単位当 り負担額 (円)	取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却 額(千円)	単位当 り負担額 (円)
建物	作業場	8,250	26	1,485	27,000				
	栽培舎	42,900	26	286	5,192				
	小計	51,150		1,771	32,192				
施設	空調施設	12,513	15	751	13,651				
	小計	12,513		751	13,651				
機械・器具	ミキサー(4,300本)	0	5	0	0				
	詰め機	0	5	0	0				
	高速殺菌釜	0	5	0	0				
	自動接種木	0	5	0	0				
	菌掻き機	0	5	0	0				
	熱交換器一式	2,000	5	360	6,545				
	包装機	3,680	8	414	7,527				
	加湿器	100	5	18	327				
	ふるい機	0	5	0	0				
	チェーンコンベアー	0	5	0	0				
	掻き出し機	730	5	131	2,389				
	フォークリフト	680	4	153	2,782				
	軽トラック	850	4	191	3,477				
	ホイールローダー	0	4	0	0				
	ビン・キャップ・コンテナ	0	5	0	0				
小計		8,040		1,267	23,048				
計		71,703		3,789	68,891				

注)標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編」長野県きのこ基本計画(平成15年度)」

IV. きのか栽培経営費と収益調査表7-1 (ぶなしめじ:菌床栽培 1万本当り)

【 設 定 条 件 】		標準値	平成	年	平成	年	
1. 経営類型		ぶなしめじ専業					
2. 栽培条件		周年栽培					
3. 規模 所有ビン数 年間回転数 年間栽培ビン数		20 万本 3 回転 60 万本					
4. 労働力 家族 雇用 合計		3人 3人 6人	時間 時間 時間				
5. 主たる設備、機械 作業場 栽培舎 冷暖房施設 栽培用機器		614 m ² 240 m ² 一式 一式					
6. 主要栽培指標 一栽培期間 A級比率 ロスビン率 1ビン収量		115 日 98 %以上 1 % 180 g以上					
区 分	【経営費と収益】 項 目	標準値 金 額(円)	平成	年	平成	年	増減率(%)
経 営 費	種菌費	30,800					
	培養基費	77,825					
	諸材料費	4,000					
	薬剤費	872					
	光熱・動力費	77,580					
	修繕費	32,711					
	償却費						
	建物	46,806					
	施設	15,350					
	機械・器具	99,060					
	借入金利息	16,738					
	雇用労働費	68,400					
	租税公課	21,593					
	経費合計	491,735					
	流通経費	257,677					
	手数料	111,197					
	流通経費合計	368,874					
	計	860,609					
租 収 益	生産物収量(kg)	1,782					
	平均単価	520					
	売上金額	926,640					
	所 得	66,031					
1日当り家族労働報酬		5,534					

注)標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編」長野県きのこ基本計画(平成14年度)」

IV. きのこと栽培経営費と収益調査表7-2 (ぶなしめじ:菌床栽培 1万本当り)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査			
区分	品目名	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)
種菌費	種菌	280	本	110	30,800		本		
	小 計				30,800				
培養材料費	オガコ	5	m ²	4,500	22,500		m ²		
	米ぬか	600	kg	25	15,000		kg		
	その他栄養材	700	kg	40	28,000		kg		
	菌系活性剤	25	kg	493	12,325		kg		
	小 計				77,825				
薬剤費	アルコール	1.0	ℓ	486	486		ℓ		
	次亜塩素酸ナトリウム	1.0	ℓ	116	116		ℓ		
	オスバン	0.5	ℓ	540	270		ℓ		
	小 計				872				
諸材料費	有孔ポリシート (1.5m×10m)	1	本	4,000	4,000		枚		
	小 計				4,000				
光熱動力費	重油	200	ℓ	48	9,600		ℓ		
	灯油(暖房用)	30	ℓ	49	1,470		ℓ		
	電気料	3,200	kw	20	64,780		kw		
	水道料	4	m ³	150	600		m ³		
	ガソリン(運搬用)	10	ℓ	113	1,130		ℓ		
	小 計				77,580				
修繕費	建物・構築物			6,146	6,146				
	施設			1,163	1,163				
	機械・器具			25,402	25,402				
	小 計				32,711				
計					223,788				

【 流通経費 】		標 準 値				調 査			
項 目	単価 (円)	数量 (箱)	金額(円)	摘要	単価	数量 (箱)	金額(円)	摘要	
運賃	305	356	108,702						
トレー・レットル・フィルム	240	356	85,536						
包装資材	130	356	46,332						
手数料			111,197						
その他経費	48	356	17,107						
計			368,874						

注)標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編」長野県きのこ基本計画(平成14年度)」

IV. きのこ栽培経営費と収益調査表7-3
(ぶなしめじ:菌床栽培 1万本当り)

【固定資産・減価償却費】		標準値				調査			単位当たり負担額(円)
固定資産名		取得価格(千円)	耐用年数	年償却額(千円)	単位当たり負担額(円)	取得価格(千円)	耐用年数	年償却額(千円)	
建物	作業場	58,330	26	2,019	33,652				
	栽培舎	22,800	26	789	13,154				
	小計	81,130		2,808	46,806				
施設	空調施設	15,350	15	921	15,350				
	小計	15,350		921	15,350				
機械・器具	ミキサー(4,300本)	800	5	144	2,400				
	詰め機	1,490	5	268	4,470				
	高速殺菌釜	8,200	5	1,476	24,600				
	自動接種木	1,900	5	342	5,700				
	菌掻き機	760	5	137	2,280				
	熱交換器一式	3,000	5	540	9,000				
	包装機	3,000	8	338	5,625				
	加湿器	1,000	5	180	3,000				
	ふるい機	550	5	99	1,650				
	チェーンコンペアー	80	5	14	240				
	掻き出し機	930	5	167	2,790				
	フォークリフト	680	4	153	2,550				
	軽トラック	850	4	191	3,188				
	ホイールローダー	930	4	209	3,488				
	ビン・キャップ・コンテナ	9,360	5	1,685	28,080				
	小計	33,530		5,944	99,060				
計		130,010		9,673	161,216				

注)標準値は、(社)金融財政事情研究会編「第10次業種別審査辞典 長野県他編」長野県きのこ基本計画(平成14年度)」

IV. きのこ栽培経営費と収益調査表8-1 (なめこ:高速栽培 10,000本当たり)

【 設 定 条 件 】		標準値	平成 年	平成 年	
1. 経営類型		なめこ専業経営			
2. 栽培条件 高速栽培		周年栽培 1日3,008本仕込み			
3. 規模 所有ビン数 800cc 年間回転数 年間栽培ビン数		25 万本 5 回転 130 万本			
4. 労働力 家族 2人 雇用 4人 合計 6人		時間 時間 時間			
5. 主たる設備、機械 作業場 栽培舎 冷暖房施設 栽培用機器		200 m ² 1120 m ² 一式 一式			
6. 主要栽培指標 一栽培期間 A級比率 ロスビン率 1ビン収量		70 日 90 %以上 1 %以下 180 g以上			
区分	【経営費と収益】	標準値	平成 年	平成 年	増減率(%)
	項 目	金 額(円)	(円)	(円)	
経 営 費	種菌費	48,000			
	培養基費	98,800			
	薬剤費	5,600			
	光熱・動力費	95,400			
	修繕費	4,100			
	償却費				
	建物	23,100			
	空調施設	12,900			
	機械・器具	47,700			
	支払利息	33,400			
	雇用労働費	60,000			
	租税公課	16,700			
	雑費	10,700			
	経費合計	456,400			
	流通経費	111,000			
	手数料	82,300			
	流通経費合計	193,300			
	計	649,700			
租	生産物収量(kg)	1,800			
収	平均単価	398			
益	売上金額	716,400			
	所 得	66,700			
	1日当り家族労働報酬	6,000			

(備考)

1. 借入金は、建物、施設と機械器具の取得額の70%とし、年金利5%とした
2. 修繕費は、建物・設備負担価額×1%+機器負担価額×8%で計算
3. 租税公課は、物品購入に伴う消費税5%で計算
4. 雇用労働費は、雇用労働時間×750円
5. 雑費は、売り上げ金額の1.5%で計算

注)標準値は、「きのこ年鑑 2006年度版」特産情報きのこ年鑑編集部

Ⅳ. きのこ栽培経営費と収益調査表8-2 (なめこ:高速栽培 10,000本当り)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査			
区分	品目名	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)
種 菌 費	メーカー種菌	40	本	1,200	48,000		本		
	小 計				48,000				
培 養 材 料 費	オガコ	9	m ²	7,500	67,500		m ²		
	専管ふすま	380	kg	31	11,800		kg		
	ネオビスタN	160	kg	120	19,200		kg		
	消石灰	10	kg	30	300		kg		
	小 計				98,800				
薬 剤 費	アルコール	2.0	ℓ	1,000	2,000		ℓ		
	次亜塩素酸ナトリウム	0.5	ℓ	103	52		ℓ		
	オスパン	0.5	ℓ	540	270		ℓ		
	ベントーレ	0.1	kg	11,000	1,100		kg		
	マイクロール	0.5	ℓ	4,500	2,250		ℓ		
	小 計				5,672				
光 熱 動 力 費	灯油	400	ℓ	37	14,800		ℓ		
	ガソリン	30	ℓ	90	2,700		ℓ		
	電気料	3,200	kw	20	64,000		kw		
	水道料	58	m ³	240	13,920		m ³		
	小 計				95,420				
修 繕 費	建物・構築物								
	施設								
	機械・器具								
	小 計								
計					247,900				

【 流通経費 】		標 準 値				調 査			
項 目	単価 (円)	数量 (箱)	金額(円)	摘要	単価	数量 (箱)	金額(円)	摘要	
ダンボール箱	46	225	10,400	4kg入冬用					
スチロール箱	125	225	28,100	4kg入夏用					
包装フィルム	1.4	18,000	25,200						
運賃	150	450	47,300						
手数料			82,300	売り上げ金 額の11.5%					
計			193,300						

注)標準値は、「きのこ年鑑 2006年度版」特産情報きのこ年鑑編集部

Ⅳ. きのこ栽培経営費と収益調査表8-3 (なめこ:高速栽培 10,000本当り)

【固定資産・減価償却費】		標準値				調査			
固定資産名		取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却額 (千円)	単位当 り負担額 (円)	取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却 額(千円)	単位当 り負担額 (円)
建物	作業場	6,060	26	2,019	33,652				
	栽培舎	50,000	26	789	13,154				
	小計	56,060		2,808	46,806				
施設	栽培舎空調施設	28,000	15	921	15,350				
	小計	28,000		921	15,350				
機械・器具	ミキサー(4,300本)	1,590	5	178	1,370				
	ふるい機	400	5	72	550				
	詰め機(ラインー式)	3,800	5	684	5,260				
	高速殺菌釜(5,000本一式)	12,000	8	1,350	10,380				
	自動接種木	2,800	5	504	3,870				
	菌掻き機(ラインー式)	1,400	5	252	1,930				
	加湿器	1,500	8	270	2,070				
	掻き出し機	930	5	167	1,280				
	キャップ洗浄器	380	5	68	520				
	チェーンコンベアー	200	4	45	340				
	収穫機	2,000	8	225	1,730				
	選別機	450	8	51	390				
	計量包装機	3,600	5	648	4,980				
	冷蔵庫	380	6	57	430				
	冷凍ストッカー	150	5	27	200				
	軽トラック	850	4	191	1,460				
	フォークリフト	700	4	158	1,210				
	ビン・キャップ	5,600	5	1,008	7,750				
	コンテナ	1,500	5	270	2,070				
	小計	40,230		6,225	47,790				
計		124,290		10,708	83,830				

注)標準値は、「きのこ年鑑 2006年度版」特産情報きのこ年鑑編集部

IV. きのこ栽培経営費と収益調査表9-1 (まいたけ: 菌床栽培 10,000袋当り)

【 設 定 条 件 】		標準値	平成 年		平成 年
1. 経営類型		まいたけ専業経営			
2. 適応地域		群馬、埼玉、栃木			
3. 栽培条件		周年栽培			
4. 規模 年間回転数 年間栽培袋		5 回転 260,000 袋			
5. 労働力 家族 2人 雇用 8人 合計 10人		時間 時間 時間			
6. 主たる設備、機械 作業場 栽培舎 冷暖房 栽培用機器		100 m ² 1,100 m ² 一式 一式			
7. 主要栽培指標 一栽培期間 A級比率 ロスピン率 1袋収量		70 日 %以上 2 %以下 500 g以上			
区 分	【経営費と収益】 項 目	標準値 金 額(円)	平成 年 (円)	平成 年 (円)	増減率(%)
経 営 費	種菌費	139,230			
	培養基費	427,000			
	諸材料費	200,000			
	薬剤費	1,400			
	光熱・動力費	215,000			
	修繕費(10%)	44,034			
	償却費				
	建物構築物				
	施設	10,898			
	機械・器具	429,445			
	借入金利息	197,813			
	雇用労働費	443,077			
	租税公課	55,388			
	経費合計	2,163,285			
	流通経費	514,500			
	手数料	362,600			
	流通経費合計	877,100			
	計	3,040,385			
粗 収 益	生産物収量(kg)	4,900			
	平均単価	642			
	売上金額	3,145,800			
	所 得	105,415			
	1日当り家族労働報酬	4,568			

<備考> (1) 借入金は機械器具の取得額の80%とし、金利年5%とした。

(2) 所得は、3,145,800(円) - 3,040,385(円) = 105,415(円)

この経営モデルの所得は、105415(円/万袋) × 26(万袋) = 2,740,790(円)

注) 標準値は、「きのこ年鑑 2006年度版」特産情報きのこ年鑑編集部 (群馬県林業試験場・川島祐介)

IV. きのこ栽培経営費と収益調査表9-2 (まいたけ:菌床栽培 10,000袋当り)

【 消 耗 財 】		標 準 値				調 査			
区分	品目名	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)	単位当り 使用量	単位	単価(円)	金額(円)
種菌費	メーカー種菌	170	本	819	139,230		本		
	小 計				139,230				
培料養分費	オガコ	50	m ³	6,500	325,000		m ³		
	フスマ	1,400	kg	30	42,000		kg		
	コーンブラン	1,000	kg	60	60,000		kg		
	小 計				427,000				
薬剤費	アルコール等	2.0	ℓ	700	1,400		ℓ		
	小 計				1,400				
諸材料費	栽培袋	10,000	枚	20	200,000		枚		
	その他								
	小 計				200,000				
光熱動力費	灯油(暖房用)	1,800	ℓ	50	90,000		ℓ		
	電気料		kw		100,000		kw		
	水道料		m ³		25,000		m ³		
	小 計				215,000				
修繕費	建物・構築物								
	施設・機械・器具								
	小 計								
計					982,630				

【 流通経費 】		標 準 値			調 査			
項 目	単価 (円)	数量 (箱)	金額(円)	摘要	単価	数量 (箱)	金額(円)	摘要
段ボール箱	50	2,450	122,500					
トレイ等	3	49,000	147,000					
ラップ、シール	2	49,000	98,000					
運賃	30	4,900	147,000					
手数料	74	4,900	362,600					
計			877,100					

注)標準値は、「きのこ年鑑 2006年度版」特産情報きのこ年鑑編集部(群馬県林業試験場・川島祐介)

IV. きのこ栽培経営費と収益調査表9-3

(まいたけ:菌床栽培 10,000袋当り)

【固定資産・減価償却費】		標準値					調査				
固定資産名		取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却額 (千円)	負担割合 (%)	単位当たり負担額 (円)	取得価格 (千円)	耐用 年数	年償却額 (千円)	負担割合	単位当たり負担額 (円)
建物	作業場 100㎡	525	20	24	3.85	908					
	栽培舎 1,100㎡	5,772	20	260	3.85	9,989					
	小計	6,297		283		10,898					
施設	空調施設	84,877	13	5,876	3.85	226,004					
	小計	84,877		5,876		226,004					
機械・器具	攪拌機	1,870	5	337	3.85	12,946					
	詰め機	730	5	131	3.85	5,054					
	コンベア	150	5	27	3.85	1,038					
	高圧殺菌釜	8,500	5	1,530	3.85	58,846					
	接種木	2,420	5	436	3.85	16,754					
	移動台車	1,000	7	129	3.85	4,945					
	包装機	2,500	5	450	3.85	17,308					
	収穫コンテナ	105	5	19	3.85	727					
	栽培トレー	2,080	5	374	3.85	14,400					
	ショベルローダー	2,000	4	450	3.85	17,308					
	保冷库	3,000	5	540	3.85	20,769					
	栽培棚	12,350	15	741	3.85	28,500					
	袋分離機	700	5	126	3.85	4,846					
	小計	37,405		5,290		203,441					
計		128,579		11,449		440,343					

注)標準値は、「きのこ年鑑 2006年度版」特産情報きのこ年鑑編集部 (群馬県林業試験場・川島祐介)

V. きのに栽培作業別・月別労働時間診断調査表1(乾しいたけ:原木栽培)

		標準値(設定条件はIV. きのに栽培経営費と収益調査表1と同条件)		調査			
作業名	労働時間	機械使用時間	作業手順・方法	月別労働時間(時間)		月別労働時間(時間)	
				1月	2月	3月	4月
1 原木伐採玉切	420	300	チェーンソー、人力	588			
2 木寄せ、植菌	480	200	ほだ木運搬車、発電機、電気トリル、人力	584			
3 伏せ込み	160	0	人力(裸地伏せ)	644			
4 伏せ込み地管理	24	24	草刈機	456			
5 ほだ木搬出、立込み	600	500	草刈機、ほだ木運搬車、軽トラツク、人力	196			
6 ほだ場管理	200	120	チェーンソー、草刈機、人力	40			
7 発生操作	180	70	散水ポンプ、人力(散水、倒木)	0			
8 きのに採取	896	110	軽トラツク、人力	32			
9 乾燥・荷造り・出荷	400	972	乾燥機、軽トラツク、人力	160			
				10月	160		
				11月	232		
				12月	268		
合計	3,360(338日)	2,296		合計	3,360		

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)(九州大学農学部・佐藤 宣子)

V. きのこ栽培作業別・月別労働時間診断調査表2(生しいたけ:原木栽培)

標準 値 (設定条件はIV.きのこ栽培経営費と収益調査表2と同条件)				調 査				
作 業 名	労働時間	機械使用時間	作業手順・方法	月別労働時間 (時間)	労働時間	機械使用時間	作業手順・方法	月別労働時間 (時間)
1 植菌・伏込み	600			1月 236				1月
2 育成ほだ木管理	48			2月 281				2月
3 用役ほだ木管理	206			3月 406				3月
4 発生操作・収穫	1,721			4月 387				4月
5 包装・出荷	852			5月 261				5月
6 その他一般管理	23			6月 290				6月
				7月 292				7月
				8月 207				8月
				9月 255				9月
				10月 281				10月
				11月 283				11月
				12月 271				12月
合 計 (能力換算日数)	3,450 (338日)			合計 3,450 (388日)				合計

(備考)労働時間は男女同じ労働時間とした。
能力換算日数は女子の労働時間に0.8を乗じた。

(注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、鳥取大学農学部・助教授・古塚 秀太

V. きのこ栽培作業別・月別労働時間診断調査表3(生しいたけ:菌床栽培 培養発生一貫生産タイプ)

標準 値(設定条件はIV. きのこ栽培経営費と収益調査表3と同条件)				調 査						
作 業 名	労働時間	機械使用時間	作業手順・方法	月別労働時間 (時間)		労働時間	機械使用時間	作業手順・方法	月別労働時間 (時間)	
1 諸準備	40	20	かく拌機	1月	125				1月	
2 袋詰・殺菌	100	100		2月	135				2月	
3 接種	80	80	接種機	3月	45				3月	
4 培養管理	85	0	培地運搬、見回り	4月	179				4月	
5 発生処理	30	0	袋はずし	5月	169				5月	
6 発生管理	230	0	散水機、芽かき	6月	159				6月	
7 収穫	306	0	人力	7月	159				7月	
8 選別・包装	380	153	ラップ機	8月	170				8月	
9 出荷	40	40	軽トラツク	9月	170				9月	
10 廃床処理・消毒	20	0		10月	0				10月	
				11月	0				11月	
				12月	0				12月	
合 計	1,311 (163.9日)	393		合計	1,311				合計	
				内雇用	0				内雇用	

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農林文化社)、長野県林業総合センター・竹内 嘉江

V. きのこ栽培作業別・月別労働時間診断調査表4(生しいたけ:菌床栽培 発生分業生産タイプ)

標準値(設定条件はIV. きのこ栽培経営費と収益調査表4と同条件)				調査			
作業名	労働時間	機械使用時間	作業手順・方法	月別労働時間 (時間)		月別労働時間 (時間)	
1 諸準備	5	0	人カ	1月	52	1月	
2 発生処理	10	0	袋はずし(人カ)	2月	52	2月	
3 発生管理	80	0	散浸水、芽かき(人カ)	3月	52	3月	
4 収穫	100	0	人カ	4月	48	4月	
5 選別・包装	100	70	ラツツ機(人カ)	5月	0	5月	
6 出荷	20	20	軽トラツク、人カ	6月	0	6月	
7 廃床処理・消毒	5	0	人カ	7月	0	7月	
8				8月	0	8月	
9				9月	0	9月	
10				10月	0	10月	
				11月	64	11月	
				12月	52	12月	
合 計	320 (40.0日)	90		合計	320	合計	
				内雇用	0	内雇用	

注)標準値は「2001年版きのこガイドブック」(農村文化社)、長野県林業総合センター・竹内 嘉江

VI. 栽培工程診断チェックリスト1-1(生しいたけ・原木栽培)

調査 年 月 日

工程	分類		チェック項目	頻度	月	日	チェック
共通事項	水(原水)	水(原水)	◎水源が明らかであるか(水道水・地下水・その他)、上流の環境汚染の有無を確認したか	年 回			
		水質検査	△水道水以外の原水を使用する場合、水質検査を実施したか	年 回			
	作業者	教育・訓練	◎衛生的な取り扱いのための研修を受講し、実践したか	年 回			
	記録の保持	情報提供	◎記録の保持と情報提供等への対応をしたか	随時			
植菌	原木	受入	◎原木生育場所の環境汚染の有無を確認したか	随時			
			◎産地及び入荷日等の記録を残したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
	農薬	受入	◎登録農薬を選定・確認し、購入伝票などを保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		保管	◎資材ごとに区分し、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	随時			
			◎農薬の入出庫管理記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		農薬散布	◎登録農薬を使用基準どおり使用したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
	植菌	受入	◎種菌に関する記録を残したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		植菌	◎植菌日・ほだ場の区分・作業者などを記録し、その記録を残したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
ほだ木作り	農薬	受入	◎登録農薬を選定・確認し、購入伝票などを保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		保管	◎資材ごとに区分し、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	随時			
			◎資材や薬剤の入出庫管理記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		農薬散布	◎登録農薬を使用基準どおり使用したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】 ◎ほだ木や周辺農作物等への農薬の飛散防止に配慮したか	随時			

※ ◎は推奨項目、△は産地の実態に即した選択項目として、例示しました。

※ 出所は農林水産省「きのこGAP」 http://www.maff.go.jp/syohi_anzen/gap/pdf/manual/kinoko.pdf

VI. 栽培工程診断チェックリスト1-2(生しいたけ・原木栽培)

調査 年 月 日

工程	分 類		チ ェ ッ ク 項 目	頻度	月	日	チェック
発 生 ・ 収 穫	発生舎	発生舎	◎発生舎は、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	毎日			
		小動物・衛生昆虫	◎発生、侵入、棲息の痕跡はないか ◎防除または駆除したか、小動物・衛生昆虫の管理記録をつけ、保管したか	毎日 月 回/ 毎日			
	増収材	受入	◎購入先に成分を確認し、購入伝票などを保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		保管	◎資材ごとに区分し、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	随時			
			◎資材の入出庫管理記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		使用基準	◎使用基準どおり使用したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
	作業用具(収穫)		◎収穫作業用具の清潔さを確認したか ◎収穫物に異物が混入していないか目視等で確認したか ◎収穫日時・発生場所の区分・作業者などを記録し、その記録を残したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	毎日 毎日 毎日			
選 別 ・ 包 装	作業者	衛生管理	◎衛生的で清潔な作業衣、帽子、履物を着用したか	毎日			
		掃除用具	◎喫煙・喫食は定められた場所のみとしたか ◎決められた場所に保管し、常時使用できる状態にしたか	毎日 毎日			
	選別・包装施設	選別・包装施設	◎選別・包装施設内は、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	毎日			
			◎封ろうなどの異物が混入していないかを目視などで確認したか	毎日			
			◎選別・包装日・ロット区分、作業者などを記録し、その記録を残したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	毎日			
	容器・包装資材	小動物・衛生昆虫	◎発生、侵入、棲息の痕跡はないか ◎防除または駆除したか、小動物・衛生昆虫の管理記録をつけ、保管したか	毎日 月 回/ 毎日			
		容器・包装資材	◎容器・包装資材は、衛生的に管理・保管したか	毎日			
保 管 ・ 出 荷	保管・出荷施設	保管施設(冷蔵庫)	◎作業用具・機械は、定期的なメンテナンスと清掃を実施したか	月 回/ 毎日			
			◎保管施設(冷蔵庫)は、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	毎日			
			◎設備・器具類は、定期的なメンテナンスと清掃を実施したか	月 回/ 毎日			
			◎計測機器類は、定期的に校正し、その実施記録を残したか	毎日			
			◎収穫日が、区別できるように管理したか	毎日			
			◎保管中の温度を定期的に計測・記録し、その記録を残したか	毎日			
		小動物・衛生昆虫	◎発生、侵入、棲息の痕跡はないか ◎防除または駆除したか、小動物・衛生昆虫の管理記録をつけ、保管したか	毎日 月 回/ 毎日			
容 器	容 器		容器は、衛生的に管理・保管したか	随時			

※ ◎は推奨項目、△は産地の実態に即した選択項目として、例示しました。

※ 出所は農林水産省「きのこGAP」 http://www.maff.go.jp/syohi_anzen/gap/pdf/manual/kinoko.pdf

VI. 栽培工程診断チェックリスト2-1(生しいたけ・菌床栽培)

調査 年 月 日

工程	分類		チェック項目	頻度	月	日	チェック
共通事項	水(原水)	水(原水)	◎水源が明らかであるか(水道水・地下水・その他)、上流の環境汚染の有無を確認したか	年 回			
		水質検査	△水道水以外の原水を使用する場合、水質検査を実施したか	年 回			
	作業者	教育・訓練	◎衛生的な取り扱いのための研修を受講し、実践したか	年 回			
	記録の保持	情報提供	◎記録の保持と情報提供等への対応をしたか	随時			
混合攪拌・容器充填・殺菌(培地調製)	培地調整施設 容器充填施設 殺菌・放冷施設 作業用具・機械		◎培地調整剤などの施設は、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	毎日			
			◎作業用具・機械は、定期的なメンテナンスと点検を実施したか	月 回/ 毎日			
			◎設備管理記録を付け、その記録を残したか	毎日			
	培地基材	受入	◎培地基材の安全性を確認し、購入伝票などを保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		保管	◎資材ごとに区分し、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	随時			
			◎資材の入出庫管理記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
	栄養材	受入	◎栄養材の安全性を確認し、購入伝票などを保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		保管	◎資材ごとに区分し、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	随時			
			◎資材の入出庫管理記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
	添加材	受入	◎添加材の安全性を確認し、購入伝票などを保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		保管	◎資材ごとに区分し、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	随時			
			◎資材の入出庫管理記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
	農薬	受入	◎登録農薬を選定・確認し、購入伝票などを保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		保管	◎資材ごとに区分し、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	随時			
			◎農薬の入出庫管理記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
	容器(袋)	受入	◎登録農薬を使用基準どおり使用したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		保管	◎容器(袋)の安全性を確認し、購入伝票などを保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
種菌接種・培養	接種・培養施設	接種・培養施設	◎資材ごとに区分し、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	随時			
			◎資材の入出庫管理記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
			◎設備管理記録を付け、その記録を残したか	随時			
	小動物・衛生昆虫		◎発生、侵入、棲息の痕跡はないか	毎日			
			◎防除または駆除したか、小動物・衛生昆虫の管理記録をつけ、保管したか	月 回/ 毎日			
	施設消毒		◎使用した消毒剤に関する記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
			◎菌床培地・子実体への付着防止を確認したか	随時			

VI. 栽培工程診断チェックリスト2-2(生しいたけ・菌床栽培)

調査 年 月 日

工程	分 類		チ ャ ッ ク 項 目	頻度	月 日	チェック
発生・収穫	発生施設	発生施設	◎発生施設は、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	毎日		
			◎作業用具・機械は、定期的なメンテナンスと点検を実施したか	月 回/ 毎日		
			◎設備管理記録を付け、その記録を残したか	毎日		
		小動物・衛生昆虫	◎小動物・衛生昆虫の発生、侵入、棲息の痕跡はないか	毎日		
	◎防除または駆除したか、小動物・衛生昆虫の管理記録をつけ、保管したか		月 回/ 毎日			
	作業用具(収穫)		◎収穫作業用具の清潔さを確認したか	毎日		
		◎収穫物に異物が混入していないか目視等で確認したか	毎日			
		◎収穫日時・発生場所の区分・作業者などを記録し、その記録を残したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	毎日			
	施設消毒	◎使用した消毒剤に関する記録を残し、保管したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	随時			
		◎菌床培地・子実体への付着防止を確認したか	随時			
選別・包装	作業者	衛生管理	◎衛生的で清潔な作業衣、帽子、履物を着用したか	毎日		
			◎喫煙・喫食は定められた場所のみとしたか	毎日		
		掃除用具	◎決められた場所に保管し、常時使用できる状態にしたか	毎日		
	選別・包装施設	選別・包装施設	◎選別・包装施設内は、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	毎日		
			◎封ろうなどの異物が混入していないかを目視などで確認したか	毎日		
			◎選別・包装日・ロット区分、作業者などを記録し、その記録を残したか【生産履歴記帳運動などの記録と管理をしたか】	毎日		
		小動物・衛生昆虫	◎小動物・衛生昆虫の発生、侵入、棲息の痕跡はないか	毎日		
	◎防除または駆除したか、小動物・衛生昆虫の管理記録をつけ、保管したか		月 回/ 毎日			
	容器・包装資材		◎容器・包装資材は、衛生的に管理・保管したか	毎日		
	作業用具・機械		◎作業用具・機械は、定期的なメンテナンスと点検を実施したか	月 回/ 毎日		
保管・出荷	保管・出荷施設	保管施設(冷蔵庫)	◎保管施設(冷蔵庫)は、整理・整頓・清掃(3S)を実施したか	毎日		
			◎設備・器具類は、定期的なメンテナンスと清掃を実施したか	月 回/ 毎日		
			◎計測機器類は、定期的に校正し、その実施記録を残したか	毎日		
			◎収穫日が、区別できるように管理したか	毎日		
			◎保管中の温度を定期的に計測・記録し、その記録を残したか	毎日		
			◎発生、侵入、棲息の痕跡はないか	毎日		
		小動物・衛生昆虫	◎防除または駆除したか、小動物・衛生昆虫の管理記録をつけ、保管したか	月 回/ 毎日		
	容 器		容器は、衛生的に管理・保管したか	随時		

※ ◎は推奨項目、△は産地の実態に即した選択項目として、例示しました。

※ 出所は農林水産省「きのこGAP」 http://www.maff.go.jp/syohi_anzen/gap/pdf/manual/kinoko.pdf

VII. 生産情報公表事例1 (原木栽培 しいたけ)

○表示事項の例

農産物識別番号 XXXXXXXX

原木しいたけ(生産情報公表農産物) ○○県産

生産情報の公表方法 <http://www.xxx.co.jp>
(またはFAX番号など)



登録認定機関

○公表情報の事例

農産物識別番号	XXXXXXXXXX				
生産者の氏名及び住所	農林太郎				
生産者の連絡先	電話番号03(1234)5678				
ほ場等の所在地	○○県△△△市□□				
収穫期間	平成○○年○○月○○日～平成○○年○○月○○日				
農薬の用途別分類 種類及び使用回数	用途別分類	種類	使用回数	削減割合	当地の平均使用回数
	殺虫剤	BT剤	1	/	/
		フェニトロチオン(MEP)	1		
	殺菌剤	ベノミル	2		
農薬の使用回数合計			4回	0	回
特定農薬の用途別分類	用途別分類		種類	使用回数	
種類及び使用回数	—		—	—	
肥料の種類及び施肥量	種 類		施 肥 量		
化学肥料の 窒素成分量合計					
土壌改良資材の 種類及び施用量	種 類		施 用 量		
生産者が使用又は 施用したその他の 資材の名称及び目的	培地基材・栄養材(原木<コナラ>) 添加材・増収材(リン酸二水素カリウム) <>は任意の記載事項				

出所:生産情報公表農産物JAS規格ガイドブック「きのこ」 食品産業センター
http://www.shokusan.or.jp/center_osirase/h18jas-nousan/4-3.pdf

Ⅶ. 生産情報公表事例2(菌床栽培 きのこと)

○表示事項の例

農産物識別番号 XXXXXXXX

原木しいたけ(生産情報公表農産物) ○○県産

生産情報の公表方法 <http://www.xxx.co.jp>
(またはFAX番号など)



登録認定機関

○公表情報の事例

農産物識別番号	XXXXXXXXXX				
生産者の氏名及び住所	農林太郎				
生産者の連絡先	電話番号03(1234)5678				
ほ場等の所在地	○○県△△△市□□				
収穫期間	平成○○年○○月○○日～平成○○年○○月○○日				
農薬の用途別分類 種類及び使用回数	用途別分類	種類	使用回数	削減割合	当地の平均使用回数
	殺菌剤	ペノミル	1	/	/
農薬の使用回数合計			1回	0	回
特定農薬の用途別分類 種類及び使用回数	用途別分類	種類	使用回数		
	—	—	—		
肥料の種類及び施肥量	種	類	施 肥 量		
化学肥料の 窒素成分量合計					
土壌改良資材の 種類及び施用量	種	類	施 用 量		
生産者が使用又は 施用したその他の 資材の名称及び目的	菌床しいたけの一例 培地基材・栄養材(おがこ<コナラ主体広葉樹>、こめぬか、ふすま) 添加材・増収材(炭酸カルシウム) <菌床>ひらたけの一例 培地基材・栄養材(おがこ<スギ、マツ主体針葉樹>、こめぬか、ふすま、 コーンコブミール、乾燥おから) <菌床>ふなしめじの一例 培地基材・栄養材(おがこ<ブナ、スギ混合材>、コーンコブミール、ふすま) 添加材・増収材(珪酸アルミニウム) <菌床>はたけしめじの一例 培地基材・栄養材(バーク発酵物、こめぬか、ビール発酵粕) その他:使用目的:覆土(赤玉土)				

注)栽培法として、ひらたけ、ふなしめじ、はたけしめじ、その他きのこで<菌床>を明記することは、任意事項とされている。

出所:生産情報公表農産物JAS規格ガイドブック「きのこ」 食品産業センター

http://www.shokusan.or.jp/center_osirase/h18jas-nousan/4-3.pdf

Ⅷ. 栽 培 日 誌 1(原木栽培)

生産者No.		生産者名						
住所						電話番号		
収穫日	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	
原木	伐採地							
	樹種							
	伐採玉切時期							
	購入日(購入原木)							
菌種	品種名							
	メーカー管理No.							
工程メモ	植菌日(月日～月日)	～	～	～	～	～	～	
	仮伏せ期間(場所)							
	本伏せ期間(場所)							
	工程	種類名	用途別 分類	使用日(使用回数)				
農薬	植菌			/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()
	仮伏せ			/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()
	本伏せ			/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()
	発生			/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()
増収材	発生			/	/	/	/	/

出所:生産情報公表農産物JAS規格ガイドブック「きのこ」 食品産業センター
http://www.shokusan.or.jp/center_osirase/h18jas-nousan/4-3.pdf

VIII. 栽 培 日 誌 2(菌 床 栽 培)

生産者No.		生産者名							
住所						電話番号			
収穫日	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	
原料		内容	購入先	購入日					
	基材								
	栄養材								
	添加材								
	菌種	品種名							
保存期間									
培地調整・容器充填日									
工程メモ									
農薬 培地調整	種類名								
	用途別分類								
	使用日	/	/	/	/	/	/	/	
	使用回数								

出所:生産情報公表農産物JAS規格ガイドブック「きのこ」 食品産業センター
http://www.shokusan.or.jp/center_osirase/h18jas-nousan/4-3.pdf

IX. 栽培工程記録1-1(きのこ原木栽培)

平成 年度 植菌ほだ木

平成 年 月 日作成

生産者名

生産者住所

1. 原木調達工程

区分	主要樹種	産地・業者	伐採・玉切時期	本数
伐採玉切				
原木購入				
その他				
植菌済原木				

2. 植菌工程

植菌後の農薬の使用 (有・無) 有りの場合下記に記帳する

種類名	用途別分類	使用回数	処理年月日	処理対象本数

使用種菌別植菌作業履歴

品種名 (メーカー名)	製造No. 等	種菌形状	植菌年月日 から 植菌完了日	植菌本数	管理No.
		O・K・S	年 月 日 年 月 日		
		O・K・S	年 月 日 年 月 日		

管理No. は生産者が自主的に管理する。

3. ほだ化工程

3-1. 借

伏せ工程

管理 No.	刈伏せ場所 林内、ビニー ルハウス、その他	収容本数	仮伏せ期間 年 月～ 年 月	仮伏せ期間中の農薬使用 (有・無)有りの場合下記記帳 種類名、用途別分類、使用回数
			年 月～ 年 月	

3-2本伏せ工程

管理 No.	刈伏せ場所 林内、ビニー ルハウス、その他	収容本数	仮伏せ期間 年 月～ 年 月	仮伏せ期間中の農薬使用 (有・無)有りの場合下記記帳 種類名、用途別分類、使用回数
			年 月～ 年 月	

出所: 食品産業センター『生産情報公表農産物JAS規格ガイドブック(きのこ)』

IX. 栽培工程記録1-2(きのこ原木栽培)

平成 年度 植菌ほだ木

平成 年 月 日作成

4. 発生工程

浸水発生・休養履歴

年 月 日～ 年 月 日まで

浸水月 日	管理 No. もしくは 品種名	浸 水 処 理 本数	増収材 (使用有りの場合下記記帳)			発生舎		休養場所	
			増 収 材 名、内容	メーカー名	使 用 量 (使用回 数)	設備 No.	収 穫 完 了、休養 移行日	施設	休養中の農薬 使用(使用有の場 合下記記帳) 種類名、用途別分 類、使用回数

5. 収穫・包装工程

年 月 日～ 年 月 日まで

包装月日	収穫ほだ木 管理 No.	収穫月日・受入日	収量 (参考)	備 考

6. ほだ場、発生施設配置図

生産者住所と異なる場合、施設所在場所

出所: 食品産業センター『生産情報公表農産物JAS規格ガイドブック(きのこ)』

IX. 栽培工程記録2-1(きのこ菌床栽培)

平成 年 月 日作成

生産者名 _____

生産者住所 _____

1. 原料工程

1-1 培地基材・栄養材

樹木由来の資材：おがこ、チップ、バーク発酵物、廃ほだ、廃菌床（樹木由来資材50%以上使用）等

資材名	内容（樹種等）	購入先	購入月日	購入量	生産者管理 No.

農産物由来の資材：コーンコブ、コーンコブミル、農産発酵物、米ぬか、ふすま、とうもろこしぬか、大豆油粕、小麦粉、マイロ粉、ビール発酵粕、おから、麦わら、綿実殻、豆皮、ビートパルプ、バガス、廃菌床（農産物由来資材50%以上使用）等

資材名	購入先	購入月日	購入量	生産者管理 No.

畜産物由来の資材：厩舎敷きわら等

資材名	購入先	購入月日	購入量	生産者管理 No.

水産物由来資材：海草、カキ殻、カニ殻等

資材名	購入先	購入月日	購入量	生産者管理 No.

1-2 添加材・増収材

〔炭酸カルシウム、乳酸、炭酸マグネシウム、天然鉱物（個別名称を記載）等〕

資材名	使用目的	購入先	購入月日	購入量	生産者管理 No.

1-3 その他：覆土材等上記資材の範疇に入らない資材を具体的に記入

資材名	内容（樹種等）	購入先	購入月日	購入量	生産者管理 No.

2. 培地調製・容器充填工程

農薬（使用した場合下記に記載）

種類名（有効成分濃度）	用途別分類	使用月日	使用回数

容器〔使用容器（瓶・袋・箱）と1瓶当りの充填量〕

容器（瓶・袋等）	充填月日	充填量／個	備 考

出所：食品産業センター『生産情報公表農産物JAS規格ガイドブック(きのこ)』

IX. 栽培工程記録2-2(きのこ菌床栽培)

平成 年 月 日作成

生産者名 _____

生産者住所 _____

3. 殺菌・放冷・接種工程

菌種: _____

品種名	業者名	メーカー管理 No.	購入年月日	生産者管理 No.

4. 菌床培養工程

年 月 日から 年 月 日

製造管理 No.							
接種月日							
樹木由来の資材							
農産物由来の資材							
畜産物由来の資材							
その他資材							
添加材・増収材							
その他							
培地調整での承認農薬の使用							
菌種	品種名						
	生産者管理 No.						
接種数							
培養完了数							
その他特記事項							

5. 菌掻き、原基形成工程

管理 No.	原基形成、芽だし処置方法 (菌掻き、袋カット、注水等)	処置月日	処置数量

6. 収穫、包装工程

年 月 日から 年 月 日まで

包装月日	収穫菌床ロット No.	収穫月日・受入日	収量(参考)	備考

出所: 食品産業センター『生産情報公表農産物JAS規格ガイドブック(きのこ)』

X. 経営力チェックリスト(きのこ栽培経営)

年 月 日

1. 経営者	得点		
①外部環境(経営、農政)変化への対応に取り組む姿勢は、積極的ですか	5	3	1
②現状改革に努めていますか	5	3	1
③経営理念や将来像などを文書にして従業員(家族)に明示していますか	5	3	1
④常に従業員(家族)との意思の疎通を図っていますか	5	3	1
⑤経営目標や経営方針は毎年見直してレベルアップを図っていますか	5	3	1
⑥従業員の協力体制は十分ですか(家族の経営参加・協力体制は十分ですか)	5	3	1
⑦経営問題について専門家やJA指導員と相談して解決を図っていますか	5	3	1
⑧環境保全や省資源対策に積極的に取り組んでいますか	5	3	1
⑨後継者育成に取り組んでいますか	5	3	1
⑩地域社会やJAとの連携に努め共存共栄を図っていますか	5	3	1
得点計			

2. 経営基本			
①経営目標・経営計画(長期・短期)を樹立していますか	5	3	1
②全ての業務にPDCA(計画・実施・チェック・改善行動)サイクルを実施していますか	5	3	1
③品質表示などで消費者の安全・安心ニーズに十分対応していますか	5	3	1
④従業員(家族)が経営全般について改善提案活動を行える雰囲気になっていますか	5	3	1
⑤新技術や経営情報の習得に努め経営改善に生かしていますか	5	3	1
⑥気象条件に対応して、省力化機器や新しいノウハウの導入で生産性向上に努めていますか	5	3	1
⑦常に経営資源(土地・労働力・農業投資)の有効活用を考慮していますか	5	3	1
⑧パソコンによる事務記帳、作業日誌等による経営分析を行っていますか	5	3	1
⑨生産高、損益、生産性を品目別に把握して業績向上に活用していますか	5	3	1
⑩資金調達、省力化投資などの資金運用計画は立てられていますか	5	3	1
得点計			

3. 販売管理			
①経営目標に沿って生産・販売計画を立案していますか	5	3	1
②市場情報を的確に掴み、生産・販売に反映されていますか	5	3	1
③過去の各々の販売実績を分析して、常に新しい販売計画を立案していますか	5	3	1
④ブランドを構築する努力をしていますか	5	3	1
⑤販売経路、販売促進、販売方法を考慮していますか	5	3	1
⑥販売先との情報交換からデータ分析し改善策を実施していますか	5	3	1
⑦消費者の意見を生産品作りに生かしていますか	5	3	1
⑧販売価格と生産費を常に意識し改善していますか	5	3	1
⑨競争産地の品質、価格を把握し、対抗戦略を考えていますか	5	3	1
⑩JA共販、市場外販売など出荷形態は適切ですか	5	3	1
得点計			

4. 生産管理			
①生産計画は、長期計画・短期計画別に立てられていますか	5	3	1
②生産計画は従業者(家族)間で協議して作成されていますか	5	3	1
③マーケット動向や消費者ニーズを考慮した生産計画になっていますか	5	3	1
④作物別の年間作業標準は作られ、それを守っていますか	5	3	1
⑤土地や設備利用の効率化に努めていますか	5	3	1
⑥肥料、栄養分、農業などの低使用を検討し、実施していますか	5	3	1
⑦作目は自然や経済条件(環境)の特性を生かしていますか	5	3	1
⑧適期作業、適期管理が行われていますか	5	3	1
⑨農業機械の導入活用(自家用、委託)は適切ですか	5	3	1
⑩資材情報を常に収集し、低コストになるよう計画的に購入していますか	5	3	1
得点計			

5. 労務管理			
①繁忙期の人手対策を講じていますか	5	3	1
②新入者や未熟練者に対して教育は十分実施していますか	5	3	1
③目標労働時間が決められていて、目標に近づく努力をしていますか	5	3	1
④家族協定に就業規則や服務規程があり、守られていますか	5	3	1
⑤労災・社会保険・農業者年金に加入していますか	5	3	1
⑥従業者(家族)の年1回健康診断を実施していますか	5	3	1
⑦給与制になっていますか	5	3	1
⑧作業者の安全労働衛生基準があり、これが適切に実行されていますか	5	3	1
⑨従業員、組合員の福利厚生にも充分力をいれていますか	5	3	1
⑩意思の疎通、苦情処理にも努めて風通しの良い職場の雰囲気が出来ていますか	5	3	1
得点計			

6. 財務管理			
①経営と家計は分離できていますか	5	3	1
②複式簿記による記帳を行っていますか	5	3	1
③会計処理はパソコンソフトを使って、事務の効率化を図っていますか	5	3	1
④減価償却費に関する知識を持っていて、内容を理解していますか	5	3	1
⑤財務諸表の内容を理解していますか	5	3	1
⑥借入金の返済計画に沿って、キャッシュフローを把握していますか	5	3	1
⑦制度融資を上手に活用していますか	5	3	1
⑧受取債務、支払債務は適切に管理されていますか	5	3	1
⑨青色申告を行っていますか	5	3	1
⑩固定資産への過剰な投資は行っていませんか	5	3	1
得点計			

7. 情報化管理			
①作業日誌を付けていますか	5	3	1
②食の安全安心のための生産履歴管理を行っていいいますか	5	3	1
③農業技術センターなど、公的機関の技術情報は積極的に入手していますか	5	3	1
④マーケット情報は複数の方法で積極的に入手していますか	5	3	1
⑤財務情報は分析の上、経営に反映させていますか	5	3	1
⑥有効な情報ネットワークを持っていますか	5	3	1
⑦従業員相互の情報の共有化を図る仕組みがあり、適性に機能していますか	5	3	1
⑧会計業務はパソコンなどにより合理化されていますか	5	3	1
⑨ホームページなどにより、きのこの効能について情報発信を行っていますか	5	3	1
⑩ほだ場や培養舎などで温湿度管理、水管理を遠隔操作で出来ますか	5	3	1
得点計			

8. レーダーチャート

チェック日(平成 年 月 日) チェック者()

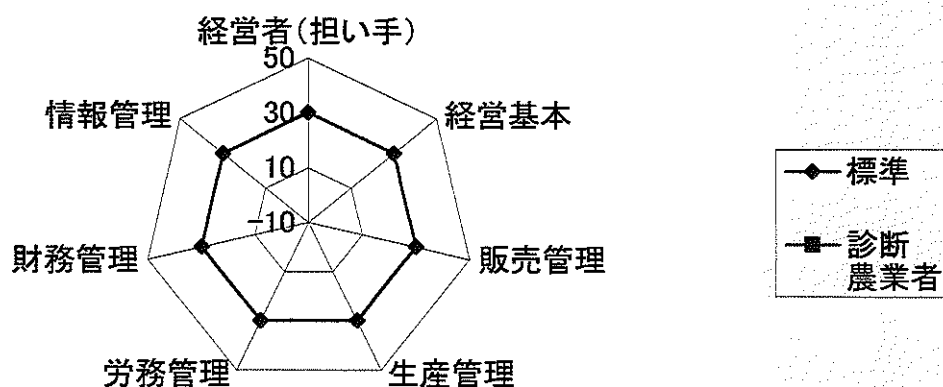
個人名:

採点基準

- ・十分な状態 5
- ・実施しているが、十分とはいえない 3
- ・実施していない、当てはまらない 1

	経営者(担い手)	経営基本	販売管理	生産管理	労務管理	財務管理	情報管理
標準	30	30	30	30	30	30	30
診断 農業者							

経営力チェック



第5章 花き作・果樹作簡易診断調査表（農林水産省統計様式）

第5章 花き作・果樹作簡易診断調査表(農林産統計試)

I. 果樹作経営・花き作経営

平成 16 年個別経営の営農累計型別経営統計参考資料

1. 野菜作・果樹作・花き作経営の概説 … 2
2. 果樹作経営・花き作経営の部門収支 … 6

1. 平成 16 年果樹作経営統計

- (1) りんご作経営 平成 16 年全国平均値との比較検討表(全国・1.0～2.0ha.)
 - ・ りんご作経営診断調査表(1) … 9
 - ・ りんご作経営診断調査表(2) … 10
- (2) みかん作経営 平成 16 年全国平均値との比較検討表(全国・1.0～2.0ha.)
 - ・ みかん作経営診断調査表(1) … 11
 - ・ みかん作経営診断調査表(2) … 12
- (3) ぶどう作経営 平成 16 年全国平均値との比較検討表(全国・1.0～2.0ha.)
 - ・ ぶどう作経営診断調査表(1) … 13
 - ・ ぶどう作経営診断調査表(2) … 14
- (4) なし作経営 平成 16 年全国平均値との比較検討表(全国・1.0～2.0ha.)
 - ・ なし作経営診断調査表(1) … 15
 - ・ なし作経営診断調査表(2) … 16
- (5) もも作経営 平成 16 年全国平均値との比較検討表(全国・1.0～2.0ha.)
 - ・ もも作経営診断調査表(1) … 17
 - ・ もも作経営診断調査表(2) … 18

2. 平成 16 年花き作経営統計

- (1) 路地花き作 平成 16 年全国平均値との比較検討表(全国・1.0～2.0ha.)
 - ・ 露地花き作経営診断調査表(1) … 19
 - ・ 露地花き作経営診断調査表(2) … 20
 - (2) 施設花き作 平成 16 年全国平均値との比較検討表(全国・3000～5000 m²)
 - ・ 施設花き作経営診断調査表(1) … 21
 - ・ 施設花き作経営診断調査表(2) … 22
5. ・ 野菜・花き・果樹の関連するデータ、情報 … 23

農林水産統計

農林水産省大臣官房統計部

Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries

平成 17 年 12 月 2 日公表

農業経営統計調査 平成 16 年 個別経営の営農類型別経営統計 (野菜作・果樹作・花き作経営)

－ 平成 16 年の 1 戸当たり農業粗収益は、
施設花き作営農類型が 1,240 万円、施設野菜作営農類型が 917 万円 －

【調査結果の概要】

- 平成 16 年の全国の露地野菜作経営農家 1 戸当たりの農業粗収益は 442 万円、農業経営費は 246 万円 で、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は 196 万円となった。また、この農業所得に農業生産関連事業所得、農外所得、年金等の収入を加えた総所得は 546 万円となった。一方、施設野菜作は農業粗収益が 917 万円、農業所得が 410 万円、総所得が 589 万円となった。
- 全国の果樹作経営農家 1 戸当たりの農業粗収益は 443 万円、農業所得は 182 万円、総所得は 491 万円となった。
- 全国の露地花き作農家 1 戸当たり農業粗収益は 646 万円、農業所得は 311 万円、総所得は 575 万円となった。一方、施設花き作は農業粗収益が 1,240 万円、農業所得が 440 万円、総所得が 660 万円となった。

表 1 野菜作(露地・施設)・果樹作・花き作(露地・施設)経営農家の経営概要(全国)

単位:千円

区 分	露地野菜作	施設野菜作	果 樹 作	露地花き作	施設花き作
農 業 粗 収 益	4 419	9 165	4 425	6 462	12 402
(露地野菜作経営を100とした割合)	(100)	(207)	(100)	(146)	(281)
農 業 経 営 費	2 462	5 070	2 602	3 355	7 999
農 業 所 得	1 957	4 095	1 823	3 107	4 403
(露地野菜作経営を100とした割合)	(100)	(209)	(93)	(159)	(225)
(多老) 共済・補助金等 ¹ を除いた農業所得	1 870	3 841	1 740	3 071	4 298
農 業 生 産 関 連 事 業 ² 所 得	5	9	2	△ 1	15
農 外 所 得	1 951	805	1 538	1 431	1 237
年 金 等 の 収 入	1 547	981	1 551	1 212	943
総 所 得	5 460	5 890	4 814	5 749	6 598
家族農業労働1時間当たり農業所得(円)	708	885	894	837	908
(露地野菜作経営を100とした割合)	(100)	(125)	(98)	(118)	(128)
経 営 概 況					
月平均農業経営関係者 ³ (人)	2.28	2.52	2.29	2.40	2.68
経 営 耕 地 面 積(a)	172	216	146	166	143
(露地野菜作経営を100とした割合)	(100)	(126)	(85)	(97)	(83)
自 営 農 業 労 働 時 間(時間)	2 897	5 112	2 845	4 201	5 848

注: 集計客数数は、露地野菜作768戸、施設野菜作404戸、果樹作668戸、露地花き作157戸、施設花き作260戸である。

- 本統計結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。
【<http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/einou-yasaikajukaki2004/einou-yasaikajukaki2004.xls>】
- 本統計における調査の目的、調査の対象、用語の解説などは、【調査の仕様】P 85に掲載しています。
なお、表1の注1～注3については、P 3で内容を説明しています。

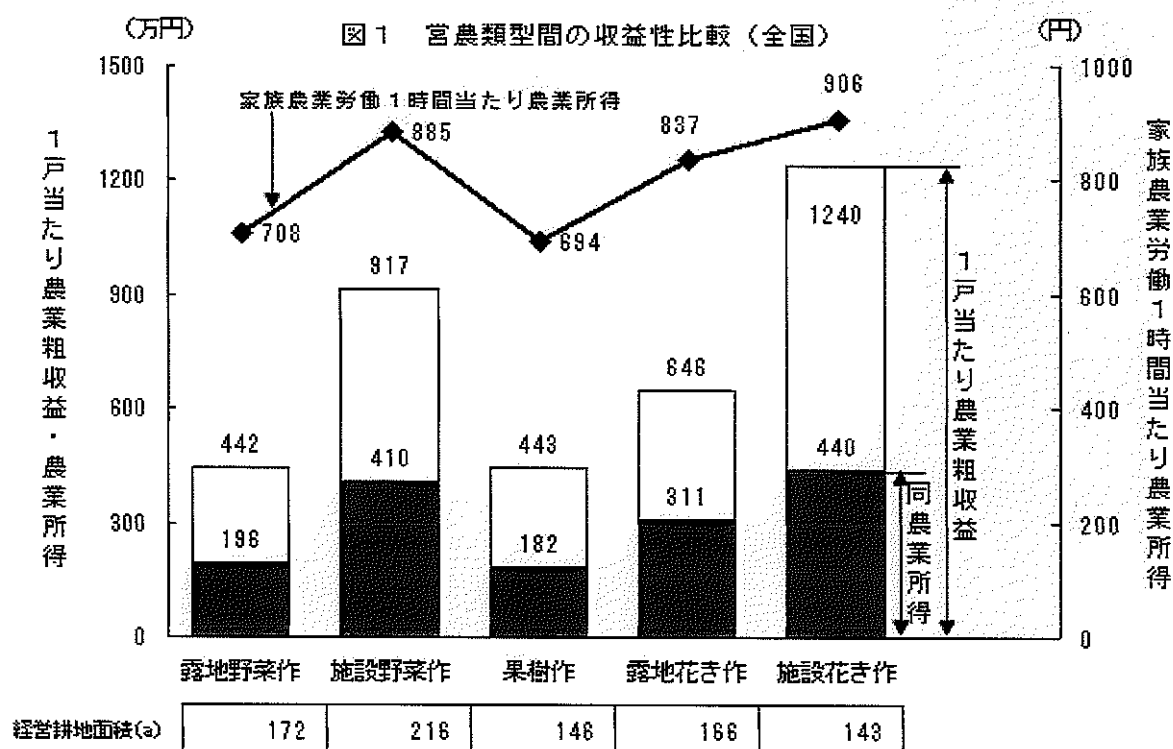
【 解 説 】

1 営農類型別の結果の概要

(1) 全国平均値

平成 16 年の野菜作（露地・施設別）、果樹作及び花き作（露地・施設別）経営の 1 戸当たり農業粗収益は、施設花き作経営が 1,240 万円と最も高く、次いで施設野菜作経営が 917 万円、露地花き作経営が 646 万円、果樹作経営が 443 万円、露地野菜作経営が 442 万円となっており、施設経営の農業粗収益が高くなっている。また、農業粗収益から農業経営費を差し引いた 1 戸当たりの農業所得をみても施設花き作経営が 440 万円と最も高く、次いで施設野菜作経営が 410 万円となっている。

しかし、家族農業労働 1 時間当たり農業所得では、営農類型間には 1 戸当たり農業所得ほどの差は生じていない。（図 1 参照）



(2) 農業所得への依存が高い経営の概要（専ら農業で生計を立てている階層）

各営農類型を専ら農業で生計を立てている階層として総所得に占める農業所得の割合が 80%以上の階層と比較すると、それぞれ農業所得が 600 万円を超える階層である。

なお、全国の販売農家の約 6 割を占める水田作経営についても同様の基準で階層を選んで比較対象とした。（表 2 参照）

表2 耕種営農類型の作付規模別の所得比較（全国・1戸当たり）

区 分	農業所得	総所得	総所得に 占める 農業所得 割合	区 分	農業所得	総所得	総所得に 占める 農業所得 割合
	千円	千円	%		千円	千円	%
露地野菜作経営				露地花き作経営			
平 均	1 957	5 460	35.8	平 均	3 107	5 749	54.0
0.5 ha 未満	874	4 627	18.9	0.3 ha 未満	1 222	3 923	31.1
0.5 ～ 1.0	1 879	5 980	31.4	0.3 ～ 0.5	2 714	4 762	57.0
1.0 ～ 2.0	3 768	6 158	61.2	0.5 ～ 1.0	2 742	4 846	56.6
2.0 ～ 3.0	6 893	8 021	85.8	1.0 ～ 2.0	5 511	9 641	57.2
3.0 ～ 5.0	8 337	9 450	88.2	2.0 ha 以上	6 997	8 374	83.6
5.0 ～ 7.0	11 175	12 742	87.7	施設花き作経営			
7.0ha 以上	14 037	15 037	93.3	平 均	4 403	6 598	66.7
施設野菜作経営				2000 m ² 未満	1 718	4 738	36.3
平 均	4 095	5 890	69.5	2000 ～ 3000	3 171	5 775	54.9
2000 m ² 未満	1 975	4 327	45.6	3000 ～ 5000	5 202	6 755	77.0
2000 ～ 3000	3 893	5 284	73.7	5000 ～ 10000	6 960	8 224	84.6
3000 ～ 5000	5 144	6 630	77.6	10000 m ² 以上	12 339	13 874	88.9
5000 ～ 10000	6 655	8 252	80.6	水田作経営			
10000 ～ 20000	8 357	9 083	92.0	平 均	392	4 929	8.0
20000 m ² 以上	9 865	10 933	90.2	0.5 ha 未満	△ 78	4 992	...
果樹作経営				3.0 ～ 5.0	1 976	5 134	38.5
平 均	1 823	4 914	37.1	5.0 ～ 7.0	3 205	5 659	56.6
0.5 ha 未満	739	4 628	16.0	7.0 ～ 10.0	3 676	5 339	68.9
0.5 ～ 1.0	1 583	5 029	31.5	10.0 ～ 15.0	4 956	7 063	70.2
1.0 ～ 2.0	3 179	5 041	63.1	15.0 ～ 20.0	7 472	8 430	88.6
2.0 ～ 3.0	3 945	4 992	79.0	20.0 ha 以上	12 204	13 495	90.4
3.0 ha 以上	6 224	7 432	83.2				

注： 水田作の該当階層の農業所得は747万円であるが、その下の階層は、総所得に占める農業所得の割合が80%を切っており、また農業所得も496万円であるため、便宜、この階層を比較対象とした。

各営農類型ごとに比較対象とした階層の経営耕地面積は、施設花き作経営が165aで最も少なく、次いで施設野菜作経営が284aとなり、最も経営規模が大きいのは水田作経営で1,898aとなっている。（図2参照）

一方、1戸当たり自営農業労働時間は、水田作経営が3,633時間で最も少なく、施設花き作経営が水田作経営の2倍以上の8,299時間と最も多い。このため、家族農業労働1時間当たり農業所得は水田作経営が2,266円で最も高く、野菜作・果樹作・花き作経営は1,000円台の前半であり、特に施設花き作経営は1,087円で最も低くなっている。

注：1 共済・補助金等とは、農産物の販売収支とは別に農業経営に由来する共済金や補助金等である。

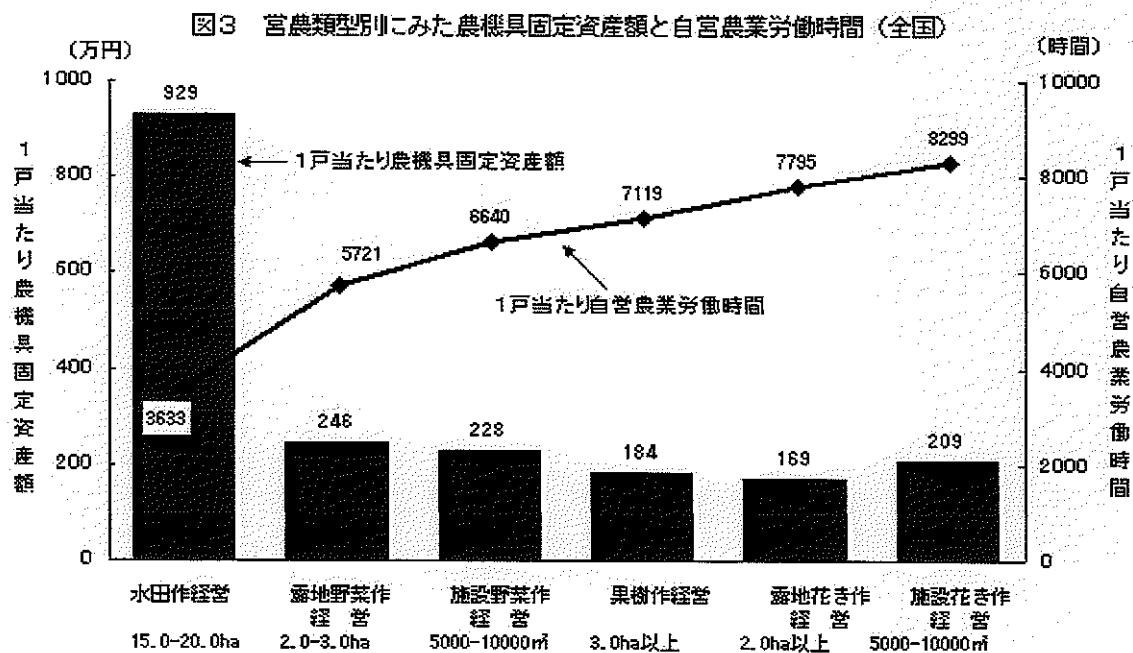
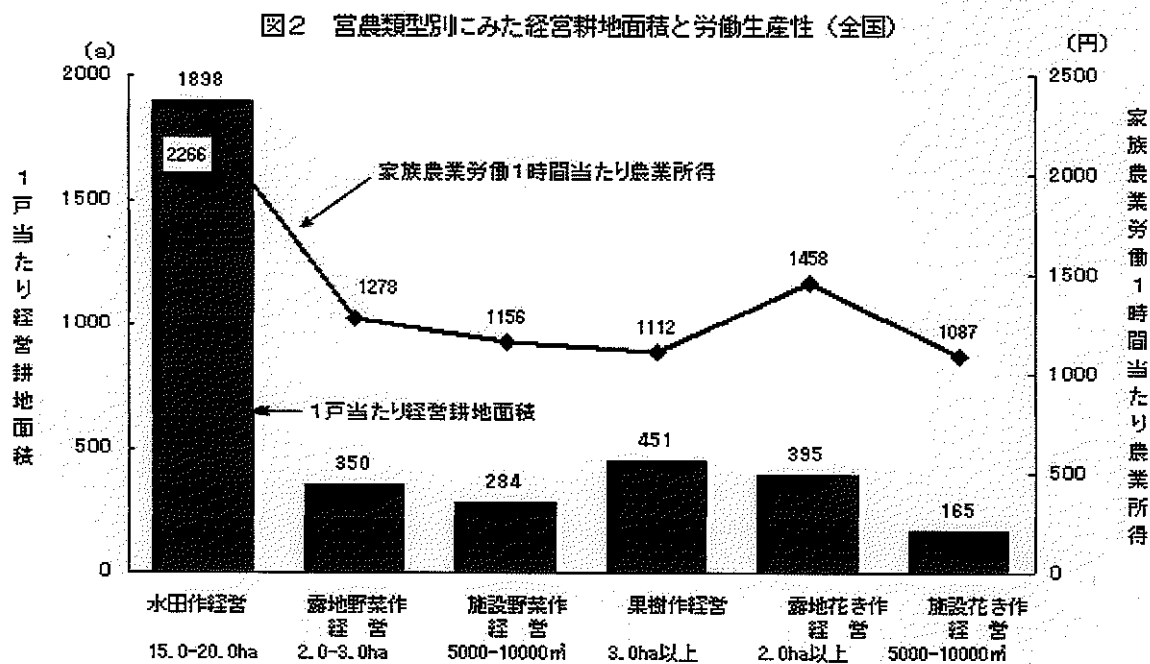
なお、営農類型別経営統計では調査期間である調査年の1月から12月までに実際に受取又は提出等が発生したものを計上している。したがって、調査年の農業経営に起因した補助金等であっても、受取時期によっては翌年結果に計上される。

2 農業生産関連事業とは、農業経営関係者が経営する農産加工、農家民宿、農家レストラン、観光農園、市民農園等の農業に関連する事業である。詳細については、P89「調査の仕様」参照。

3 農業経営関係者とは、農業経営主夫婦及び年間60日以上当該農家の農業に従事する世帯員である家族である。詳細については、P88「調査の仕様」参照。

4 営農類型別経営統計における経営収支等の把握範囲は、農業に関する収支については農家世帯の農業全体、農業以外の収支（農業生産関連事業、農外事業、年金等の収入等）については農業経営関係者に係るものに限定して計上している。

このように各営農類型間の生産性に差が生じているのは、それぞれの作物の特性による（野菜、果樹、花きは収穫時期に収穫をほぼ毎日行う等。）ところもあるが、水田作の主力である米、麦、豆類等の栽培において、収穫作業を中心に機械化が進展していることも大きな要因となっている。ちなみに1戸当たり農機具固定資産額を比較すると、水田作以外の営農類型が150万円～250万円であるのに対し、水田作経営は929万円となっている。（図2、3参照）



2 各営農類型別の部門別の結果

(1) 果樹作（りんご作経営、みかん作経営、ぶどう作経営、なし作経営及びもも作経営）

ア 部門別にみた作付面積 10a 当たり収入及び所得

該当部門植栽面積 10a 当たり部門収入について 16 年の全国平均で比較すると、ぶどう作部門収入が 72 万円で最も高く、もも作部門収入が 57 万円、なし作部門収入が 55 万円、みかん作部門収入が 44 万円と続き、りんご作部門収入が 38 万円です。最も低くなっている。

これを各部門の植栽面積規模別にみても、ぶどう作部門収入が最も高く、もも作部門となし作部門収入が階層によって 2 位を分け合うものの、平均とほぼ同様の傾向を示している。（図 6 参照）

なお、これらを 10a 当たり部門所得でみてもおおむね同様の傾向を示している。

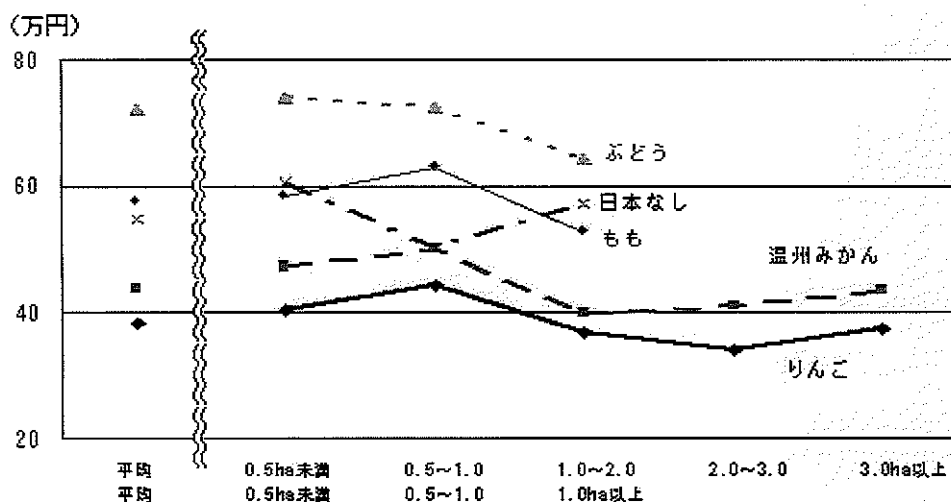
イ 部門別にみた該当部門労働 1 時間当たり収入及び所得

該当部門労働 1 時間当たり部門収入について 16 年の全国平均で比較すると、もも作部門収入が 1,852 円で最も高く、みかん作部門収入が 1,812 円、ぶどう作部門収入が 1,528 円と続き、なし作部門とりんご作部門収入が 1,450～1,460 円でほぼ同水準となった。

これを各部門の植栽面積規模別にみると、部門間の順位はおおむね同様となるが、各部門共に規模が大きくなることに伴い労働生産性が向上している。（図 7 参照）

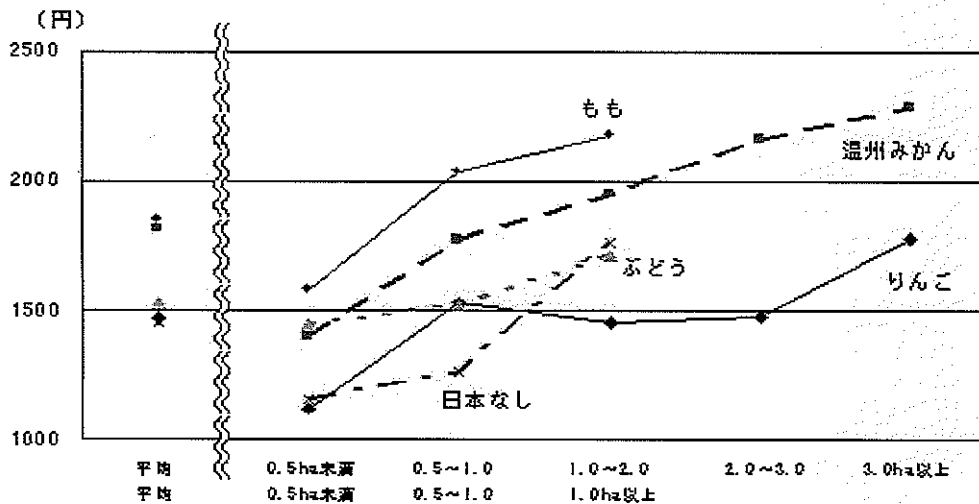
なお、これらを該当部門家族労働 1 時間当たり部門所得でみると、所得率の違いから若干順位が変動するものの、やはりもも作部門所得が最も高くなっている。

図 6 部門植栽面積規模別にみた 10a 当たり部門収入（全国）



注：規模階層区分は、上段がりんご及び温州みかん、下段がぶどう、日本なし及びももである。（以下の図 7 において同じ。）

図7 部門植栽面積規模別にみた1時間当たり部門収入（全国）



(2) 花き作（露地花き作経営及び施設花き作経営）

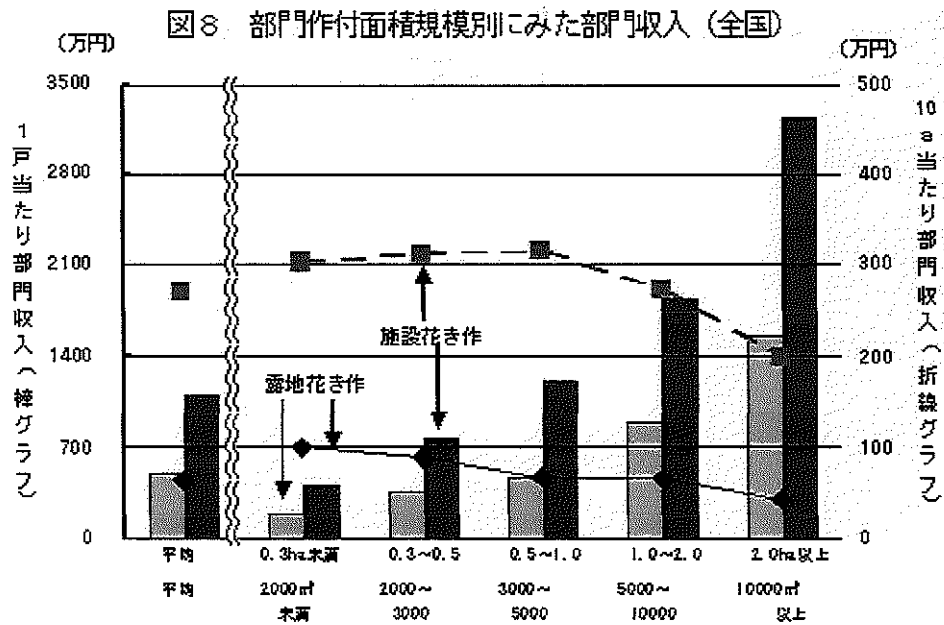
露地花き作経営の露地花き作部門収入（以下「露地収入」という。）と施設花き作経営の施設花き作部門収入（以下「施設収入」という。）について、平成16年全国平均の1戸当たりで比較すると、施設収入が1,087万円、露地収入が505万円となっており、これを該当部門作付面積10a当たり（統計表上の施設は1,000㎡当たりで表示。）でみると、施設収入が271万円であるのに対し、露地収入は64万円となっている。

また、両部門の1戸当たり部門収入は、作付規模が大きくなることに伴い増加するが、

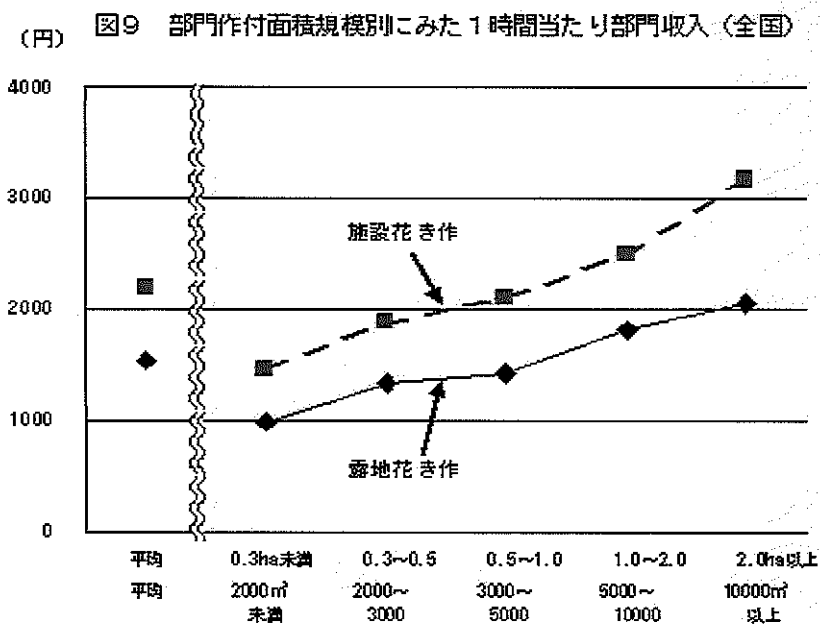
10a当たりでみると、施設花き作経営は5,000㎡階層までは300万円強で推移するものの、両部門共におおむね規模が大きくなることに伴い減少し、特に露地花き作経営の2.0ha以上層は42万円で、0.3ha未満層の約4割の水準となっている。（図8参照）

これを、該当部門労働1時間当たり収入でみると、規模が大きくなるほど増加している。これは、野菜作経営と同様に経営規模が大きいほど労働力とのバランスから労働生産性の高い品目の作付割合が高まっていることによるものであり、両部門共に規模が大きくなることに伴い10a当たり農業労働時間が大きく減少している。（図9参照）

なお、これらを部門所得でみてもおおむね同様の傾向を示している。



注：規模階層区分は、上段が露地花き作、下段が施設花き作である。（以下の図9において同じ。）



1. 果樹作経営

(1) りんご作経営 (全国)

りんご作経営診断調査表 (1)

平均基準値との比較検討表

経営収支の総括・分析指標・経営の概要・農業粗収益

区分			平成 16 年 りんご 作部門平 均(A)	平成 16 年 りん ご作部門 1.0～ 2.0ha.未 満(B)	平成 年 実施(C)	C/A ×100	
集計戸数(戸)			137	52			
農業(千円)	粗収益		3,938	4,354			
	経営費		2,176	2,350			
	所得		1,762	2,004			
共済・補助金を除 く農業収支(千 円)	農業粗収益		3,810	4,174			
	農業経営費		2,144	2,315			
	農業所得		1,666	1,859			
農業所得率(%)			44.7	46.0			
付加価値額(千円)			2,003	2,263			
付加価値率(%)			50.9	52.0			
農業固定資産装備率(円)			1,945	1,857			
収益性(農業所得)	農業固定資産千円当たり(千円)		338	359			
生産性(付加価値額) (円)	自営農業1時間当たり		747	753			
	農業固定資産千円当たり		384	405			
生産性(部門収支)	該当部門作付面積 10a当たり (千円)		382	369			
	該当部門労働1時間当たり (円)		1,468	1,448			
生産性(部門所得)	該当部門作付面積 10a当たり (千円)		171	170			
	該当部門家族労働1時間当たり (円)		739	741			
自営農業労働時間(時間)			2,682	2,682			
家族(ゆい・手間替受け含む)(時間)			2,385	3,007			
農業固定資産額(土地を除く)(千円)			5,217	2,706			
年末借入金・買掛未払金残高農業負担分(千円)			414	5,584			
りんご植栽面積(a)			103	118			
農業粗収益(千 円)	合計		3,938	4,354			
	作物収 入	りんご	3,810	4,174			
				128	180		
		その他	共済・補助金等受 取金	128	180		
農業現金収入(千円)			3,583	3,985			

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成 16 年統計数値を活用。

1. 果樹作経営

(1) りんご作経営 (全国)

りんご作経営診断調査表 (2)

平均基準値との比較検討表

農業経営費

単位：千円

区分		平成 16 年 りんご作部 門平均 (A)	平成 16 年 りんご作部 門 1.0～ 2.0ha.未満 (A)	平成 年 実施 (C)	C/A ×100
農業 経営費	合計	2,176	2,350		
	農業雇用労費	213	222		
	種苗・苗木	277	310		
	肥料	119	119		
	農業薬剤	294	342		
	光熱動力	94	108		
	農機具・農用自動車	299	307		
	農用建物	107	130		
	賃借料	148	138		
	作業委託料	104	134		
	土地改良・水利費	14	22		
	支払小作料	15	21		
	その他	492	497		
	共済等の掛金・拠出金	32	35		
農業支出		1,699	1,803		
減価償却費		476	542		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成 16 年統計数値を活用。

1. 果樹作経営

(2) みかん作経営 (全国)

みかん作経営診断調査票 (1)

平均基準値との比較検討表

経営収支の総括・分析指標・経営の概要農業粗収益

区分			平成 16 年 みかん作 部門平均 (A)	平成 16 年 みかん作 部門 1.0 ～2.0ha. 未満(B)	平成 年 実施 (C)	C/A ×100
集計戸数(戸)			201	68		
農業(千円)	粗収益		3,271	3,953		
	経営費		2,008	2,174		
	所得		1,263	1,779		
共済・補助金を 除く農業収支 (千円)	農業粗収益		3,121	3,704		
	農業経営費		1,951	2,096		
	農業所得		1,170	1,608		
農業所得率(%)			38.6	45.0		
付加価値額(千円)			1,427	1,943		
付加価値率(%)			43.6	49.2		
農業固定資産装備率(円)			3,653	3,842		
収益性(農業所得)	農業固定資産千円当たり(千円)		192	215		
生産性(付加価値額)(円)	自営農業1時間当たり		791	903		
	農業固定資産千円当たり		216	235		
生産性(部門収支)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)		436	399		
	該当部門労働1時間当たり(円)		1,812	1,838		
生産性(部門所得)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)		168	180		
	該当部門家族労働1時間当たり(円)		768	889		
自営農業労働時間(時間)			1,805	2,151		
家族(ゆい・手間替受け含む)(時間)			1,645	2,001		
農業固定資産額(土地を除く)(千円)			6,594	8,265		
年末借入金・買掛未払金残高農業負担分(千円)			542	609		
みかん植栽面積(a)			75	99		
合計			3,271	3,953		
農業粗収益(千円)	作物収入	温州みかん	3,121	3,704		
			150	249		
	その他	共済・補助金等受取金	150	249		
農業現金収入(千円)			2,925	3,442		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成 16 年統計数値を活用。

1. 果樹作作経営

(2) みかん作経営 (全国)

みかん作経営診断調査表 (2)

平均基準値との比較検討表

農業経営費

単位：千円

区分		平成16年 みかん作部門 平均(A)	平成16年 みかん作部門 1.0～ 2.0ha.未満 (B)	平成 年 実施(C)	C/A ×100
農業経営費	合計	2,008	2,174		
	農業雇用労費	135	135		
	種苗・苗木	228	294		
	肥料	169	197		
	農業薬剤	227	258		
	光熱動力	363	329		
	農機具・農用自動車	196	221		
	農用建物	210	210		
	賃借料	116	148		
	作業委託料	0	0		
	土地改良・水利費	14	21		
	支払小作料	10	10		
	その他	340	351		
	共済等の掛金・拠出金	57	78		
農業支出		1,580	1,689		
減価償却費		430	480		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

1. 果樹作経営

(3) ぶどう作経営 (全国)

ぶどう作経営診断調査表 (1)

平均基準値との比較検討表 経営収支の総括・分析指標・経営の概要・農業粗収益

区分		平成16年 ぶどう作部 門平均 (A)	平成16 年 ぶ どう作 部門 1.0～ 2.0ha. 未満 (B)	平成 年 実施 (C)	C/A ×100
集計戸数(戸)		92	28		
農業(千円)	粗収益	3,247	5,686		
	経営費	1,493	2,668		
	所得	1,754	3,018		
共済・補助金を除 く農業収支(千 円)	農業粗収益	3,240	5,681		
	農業経営費	1,484	2,660		
	農業所得	1,756	3,021		
農業所得率(%)		54.0	53.1		
付加価値額(千円)		1,859	3,205		
付加価値率(%)		57.3	56.4		
農業固定資産装備率(円)		1,226	1,161		
収益性(農業所得)	農業固定資産千円当たり(千円)	673	690		
生産性(付加価値 額)(円)	自営農業1時間当たり	875	850		
	農業固定資産千円当たり	714	732		
生産性(部門収支)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)	722	693		
	該当部門労働1時間当たり(円)	1,528	1,509		
生産性(部門所得)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)	390	368		
	該当部門家族労働1時間当たり(円)	874	852		
自営農業労働時間(時間)		2,125	3,769		
家族(ゆい・手間替受け含む)(時間)		2,006	3,544		
農業固定資産額(土地を除く)(千円)		2,605	4,377		
年末借入金・買掛未払金残高農業負担分(千円)		236	696		
ぶどう植栽面積(a)		45	82		
合計		3,247	5,686		
農業粗収益(千 円)	作物収入	3,240	5,681		
	ぶどう				
	その他	7	5		
共済・補助金等受取 金		7	5		
農業現金収入(千円)		3,157	5,607		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

1. 果樹作経営

(3) ぶどう作経営 (全国)

ぶどう作経営診断調査表 (2)

平均基準値との比較検討表

農業経営費

単位：千円

区分		平成16年 ぶどう作部 門平均(A)	平成16年 ぶどう作部 門 1.0～ 2.0ha.(B)	平成 年 実施(C)	C/A ×100
農業 経営 費	合計	1,493	2,668		
	農業雇用労費	94	159		
	種苗・苗木	70	129		
	肥料	112	182		
	農業薬剤	152	285		
	光熱動力	162	309		
	農機具・農用自動車	215	368		
	農用建物	216	383		
	賃借料	34	45		
	作業委託料	0	0		
	土地改良・水利費	25	40		
	支払小作料	7	20		
	その他	406	748		
	共済等の掛金・拠出金	9	8		
農業支出		1,216	2,193		
減価償却費		284	502		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成 16 年統計数値を活用。

1. 果樹作経営

(4) なし作経営 (全国)

なし作経営診断調査表 (1)

平均基準値との比較検討表 経営収支の総括・分析指標・経営の概要農業粗収益

区分			平成16年 なし作 部門平均(A)	平成16年 なし作部 門1.0 ～ 2.0ha. 未満 (B)	平成 年 実 施(C)	C/ A× 100
集計戸数(戸)			78	25		
農業(千円)	粗収益		4,118	7,312		
	経営費		2,380	3,864		
	所得		1,738	3,448		
共済・補助金を除く 農業収支(千円)	農業粗収益		4,009	7,093		
	農業経営費		2,331	3,745		
	農業所得		1,678	3,348		
農業所得率(%)			42.2	47.2		
付加価値額(千円)			1,928	3,819		
付加価値率(%)			46.8	52.2		
農業固定資産装備率(円)			1,469	1,181		
収益性(農業所得)	農業固定資産千円当たり(千円)		417	651		
生産性(付加価値 額)(円)	自営農業1時間当たり		681	851		
	農業固定資産千円当たり		463	721		
生産性(部門収支)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)		549	571		
	該当部門労働1時間当たり(円)		1,454	1,630		
生産性(部門所得)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)		232	269		
	該当部門家族労働1時間当たり(円)		660	815		
自営農業労働時間(時間)			2,833	4,486		
家族(ゆい・手間替受け含む)(時間)			2,633	4,232		
農業固定資産額(土地を除く)(千円)			4,163	5,297		
年末借入金・買掛未払金残高農業負担分(千円)			396	422		
日本なし植栽面積(a)			75	128		
農業粗収益(千円)	合計		4,118	7,312		
	作物収入	日本なし	4,009	7,093		
	その他		109	219		
		共済・補助金等受取金	109	219		
農業現金収入(千円)			3,851	6,833		

(注) この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

1. 果樹作経営

(4) なし作経営 (全国)

なし作経営診断調査表 (2)

平均基準値との比較検討表

農業経営費

単位：千円

区分		平成16年 なし作部 門平均 (A)	平成16年 なし作部門 1.0～2.0ha. 未満(B)	平成 年 実施 (C)	C/A ×100
農業経営費	合計	2,380	3,864		
	農業雇用労費	157	309		
	種苗・苗木	210	270		
	肥料	284	488		
	農業薬剤	335	658		
	光熱動力	100	162		
	農機具・農用自動車	343	502		
	農用建物	148	194		
	賃借料	154	328		
	作業委託料	4	0		
	土地改良・水利費	20	47		
	支払小作料	21	45		
	その他	604	861		
	共済等の掛金・拠出金	49	119		
農業支出		1,888	3,263		
減価償却費		489	593		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

1. 果樹作経営

(5) もも作経営 (全国)

もも作経営診断調査表 (1)

平均基準値との比較検討表

経営収支の総括・分析指標・経営の概要農業粗収益

区分			平成16 年 もも 作部門平 均(A)	平成16年 もも作部 門 1.0～ 2.0ha.未 満(B)	平成 年 実施 (C)	C/A× 100		
集計戸数(戸)			55	20				
農業(千円)	粗収益		2,583	4,907				
	経営費		1,311	2,296				
	所得		1,272	2,611				
共済・補助金 を除く農業収 支(千円)	農業粗収益		2,565	4,854				
	農業経営費		1,285	2,261				
	農業所得		1,280	2,593				
農業所得率(%)								
付加価値額(千円)			1,363	2,783				
付加価値率(%)			52.8	56.7				
農業固定資産装備率(円)			2,073	2,388				
収益性(農業所 得)	農業固定資産千円当たり(千円)		440	465				
生産性(付加価 値額)(円)	自営農業1時間当たり		977	1,183				
	農業固定資産千円当たり		471	495				
生産性(部門収 支)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)		574	598				
	該当部門労働1時間当たり(円)		1,852	2,085				
生産性(部門所 得)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)		283	318				
	該当部門家族労働1時間当たり(円)		967	1,165				
自営農業労働時間(時間)			1,395	2,353				
家族(ゆい・手間替受け含む)(時間)			1,316	2,241				
農業固定資産額(土地を除く)(千円)			2,892	5,620				
年末借入金・買掛未払金残高農業負担分(千円)			125	447				
もも植栽面積 (a)			45	82				
農業粗収益(千 円)	合計		2,583	4,907				
	作物収入	もも	2,565	4,854				
		その他		18	53			
			共済・補助金等受取 金					
					18	53		
農業現金収入(千円)			2,465	4,657				

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

1. 果樹作経営

(5) もも作経営 (全国)

もも作経営診断調査表 (2)

平均基準値との比較検討表

農業経営費

単位：千円

区分		平成16年 もも作部 門平均 (A)	平成16年 もも作部門 1.0～ 2.0ha.未満 (B)	平成 年 実施 (C)	C/A ×100
農業経営費	合計	1,311	2,296		
	農業雇用労費	66	94		
	種苗・苗木	172	317		
	肥料	94	194		
	農業薬剤	160	303		
	光熱動力	70	109		
	農機具・農用自動車	209	399		
	農用建物	63	106		
	賃借料	82	110		
	作業委託料				
	土地改良・水利費	19	40		
	支払小作料	23	71		
	その他	353	553		
	共済等の掛金・拠出金	26	35		
農業支出		981	1,668		
減価償却費		329	625		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

2. 花き作経営
(1) 露地花き作経営 (全国)

露地花き作経営診断調査表 (1)

平均基準値との比較検討表

経営収支の総括・分析指標・経営の概要・農業粗収益

区分				平成16 年 露地 花き作部 門平均 (A)	平成16年 露地花き 作部門 1.0 ～2.0ha.未 満 (B)	平成 年 実施 (C)	C/A ×100
集計戸数(戸)				157	38		
農業(千円)	粗収益			5,049	8,798		
	経営費			2,355	4,076		
	所得			2,694	4,722		
共済・補助金を除く 農業収支(千円)	農業粗収益			5,032	8,761		
	農業経営費			2,350	4,069		
	農業所得			2,682	4,692		
農業所得率(%)				53.4	53.7		
付加価値額(千円)				3,087	5,233		
付加価値率(%)				61.1	59.5		
農業固定資産装備率(円)				615	583		
収益性(農業所得)	農業固定資産千円当たり(千円)			1,338	1,674		
生産性(付加価値 額)(円)	自営農業1時間当たり			943	1,082		
	農業固定資産千円当たり			1,533	1,855		
生産性(部門収支)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)			639	652		
	該当部門労働1時間当たり(円)			1,543	1,819		
生産性(部門所得)	該当部門作付面積 10a当たり(千円)			341	350		
	該当部門家族労働1時間当たり(円)			949	1,086		
自営農業労働時間(時間)				3,273	4,836		
家族(ゆい・手間替受け含む)(時間)				2,839	4,347		
農業固定資産額(土地を除く)(千円)				2,014	2,821		
年末借入金・買掛未払金残高農業負担分(千円)				381	220		
作付面積(a)	露地花き			79	135		
		切り花		60	94		
農業粗収益(千円)	合計			5,049	8,798		
	作物収入	露地花き		5,032	8,761		
		切り花		4,386	7,364		
	その他			17	37		
		共済・補助金等受取金		17	37		
農業現金収入(千円)				5,027	8,753		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

2. 花き作経営

(1) 露地花き作経営 (全国)

露地花き作経営診断調査表 (2)

平均基準値との比較検討表

農業経営費

単位：千円

区分		平成16年 露地花き作部門 平均 (A)	平成16年 露地花き作部門 1.0～ 2.0ha.未 満(B)	平成 年 実 施(C)	C/A ×100
農業経営費	合計	2,355	4,076		
	農業雇用労費	339	427		
	種苗・苗木	160	375		
	肥料	202	365		
	農業薬剤	265	507		
	光熱動力	178	320		
	農機具・農用自動車	387	667		
	農用建物	155	228		
	賃借料	34	102		
	作業委託料	2	0		
	土地改良・水利費	12	33		
	支払小作料	46	77		
	その他	575	975		
	共済等の掛金・拠出金	5	7		
農業支出		2,070	3,659		
減価償却費		281	416		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

2. 花き作経営

(2) 施設花き作経営 (全国)

施設花き作経営診断調査表 (1)

平均基準値との比較検討表

経営収支の総括・分析指標・経営の概要・農業粗収益

区分				施設花 き作部 門平均 (A)	平成16 年 施設 花き作 部門 3000～ 5000 m ² 未満 (B)	平成 年 実施(C)	C/A ×100
集計戸数(戸)				260	61		
農業(千円)	粗収益			10,874	11,901		
	経営費			7,086	7,430		
	所得			3,788	4,471		
共済・補助金を除く 農業収支(千円)	農業粗収益			10,794	11,794		
	農業経営費			7,067	7,412		
	農業所得			3,727	4,382		
農業所得率(%)				34.8	37.6		
付加価値額(千円)				4,677	5,427		
付加価値率(%)				43.0	45.6		
農業固定資産装備率(円)				1,630	1,612		
収益性(農業所得)	農業固定資産千円当たり(千円)			468	489		
生産性(付加価値 額)(円)	自営農業1時間当たり			942	957		
	農業固定資産千円当たり			578	594		
生産性(部門収支)	該当部門作付面積 1000 m ² 当たり(千円)			2,709	3,154		
	該当部門労働1時間当たり(円)			2,190	2,100		
生産性(部門所得)	該当部門作付面積 1000 m ² 当たり(千円)			944	1,185		
	該当部門家族労働1時間当たり(円)			938	947		
自営農業労働時間(時間)				4,965	5,668		
家族(ゆい・手間替受け含む)(時間)				4,039	4,723		
農業固定資産額(土地を除く)(千円)				8,095	9,135		
年末借入金・買掛未払金残高農業負担分(千円)				5,544	4,544		
作付面積(m ²)	施設花き			4,014	3,773		
		切り花		3,190	2,997		
		鉢物		558	615		
農業粗収益(千円)	合計			10,874	11,901		
	作物収入	施設花き		10,794	11,794		
			切り花	7,797	8,978		
			鉢物	2,433	2,296		
	その他		80	107			
		共済・補助金等受取金	80	107			
農業現金収入(千円)				10,788	11,792		

(注)この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

2. 花き作経営

(2) 施設花き作経営 (全国)

施設花き作経営診断調査表 (2)

平均基準値との比較検討表

農業経営費

単位：千円

区分		平成16年 施設花き 作部門平 均(A)	平成16年 施設花き 作部門 3000～ 5000 m ² 未 満(B)	平成 年 実 施(C)	C/A ×100
農業 経営 費	合計	7,086	7,430		
	農業雇用労費	751	779		
	種苗・苗木	1,124	1,098		
	肥料	288	349		
	農業薬剤	305	329		
	光熱動力	1,207	1,473		
	農機具・農用自動車	613	631		
	農用建物	1,004	1,079		
	賃借料	130	88		
	作業委託料	13	0		
	土地改良・水利費	27	26		
	支払小作料	44	61		
	その他	1,580	1,517		
	共済等の掛金・拠出金	19	18		
農業支出		6,078	6,259		
減価償却費		1,013	1,161		

(注) この調査表は農林水産省統計表の形式に準じて作成。平均基準値は平成16年統計数値を活用。

5. 関連するデータ・情報

1 野菜の主な品目の動向

区 分		全 国		
		野菜生産出荷統計		
		作付面積	収穫量	10a当たり 収 量
		ha	t	kg
トマト	平成14年産	13 300	784 900	5 880
	15	13 200	759 900	5 750
	16	13 100	754 900	5 780
いちい	平成14年産	7 360	210 500	2 860
	15	7 240	202 900	2 800
	16	7 000	198 200	2 830
きゅうり	平成14年産	14 400	729 200	5 060
	15	14 100	684 100	4 850
	16	13 700	673 000	4 900
ねぎ	平成14年産	23 900	518 700	2 180
	15	23 600	514 600	2 180
	16	23 500	485 500	2 070
ほうれんそう	平成14年産	24 400	311 800	1 280
	15	24 300	311 800	1 280
	16	23 800	288 700	1 210
だいこん	平成14年産	42 500	1 780 000	4 180
	15	41 500	1 752 000	4 230
	16	40 000	1 620 000	4 050
メロン	平成14年産	12 700	286 700	2 250
	15	11 900	268 600	2 260
	16	11 100	248 600	2 240
なす	平成14年産	12 400	432 300	3 490
	15	12 000	395 800	3 290
	16	11 700	390 200	3 330
キャベツ	平成14年産	34 900	1 392 000	3 980
	15	34 400	1 376 000	4 010
	16	33 300	1 279 000	3 850
たまねぎ	平成14年産	25 400	1 274 000	5 020
	15	23 500	1 172 000	4 990
	16	23 100	1 128 000	4 890
レタス	平成14年産	22 000	561 600	2 550
	15	22 000	548 600	2 490
	16	21 800	509 300	2 340

2 果樹の主な品目の動向

区 分		全 国		
		果樹生産出荷統計		
		結果樹面積	収穫量	10a当たり 収 量
		ha	t	kg
りんご	平成14年産	42 400	925 800	2 180
	15	41 600	842 200	2 020
	16	41 300	754 600	1 830
温州みかん	平成14年産	55 000	1 131 000	2 060
	15	53 700	1 146 000	2 140
	16	52 300	1 060 000	2 030
ぶどう	平成14年産	19 700	231 700	1 180
	15	19 400	220 800	1 140
	16	19 200	205 800	1 070
日本なし	平成14年産	16 100	375 700	2 330
	15	15 700	332 200	2 110
	16	15 500	328 000	2 110
もも	平成14年産	10 600	175 100	1 650
	15	10 500	157 000	1 490
	16	10 300	151 900	1 470

3 花き（切り花）の主な品目の動向

区 分		全 国	
		花き生産出荷統計	
		作付面積	出荷量
		ha	1,000本
きく	平成14年産	6 054	1 964 000
	15	5 955	1 940 000
	16	5 806	1 866 000
洋ラン類	平成14年産	213	28 500
	15	207	26 900
	16	200	25 600
ばら	平成14年産	551	435 100
	15	540	414 200
	16	534	406 500
ゆり	平成14年産	908	203 000
	15	892	192 600
	16	857	179 300

注：平成16年産は概数値である。

[参考引用文献]

	資料書籍名	発行
1	企業診断ハンドブック	(社) 中小企業診断協会
2	農業経営診断 (実務マニュアル第1・2集)	(社) 中小企業診断協会
3	農業経営部門別統計 (野菜・花き・果樹部門編16年)	農林水産省統計情報局
4	農林水産省電子図書館	農林水産省統計情報局
5	食料・農業・農村白書 (平成17年)	農林統計協会
6	作物別原単位 (2005年版CD)	静岡県農水部
7	施設園芸ハンドブック	日本施設園芸協会
8	北海道農業生産技術体系	北海道農業改良普及協会
9	花卉園芸第百科 ④経営戦略・品質	農文協
10	〃 ⑦育種・苗生産・ハイテク活用	農文協
11	花壇苗生産の技術と経営	農文協
12	切り花のバラ改訂上巻・下巻	誠文堂新光社
13	養液土耕栽培の理論と実際	誠文堂新光社
14	花き類の養液法マニュアル	誠文堂新光社
15	養液栽培の新マニュアル	誠文堂新光社
16	果樹栽培の基礎知識	農山村文化協会
17	果樹園芸大百科(12)キウイ	農文協
18	図解草花	農業図書
19	図解果樹	農業図書
20	原色果物図説	養賢堂
21	新特産シリーズ イチジク	農文協

〔作成担当者〕

はじめに

第1章 農業経営診断手法の基本

中小企業診断士 橋本文夫

第2章 花き作の診断実務マニュアル

中小企業診断士 橋本文夫

1. 花き作農業経営診断予備調査表

中小企業診断士 橋本文夫

(カーネーション・キク・トルコキョウ・ガーベラ)

2. バラ土耕栽培

中小企業診断士 植田善和

3. バラロックウール栽培

中小企業診断士 五十嵐幸枝

4. 花壇苗

中小企業診断士 佐野稔

第3章 果樹作の経営診断実務マニュアル

1. 農業経営診断予備調査表

中小企業診断士 橋本文夫

(もも・なし・いちじく・うめ)

2. みかん(青島温州・動噴)

中小企業診断士 小松崎真

3. みかん(早生温州・SS)

中小企業診断士 小松崎真

4. みかん(施設栽培)

中小企業診断士 川口和孝

5. キーウイフルーツ栽培

中小企業診断士 御木啓司

6. ブドウ栽培

中小企業診断士 下田佳男

7. くり栽培

中小企業診断士 下田佳男

8. 黒大豆栽培

中小企業診断士 下田佳男

9. かき栽培

中小企業診断士 五木勝

第4章 林業きのこ栽培経営診断予備調査表

1. きのこ栽培 経営診断予備調査表

中小企業診断士 奥田春彦

栽培工程診断チェックリスト・経営力チェックリスト 他

中小企業診断士 奥田春彦

第5章 花き作・果樹作簡易診断調査表(農林水産省統計表様式)

1. 農林水産省統計解説資料(コピー)

2. 同上 (コピー)

3. 果樹作

中小企業診断士 橋本文夫

4. 花き作

中小企業診断士 橋本文夫

おわりに

中小企業診断士 橋本文夫

連絡先(マニュアル等についてのお問い合わせ先)

橋本文夫(農業経営支援センター会長)

静岡県浜松市富塚町2961-55

TEL/FAX053-472-3758

E-Mail Dainaru2@yahoo.co.jp

植田善和(農業経営支援センター事務局長)

TEL/FAX053-485-9559

E-Mail yuedaham@yahoo.co.jp

おわりに

この農業経営診断マニュアルの作成に取り組むに当り、平成18年8月静岡農業試験場に於いて、栽培状況と理論研修を実施した。

- ① 浜松市三ヶ日町の柑橘（みかん）栽培試験場の露地マルチ栽培
- ② 浜松市都田町の落葉果樹（ブドウ・柿・梨・キウイフルーツ等）露地と施設栽培
- ③ 磐田市富丘町（県農業試験場）で花き・野菜の露地と施設栽培

今回の栽培現地での研修で果樹・花き栽培においても年々栽培技術が進歩して減農薬・減施肥法や新栽培法・新品種の開発が行われ効率的で高品質生産が可能であることが確認できた。

この研修だけに止まらずマニュアル作成担当メンバーが独自に栽培現場に出向くこと及び担当作目の専門書も購読の上、診断予備調査表の作成に努めた。

勿論これで十分と考えないで、この診断調査表を実際に使って見て望ましい「改善した調査表」に進化することを期待したい。

本 第3集は、作目が花き・果樹・きのこである。これに第1集・2集の中から経営管理において重要な管理サイクル（PDCAサイクル）の部分を用いて編集した。

約6ヶ月間の短い期間の中で、各担当者の業務多忙にも拘らず、作成されたことに敬意を表したい。各自パソコンも異なり、作成の体裁も不統一のまゝであるが、予算の関係でそのまゝ印刷したことをご了承願いたい。

農業経営診断業務に、たずさわる各位が本診断マニュアルを有効に活用され、担い手づくり支援に貢献されることを願っている。

平成19年2月

経営診断マニュアル作成専門部会

会 長 橋 本 文 夫

- （注）第1集 農業経営診断手法とその構成、作目（稲作・お茶作）
 部門別診断（生産・販売・マーケティング・財務・労務・情報）
第2集 農業経営診断手法、作目診断（野菜作・畜産）